

NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION KYOTO MEDICAL CENTER
ANNUAL REPORT

2022

独立行政法人国立病院機構
京都医療センター
2022年度 アニュアルレポート



独立行政法人国立病院機構

京都医療センター

National Hospital Organization Kyoto Medical Center



introduction

序

京都医療センターのアンニュアルレポート令和4年度版を作成しました。令和4年度も新型コロナウイルスが猛威を振るい、7月には国内感染者の累計が1000万人を突破しましたが、ワクチン接種が進んだこともあり、重症化リスクや致死率は大きく低下しました。同月、奈良市内で参院選の街頭演説中に安倍晋三元首相が銃撃される事件が発生。スポーツ界では大谷翔平がアメリカ大リーグで投手として15勝、打者としてもトップクラスの成績を収め、12月に行われたサッカーW杯カタール大会では日本代表が強豪のドイツ、スペインを撃破してベスト16入りしました。令和5年3月にはワールド・ベースボール・クラシック（WBC）で日本が全勝して3大会ぶり3回目の優勝を果たし、将棋界では藤井聡太五冠が棋王戦を制し、29年ぶりに最年少記録（20歳8か月）を塗り替える六冠獲得を成し遂げました。一方、令和4年に生まれた国内の子ども数は1899年以降初めて80万人を下回りました。海外では、令和4年2月に始まったロシアのウクライナ軍事侵攻が継続し、世界の分断が供給制約を深め、食品やエネルギー等の高騰に拍車がかかりました。9月には70年以上にわたり君主を務めたエリザベス女王が96歳で逝去されるなど世界情勢にも変化がありました。

当院では昨年に引き続き、軽症から重症の新型コロナウイルス感染症患者さんの診療を継続するとともに、社会からの要請に応じて京都府入院待機ステーション等へ医療従事者の派遣等を行いました。その他の取り組みとして、4月に特別室個室病棟のリニューアルオープン、5月に内視鏡検査室の拡張整備（検査室の増加、リカバリー室の新設）、6月には1-8病棟のトイレ洋式化等工事と臨床研究センター屋上の防水修繕を実施、7月にバーチカル搬送設備・エアシューターの廃止、9月に一般病棟看護師の業務負担軽減を目的として準夜帯に派遣看護補助者を配置、10月にウロギネ外来の新設と血液内科外来スペースの拡張整備、そして令和5年3月にはリハビリテーション科とスポーツ医学センターの統合を行いました。令和4年度の経営は、医業収支は1億円の赤字、経常収支は28億円の黒字でした。

当院はこれからも、この街の医療をささえる病院として、地域の皆さまに愛されるよう頑張っまいります。今後ともご協力いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

院長 小池 薫

目次

introduction 序	001
目次	002
京都医療センターの理念	004
概要	005
組織図	016
幹部職員	017
職員の状況	018
診療実績（年度別統計）	020
経常収支率	023
総合内科／総合診療科	024
膠原病・リウマチ内科	026
血液内科・稀少血液疾患科	028
内分泌・代謝内科	032
糖尿病内科	040
腎臓内科	052
腫瘍内科	055
精神科	057
脳神経内科	058
呼吸器内科	061
消化器内科	066
循環器内科	074
小児科	090
呼吸器外科	092
外科	095
乳腺外科	104
整形外科	106
形成外科	111
脳神経外科	113
血管外科	117
心臓外科	119

皮膚科	122
泌尿器科	125
産科婦人科	129
緩和ケア科	135
眼 科	138
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	142
麻酔科	145
放射線診断科	148
放射線治療科	151
心臓リハビリテーション科	154
歯科口腔外科	156
救命救急センター（救命救急科）	159
臨床研究センター	164
遺伝診療部	172
医療安全管理部	176
医療情報部	179
感染制御部	181
教育研修部	186
地域医療部	187
薬剤部	193
臨床検査科	196
臨床栄養科	199
病理診断科	204
臨床工学科	206
リハビリテーション科	211
看護部	216
京都看護助産学校	235

京都医療センターの理念

私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、
患者さんが安心できる医療を提供します。

▶ 基本方針

- 一、常に高度で先進的な医療を導入し、地域の医療機関との連携を図り、急性期医療を中心とした質の高い医療を提供することで患者さんに信頼される病院となることを目指します。
- 一、十分な説明のうえで患者さんの同意を得た医療を提供します。
- 一、臨床医学の発展を常に念頭におき、臨床研究を積極的に推進し、新しい医療技術の研究開発に努めます。
- 一、教育研修病院として医師、看護師等、医療に従事する人材の育成に努めます。
- 一、職員の働きやすい職場環境であることが、安全で高度かつ効率的な医療提供に不可欠であると考え、職員の福利厚生の上に努めます。

▶ 患者さんの権利の尊重に関して

京都医療センターでは、患者さんと医療従事者との信頼関係のもとで患者さんとともに歩む病院をめざしています。ここに患者さんの権利に関する事項と守っていただく事項について記します。

▶ 患者さんの権利に関する事項

1. 尊厳ある人間として医療を受ける権利を大切にします。
2. 良質で適切な医療を平等に提供します。
3. 検査や治療について十分に理解していただけるように説明します。
4. 検査や治療について自ら選択する権利を尊重します。
5. 医療のどの段階においても他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利を尊重します。
6. 自分に関する医療情報の開示を求める権利を尊重します。
7. プライバシーを守ります。

▶ 守っていただく事項

1. 健康状態及び診療に必要な情報の提供をお願いします。
2. 医療内容について理解していただけない場合にはお知らせください。
3. 病院のルールを守り他の人に迷惑をかけないようにお願いします。

1 | 施設の概要

(1) 環境

京都市の南にある市内最大の人口を擁する伏見区のおおむね中央に位置し、伏見稲荷大社で有名な稲荷山の南麓に広がる深草地区に立地している。深草地区は「うづらの里」と呼ばれるように、かつては多くの鶉（うづら）が生息したことで知られる。南へ下がると伏見の酒造りの町があり、白壁の酒蔵が立ち並び独特の風情がある。東南部には桃山城の城下町桃山地区がある。桃山時代に伏見城の城下町として始まり、また江戸時代には淀川水運の重要な港町・宿場町としても栄えた地域である。

現在の伏見区は、伏見城の城下町の伝統を受け継ぐ商業の拠点であると同時に、京都市中心部や京都府南部、大阪方面へのベッドタウンとしての性格をもち、当院の診療圏も二次医療圏にとどまらず、京都府南部地域はもとより大阪府北部及び滋賀県南部をはじめ他府県に及んでいる。

(2) 沿革

- 明治41年11月（1908年） 京都衛戍病院として設立
- 昭和12年（1937年） 京都陸軍病院と名称変更
- 昭和20年12月（1945年） 国立京都病院として厚生省に移管
- 昭和53年4月（1978年） 臨床研究部（内分泌代謝疾患）設置
- 昭和59年12月（1984年） 救命救急センター設置
- 昭和63年11月（1988年） WHOより糖尿病協力センターに指定
- 平成7年4月（1995年） 開放型病院に認定
- 平成7年7月（1995年） 京都府エイズ治療拠点病院に指定
- 平成10年6月（1998年） 臓器提供施設に指定
- 平成11年3月（1999年） 国の政策医療「内分泌代謝疾患」の高度専門医療施設として位置付けられる
- 平成12年4月（2000年） (財)日本医療機能評価機構
病院機能評価『一般病院種別・B』に認定
- 平成14年6月（2002年） 地域医療連携室の開設
- 平成15年10月（2003年） 臨床研究センター（内分泌代謝疾患）設置
- 平成16年4月（2004年） 独立行政法人へ移行。京都医療センターと改称
- 平成17年4月（2005年） (財)日本医療機能評価機構
病院機能評価『一般病院（Ver. 4.0）』に認定
- 平成19年1月（2007年） 地域がん診療連携拠点病院に指定
- 平成20年8月（2008年） 地域医療支援病院に指定
- 平成22年6月（2010年） (財)日本医療機能評価機構
病院機能評価『一般病院（Ver. 6.0）』に認定
- 平成23年1月（2011年） 新中央診療棟竣工 緩和ケア病棟開設
- 平成26年6月（2014年） 第2外来棟竣工
- 平成27年4月（2015年） 京都府災害拠点病院に指定

- 平成27年 6月 (2015年) (財) 日本医療機能評価機構『一般病院 2 (Ver. 1.0)』
『救急医療機能 (Ver. 2.0)』に認定
- 平成28年12月 (2016年) 原子力災害拠点病院に指定
- 平成30年 3月 (2018年) 第二病棟 8階 (38床) 休棟
- 平成30年 4月 (2018年) がんゲノム医療連携病院 (京都大学) に指定
- 令和元年10月 (2019年) 高精度放射線治療棟 (リニアック棟) 竣工
- 令和 2年 6月 (2020年) (財) 日本医療機能評価機構『一般病院 2 (3rdG : Ver. 2.0)』
『高度専門機能 (救急・災害) (Ver. 1.0)』に認定

(3) 医療圏・近隣医療機関の状況

- 2次医療圏
 - ・ 京都・乙訓医療圏
(京都市、向日市、長岡京市、大山崎町 3市 1町)
- 2次医療圏内人口
 - ・ 京都市 1,466千人
 - ・ 向日市 56千人
 - ・ 長岡京市 80千人
 - ・ 大山崎町 16千人 計1,618千人

(4) 職員数

- 1,181名 (令和 5年 3月 1日現在)
 - ・ 常勤職員 901名
 - ・ 期間職員 42名
 - ・ 非常勤職員 238名

(5) 敷地・建物の状況

- 所在地 京都府京都市伏見区深草向畑町1-1
- 敷地面積 66,267㎡
- 建物面積

建物 番号	建物名称	建築概要			建築面積 ㎡	延べ面積 ㎡	完成 年月
		構造	地上 階数	地下 階数			
1	新中央診療棟	RC	6	0	1,952.25	8,671.93	2010/12
2	外来管理診療棟	RC	4	0	2,710.50	10,839.95	1983/5
3	中央診療棟 (リニアック棟含む)	RC	5	1	2,404.78	13,300.94	1985/7
4	第1・2病棟	RC	8	0	2,976.37	18,748.47	1989/3
5	渡り廊下棟	RC	5	0	400.84	1,304.67	1988/3
6	パーチカルコンベア中継室	RC	1	0	40.80	40.80	1988/3
7	臨床研究センター	RC	4	0	826.80	3,116.90	1978/2
8	渡り廊下 (中央診療棟～臨床研究センター)	S	1	0	22.62	22.62	1986/3
9	中和処理棟	RC	1	0	32.40	32.40	1987/3
10	健診センター	RC	1	0	297.68	297.68	1962/3
11	除染室	S	1	0	79.11	79.11	2020/3
12	給水ポンプ室	RC	1	0	43.17	43.17	1988/3
13	電気室	RC	1	0	21.83	21.83	1988/3
14	倉庫 (保育所)	RC	1	0	412.53	412.53	1973/3
15	RI機械室	RC	1	0	20.00	20.00	1985/12
16	マニホールド室	RC	1	0	24.00	24.00	1986/11
17	車庫棟	RC	1	0	90.50	90.50	1983/11
18	渡り廊下 (臨床研究センター～除染室)	S	1	0	41.85	41.85	1978/2
19	動物実験室 (RI動物舎)	CB	1	0	33.00	33.00	1985/7
20	看護助産学校	RC	4	0	1,634.40	3,782.08	2003/3
21	助産師科校舎	RC	2	0	469.63	850.15	1979/10
22	看護師宿舎5号館 (助産師科学生寮)	RC	5	0	111.45	540.12	1983/3
23	体育館 (空調機械室含む)	RC	2	0	560.00	624.00	1991/3
24	図書館棟	RC	2	0	513.27	754.50	2003/3
25	倉庫 (助産師科電気室)	CB	1	0	9.33	9.33	1979/10
26	看護師宿舎 (清香寮) 1号館	RC	3	0	680.72	2,030.09	1995/8
27	看護師宿舎 (清香寮) 1号館	RC	3	0	672.07	2,357.14	1995/1
28	看護師宿舎 (清香寮) 3号館	RC	2	0	106.66	213.32	1977/3
29	看護師宿舎 (清香寮) 4号館	RC	2	0	103.80	209.66	1977/3
30	教育研修棟 (研修医宿舎)	RC	3	0	227.40	563.16	2000/2
31	保育所	S	2	0	230.92	347.21	2012/2
32	職員宿舎 (A棟)	CB	2	0	135.16	270.32	1972/3
33	職員宿舎 (B棟)	RC	4	0	99.17	443.62	1966/3
34	職員宿舎 (C棟)	CB	2	0	141.51	283.03	1979/1
35	職員宿舎 (D棟)	RC	4	0	142.77	546.84	1987/3
36	職員宿舎 (E棟)	RC	3	0	137.75	413.25	1980/3
37	集塵庫 (ごみ置場)	CB	1	0	32.40	32.40	1995/8
38	第2外来棟	RC	3	1	421.44	1,228.02	2014/6
39	特高受電室	S	2	2	98.98	197.96	2018/10
40	燃料槽基礎	RC	1	1			2019/3
41	高精度放射線治療棟	RC	1	1	718.17	699.36	2019/12
42	汚染廃棄物・備品倉庫棟	RC	1	1	47.48	39.57	2020/3
合 計					建19,725.51	延73,577.48	

2 | 診療機能の状況

(1) 病床数

医療法病床数（一般病床）600床

(2) 診療科（38科）

総合内科／総合診療科、膠原病・リウマチ内科、血液内科・稀少血液疾患科、内分泌・代謝内科、糖尿病内科、腎臓内科、腫瘍内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、呼吸器外科、外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、血管外科、心臓外科、皮膚科、泌尿器科、産科婦人科、緩和ケア科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、麻酔科、放射線診断科、放射線治療科、総合リハビリテーション科、歯科口腔外科、救命救急科、臨床検査科、臨床栄養科、病理診断科、臨床工学科、リハビリテーション科

(3) 医療計画上の当院が担う機能

- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・がんゲノム医療連携病院（京都大学）
- ・地域医療支援病院
- ・救命救急センター（三次、30床）
- ・地域災害拠点病院
- ・原子力災害拠点病院
- ・緊急災害医療チーム（DMAT 2 チーム10名）
- ・周産期医療 2 次病院（地域周産期母子医療センター）
- ・難病医療協力病院
- ・エイズ拠点病院
- ・急性期を担う医療機関（脳卒中、急性心筋梗塞）

(4) その他の主な機能

- ・緩和ケア病棟（20床）
- ・外来化学療法センター
- ・ER（北米型救急外来）
- ・NHO 災害ブロック拠点病院
- ・国際医療協力施設
- ・臓器提供施設
- ・WHO 糖尿病協力センター
- ・人工透析センター
- ・(財) 日本医療機能評価機構 病院機能評価
「一般病院 2（3rdG : Ver2.0）」
「救急医療・災害時の医療（Ver.1.0）」認定
- ・遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設

(5) 教育研究機能

- ・臨床研究センター
- ・臨床研修病院（基幹型・協力型）
- ・専門研修基幹施設（7プログラム）、専門研修連携施設
- ・附属京都看護助産学校（看護学科・助産学科）

(6) 各学会認定専門医研修施設及び修練施設

日本内科学会、日本消化器学会、日本循環器学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本消化器外科専門医、日本整形外科学会、日本産婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医研修施設、日本周産期（新生児）専門医、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本集中治療医学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本手外科学会、日本神経学会、日本呼吸器外科基幹施設、日本消化器内視鏡学会、日本内分泌学会、日本腫瘍学会、日本頭頸部外科学会、日本がん治療認定医機構、日本緩和医療学会、胆管隣外科高度技能専門医、日本外科感染症学会、日本心血管インターベンション治療学会

3 | 診療機能等の特色

(1) 救命救急センター (30床：ICU 8床、HCU22床)

昭和59年12月に開設された歴史あるセンターであり、京都府内に6つある救命救急センターのひとつである。活動拠点は京都市のみならず、近隣市からの救急隊による収容要請にも応え24時間365日、質の高い救急医療を提供している。平成23年1月に新中央診療棟に移転し、30床全床で生体監視モニター管理が可能となった。

(2) 集中治療室 (ICU・6床)

救命センターICUとは別に平成15年7月に4床で設置、平成23年1月6床に増床。集中治療室では、侵襲の大きい手術や重篤な合併症を有する患者の術後全身管理ならびに入院中に集学的治療が必要となった重症患者の全身管理を行っている。

(3) 新生児集中治療室 (NICU・6床)

NICU 6床の認可を受け、早産・低出生体重児や出生直後から集中治療を必要とする新生児などの入院治療を行っている。当院は京都府南部の地域周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠母体に対する医療を行っており、合併症（糖尿病、甲状腺疾患、自己免疫性疾患など）を有する母体から出生した新生児にも多く対応している。

(4) 特別室個室病棟 (30床)

平成23年1月にオープンした全室個室の病棟。病棟入り口にロック付きのドアを設置しセキュリティを確保している。全ての部屋にシャワー、トイレが備わっており、ゆったりとした療養環境を整えており、病棟専属のコンシェルジュを配置し、患者の様々な要望に対応している。令和4年4月に病室の内装を一新し、より落ち着いた環境で、クオリティーの高い医療、看護、最高のサービスを提供している。

(5) 緩和ケア病棟 (20床)

平成23年1月にオープン。京都府で初めて地域がん診療連携拠点病院にできた緩和ケア病棟であり、各診療科と連携を積極的に行って苦痛症状の緩和に努めている。医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、音楽療法士、ボランティアなど多職種でチームを組んで対応している。

(6) 開放型病床 (20床)

地域医療機関との連携強化を図るため、伏見医師会との協定により開放型病床を設置し、登録医からの紹介入院患者を共同して診療、指導にあっている。平成7年4月に開放型病院の承認。平成20年8月に地域医療支援病院の承認。地域医療の向上を図り、紹介患者に対する医療の提供のみならず、地域の医療関係者の生涯教育の充実等地域医療の確保に努めている。

※登録医数 129名

(7) 特殊専門外来

特殊診療として、1型糖尿病外来、遺伝カウンセリング外来、ウロギネ外来（R4年10月開設）、外来化学療法センター、がんゲノム外来、禁煙外来、呼吸器センター、骨粗鬆症・サルコペニア外来、SAS外来、シャント外来、小児専門外来、女性外来、心血管治療センター、心臓センター、スポーツ医学センター、多発性のう胞腎外来、電気生理外来、糖尿病センター、糖尿病透析予防外来、内視鏡センター、内分泌・甲状腺・高血圧センター、妊娠糖尿病外来、脳神経センター、フットケア外来、ペースメーカー外来、メタボリック外来、めまいセンター、夜間頻尿外来、セカンドオピニオン外来（自由診療）、脳神経内科・音楽療法外来（自由診療）、美容外来（自由診療）

(8) 健診センター

平成16年4月に設置。令和4年3月末で廃止。

(9) 臨床研修医・専攻医の教育・研修の充実

教育研修部を設置して「患者を包括的にケアできる」医師の育成を行っている。

臨床研修病院（基幹型・協力型）

臨床研修医の令和4年度定数…1年目10名、2年目10名及び京都大学、滋賀医科大学等からの「たすきがけ（協力型）」臨床研修医の受け入れ

救急外来の振り返り、ランチタイムセミナーなど臨床研修医の主体的な学修

国立病院機構、京都府医師会による研修機会の提供

専門研修基幹施設（7プログラム）、専門研修連携施設

(10) 臨床研究センター

平成15年10月に臨床研究センターが設置され、「糖尿病を中心とした内分泌・代謝性疾患の病態と発症機序の解明および予防・診断・治療法の開発研究」を担っている。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成20年度からは「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになった。令和3年度に臨床研究支援事務局を設置し、院内で実施される臨床研究の管理やサポートにあたっている。

(11) 手術支援ロボット「ダヴィンチ」

当院のロボット支援手術は平成26年（2014年）8月に京都府内5施設目、京都市内4施設目として早くに開始した。さらに令和元年（2019年）7月にはダヴィンチSシステムから第4世代のXシステムに更新。そして令和4年（2022年）7月にはXシステムからXiシステム及び連動ベッド（インテグレートッド テーブルモーション）を導入した。これにより、さらに精度を高め、より確実でより安全な手術の実現が可能となった。

日本におけるロボット支援手術の保険適応は令和4年度（2022年）にさらに多くの術式が適応拡大され、今やロボット支援手術は標準術式になりつつある。

当院は早くからロボット支援手術を開始しほとんどの術式は保険診療で治療を受けることが出来、また医療安全面でも細心の注意を払っている。

現在 前立腺がん・腎臓がん・膀胱がん・腎盂尿管移行部狭窄症（泌尿器科）、良性子宮腫瘍・子宮体がん・骨盤臓器脱（婦人科）、胃がん・大腸がん・直腸がん（外科）、肺がん・縦隔腫瘍（呼吸器外科）を対象に手術を行ってきたが、令和4年（2022年）8月から 肝臓がん（外科）の治療を開始、近く 咽頭がん・喉頭がん（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）の治療も開始予定。

(12) ハイブリッド手術室

2021年12月に次世代ハイブリッド手術室が設置された。手術室内に設置された撮像機器 ARTIS phenoによって、直達手術と同時に血管撮影や血管内手術が可能となったばかりでなく、術中Dyna CT撮像装置としてナビゲーション装置Curve2と連動させることで、術中により正確な位置情報を得ることが可能となった。このシステムを利用して、循環器領域の疾患はもちろんのこと、整形外科の脊椎疾患や脳神経外科における脳血管障害や脳腫瘍に対する手術に大きく貢献した。

必ずしもハイブリッドシステムを利用した手術ばかりではないが、2022年度には循環器内科64件、心臓外科18件、整形外科81件、脳神経外科18件など、合計243件の手術がハイブリッド手術室で施行された。

(13) PET/CT

がんの早期発見、早期治療の充実・発展のため、平成26年6月に京都府南部地域初のPET/CTを導入。

(14) 患者支援センター

平成14年6月に地域医療連携室を設置した。令和元年11月に移転し、患者支援センター（地域医療連携室、がん相談支援センター、患者相談窓口）を開設した。地域の診療所や各医療機関及び保健福祉機関との連携を強化している。前方後方支援業務はもとより、年2～3回開催の医療連携フォーラムにも力を入れている。

□人員配置

- 地域医療部長（医師） 地域医療連携室長（医師）
病床管理師長（地域医療連携係長併任） 副看護師長
医療社会事業専門員4名 看護師11名 事務助手4名 計23名

(15) がん診療支援

平成19年1月から地域がん診療連携拠点病院の認定を受けており、カンサーボードを設置し「がん診療セミナー」等、医師だけでなく、看護師、コメディカル、その他医療職を対象とした、オープンセミナーを開催している。

また、がん診療相談（患者支援センター）、患者情報室（1階ホール）、リボズハウス（外来化学療法室）などを設置して患者の日常生活支援に力を入れ、最先端の総合的ながん治療から患者の視点に立って生活を支援することができる施設を目指している。

平成30年4月からはがんゲノム医療連携病院に、平成31年4月には遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設の指定を受け、患者からのがん診療相談についても幅広く実施している。

□リボズハウス（平成23年10月から運用開始）

- がん患者の「治療と生活」をつなぐ具体的な情報とケアを提供する。
- 医療者やヘルスケアに携わる多くの専門家の手によるプログラムを通して、患者がより自分らしく少しでも快適な生活を送れるようサポートする。
- 広く地域に開かれたスペースとして多くの人々が情報を共有し支えあいを実践できる場になることを目的とする。
- 主な内容としては、がんに係る相談、がんに係る情報提供、がん患者支援のイベント等の企画運営、インターネット検索コーナー、展示コーナー（ウィッグ、帽子等）、アロマセラピー等

(16) 感染制御部

平成9年4月に組織横断的院内感染対策チーム（ICT）を設立し、平成22年4月には、院内感染管理と職員の健康管理を通じて、患者が安心して診療を受けられる環境を提供するため、ICTを核とする感染制御部を発足させた。医師、看護師、リンクナース、薬剤師、臨床検査技師、事務職等多くの職員がそれぞれ得意とする分野を分担している。ICTリーダーを中心に週に1回ICTミーティングを行い、更に週1回定期的に院内ICTラウンドを実施し、日々の感染対策に関する相談に関しても随時対応している。

また、平成31年（2019年）4月に抗菌薬適正使用支援チーム（AST：Antimicrobial Stewardship Team）を設置し、抗菌薬適正使用に関して機動的に活動する体制を構築した。

□感染制御部人員配置

○感染制御部長（医師1名）、副部長（医師1名）、専任薬剤師2名、専従認定看護師1名、専任臨床検査技師1名、事務職員1名 計7名

□主な活動例

- インフルエンザ、感染性胃腸炎、結核、新型コロナウイルス等の院内感染対策
- 手術部位感染、血流感染等のサーベイランス
- 抗菌薬適正使用推進業務
- 新興感染症への準備・訓練 等

これらの活動は、院長直轄の「院内感染対策委員会」（月1回）と「抗菌薬の適正使用に関する小委員会」（月1回）にて報告及び審議決定されるシステムとなっている。また、院内感染対策委員会については、感染対策の必要に応じて臨時開催され迅速な対応を行っている。

なお、令和2年（2020年）初頭に始まったCOVID-19パンデミックに対しては、平成26年（2014年）2月に策定した「新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画」に基づき、新型コロナウイルス感染症対策本部（本部長 副院長）を設置し、COVID-19に関する施策討議の場を一元化して、院内で統一した施策を迅速かつ的確に実行できる体制とした。

(17) 医療安全管理体制

医療安全体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底するために医療安全管理部を設置している。各部門にリスクマネージャーを置き、患者や家族に対する対応及び医療安全管理部門や幹部職員への報告・連絡・相談を速やかに行う体制を整えている。

また、客観的事実の確認や事故原因の追及と再発防止策の検討の為にオカーレンス事例検討会や医療安全管理委員会及び医療事故対策本部会議を開催し、必要に応じて弁護士や外部評価委員を構成メンバーに加えた拡大医療安全管理委員会も開催している。

必要に応じて顧問弁護士に法的観点からの意見を含め、病院として見解を常に決定するとともに、専任の医療安全管理係長や訴訟専門職、さらにはクレームや暴言暴力への対応策として警察OBも配置して、あらゆるケースに対応出来る体制を構築している。

□人員配置

○副院長（医療安全担当） 医療安全管理部長（医師） 医療安全管理副部長（医師） 専門職（訴訟担当） 医療安全管理係長（看護師長、医療安全管理専従） 看護部医療安全担当副看護師長（医療安全管理専従） 医療安全推進担当者（リスクマネージャー）（各部署から1名：61名） 計67名

□主な会議

- 拡大医療安全検討委員会
- 医療安全管理委員会
- 医療事故対策本部会議
- オカーレンス事例検討会
- ハイリスク診療検討会
- リスクマネージャー会議

(18) 医療情報部

病院業務を円滑に運営する目的で、以下の業務を担っている。

1. 病院情報システム管理室

病院情報システム（電子カルテシステム）の開発・構築・運用・整備および将来計画に関すること。

2. 診療情報管理室

診療諸記録及び診療情報の管理・調査・研究およびがん登録に関すること。
診療記録の開示に関すること。

3. 診療支援チーム

医師事務作業補助者およびスペシャル医療クラーク（当院独自の上位制度）により、医師のタスクシフトを行うこと。

診療諸記録の精度向上やオーダ等処理を迅速化すること。

医療情報部は、2003年（平成15年）7月に国立病院としては初めて設置された。病院情報システムのみならず、院内の情報化に深く関わり、業務のセキュリティの担保やICT、DXの推進に寄与している。

(19) 高度放射線治療棟

当院は地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、伏見区のみならず京都府南部のがん診療にトータル的に尽力するため、最新の放射線治療装置を2台導入して、1年間におよそ470人の患者さんにのべ1万件以上の放射線治療を行っている。そのうち171人（約36%）には、強度変調放射線治療（IMRT）や定位照射などの精密な技術を要する放射線治療を提供している。

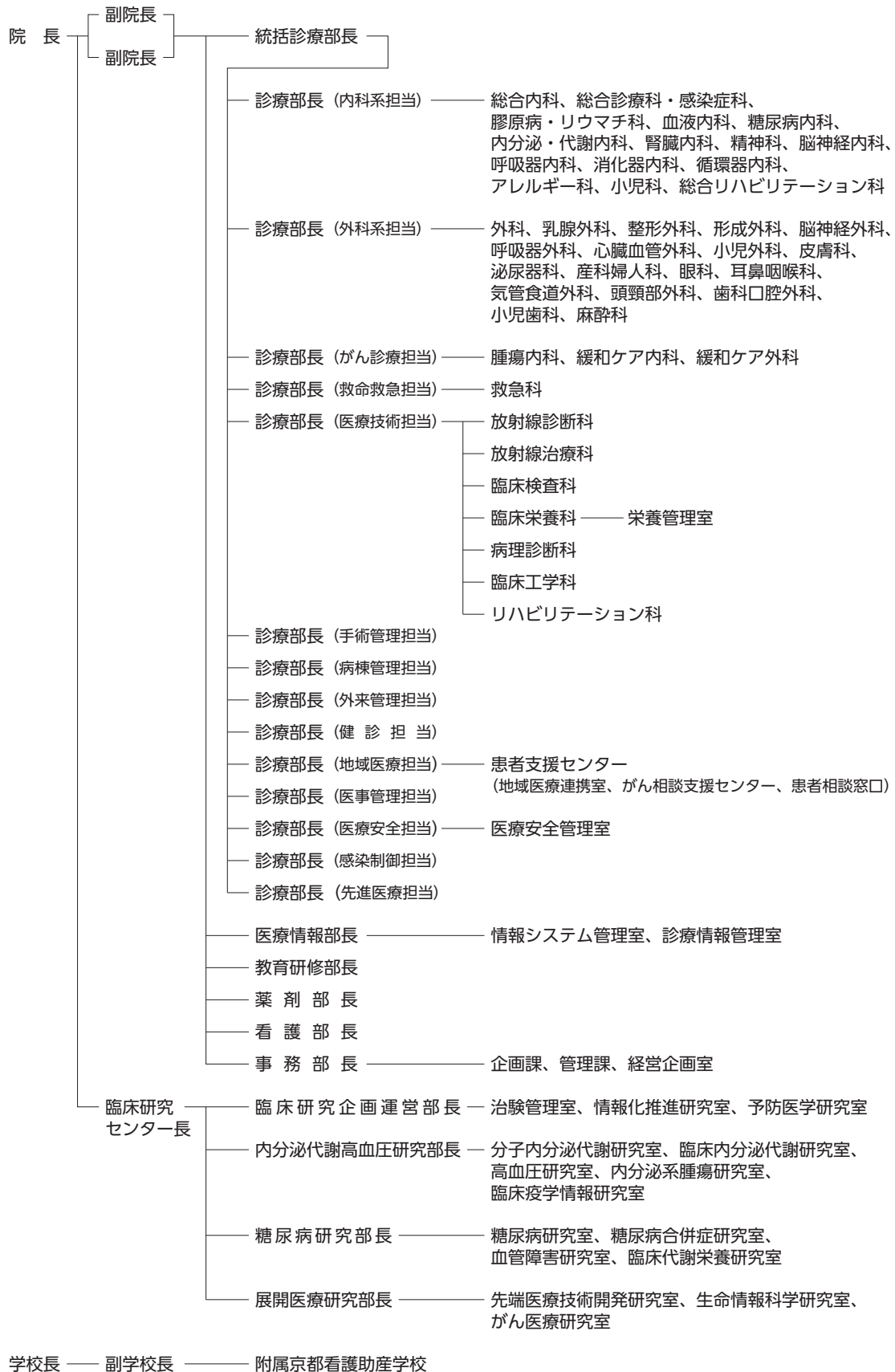
(20) 除染室

当院は「原子力災害拠点病院」として指定を受けており、原子力災害が発生時には被ばく傷病者等に対する集中治療や線量測定、除染処置等の診療機能が求められている。令和2年3月完成の除染室は、二次被ばくが起らないよう、治療前に除染を行う施設であり、放射線線量測定装置や生体情報モニター等の除染処置に必要な機器が設置されている。

4 | 附属京都看護助産学校

(1) 沿革

- 昭和24年4月1日(1949年) 国立京都病院附属高等看護学院として開設 ※1学年定員30名
- 昭和43年4月1日(1950年) 1学年定員50名
- 昭和44年4月1日(1969年) 助産婦科の附設 ※1学年定員35名
国立京都病院附属高等看護助産学院に名称変更
- 昭和50年4月2日(1975年) 国立京都病院附属看護助産学校、看護婦科および助産婦科に名称変更
- 平成14年4月1日(2002年) 看護学科、助産学科に名称が変更される
- 平成16年3月25日(2004年) 看護学校大型化整備工事竣工
- 平成16年4月1日(2004年) 国立京都病院附属看護助産学校及び国立療養所宇多野病院附属看護学校並びに国立療養所南京都病院附属看護学校を統合し、国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校に名称変更
※1学年定員 看護学科80名
助産学科35名
- 平成27年4月1日(2015年) 助産学科の定員減 ※1学年定員 25名
- 令和3年4月1日(2021年) 助産学科の定員減 ※1学年定員 18名
- 令和5年3月31日(2023年) 現在 卒業生数
看護学科(1回生~53回生) …1,968名
(1回生~19回生) …1,446名(統合後)
助産学科(1回生~54回生) …1,516名



幹部職員



小池 薫
院長



白神 幸太郎
副院長
診療部長 (医療安全担当)
診療部長 (医療技術担当)
2023年3月31日まで



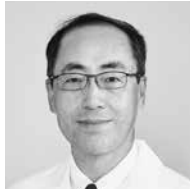
三尾 直士
副院長
診療部長 (医事管理担当)
2022年3月31日まで



小山 弘
統括診療部長
教育研修部長



赤尾 昌治
診療部長 (内科系担当)
診療部長 (病棟管理担当)



奥野 博
診療部長 (外科系担当)



大谷 哲之
診療部長 (がん診療担当)



笹橋 望
診療部長 (救命救急担当)
診療部長 (災害医療担当)
2023年4月1日から



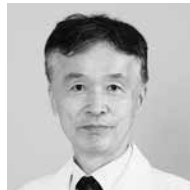
福田 俊一
診療部長 (医療技術担当)
2023年4月1日から



七野 力
診療部長 (手術管理担当)



田上 哲也
診療部長 (外来管理担当)
2023年3月31日まで
診療部長 (医事管理担当)
2023年4月1日から



川端 浩
診療部長 (外来管理担当)
2023年4月1日から



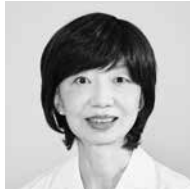
宮本 心一
診療部長 (健診担当)



瀬田 公一
診療部長 (地域医療担当)



小田垣 孝雄
診療部長 (感染制御担当)



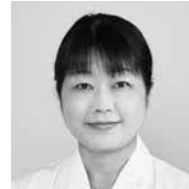
喜多 美穂里
診療部長 (先進医療担当)



中原 孝洋
医療情報部長



八十田 明宏
臨床研究センター長



浅原 哲子
内分泌代謝
高血圧研究部長



長谷川 浩二
展開医療研究部長



前田 真次
事務部長
2023年3月31日まで



松谷 智仁
事務部長
2023年4月1日から



福井 久美子
看護部長
2023年3月31日まで



高田 幸千子
看護部長
2023年4月1日から



土井 敏行
薬剤部長



前中 由美
副学校長
2023年3月31日まで



上南 雪野
副学校長
2023年4月1日から

職員の状況

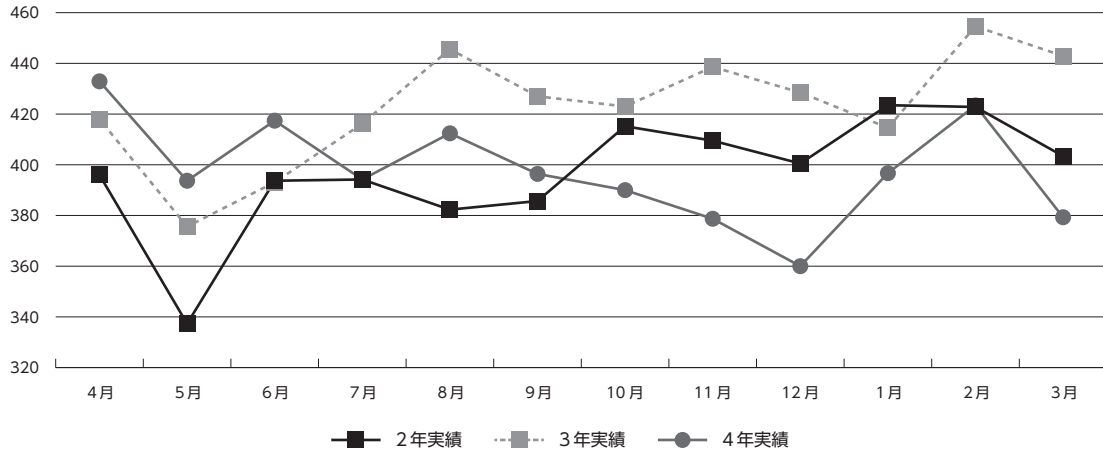
職 種 ・ 職 名		常勤職員		非常勤職員			期間職員			職員 合計	
		定数	現員	定数	現員	常勤換算	定数	現員	常勤換算		
医 師	院長・ 年俸表(一)	院長	1	1						1.00	
		副院長	2	2						2.00	
		部長	12	12						12.00	
		医長	40	38						38.00	
		歯科医長		1						1.00	
		小 計	55	54						54.00	
	一般医師 医療職(一)	医師	101	94	23.74	31	23.39	41.40	41	36.90	154.29
		歯科医師		3					1	0.90	3.90
		小 計	101	97	23.74	31	23.39	41.40	42	37.80	158.19
	計		156	151	23.74	31	23.39	41.40	42	37.80	212.19
	医 療 職 (二)	薬剤師	薬剤部長	1	1						1.00
副薬剤部長			2	2						2.00	
主任薬剤師			5	6						6.00	
薬剤師			27	22						22.00	
小 計			35	31						31.00	
放射線技師		診療放射線技師長	1	1						1.00	
		副診療放射線技師長	2	2						2.00	
		主任診療放射線技師	6	6						6.00	
		診療放射線技師	25	25						25.00	
		小 計	34	34						34.00	
検査技師		臨床検査技師長	1	1						1.00	
	副臨床検査技師長	2	2						2.00		
	主任臨床検査技師	8	6						6.00		
	臨床検査技師	24	26	2.93	4	3.14			29.14		
	小 計	35	35	2.93	4	3.14			38.14		
管理栄養士	栄養管理室長	1	1						1.00		
	副栄養管理室長	1	1						1.00		
	主任栄養士	2	1						1.00		
	栄養士	3	4	2.49	3	2.49			6.49		
	小 計	7	7	2.49	3	2.49			9.49		
理学療法士	理学療法士長	1	1						1.00		
	副理学療法士長	1	1						1.00		
	主任理学療法士	5	5						5.00		
	理学療法士	14	13	0.77	1	0.52			13.52		
	小 計	21	20	0.77	1	0.52			20.52		
作業療法士	主任作業療法士	2	2						2.00		
	作業療法士	7	6						6.00		
	小 計	9	8						8.00		
言語聴覚士	主任言語聴覚士	1	1						1.00		
	言語聴覚士	4	5	0.41	1	0.41			5.41		
	小 計	5	6	0.41	1	0.41			6.41		
臨床工学 技士	臨床工学技士長	1	1						1.00		
	主任臨床工学技士	2	1						1.00		
	臨床工学技士	12	13						13.00		
	小 計	15	15						15.00		
医療技術 職員	視能訓練士	4	4	1.66	2	1.60			5.60		
	心理療法士			0.92	4	0.60			0.60		
	歯科衛生士			3.08	3	2.31			2.31		
	歯科技工士			0.77	2	1.54			1.54		
	小 計	4	4	6.43	11	6.05			10.05		
計		165	160	13.03	20	12.61				172.61	

職 種 ・ 職 名			常勤職員		非常勤職員			期間職員			職員 合計
			定数	現員	定数	現員	常勤換算	定数	現員	常勤換算	
医療職 (三)	看護師、 助産師	看護部長	1	1							1.00
		副看護部長	3	3							3.00
		看護師長	21	20							20.00
		副看護師長	48	47							47.00
		助産師		29							29.00
		看護師	476	412	28.44	21	14.79				426.79
		准看護師				1	0.80				0.80
計			549	512	28.44	22	15.59				527.59
事務職・ 診療情報 管理職	事務職員	事務部長	1	1							1.00
		課長・室長	3	3							3.00
		班長	2	2							2.00
		専門職	2	2							2.00
		係長	12	7							7.00
		一般職員(事務補助)	8	13	121.59	133	103.57				116.57
		小計	28	28	121.59	133	103.57				131.57
	診療情報 管理職	診療情報管理士	11	10	1.66	2	1.66				11.66
		小計	11	10	1.66	2	1.66				11.66
	計			39	38	123.25	135	105.23			
技能職員		自動車運転手				1	0.83				0.83
		調理師	9	8	26.56						8.00
		看護助手				17	13.79				13.79
		その他				2	1.66				1.66
		計	9	8	26.56	20	16.28				
教育職		副学校長・教育主事	4	4							4.00
		教員(教務補助)	14	14							14.00
		計	18	18							18.00
研究職		センター長・部長	3	3							3.00
		室長・主任研究官	5	5							5.00
		研究(補助)員	1	1	9.30	9	6.19				7.19
		計	9	9	9.30	9	6.19				15.19
福祉職		保育士	1	1	1	1	0.77				1.77
		医療社会事業専門員	4	4							4.00
		計	5	5	1	1	0.77				5.77
職員総数			950	901	225.09	238	180.06	41.40	42	37.80	1,118.86
(男性)				290		49	36.80		29	26.10	352.90
(女性)				611		189	143.26		13	11.70	765.96

診療実績（年度別統計）

●平均入院患者数（年間目標数=435.7人）

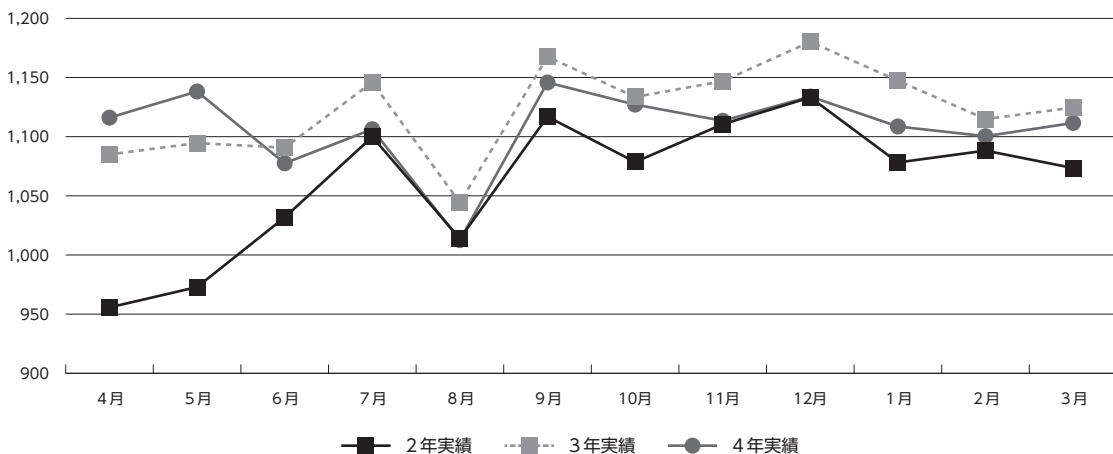
（単位：人/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	利用率
2年実績	396.0	337.3	393.7	394.2	382.3	385.7	415.2	409.5	400.5	423.5	422.8	403.4	396.8	70.6%
3年実績	418.0	375.6	393.1	416.2	445.6	427.0	423.0	438.6	428.5	414.6	454.6	442.9	422.9	75.4%
4年実績	432.9	393.7	417.4	394.2	412.4	396.4	390.0	378.7	360.0	396.7	423.4	379.3	397.6	71.6%

●平均外来患者数（年間目標患者数=1,139.1人）

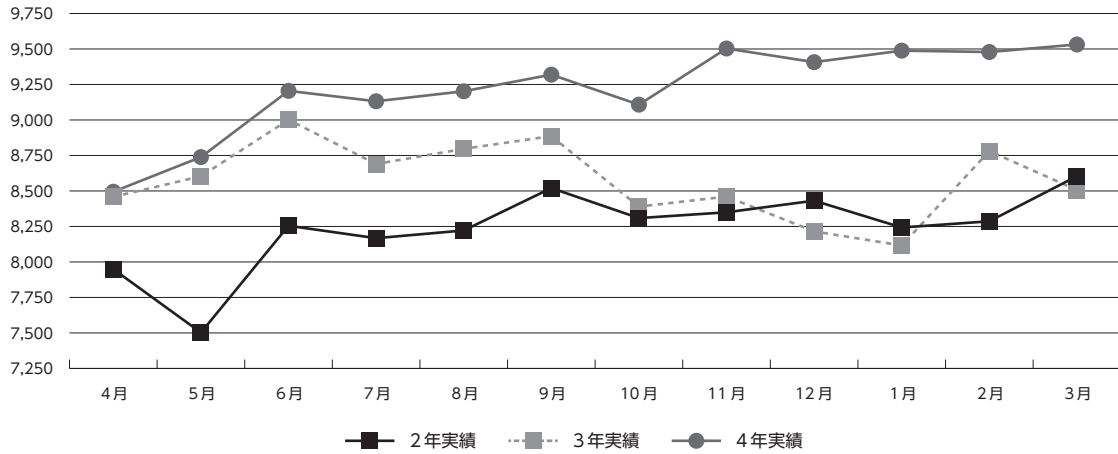
（単位：人/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2年実績	955.7	972.9	1,031.8	1,099.9	1,013.8	1,116.9	1,078.6	1,110.5	1,133.2	1,078.2	1,088.2	1,073.5	1,062.7
3年実績	1,085.0	1,094.6	1,090.7	1,146.0	1,044.3	1,167.6	1,133.6	1,146.9	1,180.2	1,147.3	1,114.9	1,124.6	1,122.5
4年実績	1,116.1	1,138.2	1,077.5	1,106.3	1,012.6	1,145.8	1,127.1	1,113.4	1,133.9	1,108.6	1,100.4	1,111.6	1,106.5

●入院平均診療点数

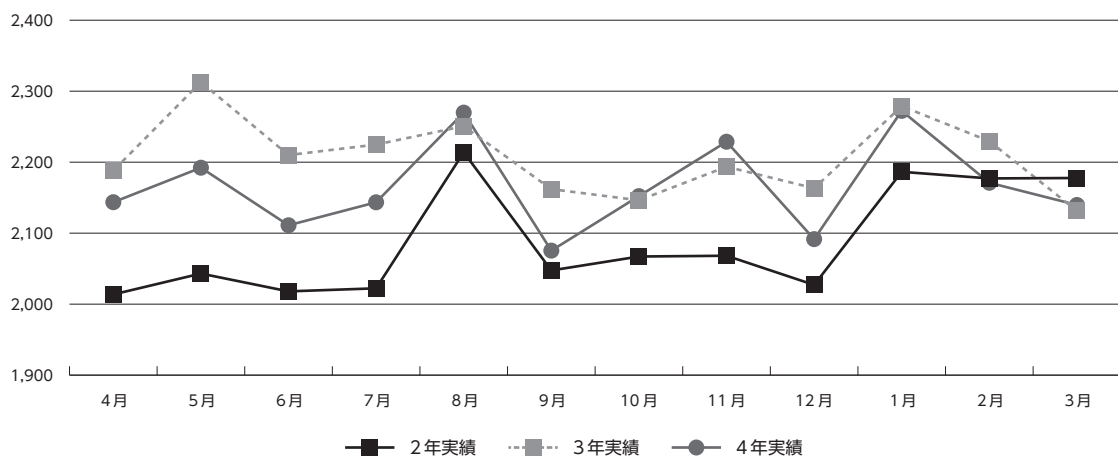
(単位：点/日)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2年実績	7,949.1	7,502.5	8,255.0	8,167.4	8,221.7	8,520.2	8,308.8	8,349.7	8,431.6	8,242.6	8,286.4	8,604.0	8,246.2
3年実績	8,458.4	8,603.5	9,001.0	8,689.6	8,796.8	8,886.0	8,389.7	8,460.5	8,215.2	8,116.1	8,780.9	8,506.3	8,571.6
4年実績	8,494.6	8,738.6	9,205.1	9,131.7	9,202.2	9,319.2	9,107.8	9,503.4	9,407.4	9,488.3	9,478.7	9,531.6	9,208.8

●外来平均診療点数

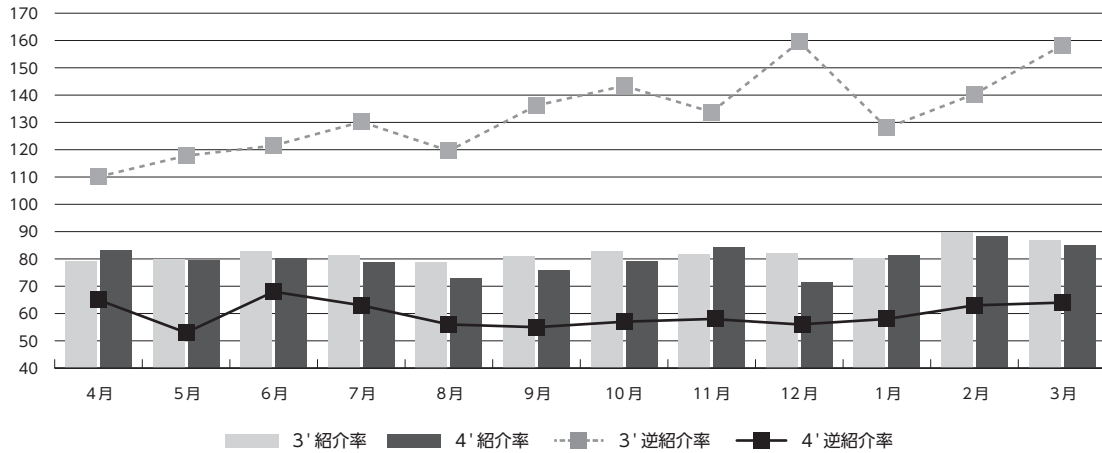
(単位：点/日)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2年実績	2,013.7	2,043.1	2,018.0	2,022.3	2,213.9	2,047.5	2,067.1	2,068.2	2,027.1	2,186.4	2,177.1	2,177.7	2,087.8
3年実績	2,188.1	2,312.8	2,210.0	2,224.8	2,250.7	2,162.0	2,146.3	2,193.6	2,163.3	2,278.9	2,229.6	2,131.4	2,204.8
4年実績	2,143.6	2,192.2	2,111.1	2,143.5	2,269.8	2,075.4	2,152.2	2,228.8	2,091.6	2,272.3	2,171.0	2,139.7	2,164.5

●紹介率、逆紹介率の推移

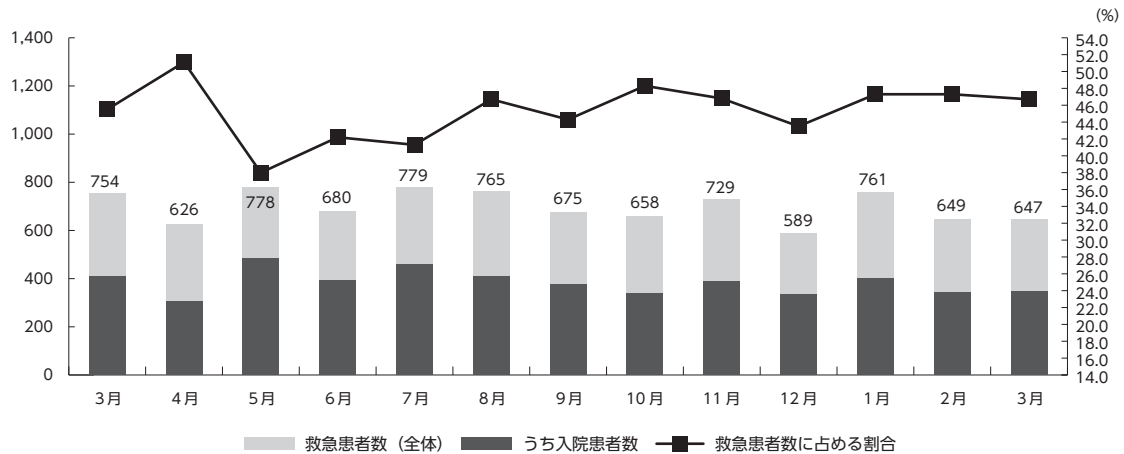
(単位：%)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3'紹介率	79.1	79.8	82.7	81.3	78.9	81.0	82.6	81.8	82.2	80.2	89.6	86.7	82.1
4'紹介率	83.3	79.5	80.1	78.6	72.8	75.7	79.1	84.2	71.3	81.4	88.2	85.0	81.9
3'逆紹介率	110.1	117.8	121.5	130.2	119.6	136.2	143.4	133.8	159.5	128.0	140.4	158.2	133.0
4'逆紹介率	65.0	53.0	68.0	63.0	56.0	55.0	57.0	58.0	56.0	58.0	63.0	64.0	60.0

●救急患者数推移

(単位：人/%)



	令和3年度	令和4年度													平均
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
救急患者数 (全体)	754	626	778	680	779	765	675	658	729	589	761	649	647	699.2	
うち入院患者数	343	320	296	287	322	357	299	318	341	256	360	307	302	316.0	
救急患者数に占める割合 (%)	45.5%	51.1%	38.0%	42.2%	41.3%	46.7%	44.3%	48.3%	46.8%	43.5%	47.3%	47.3%	46.7%	45.2%	
救急搬送患者数	436	434	403	382	426	385	324	353	419	252	432	354	374	382.6	
新規入院患者数 (参考)	1,054	1,051	1,065	1,139	1,088	1,170	1,041	1,139	1,133	919	1,116	1,060	1,101	1,082.8	

経常収支率

損益計算書

(千円)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
医業収益	17,264,703	19,448,997	19,448,441
入院診療収益	11,578,885	13,117,592	13,255,009
室料差額収益	333,397	371,602	378,835
外来診療収益	5,288,099	5,881,902	5,774,427
保健予防活動収益	83,086	100,062	40,857
文書料収益	56,489	61,537	68,449
その他医業収益	18,157	17,944	12,753
保険等査定減(△)	▲93,412	▲101,642	▲81,889
診療業務費	18,652,397	20,065,182	19,551,995
給与費	9,250,934	9,270,733	9,255,912
材料費	5,641,088	6,302,232	6,196,399
委託費	882,608	976,525	978,781
設備関係費	1,945,703	2,235,607	1,940,799
研究研修費	2,612	3,990	12,928
経費	929,452	1,276,095	1,167,176
医業収支差	▲1,387,694	▲616,185	▲103,554
医業収支率	92.6%	96.9%	99.5%
人件費率	53.6%	47.7%	47.6%
材料費率	32.7%	32.4%	31.9%
委託費率	5.1%	5.0%	5.0%
経費率	5.4%	6.6%	6.0%
人件費+委託費率	58.7%	52.7%	52.6%
経常収益	19,978,382	23,179,333	23,142,615
経常費用	19,526,866	20,840,663	20,338,813
経常収支差	451,517	2,338,670	2,803,802
経常収支率	102.3%	111.2%	113.8%

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育研修収益	238,610	230,264	226,091
教育研修費用	276,324	245,120	258,632
収支差	▲37,714	▲14,856	▲32,541

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
臨床研究収益	410,162	400,707	357,317
臨床研究費用	458,562	410,892	414,843
収支差	▲48,400	▲10,185	▲57,526

総合内科／総合診療科



統括診療部長
教育研修部長
診療科長
小山 弘

専門医資格等

日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医・指導医
医療系大学間共用試験実施
評価機構医学系OSCE実施
管理委員会委員他
独立行政法人国立病院機構
医師育成・教育委員会委員
京都大学医学部臨床教授
京都大学博士（医学）

専門分野

内科一般
内科診断学
医学教育
臨床疫学

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
感染制御部長 総合診療科・感染症科長	小田垣孝雄	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定医・指導医 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医 Infection Control Doctor 日本内科学会 JMECC 指導者講習会ディレクター 日本救急医学会 ICLS 指導者 ワークショップ・ディレクター 日本医師会認定産業医	総合診療 感染制御	Common diseases
医師	陣内 牧子	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 京都大学博士（医学）	内科一般 呼吸器内科一般	喘息・慢性咳嗽、 呼吸器感染症
医師	上田 忠弘 2022年12月31日まで	日本内科学会認定内科医 日本救急医学会救急科専門医 日本DMAT隊員 PEACE緩和ケア研修修了	内科一般、救急 集中治療領域	
専攻医	江村 純正		内科一般	
専攻医	玉井 優衣 2022年10月1日から			
非常勤医師	菊地 祐子	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会透析専門医 日本糖尿病学会糖尿病専門医	内科一般、 腎臓、糖尿病	生活習慣病

| 令和4年度の主な取組 |

スタッフの中途退職があった中、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにおける病棟、外来機能を維持しつつ、COVID-19対応に、また院内の診療活動のインターフェイスとして機能するよう努めた。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	19.9	25.6
新入院患者数(名)	409	342
平均在院日数(日)	27.2	22

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	39.0	38.8

主な疾患の件数(2022年度)

感染症	183件	リウマチ性疾患	22件
腎泌尿器	61件	結晶性関節炎	9件
呼吸器	32件	内分泌代謝・電解質異常	21件
菌血症・敗血症	21件	脳神経	18件
COVID-19	18件	パーキンソン関連	5件
骨関節	18件	悪性腫瘍	10件
皮膚	15件	呼吸器(感染症除く)	8件
加齢関連疾患	69件	整形外科(感染症除く)	8件
誤嚥性肺炎	52件	腎泌尿器(感染症除く)	8件
認知症	8件		
褥創	5件		
脆弱性骨折	3件		

膠原病・リウマチ内科



医長
井口 美季子

専門医資格等

日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医
日本リウマチ学会専門医
日本リウマチ学会指導医
日本リウマチ学会
登録ソノグラファー
日本リウマチ財団登録医
医学博士

専門分野

リウマチ・膠原病

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本リウマチ学会認定教育施設

診療科の特徴

1. 膠原病・関節リウマチは慢性疾患であるため、患者さんご自身が治療に納得して上手に疾患と付き合っていく必要があります。様々な治療の選択肢をご提示し、ご納得いただける治療をご提供します。
2. 他の疾患領域と同様に膠原病・リウマチ性疾患の治療は飛躍的に進化しています。最新の知見に基づいた最善の治療を提供します。
3. 膠原病・関節リウマチは全身に合併症をきたす可能性がある疾患なので各科と連携しながら治療を行っていきます。当院で対応困難な疾患の場合には速やかに大学病院にご紹介します。
4. 関節リウマチについては地域連携に努めています。

主な対象疾患

関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、血管炎、多発性筋炎／皮膚筋炎、ベーチェット病、IgG4関連疾患 など

診療内容

月・水・木・金曜に外来診療を行っております（火曜日は応相談）。
関節エコーを用いてリアルタイムに現在の関節炎の活動性を評価します。
拳児希望関節リウマチ・膠原病患者さんにも対応します。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	3.1	3.1
新入院患者数(名)	53	70
平均在院日数(日)	19.9	15.3

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	23.3	24.2

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

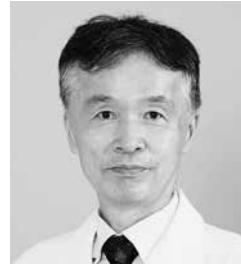
発表年月日	発表学会
演題名等 / 演者(下線は当院所属)	
2022.04.27	第66回日本リウマチ学会総会
「肺胞出血を発症した劇症IgA血管炎の一例」 井口美季子、柏原英里子	

血液内科・稀少血液疾患科



専門医資格等
日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医
日本血液学会専門医・指導医
京都大学博士（医学）
専門分野
血液一般

内科医長
診療科長（血液内科）
奥野 芳章
(2023年3月31日まで)



専門医資格等
日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医
日本血液学会専門医・指導医
日本輸血・細胞治療学会
認定医
京都大学博士（医学）
京都大学医学部非常勤講師
広島大学医学部客員教授
金沢医科大学非常勤講師

内科医長
診療科長（稀少血液疾患科）
臨床検査科科长
輸血管理士
川端 浩
診療科長（血液内科）
(2023年4月1日から)

専門分野
血液一般
得意疾患
骨髄異形成症候群
稀少血液疾患
鉄代謝異常

｜ 令和4年度の主な取組 ｜

施設認定

- ・日本血液学会 血液研修施設

外来診療

- ・当科の外来ブースの拡張工事と、医師事務作業補助者の配置により、従来と比べてスムーズな外来診療が可能になりました。

入院診療

- ・専門医3人体制となったことにより、クリーンルーム2床がフル稼働状態で、新規入院患者数が前年比大幅に増加しました。
- ・平均在院日数が前年比大幅に短縮されました。

京都大学を中心施設とした多施設共同研究への参加

- ・「ベネトクラクス血中濃度の個体間変動と効果・副作用に関する研究」(R2915)
- ・「再生不良性貧血/骨髄異形成症候群の前方視的症例登録・セントラルレビュー・追跡調査研究・遺伝子研究」(G1268/RADDAR-J)
- ・「造血器疾患における遺伝子異常の網羅的解析研究」(G0697)

ご高齢の患者さんにも実施可能な、新規抗がん剤治療の導入を積極的に推進しています。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	7.0	11.1
月平均の新入院患者数(名)	14.9	26.8
平均在院日数(日)	17.1	12.5

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	14.7	16.8

診療実績(2022年度)

外来新規患者数(院内対診を含む)	371人
------------------	------

入院患者数	新規	再入院を除く実数
	349人	114人
非腫瘍性の血球減少症 (再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病など)	14	12
感染症	4	3
骨髄系腫瘍(骨髄異形成症候群、急性骨髄性白血病など)	94	25
悪性リンパ腫	215	62
多発性骨髄腫	19	9
その他の悪性腫瘍	3	3

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
2022.10.14	第84回日本血液学会学術集会
[Prognostic impacts of serum levels of CRP, albumin, and total cholesterol in patients with MDS] 柳澤 浩人、川端 浩、上田 祐輔、在田幸太郎、岩男 悠、坂井 知之、河南 崇典、山田 和徳、水田 秀一、福島 俊洋、正木 康史	
2022.10.14	第84回日本血液学会学術集会
[自然免疫と鉄代謝の交差点 —ヘプシジン濃度測定の意義—] 川端 浩	
2022.10.14	第84回日本血液学会学術集会
[Fanconi anemia and aldehyde degradation deficiency (ADD) syndrome : DNA repair and metabolism together protect the genome and hematopoiesis] 高田 穰、牟 安峰、平 明日香、森 美奈子、岡本 祐介	
2022.10.15	第84回日本血液学会学術集会
[Characteristic and prognostic impact of erythroid dysplasia in aplastic anemia : a prospective cohort :] 前田 智也、松田 晃、諫田 淳也、川端 浩、石川 隆之、通山 薫、北中 明、荒関かやの、新保 敬、波多 智子、鈴木 隆浩、茅野 秀一、臼杵 憲祐、新堂 真紀、有馬 靖佳、直川 匡晴、太田 晶子、千葉 滋、宮崎 泰司、中尾 眞二、小澤 敬也、荒井 俊也、黒川 峰夫、高折 晃史、三谷 絹子	
2022.10.15	第84回日本血液学会学術集会
[Novel synthetic lethal targets for myeloid neoplasms with loss of chromosome 7] 森 美奈子、久保田泰央、Adema V.、Gurnari C.、Ponvilawan B.、Visconte V.、Haferlach T.、Maciejewski J. P.	

発表年月日 発表学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属)

2023.03.04 第14回日本IgG4関連疾患学会学術集会

「キャッスルマン病及びTAFRO症候群の臨床」
川端 浩

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

(総説)

全身疾患に伴う貧血

日本医師会雑誌 血液疾患のすべて, 151, 特別号 (1), 198-199, 2022.06.15, 日本医師会

川端 浩

(総説)

Castleman病の診断と治療

EBM血液疾患の治療2023-2024, 443-449, 2022.10, 中外医学社

川端 浩

(総説)

鉄剤・葉酸・ビタミンB12

血液疾患 最新の治療2023-2025, 53-33, 2022.10, 南江堂

川端 浩

(総説)

鉄欠乏性貧血

ここが知りたい! 血液疾患診療ハンドブック, 136-141, 2022.10, 中外医学社

川端 浩

(総説)

貧血

わかりやすい内科学 第5版, 256-259, 2023.01.10, 文光堂

川端 浩

(総説)

自己免疫性溶血性貧血

今日の治療指針2023年版, 660-662, 2023.01, 医学書院

川端 浩

(総説)

キャッスルマン病; in 新リンパ腫学.

東京, 日本臨牀社, 2023, vol 81, pp 376-382.

川端 浩

(その他)

不応性貧血 (骨髄異形成症候群) の形態学的診断基準作成のためのワーキンググループ: 不応性貧血 (骨髄異形成症候群) の形態学的異形成に基づく診断確度区分と形態診断アトラス (第2版).

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業特発性造血障害に関する調査研究, 2023.03

松田 晃、朝長万左男、通山 薫、茅野 秀一、鈴木 隆浩、波多 智子、川端 浩、前田 智也、
北中 明、新保 敬、かやの 荒

(その他)

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業特発性造血障害に関する調査研究班: 骨髄異形成症候群診療の参照ガイド令和4年度改訂版

2023.02

宮崎 泰司、川端 浩、清井 仁、黒川 峰夫、高折 晃史、千葉 滋、通山 薫、富田 章裕、
中崎 久美、南谷 泰仁、原田 浩徳、張替 秀郎、松田 晃、松村 到、三谷 絹子、森田 泰慶

(原著論文)

Intravenous ferric derisomaltose versus saccharated ferric oxide for iron deficiency anemia associated with menorrhagia : a randomized, open-label, active-controlled, noninferiority study

Int J Hematol., 116, 5, 647-658, 2022.11

Kawabata H, Tamura T, Tamai S, Fujibayashi A, Sugimura M, Study G

原著論文

Intravenous ferric derisomaltose for iron-deficiency anemia associated with gastrointestinal diseases : a single-arm, randomized, uncontrolled, open-label study

Int J Hematol., 116, 6, 846-855, 2022.12

Kawabata H, Tamura T, Tamai S, Takahashi T, Kato J, Study G

原著論文以外

TAFRO Syndrome : A Disease Requiring Immediate Medical Attention

Intern Med., 62, 1, 27-32, 2023.01

Masaki Y, Ueda Y, Yanagisawa H, Arita K, Sakai T, Yamada K, Mizuta S, Fukushima T, Takai K, Aoki S, Kawabata H.

原著論文

ASXL1 mutations with serum EPO levels predict poor response to darbepoetin alfa in lower-risk MDS : W-JHS MDS01 trial

Int J Hematol., 116, 5, 659-668, 2022.11

Morita Y, Nannya Y, Ichikawa M, Hanamoto H, Shibayama H, Maeda Y, Hata T, Miyamoto T, Kawabata H, Takeuchi K, Tanaka H, Kishimoto J, Miyano S, Matsumura I, Ogawa S, Akashi K, Kanakura Y, Mitani K.

原著論文

Comprehensive Transcriptomic Analysis of VISTA in Acute Myeloid Leukemia : Insights into Its Prognostic Value.

Int J Mol Sci., 23, 23, 14885, 2022.11

Pagliuca S, Gurnari C, Zhang K, Kewan T, Bahaj W, Mori M, Nautiyal I, Rubio MT, Ferraro F, Maciejewski JP, Wang L, Visconte V.

原著論文

Significance of hereditary gene alterations for the pathogenesis of adult bone marrow failure versus myeloid neoplasia.

Leukemia, 36, 12, 2827-2834, 2022.12

Kubota Y, Zawit M, Durrani J, Shen W, Bahaj W, Kewan T, Ponvilawan B, Mori M, Meggendorfer M, Gurnari C, LaFramboise T, Feurstein S, Sekeres MA, Visconte V, Godley LA, Haferlach T, Maciejewski JP.

原著論文

Molecular landscape of immune pressure and escape in aplastic anemia.

Leukemia, 37, 1, 202-211, 2023.01

Pagliuca S, Gurnari C, Hercus C, Hergalant S, Nadarajah N, Wahida A, Terkawi L, Mori M, Zhou W, Visconte V, Spellman S, Gadalla SM, Zhu C, Zhu P, Haferlach T, Maciejewski JP.

内分泌・代謝内科



診療部長 (外来管理担当)
診療科長 (内分泌・代謝内科)
田上 哲也

専門医資格等

日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医・指導医・
近畿支部評議員
日本内分泌学会
内分泌代謝科専門医・
指導医・教育責任者・
評議員・近畿支部副支部長・
英文雑誌編集委員
日本甲状腺学会
専門医・評議員・理事・
2020年学会長

臨床研修指導医
京都大学博士 (医学)
京都大学医学部
臨床教授・講師
京都府社会保険
診療報酬支払基金審査委員
京都地方裁判所専門委員
T-PECドクターオブドクターズ

専門分野

内科・内分泌代謝
(甲状腺疾患)

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	立木 美香	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医 日本高血圧学会専門医 臨床研修指導医 東京女子医科大学医学博士	内科・ 内分泌代謝	内分泌疾患、 高血圧・副腎疾患
医師	難波 多挙	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医 米国心臓協会FAHA 臨床研修指導医 ミシガン大学医学部 リサーチ・アシスタント・プロフェッサー (非常勤)	内科・ 内分泌代謝	内分泌疾患、 副腎疾患
医師	石原 裕己	日本内科学会認定内科医	内科・ 内分泌代謝	内分泌疾患
レジデント	廣嶋 佳歩 2022年9月30日まで	日本内科学会認定内科医	内科・ 内分泌代謝	内分泌疾患
レジデント	北村 拓也		内科・ 内分泌代謝	内分泌疾患、 糖尿病
専攻医	野村 拓未		内科・ 内分泌代謝	内分泌疾患、 糖尿病

令和4年度の主な取組

施設認定

- ・日本内分泌学会認定研修施設
- ・日本高血圧学会認定研修施設
- ・日本甲状腺学会認定研修施設

クリティカルパス

- ・副腎静脈サンプリング（3）、副腎インシデンタローマ（5）、原発性アルドステロン症2種（4）、
原発性アルドステロン症3種（5）、褐色細胞腫CVD〔化学療法〕（6）、褐色細胞腫蓄尿（3）、
バセドウ病アイソトープ（8）、甲状腺眼症（18）：（ ）内は日数

診療実績

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	4.8	3.9
平均在院日数（日）	8.0	8.9
内分泌疾患年間入院患者数（日）	221	161

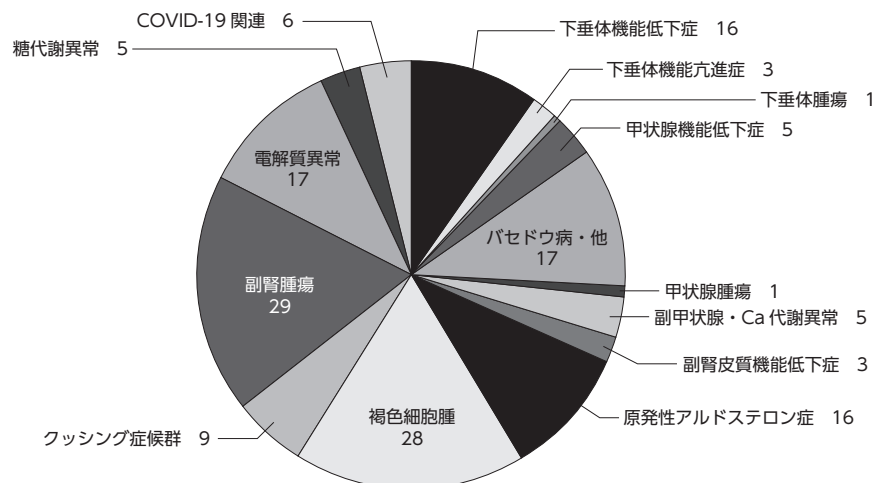
外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	56.3	54.8
年間初診患者数（名）	684	1,140

主な検査の件数（2022年度）

甲状腺エコー実施数	1,504件	バセドウ病に対するアイソトープ治療	11件
甲状腺細胞診実施数	288件	甲状腺眼症に対するステロイドパルス療法＋放射線外照射療法	3件
副腎静脈サンプリング	7件	悪性褐色細胞腫化学療法	のべ9回（2症例）

2022年度入院患者内訳（人）



| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.06.02	第96回日本内分泌学会学術総会
「 <u>コルチゾール自律分泌性の骨密度への影響には男女差が存在する</u> 」 伊澤正一郎、田辺 晶代、成瀬 光栄、鈴木 知子、方波見卓行、吉本 貴宣、大月 道夫、曾根 正勝、 武田 仁勇、岡村真太郎、一城 貴政、 <u>立木 美香</u> 、ACPA-J研究班	
2022.06.02-04	第95回日本内分泌学会学術総会
「 <u>軽微な自律性コルチゾール過剰分泌併発 (MACS) は原発性アルドステロン症 (PA) の腎合併症リスクを増加させる</u> 」 松葉 怜、方波見卓行、小林 洋輝、曾根 正勝、 <u>立木 美香</u> 、田辺 晶代、成瀬 光栄、 JPAS/JRAS study group	
2022.07.09	第21回 京滋臨床甲状腺懇話会
「 <u>超高齢バセドウ病患者にアイントープ治療を安全に施行できた一例</u> 」 <u>野村 拓未</u> 、石原 裕己、濱中 佳歩〔廣嶋〕、難波 多挙、 <u>立木 美香</u> 、日下部 徹、浅原 哲子、八十田明宏、 <u>田上 哲也</u>	
2022.08.27	日本医療マネジメント学会 第19回京滋支部学術集会
「 <u>当院における臨床倫理コンサルテーションチームの取り組みについて～2021年度活動報告～</u> 」 難波 多挙、小泉 三輝、畑 啓昭、瀬田 公一、弘中 孝佳、吉田 活子、渡邊裕美子、小山 弘、 <u>白神幸太郎</u>	
2022.09.01	伏見内分泌代謝ネットワーク第37回連携の会
「 <u>妊娠と甲状腺</u> 」 <u>野村 拓未</u>	
2022.09.01	伏見内分泌代謝ネットワーク第37回連携の会
「 <u>妊娠と内分泌</u> 」 <u>北村 拓也</u>	
2022.09.01	伏見内分泌代謝ネットワーク第37回連携の会
「 <u>若年女性のやせと隠れ肥満</u> 」 <u>日下部 徹</u>	
2022.10.14	The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension
「 <u>Concurrent somatic mutations in CTNMB1 and GNA11 in an aldosterone-producing adenoma</u> 」 Kazutaka Nanba, Amy R. Blinder, Aaron M. Udager, Yuusuke Hirokawa, Hiroshi Okuno, Koki Moriyoshi, Yuto Yamazaki, Hironobu Sasano, William E. Rainey, Akihiro Yasoda, Noriko Satoh-Asahara, <u>Tetsuya Tagami</u>	
2022.10.29-30	第9回日本サルコペニア・フレイル学会学術集会
「 <u>骨粗鬆症患者を対象としたサルコペニアスクリーニングツールとしてのSARC-F、SARC-CalF、下腿周囲長の有用性に関する検討</u> 」 <u>石原 裕己</u> 、 <u>日下部 徹</u> 、八十田明宏、 <u>立木 美香</u> 、難波 多挙、濱中 佳歩〔廣嶋〕、 <u>北村 拓也</u> 、 <u>野村 拓未</u> 、 <u>浅原 哲子</u> 、 <u>田上 哲也</u>	
2022.11.01-03	第65回日本甲状腺学会学術集会
「 <u>バセドウ病治療の新たな選択肢：わが国でのヒトモノクローナル抗体K1-70™による第1相臨床試験結果</u> 」 <u>田上 哲也</u>	
2022.11.02	第65回日本甲状腺学会学術集会
「 <u>著明な骨密度低下を認めた若年発症バセドウ病の一例</u> 」 難波 多挙、 <u>野村 拓未</u> 、 <u>北村 拓也</u> 、濱中 佳歩〔廣嶋〕、 <u>石原 裕己</u> 、 <u>立木 美香</u> 、 <u>日下部 徹</u> 、 <u>浅原 哲子</u> 、 <u>八十田明宏</u> 、 <u>田上 哲也</u>	
2022.11.11	第32回臨床内分泌代謝Update
「 <u>副腎の画像診断ABC</u> 」 <u>立木 美香</u>	
2022.11.11-12	第32回臨床内分泌代謝Update
「 <u>COL1A1変異による骨形成不全症に下垂体茎断裂を合併した一例.</u> 」 <u>北村 拓也</u> 、 <u>石原 裕己</u> 、 <u>日下部 徹</u> 、 <u>立木 美香</u> 、難波 多挙、 <u>野村 拓未</u> 、濱中 佳歩〔廣嶋〕、 <u>浅原 哲子</u> 、 <u>八十田明宏</u> 、 <u>田上 哲也</u>	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.11.11-12	第32回臨床内分泌代謝Update
「原発性アルドステロン症の病型診断における複数の機能確認検査」 兼子 大輝、馬越 洋宜、福元 多鶴、和田 典男、一城 貴政、坂本 昌平、渡邊 哲博、 <u>石原 裕己</u> 、 <u>田上 哲也</u> 、緒方 大聖、岩橋 徳英、馬越 真希、松田やよい、坂本 竜一、小川 佳宏	
2023.02.02	伏見内分泌代謝ネットワーク第38回連携の会
「自己免疫性下垂体疾患」 <u>難波 多挙</u>	
2023.02.02	伏見内分泌代謝ネットワーク第38回連携の会
「自己免疫性甲状腺疾患」 <u>石原 裕己</u>	
2023.02.02	伏見内分泌代謝ネットワーク第38回連携の会
「自己免疫性副腎疾患」 <u>立木 美香</u>	
2023.02.18	第14回九州甲状腺・副甲状腺研究会
「バセドウ病の診断と治療の進歩」 <u>田上 哲也</u>	
2023.03.24	第13回埼玉EMエキスパートセミナー
「バセドウ病の診断と治療の進歩」 <u>田上 哲也</u>	

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
会議録 骨粗鬆症患者を対象としたサルコペニアスクリーニングツールとしてのSARC-F、SARC-CalF、下腿周囲長の有用性に関する検討 日本サルコペニア・フレイル学会雑誌 (2433-1805), 6, Suppl., 196, 2022.10, 日本サルコペニア・フレイル学会 <u>石原 裕己</u> 、日下部 徹、八十田明宏、立木 美香、難波 多挙、濱中 佳歩[廣嶋]、北村 拓也、野村 拓未、浅原 哲子、 <u>田上 哲也</u>
会議録 原発性アルドステロン症の病型診断における複数の機能確認検査 日本内分泌学会雑誌 (0029-0661), 98, 2, 608, 2022.10, 日本内分泌学会 兼子 大輝、馬越 洋宜、福元 多鶴、和田 典男、一城 貴政、坂本 昌平、渡邊 哲博、 <u>石原 裕己</u> 、 <u>田上 哲也</u> 、緒方 大聖、岩橋 徳英、馬越 真希、松田やよい、坂本 竜一、小川 佳宏
会議録 COL1A1変異による骨形成不全症に下垂体茎断裂を合併した一例 日本内分泌学会雑誌 (0029-0661), 98, 2, 588, 2022.10, 日本内分泌学会 北村 拓也、 <u>石原 裕己</u> 、日下部 徹、立木 美香、難波 多挙、野村 拓未、濱中 佳歩[廣嶋]、浅原 哲子、八十田明宏、 <u>田上 哲也</u>
会議録 NF-κBがUCPの発現調節に及ぼす影響について 日本薬学会年会要旨集, 143年会, 27P1-pm2-129S, 2023.03, 日本薬学会 寺脇 聖乃、光谷 真奈、松下 翠、増田奈菜子、横山 明似、野網 万那、杷野 宏美、森田 歩生、二若 久美、 <u>田上 哲也</u> 、森山 賢治
会議録 糖質コルチコイドのエネルギー代謝作用に関する検討 日本薬学会年会要旨集, 143年会, 27P1-pm2-130S, 2023.03, 日本薬学会 杷野 宏美、光谷 真奈、松下 翠、増田奈菜子、横山 明似、寺脇 聖乃、野網 万那、森田 歩生、二若 久美、 <u>田上 哲也</u> 、森山 賢治

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

会議録

成長ホルモンによるGATAの発現への影響

日本薬学会年会要旨集, 143年会, 27P1-pm2-137, 2023.03, 日本薬学会
光谷 真奈、松下 翠、増田奈菜子、横山 明似、寺脇 聖乃、野網 万那、杷野 宏美、森田 歩生、
二若 久美、田上 哲也、森山 賢治

会議録

PAX4遺伝子R192H変異による若年発症成人型糖尿病の母娘例

糖尿病 (0021-437X), 65, Suppl.1, S-159, 2022.04, 日本糖尿病学会
日下部 徹、小西 陽介、河野 茂夫、田上 哲也、八十田明宏、浅原 哲子

会議録

ベザフィブラートによる甲状腺機能低下症を呈した甲状腺ホルモン不応症症例の解析

日本内分泌学会雑誌 (0029-0661), 98, 1, 358, 2022.04, 日本内分泌学会
山内 一郎、山下 貴史、須川 琢、田上 哲也、花岡 郁子、臼井 健、廣田 圭昭、伯田 琢郎、
植田 洋平、藤井 寿人、坂根依利子、八十田明宏、稲垣 暢也

会議録

Basedow病に対する術前ホルモンコントロールに炭酸リチウムを用いた症例

日本内分泌学会雑誌 (0029-0661), 98, 1, 351, 2022.04, 日本内分泌学会
濱中 佳歩(廣嶋)、岡 良祐、中谷理恵子、北村 拓也、石原 裕己、難波 多挙、立木 美香、日下部 徹、
浅原 哲子、八十田明宏、田上 哲也

会議録

GATAによるエネルギー代謝作用に関する検討

日本内分泌学会雑誌 (0029-0661), 98, 1, 330, 2022.04, 日本内分泌学会
横山 明似、光谷 真奈、松下 翠、増田奈菜子、梶谷 美佳、二若 久美、田上 哲也、森山 賢治

会議録

成長ホルモンのGATAsへの影響

日本内分泌学会雑誌 (0029-0661), 98, 1, 330, 2022.04, 日本内分泌学会
増田奈菜子、光谷 真奈、松下 翠、梶谷 美佳、横山 明似、二若 久美、田上 哲也、森山 賢治

会議録

エイジングがエネルギー代謝に及ぼす影響について

日本内分泌学会雑誌 (0029-0661), 98, 1, 329, 2022.04, 日本内分泌学会
光谷 真奈、松下 翠、増田奈菜子、梶谷 美佳、横山 明似、二若 久美、田上 哲也、森山 賢治

会議録

Non-thyroidal illness

日本内分泌学会雑誌 (0029-0661), 98, 1, 196, 2022.04, 日本内分泌学会
田上 哲也

原著論文

cAMPバイオセンサおよびヒトTSH受容体共発現細胞を用いた新規TSAb測定試薬バイオセンサTSAb「ヤマサ」の臨床評価

医学と薬学 (0389-3898), 79, 8, 1087-1095, 2022.07.28, 自然科学社
田上 哲也、吉村 弘、保科 元気、尾島 汐海、土居 耕介、太田 賢志、川寄 淳史、村山 寛

原著論文

cAMPバイオセンサおよびヒトTSH受容体共発現細胞を用いた新規TSAb測定試薬バイオセンサTSAb「ヤマサ」の基礎的検討

医学と薬学 (0389-3898), 79, 8, 1079-1086, 2022.07.28, 自然科学社
保科 元気、尾島 汐海、土居 耕介、太田 賢志、川寄 淳史、田上 哲也、吉村 弘、村山 寛

解説

だれでもわかる甲状腺の基礎知識 甲状腺ホルモン受容体 (TR) が2種類ある理由

日本甲状腺学会雑誌 (2185-3126), 13, 1, 75-76, 2022.04, 日本甲状腺学会
田上 哲也

会議録

伏見内分泌代謝ネットワーク第37回連携の会 はじめに

伏見医報, 2022年9月号, 749, 4, 2022.10.18, 伏見医師会
田上 哲也

会議録

伏見内分泌代謝ネットワーク第37回連携の会 妊娠と甲状腺

伏見医報, 2022年9月号, 749, 4-5, 2022.10.18, 伏見医師会
野村 拓未

(会議録)

伏見内分泌代謝ネットワーク第37回連携の会 妊娠と内分泌疾患
伏見医報, 2022年9月号, 749, 5-6, 2022.10.18, 伏見医師会
北村 拓也

(会議録)

伏見内分泌代謝ネットワーク第37回連携の会 若年女性のやせと隠れ肥満
伏見医報, 2022年9月号, 749, 6, 2022.10.18, 伏見医師会
日下部 徹

(解説)

TSH受容体抗体
糖尿病・内分泌代謝科, 55, 6, 696-705, 2022.12.28, 科学評論社
田上 哲也

(解説)

12 内分泌疾患 急性(化膿性)・亜急性甲状腺炎
今日の治療指針 2023年版 [デスク判] 私はこう治療している, デスク判, 769-770, 2023.01.01, 医学書院
田上 哲也

(解説)

12 内分泌疾患 急性(化膿性)・亜急性甲状腺炎
今日の治療指針 2023年版 [ポケット判] 私はこう治療している, ポケット判, 769-770, 2023.01.01, 医学書院
田上 哲也

(解説)

12 内分泌疾患 急性(化膿性)・亜急性甲状腺炎
今日の治療指針 WEB 電子購読版, 電子購読版, 769-770, 2023.03, 医学書院
田上 哲也

(解説)

甲状腺機能低下症
今日の臨床サポート, オンライン, 2023.01.25, エルゼビアジャパン
田上 哲也

(解説)

7 免疫抑制薬
薬剤性内分泌障害診療マニュアル, 内分泌シリーズ, 37-41, 2022.09.09, 診断と治療社
田上 哲也

(解説)

8 抗悪性腫瘍薬 f 多発性骨髄腫治療薬 (サリドマイド)
薬剤性内分泌障害診療マニュアル, 内分泌シリーズ, 45-46, 2022.09.09, 診断と治療社
田上 哲也

(総説)

副腎皮質機能低下症を来す薬剤
薬剤性内分泌障害診療マニュアル, 49-51, 2022.09.09, 診断と治療社
立木 美香

(解説)

原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021
糖尿病・内分泌代謝科, 55, 3, 354-360, 2022.09, 科学評論社
成瀬 光栄, 立木 美香, 田辺 晶代

(原著論文)

ACTH-independent production of 11-oxygenated androgens and glucocorticoids in an adrenocortical adenoma.
Eur J Endocrinol., 187, 6, K39-K45, 2022.12
Kitamura T, Blinder AR, Nanba K, Tsuiki M, Mishina M, Okuno H, Moriyoshi K, Yamazaki Y, Sasano H, Yoneyama K, Udager AM, Rainey WE, Yasoda A, Satoh-Asahara N, Tagami T.

(原著論文)

Do multiple types of confirmatory tests improve performance in predicting subtypes of primary aldosteronism?
Clin Endocrinol (Oxf).
Kaneko H, Umakoshi H, Fukumoto T, Wada N, Ichijo T, Sakamoto S, Watanabe T, Ishihara Y, Tagami T, Ogata M, Iwahashi N, Yokomoto-Umakoshi M, Matsuda Y, Sakamoto R, Ogawa Y.

原著論文

Characterization of Apparently Paradoxical Thyrotropin Binding Inhibitory Immunoglobulins With Neutral Bioactivity.

J Endocr Soc., 6, 7, bvac070, 2022.04

Tagami T, Moriyama K.

原著論文

Machine learning-based models for predicting clinical outcomes after surgery in unilateral primary aldosteronism.

Sci Rep., 12, 1, 5781, 2022.04

Kaneko H, Umakoshi H, Ogata M, Wada N, Ichijo T, Sakamoto S, Watanabe T, Ishihara Y, Tagami T, Iwahashi N, Fukumoto T, Terada E, Katsuhara S, Yokomoto-Umakoshi M, Matsuda Y, Sakamoto R, Ogawa Y.

原著論文

Relationship between the Thyroid Function and Cognitive Impairment in the Elderly in Japan.

Intern Med., 61, 20, 3029-3036, 2022.10

Furuto-Kato S, Araki A, Chiba Y, Nakamura M, Shintani M, Kuwahara T, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Tagami T.

原著論文

Prediction of long-term biochemical cure in patients with unilateral primary hyperaldosteronism treated surgically based on the early post-operative plasma aldosterone value.

Endocr J., 69, 4, 407-415, 2022.04

Ishihara Y, Umakoshi H, Kaneko H, Nanba K, Tsuiki M, Kusakabe T, Satoh-Asahara N, Yasoda A, Tagami T.

Review

Pathophysiology of bilateral hyperaldosteronism.

Curr Opin Endocrinol Diabetes Obes., 29, 3, 233-242, 2022.06

Nanba K, Rainey WE.

原著論文

Histopathology and Genetic Causes of Primary Aldosteronism in Young Adults.

J Clin Endocrinol Metab., 107, 9, 2473-2482, 2022.08

Nanba K, Baker JE, Blinder AR, Bick NR, Liu CJ, Lim JS, Wachtel H, Cohen DL, Williams TA, Reincke M, Lyden ML, Bancos I, Young WF, Else T, Giordano TJ, Udager AM, Rainey WE.

Review

Primary Aldosteronism : State-of-the-Art Review.

Am J Hypertens., 35, 12, 967-988, 2022.12

Vaidya A, Hundemer GL, Nanba K, Parksook WW, Brown JM.

原著論文

Primary aldosteronism caused by a p157S somatic KCNJ5 mutation in a black adolescent female with aldosterone-producing adenoma

Front Endocrinol., 13, 921449, 2022.08

Gomez-Sanchez CE, van Rooyen D, Rainey WE, Nanba K, Blinder AR, Baliga R.

原著論文

International multicenter survey on screening and confirmatory testing in primary aldosteronism.

Eur J Endocrinol., 188, 1, 2023.01

Naruse M, Murakami M, Katabami T, Kocjan T, Parasiliti-Caprino M, Quinkler M, St-Jean M, O'Toole S, Ceccato F, Kraljevic I, Kastelan D, Tsuiki M, Deinum J, Torre EM, Puar T, Markou A, Piaditis G, Laycock K, Wada N, Grytaas MA, Kobayashi H, Tanabe A, Tong CV, Gallego NV, Gruber S, Beuschlein F, Kürzinger L, Sukor N, Azizan EABA, Ragnarsson O, Nijhoff MF, Maiolino G, Dalmazi GD, Kalugina V, Lacroix A, Furnica RM, Suzuki T.

原著論文

Heterogeneous circulating miRNA profiles of PBMAH.

Front Endocrinol (Lausanne)., 13, 2022.12

Hara K, Murakami M, Niitsu Y, Takeuchi A, Horino M, Shiba K, Tsujimoto K, Komiya C, Ikeda K, Tsuiki M, Tanabe A, Tanaka T, Yokoyama M, Fujii Y, Naruse M, Yamada T.

原著論文

Associated factors and effects of comorbid atrial fibrillation in hypertensive patients due to primary aldosteronism

J Hum Hypertens., 2022.09

Sakaguchi S, Okamoto R, Inoue C, Akao M, Kamemura K, Kurihara I, Takeda Y, Ohno Y, Inagaki N, Rakugi H, Katabami T, Tsuiki M, Tanabe A, Tamura K, Fujita S, Yano Y, Dohi K ; JRAS investigators ; Naruse M.

原著論文

Effect of Intraoperative Cortisol Measurement on ACTH-stimulated Adrenal Vein Sampling in Primary Aldosteronism

J Endocr Soc., 6, 9, 2022.06

Kometani M, Yoneda T, Karashima S, Takeda Y, Tsuiki M, Yasoda A, Kurihara I, Wada N, Katabami T, Sone M, Ichijo T, Tamura K, Ogawa Y, Kobayashi H, Okamura S, Inagaki N, Kawashima J, Fujita M, Oki K, Matsuda Y, Tanabe A, Naruse M.

原著論文

Association of cardiovascular disease risk and changes in renin levels by mineralocorticoid receptor antagonists in patients with primary aldosteronism

Hypertens Res., 45, 9, 1476-1485, 2022.09

Nomura M, Kurihara I, Itoh H, Ichijo T, Katabami T, Tsuiki M, Wada N, Yoneda T, Sone M, Oki K, Yamada T, Kobayashi H, Tamura K, Ogawa Y, Inagaki N, Yamamoto K, Otsuki M, Yabe D, Izawa S, Takahashi Y, Suzuki T, Yasoda A, Tanabe A, Naruse M ; JPAS/JRAS Study Group.

原著論文

Japan Endocrine Society clinical practice guideline for the diagnosis and management of primary aldosteronism 2021

Endocr J., 69, 4, 327-359, 2022.04

Naruse M, Katabami T, Shibata H, Sone M, Takahashi K, Tanabe A, Izawa S, Ichijo T, Otsuki M, Omura M, Ogawa Y, Oki Y, Kurihara I, Kobayashi H, Sakamoto R, Satoh F, Takeda Y, Tanaka T, Tamura K, Tsuiki M, Hashimoto S, Hasegawa T, Yoshimoto T, Yoneda T, Yamamoto K, Rakugi H, Wada N, Saiki A, Ohno Y, Haze T.

原著論文

Primary aldosteronism with mild autonomous cortisol secretion increases renal complication risk

Eur J Endocrinol., 186, 6, 645-655, 2022.04

Katabami T, Matsuba R, Kobayashi H, Nakagawa T, Kurihara I, Ichijo T, Tsuiki M, Wada N, Ogawa Y, Sone M, Inagaki N, Yoshimoto T, Takahashi K, Yamamoto K, Izawa S, Kakutani M, Tanabe A, Naruse M.

糖尿病内科（糖尿病センター）



診療科長
河野 茂夫
(2023年3月31日まで)

専門医資格等
WHO糖尿病協力センター長
日本糖尿病学会
糖尿病専門医・研修指導医
日本内分泌学会
内分泌代謝科専門医・指導医
内分泌代謝・糖尿病内科領域指導医
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医
日本糖尿病学会評議員
日本内分泌学会評議員
京都大学博士（医学）
京都大学医学部臨床教授

専門分野
糖尿病
得意疾患
足病変



診療科長
糖尿病センター長
小倉 雅仁
(2023年4月1日から)

専門医資格等
日本糖尿病学会糖尿病専門医・研修指導医
日本糖尿病学会学術評議員
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医
日本病態栄養学会
専門医・指導医・NSTコーディネーター
日本病態栄養学会学術評議員
内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医
臨床研修指導医
京都大学博士（医学）
京都大学医学部臨床准教授

専門分野
糖尿病

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
臨床栄養科長 医長	村田 敬	日本糖尿病学会糖尿病専門医・研修指導医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本小児・思春期糖尿病学会評議員 日本メディカルAI学会評議員 東京大学医学博士 同志社女子大学客員教授	糖尿病	若年者糖尿病
医師	渡邊 知一	日本糖尿病学会糖尿病専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医	糖尿病	糖尿病
医師	野村 英生	日本糖尿病学会糖尿病専門医 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医 臨床研修指導医	糖尿病	糖尿病
専攻医	藤島 雄幸 2022年10月1日から			

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
内分泌代謝 高血圧 研究部長	浅原 哲子	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本内分泌学会 幹事・評議員 内分泌代謝科専門医・指導医 Endocrine Journal編集委員 男女共同参画推進委員会 近畿支部 代表委員 日本神経内分泌学会評議員 日本心血管内分泌代謝学会評議員 日本糖尿病学会糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会理事・評議員 日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医・評議員 日本病態栄養学会評議員 日本抗加齢医学会専門医 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医・指導医 日本糖尿病学会近畿支部評議員 日本糖尿病生活習慣病ヒューマンデータ学会評議員 日本性差医学・医療学会評議員 日本糖尿病協会療養指導医 The Endocrine Society Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism, Editorial board編集委員 京都大学博士 (医学) 京都大学医学部非常勤講師 名古屋大学環境医学研究所 メタボ栄養科学寄附研究部門特任教授 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門客員教授 同志社大学スポーツ健康科学部客員教授 久留米大学医学部内科学講座心臓・血管内科部門 客員教授 国立循環器病研究センター客員研究員 公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センターフェロー	糖尿病、肥満症 (メタボリックシ ンドローム)、内 分泌代謝、予防 医学、遺伝診療	糖尿病、肥満症(メ タボリックシンド ローム)、内分泌代 謝、予防医学、遺 伝性疾患全般
予防医学 研究室長	坂根 直樹	日本内科学会認定内科医 日本肥満学会評議員 京都府立医科大学医学博士	糖尿病	糖尿病
臨床内分泌 代謝(専任) 研究室長	日下部 徹	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本糖尿病学会糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会肥満症専門医・指導医・評議員 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医 日本肥満症治療学会評議員 日本サルコペニア・フレイル学会評議員 京都大学博士 (医学) 京都大学客員研究員	糖尿病、肥満症 (メタボリックシ ンドローム)、内 分泌	糖尿病、肥満症(メ タボリックシンド ローム)、内分泌、 サルコペニア

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本肥満学会認定専門病院

主な対象疾患

2型糖尿病、耐糖能異常、1型糖尿病、肥満症、メタボリック症候群、糖尿病神経障害と糖尿病足病変、糖尿病腎症、糖尿病網膜症(眼科)、妊娠糖尿病、脂質異常症(高脂血症)、糖尿病性昏睡、重症低血糖

診療(業務)内容

糖尿病センターでは一般糖尿病外来および入院での診療に加えてさまざまな専門外来を開設し、さまざまなタイプの糖尿病および関連疾患およびそれらの合併症の充実した診療活動につながっている。

下記の専門外来の診療活動について紹介する。

- ・フットケア外来 毎週月曜日14時~/フットセンター外来 毎週火曜日14時~ (2000年開設) フットケア外来では、主に糖尿病に由来する足病変に対応し、全国各地からの紹介患者を集めている。また、非糖尿病足病変患者に対する問い合わせも多く、難治性の足病変を扱う集学的な欧米型のフットセンターを目指している。フットセンター外来では初診は糖尿病センターで行い、一般診療をした上で、関係担当診療科へ紹介している。
- ・フットウェア外来 (月2回:木曜日13時~16時 完全予約制) フットウェア外来では義肢装具士がオーストリア人の整形外科靴マイスター (Orthopedic Shoe Meister) と協力して、靴・装具の指導や調整にあっている。
- ・1型糖尿病外来 (2005年開設) 毎週火曜日午前・午後、金曜日の午前。/インスリンポンプ (CSII) 外来 (2010年開設) 毎週月曜日の午後。
医師、看護師、管理栄養士チームを組み、1型糖尿病の系統的な自己管理教育と心理・社会的な問題への対応を含めた患者支援を行っている。食事の炭水化物量に合わせてインスリンの単位数を自己調節するカーボカウントや、インスリンポンプ・持続血糖測定器 (CGM) などの先進糖尿病デバイスの活用により、合併症予防と生活の質 (QOL) の両立を目指している。小児期発症患者の成人移行、1型糖尿病合併妊娠の内科的管理、1型糖尿病患者を対象とした臨床研究も実施している。
- ・肥満・メタボリックシンドローム外来 (2001年開設) 毎週 水曜日 9時~14時
肥満・メタボリックシンドローム外来では、医師・看護師・栄養士によるチーム医療をベースに、体重グラフや食事記録表を登録した当院独自の「ダイエットノート」を活用し、日本肥満学会が提唱する減量指導を行い、動脈硬化等の合併症も定期的に評価している。
また、外来患者を中心に2006年よりメタボ会 (患者会) を定期的に開催。さらにメタボ通信、スマートランチ等をチーム医療で展開し、外来開設から現在まで述べ19,000人以上の患者治療を行ってきた。
- ・脂質異常外来 (2005年開設) : 第2、4木曜日。家族性高コレステロール血症 (FH) やWHO分類のV型など1,000mg/dL以上の著明な高中性脂肪血症の鑑別診断と治療方針の決定を行っている。スタチンのみで管理不良のFHヘテロ接合体に対するPCSK9阻害薬の使用も開始。また、スタチン投薬時のCPK上昇例の対応やスタチン関連自己免疫性ミオパチーなど副作用症例の対応も行っている。管理栄養士による高脂血症療養指導外来 (2006年開設) も併設し、節酒による中性脂肪改善プログラム (HAPPY) も提供している。
- ・妊娠糖尿病外来 (2007年3月開設) 毎週金曜日13時~15時 妊娠糖尿病は妊娠中に初めて発見された軽度の (糖尿病には至っていないレベルの) 耐糖能異常で巨大児その他の周産期合併症の原因となる。また出産後の糖尿病発症リスクが増大する。妊娠前に糖尿病を発症した場合、糖尿病合併妊娠となり、胎児奇形が大きな問題となり、妊娠前血糖管理が重要となる。
- ・さらに、糖尿病センターではコメディカルスタッフによる指導として一般糖尿病食事指導 (管理栄養士) および糖尿病療養指導外来 (インスリン自己注射、血糖自己測定、フットケア指導など:看護師) を開設している。また、自己管理 (療養) を患者に指導する医療スタッフである糖尿病療養指導士 (CDEJ) は、当院内で看護部、薬剤部、臨床栄養科、臨床検査科などに多数を擁し、綿密な糖尿病セルフケアを支援している。
- ・糖尿病地域連携外来 第1, 2, 4, 5水曜日、9時~14時

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	7.5	6.9
新入院患者数(名)	185	217
平均在院日数(日)	14	11.1

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	69.4	70.1

主な手術・検査の件数(2022年度)

CAVI/ABI測定	130例	CT(内臓脂肪面積測定)	70例
------------	------	--------------	-----

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
演題名等 / 演者(下線は当院所属)	
2022.05.12	第65回日本糖尿病学会
[PAX4遺伝子R192H変異による若年発症成人型糖尿病の母娘例] 日下部 徹、小西 陽介、河野 茂夫、田上 哲也、八十田明宏、浅原 哲子	
2022.05.12	第65回日本糖尿病学会年次学術集会
[気象データが日常の歩行に与える影響] 高橋かおる、安田 敏成、菅沼 彰子、同道 正行、坂根 直樹	
2022.05.12-13	第65回日本糖尿病学会年次学術集会
[1型糖尿病におけるisCGMのスクリーン頻度と相関する要因の探索 ISCHIA研究post-hoc解析] 村田 敬、坂根 直樹、黒田 暁生、三浦順之助、廣田 勇士、加藤 研、豊田 雅夫、神山 隆治、 鴻山 訓一、島田 朗、川嶋 聡、的場 ゆか、目黒 周、楠 宣樹、肥田 和之、田中 剛史、 利根 淳仁、清水 一紀、鈴木 渉太、西村 邦宏、細田 公則	
2022.05.12-13	第65回日本糖尿病学会年次学術集会
[1型糖尿病における無自覚低血糖の頻度と危険因子に関する研究 PR-IAH研究] 加藤 研、秦 誠倫、西村英里香、荒木 里香、鴻山 訓一、畑尾満佐子、松下 裕一、的場 ゆか、 村田 敬、坂根 直樹	
2022.05.25-26	第95回日本産業衛生学会
[特定保健指導用ヘルスケアアプリの開発とリクルート状況 KENPO-appsutdy] 坂根 直樹、菅沼 彰子、藤崎 草好、金澤 亜依、杉本麻美子	
2022.06.03	第95回日本内分泌学会学術総会(第3回脂肪萎縮症候群研究会)
[部分性脂肪萎縮症候群とサルコペニア肥満の病態の異同] 日下部 徹	
2022.06.10-11	第4回日本メディカルAI学会
[AIによる病院給食の物体検出と定量に関するパイロットスタディ] 村田 敬、小林 司、豊田 雅夫、廣田 勇士、三浦順之助、森岡 宏介、平野 和保	
2022.06.11	京都消化器医会定例学術講演会
[糖尿病専門医が考える病態生理に基づいた2型糖尿病の治療戦略:一脂肪肝合併2型糖尿病を考える一] 日下部 徹	
2022.06.12	第58回日本循環器病予防学会学術集会
[肥満症の心血管病リスクとしての高尿酸血症と性差一国立病院機構多施設共同肥満症コホート研究一] 若林 大、山 陰一、小津 直輝、浅原 哲子、笠原 正登	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.06.16 「サルコペニア肥満と脳心血管病リスク」 日下部 徹	DiaMond Seminar in 京都
2022.06.17-19 「人間ドック女性受診者を対象とした肥満指標と骨密度の関連：閉経期前と後による分析」 花野 宏美、後藤 元輝、 <u>池上健太郎</u> 、森 隆彰、山本 結子、大石 寛、 <u>山陰 一</u> 、浅原 哲子、 <u>榊田 出</u> 、石井好二郎	第22回日本抗加齢医学会総会
2022.06.17-19 「人間ドック男性受診者を対象とした肥満指標と骨密度の関連」 山本 結子、後藤 元輝、 <u>池上健太郎</u> 、森 隆彰、花野 宏美、大石 寛、 <u>山陰 一</u> 、浅原 哲子、 <u>榊田 出</u> 、石井好二郎	第22回日本抗加齢医学会総会
2022.06.17-19 「糖尿病の認知機能低下における TREM2の病態意義」 田中 将志、 <u>山陰 一</u> 、岩下 香里、加藤 久詞、岩佐 真代、浅原 哲子	第22回日本抗加齢医学会総会
2022.06.30 「行動分析学にもとづいたウェアラブルデバイスによる睡眠・自立神経スコアの職域導入の意義」 荏原 太、坂根 直樹	第47回日本睡眠学会
2022.07.28 「食生活に関する保健指導」 <u>河口八重子</u>	特定保健指導実践者育成研修会
2022.08.27 「当院における遠隔栄養相談の現状と課題」 村田 敬、杉山 香奈、中辻 晴香、森岡 宏介、平野 和保	日本糖尿病インフォマティクス学会
2022.09.01 「若年女性のやせと隠れ肥満」 日下部 徹	伏見内分泌代謝ネットワーク 第37回連携の会
2022.09.07 「体組成変化が代謝制御に及ぼすインパクトー糖尿病の個別化医療を考えるー」 日下部 徹	昇り龍の会
2022.09.16-17 「独居高齢者における難聴傾向と会話のない日との関連」 幸田 朋也、 <u>藤原 真治</u> 、 <u>同道 正行</u> 、後藤 崇晴、市川 哲雄、白山 靖彦、小谷 和彦、山田 俊幸、 <u>坂根 直樹</u>	第62回全国国保地域医療学会
2022.09.17 「日本語版低血糖問題解決尺度 (HPSS-J) の開発と無自覚低血糖における意義」 坂根 靖子、 <u>同道 正行</u> 、菅沼 彰子、 <u>坂根 直樹</u>	第27回日本糖尿病教育・看護学会学術集会
2022.09.17 「離島在住高齢者における、牛乳・乳製品摂取量と客観的身体機能との関係」 <u>宮崎 亮</u> 、安部 孝文、 <u>坂根 直樹</u> 、 <u>安藤 仁</u> 、矢野 彰三、奥山 健太、磯村 実、山崎 雅之、 <u>並河 徹</u>	第77回日本体力医学会大会
2022.09.21 「人間ドック受診者の各年代における糖尿病発症リスクに影響を及ぼす生活習慣」 山本 結子、大石 寛、 <u>池上健太郎</u> 、山口 寛基、花野 宏美、森 隆彰、 <u>山陰 一</u> 、浅原 哲子、 <u>榊田 出</u> 、石井好二郎	第73回日本体力医学会大会
2022.10.07 「周術期等口腔機能管理の現在と問題点ーリアルワールドエビデンス創出のためのデータベース構築ー 周術期口腔機能管理 エビデンス創出のための研究デザインと解析法 (会議録)」 <u>坂根 直樹</u>	第76回国立病院総合医学会

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.10.07 「糖尿病に伴う認知症の特徴と効果的なバイオマーカー・評価系—TREM2の有用性」 浅原 哲子	第60回日本糖尿病学会 九州地方会
2022.10.15 「CKD患者における骨粗鬆症とサルコペニアの診療」 日下部 徹	第24回伏見CKD医療連携の会
2022.10.21 「双極性障害リーマス使用の高血糖、高TG血症女性に素粒子イメージ療法とポーションコントロールプレートを用い、劇的改善した症例」 山内 恵子、坂根 直樹	第37回日本糖尿病合併症学会
2022.10.21 [Symposium I : Diabetic Foot in WPR, past, present, and future problems] Shigeo Kono	2022アジア糖尿病学会 (AASD)
2022.10.28 「Association between body mass index and bone mineral density in female comprehensive health checkup system examinees : an analysis by premenopausal and postmenopausal age」 Hanano H, Goto G, Ikeue K, Mori T, Yamamoto Y, Oishi K, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Masuda I, Ishii K	The 8th ASIAN CONFERENCE for FRAILITY AND SARCOPENIA
2022.10.29-30 「新たな肥満評価指標 ABSI は脳心血管病リスクの高い肥満症患者の特定に有用である」 池上健太郎、日下部 徹、村中 和哉、山陰 一、石井好二郎、浅原 哲子	第9回日本サルコペニア・フレイル学会大会
2022.10.29-30 「糖尿病とサルコペニア」 日下部 徹	第9回日本サルコペニア・フレイル学会大会
2022.10.30 「生体電気インピーダンス法により得られる Phase Angle を用いたサルコペニア診療の可能性」 日下部 徹	第9回日本サルコペニア・フレイル学会大会
2022.11.03 「From Rare Disease To Common Disease—脂肪萎縮症から考える肥満症とレプチンの臨床応用—」 日下部 徹	第55回日本小児内分泌学会学術集会
2022.11.05 「成人移行期に糖尿病デバイスの管理に困難を伴った1型糖尿病患者の経験」 野村 英生、村田 敬、大塚桂容子、河口八重子、杉山 香奈、宮本真奈美、渡邊 知一、坂根 直樹	第59回 日本糖尿病学会近畿地方会
2022.11.11-12 「糖尿病における認知症・コグニティブフレイル（脳筋連関）と予知バイオマーカー」 浅原 哲子	第32回臨床内分泌代謝 Update
2022.11.30 「糖尿病・肥満に伴う認知症の発症機序と予防戦略—ミクログリア異常・TREM2と糖化/酸化ストレス—」 浅原 哲子	第45回日本分子生物学会
2022.12.02-03 「Weight-Cycling が脂肪組織の慢性炎症に及ぼす影響」 和田 恵里、田中 都、丹野 翔伍、神田 容、越智 梢、才田 恵美、北浦 靖之、浅原 哲子、菅波 孝祥	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.02-03 「サルコペニア肥満症診療の現状と課題」 日下部 徹	第43回日本肥満学会 / 第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.02-03 「減量治療における Metabolically healthy obesity と Metabolically unhealthy obesity の比較検討」 川合 汐里、山陰 一、小谷 和彦、野田 光彦、浅原 哲子、橋本 貢士	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.12.02-03 「四肢骨格筋量を維持した肥満減量治療はLDL-Cの低下に寄与する」 池上健太郎、 <u>山陰 一</u> 、 <u>村中 和哉</u> 、 <u>日下部 徹</u> 、 <u>石井好二郎</u> 、 <u>浅原 哲子</u>	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.02-03 「植物由来フラボノイド・タキシフォリンの抗メタボ・NASH改善効果とその機序」 加藤 久詞、Bin Fu、 <u>村中 和哉</u> 、 <u>岩佐 真代</u> 、 <u>山陰 一</u> 、 <u>田中 都</u> 、 <u>西尾美和子</u> 、 <u>菅波 孝祥</u> 、 <u>浅原 哲子</u>	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.02-03 「植物由来フラボノイド・タキシフォリンは肥満・脂肪肝/NASHを改善させる」 加藤 久詞、Bin Fu、 <u>山陰 一</u> 、 <u>村中 和哉</u> 、 <u>岩下 香里</u> 、 <u>岩佐 真代</u> 、 <u>加藤さやか</u> 、 <u>田中 将志</u> 、 <u>田中 都</u> 、 <u>西尾美和子</u> 、 <u>菅波 孝祥</u> 、 <u>浅原 哲子</u>	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.02-03 「年齢区分類による健診受診者における代謝性疾患のリスクを反映する肥満指標の検討」 山本 結子、大石 寛、森 隆彰、 <u>池上健太郎</u> 、 <u>山口 寛基</u> 、 <u>花野 広美</u> 、 <u>山陰 一</u> 、 <u>浅原 哲子</u> 、 <u>榎田 出</u> 、 <u>石田好二郎</u>	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.02-03 「肥満者における骨格筋量指標とメタボリックシンドロームリスク項目の変化の縦断的検討」 伊藤 祐希、 <u>真田 樹義</u> 、 <u>浅原 哲子</u> 、 <u>山陰 一</u> 、 <u>渡邊 裕也</u> 、 <u>石井好二郎</u>	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.02-03 「肥満症・糖尿病と認知症—効果的な早期診断指標と予防戦略—」 <u>浅原 哲子</u>	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.02-03 「肥満症のスティグマとアドボカシー活動—肥満専門外来の患者と共に—」 <u>浅原 哲子</u> 、 <u>岩佐 真代</u> 、 <u>加藤さやか</u>	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.02-03 「肥満症の減量治療抵抗性に関連する遺伝素因同定と精密医療の確立：G-FORCE study」 <u>加藤さやか</u> 、 <u>山陰 一</u> 、 <u>松波 雅俊</u> 、 <u>尾崎 浩一</u> 、 <u>前田 士郎</u> 、 <u>浅原 哲子</u>	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.02-03 「肥満症患者の5年間の減量成功率とCVDリスク改善効果—国立病院機構多施設コホート研究—」 <u>岩佐 真代</u> 、 <u>城 嵩晶</u> 、 <u>山陰 一</u> 、 <u>村中 和哉</u> 、 <u>岩下 香里</u> 、 <u>加藤 久詞</u> 、 <u>加藤さやか</u> 、 <u>浅原 哲子</u>	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.02-03 「肥満症治療ガイドライン2022の読み解き方・活かし方・内科の視点から」 <u>浅原 哲子</u>	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.02-03 「副腎・甲状腺疾患と肥満症」 <u>浅原 哲子</u>	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
2022.12.03 「楽しく学んで内臓脂肪を希望に変えましょう！」市民公開講座 <u>坂根 直樹</u>	第43回日本肥満学会
2022.12.03 「ヘルシープレートとAI健康アプリを用いた食習慣改善プログラムの開発」 <u>山内 恵子</u> 、 <u>坂根 直樹</u>	第43回日本肥満学会
2022.12.03 「ライフログとオンライン支援プログラムがOSAS職業ドライバーの超加工食品摂取と睡眠に及ぼす影響」 <u>荻原 太</u> 、 <u>坂根 直樹</u>	第43回日本肥満学会
2022.12.11 「肥満・メタボリックシンドロームの対策と指導」 <u>浅原 哲子</u>	日本抗加齢医学会 応用・実践編講習会

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.12.12	第89回日本体力医学会中国・四国地方会
「地域在住高齢者における日常的タマゴ摂取量とフレイルとの関係」 宮崎 亮、安部 孝文、 <u>坂根 直樹</u> 、安藤 仁、矢野 彰三、奥山 健太、磯村 実、山崎 雅之、 並河 徹	
2022.12.21	小児内分泌女性医師を応援する会
「糖尿病・肥満症における脳心腎合併症の治療戦略 ～女性糖尿病医としてのキャリアデザイン～」 <u>浅原 哲子</u>	
2023.01.28	第26回アディポサイエンス
「イメグリミンはオートファジー・ULK1を介してミクログリアにおける高グルコース誘導性炎症を抑制する」 加藤 久詞、岩佐 真代、岩下 香里、田中 将志、 <u>浅原 哲子</u>	
2023.02.19	特定保健指導実践者育成研修会
「食生活に関する保健指導」 <u>河口八重子</u>	
2023.02.26	第14回泌尿器抗加齢医学研究会
「サルコペニアの治療」 <u>日下部 徹</u>	
2023.02.28	第34回日本コーチング学会大会
「フィジカル測定の評価方法に関する実践報告：大学女子バレーボールチームの事例」 山本 隼年、 <u>大島 秀武</u> 、坂本久美子、北條 達也	
2023.03.04	The International Symposium on New Concepts of Diabetes and its complications (Taiwanese Association of Diabetes Educators)
「The New Concept of Diabetic Foot」 <u>Shigeo Kono</u>	
2023.03.05	第24回日本健康支援学会年次学術集会
「人間ドックを受診した肥満者における主観的な歩行速度と代謝性疾患との関連」 山本 結子、大石 寛、森 隆彰、 <u>池上健太郎</u> 、山口 寛基、花野 宏美、 <u>山陰 一</u> 、 <u>浅原 哲子</u> 、 <u>桝田 出</u> 、石井好二郎	

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
一般 糖尿病治療用医薬品の練習資材を患者説明へ使用する際の留意点 (第2報) 薬事新報, 3251, 457-458, 2022.04, 薬事新報社 <u>朝倉 俊成</u>
総説 肥満・糖尿病とCOVID-19 COVID-19禍における血糖コントロール—COVID-19流行による生活習慣の変化と糖尿病血糖コントロールに関する調査結果を踏まえて 医学のあゆみ, 282, 4, 23244-23249, 2022.07.23, 医歯薬出版 <u>宇野希世子</u> 、 <u>浅原 哲子</u>
総説 脂肪萎縮症 ガイドラインにないリアル糖尿病薬物療法をガイドする, 99~105, 2022.11.15, 振興科学出版社 <u>日下部 徹</u>
解説 統計からみた糖尿病の地域差 糖尿病・内分泌代謝科, 56, 1, 74-78, 2023.01, (有) 科学評論社 <u>坂根 直樹</u>

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

(原著論文)

1型糖尿病の持続皮下インスリン注入療法とQOLに関するシステムティックレビュー
日本先進糖尿病治療研究会雑誌, 16, 1, 8-16, 2022.08, 日本先進糖尿病治療研究会
坂根 直樹

(解説)

【厳選！日常治療薬の正しい使い方 作用機序から納得！外来・病棟の処方に自信がもてる30テーマ】(第1章) 糖尿病・内分泌代謝 インクレチン関連薬の使い方 GLP-1受容体作動薬
レジデントノート, 24, 2, 179-185, 2022.04, (株) 羊土社
坂根 直樹

(解説)

【厳選！日常治療薬の正しい使い方 作用機序から納得！外来・病棟の処方に自信がもてる30テーマ】(第1章) 糖尿病・内分泌代謝 インクレチン関連薬の使い方 DPP-4阻害薬
レジデントノート, 24, 2, 172-178, 2022.04, (株) 羊土社
坂根 直樹

(総説)

【かかりつけ医からみた糖尿病診療】糖尿病の基礎知識 糖尿病診療における先進デバイスの活用
診断と治療, 110, 3, 275-281, 2022.03, 診断と治療社
澤木 秀明, 村田 敬

(原著論文)

体験・共感型食育活動による保育士等の意識・行動・自信度変化と子どもの食行動変化～保育士等と園児が一緒に楽しむ活動で子どもの食と保育の質を向上～
チャイルドヘルス, 25, 6, 461～467, 2022.06.01, 診断と治療社
梁井順一郎, 河口八重子, 坂根 直樹

(その他)

第5章 肥満症・メタボリックシンドローム対策
肥満・肥満症の生活習慣改善指導ハンドブック2022, 123-137, 2022.12.06, ライフサイエンス社
野口 緑, 佐野 喜子

(その他)

第10章 肥満・肥満症の予防、保健指導
肥満症診療ガイドライン2022 編集 日本肥満学会, 158-166, 2022.12.06, ライフサイエンス社
野口 緑, 佐野 喜子, 藤岡 由夫

(総説)

新規血糖コントロール指標 TIR、TAR、TBR の臨床研究における活用
日本先進糖尿病治療研究会雑誌, 16, 1, 17-27, 2022.08, 日本先進糖尿病治療研究会
廣田 勇士, 村田 敬

(総説)

【周産期と最先端サイエンス】産科領域 コンピュータサイエンス・エンジニアリングの進歩 糖尿病管理における新規デバイスの展開
周産期医学, 52, 7, 963-966, 2022.07, 東京医学社
村田 敬

(座談会)

生活習慣病に対する運動療法の現状と課題
日本臨床内科医学会誌, 37, 4, 269-290, 2022.12, (一社) 日本臨床内科医会
宇佐見啓治, 坂根 直樹, 杉本 研, 松井 浩

(総説)

新型コロナウイルス流行期における糖尿病患者の血糖コントロール
糖尿病・内分泌代謝科, 55, 2, 232-241, 2022.08, 科学評論社
加藤さやか, 浅原 哲子

(総説)

遺伝的要因から糖尿病を考える
月刊糖尿病さかえ, 62, 8, 5-10, 2022.08, 日本糖尿病協会
加藤さやか, 浅原 哲子

(会議録)

日本語版低血糖問題解決尺度 (HPSS-J) の開発と無自覚低血糖における意義
日本糖尿病教育・看護学会誌, 26, 特別, 130, 2022.08, (一社) 日本糖尿病教育・看護学会
坂根 靖子, 同道 正行, 菅沼 彰子, 坂根 直樹

原著論文

薬局薬剤師および管理栄養士の協働による2型糖尿病患者支援に対する意識・自信, および職務満足度に関する横断的研究

調剤と情報, 28, 13, 2302-2305, 2022.10, (株)じほう

庄司 雅紀, 坂根 直樹, 伊藤 直紀, 砂山 慶次, 恩田 光子

原著論文

血液透析患者における栄養状態がQOLに及ぼす影響

日本病態栄養学会誌, 25, 1, 89-95, 2022.04, (一社)日本病態栄養学会

木村美枝子, 今田 直樹, 立山 一美, 山川 京子, 野間 啓太, 守時 祐輔, 今井 文恵, 池田 香里 [林],
菅沼 彰子, 坂根 直樹

総説

肥満のある2型糖尿病の経口血糖降下薬 (非インスリン) 療法

糖尿病・内分泌プラクティスWeb, 1, 1, 2023.01.18, 創新社

加藤さやか, 浅原 哲子

原著論文

Factors associated with hemoglobin glycation index in adults with type 1 diabetes mellitus : The FGM-Japan study

J Diabetes Investig, doi : 10.1111/jdi.13973. Online ahead of print.

Sakane N, Hirota Y, Yamamoto A, Miura J, Takaïke H, Hoshina S, Toyoda M, Saito N, Hosoda K,
Matsubara M, Tone A, Kawashima S, Sawaki H, Matsuda T, Domichi M, Suganuma A, Sakane S,
Murata T

原著論文

Association of daily sleep duration with the incident dementia by serum soluble TREM2 in a community.

J Am Geriatr Soc., 70, 4, 1147-1156, 2022.04

Ohara T, Hata J, Tanaka M, Honda T, Yamakage H, Inoue T, Hirakawa Y, Kusakabe T, Shibata M,
Kitazono T, Nakao T, Satoh-Asahara N, Ninomiya T.

原著論文

The CLOCK 3111T/C polymorphism is associated with hour-by-hour physical activity levels only on weekends among Japanese male and female university students

Physiol Behav, 247, 1, 4, 2022.04

Miyazaki R, Ando H, Ayabe M, Hamasaki T, Higuchi Y, Oshita K, Sakane N

原著論文

A combined index of waist circumference and muscle quality is associated with cardiovascular disease risk factor accumulation in Japanese obese patients : a cross-sectional study.

Endocrine, 77, 1, 30-40, 2022.06

Ikeue K, Kusakabe T, Muranaka K, Yamakage H, Inoue T, Ishii K, Satoh-Asahara N.

原著論文

Higher serum soluble TREM2 as a potential indicative biomarker for cognitive impairment in inadequately controlled type 2 diabetes without obesity : the DOR-KyotoJ-1.

Front. Endocrinol., 13, 880148, 2022.05

Tanaka M, Yamakage H, Muranaka K, Yamada T, Araki R, Ogo A, Matoba M, Watanabe T, Saito M,
Kurita S, Yonezawa K, Tanaka T, Suzuki M, Sawamura M, Matsumoto M, Nishimura M, Kusakabe T,
Wada H, Hasegawa K, Kotani K, Noda M, Satoh-Asahara N

原著論文

A pilot study of Pharmacist-Dietician Collaborative support and Advice (PDCA) for patients with type 2 diabetes in community pharmacy : A single-arm, pre-post study

Pharm Pract (Granada), 20, 2, 4, 2022.04

Shoji M, Sakane N, Ito N, Sunayama K, Onda M

原著論文

Antibiotic prophylaxis for percutaneous renal biopsy : study protocol for a prospective randomized trial

Trials, 23, 1, 8, 2022.08

Yahata K, Yoshimoto A, Kinoshita C, Seta K, Tsukamoto T, Yanagita M, Hata H, Sakane N

原著論文

Nutritional status in female patients with nontuberculous mycobacterial lung disease and its association with disease severity

BMC Pulm Med, 22, 1, 8, 2022.08

Takayama Y, Kitajima T, Honda N, Sakane N, Yumen Y, Fukui M, Nagai N

(原著論文)

Analysis of time-dependent changes in the FIB4 index in obese patients receiving weight reduction therapy.
Sci Rep, 12, 1, 15219, 2022.09
Kawai S, Yamakage H, Kotani K, Noda M, Satoh-Asahara N, Hashimoto K.

(原著論文)

Associations between physical frailty and living arrangements in Japanese older adults living in a rural remote island : The Shimane CoHRE Study
J Gen Fam Med., 23, 5, 310-318, 2022.04
Miyazaki R, Abe T, Yano S, Okuyama K, Sakane N, Ando H, Isomura M, Yamasaki M, Nabika T.

(原著論文以外)

Social prescribing from the patient's perspective : a literature review
Journal of General and Family Medicine, 23, 5, 299-309, 2022.04
Araki K, Takahashi Y, Okada H, Nakayama T

(原著論文)

Soluble TREM2 and Alzheimer-related biomarker trajectories in the blood of patients with diabetes based on their cognitive status.
Diabetes Res Clin Pract, 193, 110121, 2022.11
Satoh-Asahara N, Yamakage H, Tanaka T, Kawasaki T, Matsuura S, Tatebe H, Akiguchi I, Tokuda T.

(原著論文)

Prevention of hypoglycemia by intermittent-scanning continuous glucose monitoring device combined with structured education in patients with type 1 diabetes mellitus : A randomized, crossover trial
Diabetes Research and Clinical Practice, 195, 110147, 2023.01
ISCHIA Study Group

(原著論文)

The views and experiences of people with type 2 diabetes being cared for by their community pharmacist: a cross-sectional patient survey
J Diabetes Metab Disord, 21, 2, 1619-1624, 2022.08
Cooney P, Hanley J, Ryan-O'Brien N, Okada H, Bermingham M

(原著論文以外)

Diabetic ketoacidosis after the second dose of SARS-CoV-2 mRNA vaccination in a patient with pembrolizumab-induced fulminant type 1 diabetes
Diabetol Int, 1-5, 2022.12
Nishino K, Nakagawa K, Yase E, Terashima M, Murata T

(原著論文)

To Use or Not to Use a Self-monitoring of Blood Glucose System? Real-world Flash Glucose Monitoring Patterns Using a Cluster Analysis of the FGM-Japan Study
Intern Med, doi : 10.2169/internalmedicine.0639-22. Online ahead of print., 2023.01
Sakane N, Hirota Y, Yamamoto A, Miura J, Takaike H, Hoshina S, Toyoda M, Saito N, Hosoda K, Matsubara M, Tone A, Kawashima S, Sawaki H, Matsuda T, Domichi M, Suganuma A, Sakane S, Murata T

(原著論文)

Novel Therapeutic Potentials of Taxifolin for Obesity-Induced Hepatic Steatosis, Fibrogenesis, and Tumorigenesis.
Nutrient, 15, 2, 350, 2023.01
Inoue T, Fu B, Nishio M, Tanaka M, Kato H, Tanaka M, Itoh M, Yamakage H, Ochi K, Ito A, Shiraki Y, Saito S, Ihara M, Nishimura H, Kawamoto A, Inoue S, Saeki K, Enomoto A, Suganami T, Satoh-Asahara N.

(原著論文)

Factors associated with hemoglobin glycation index in adults with type 1 diabetes mellitus : The FGM-Japan study
J Diabetes Investig, doi : 10.1111/jdi.13973. Online ahead of print., 2023.02
Sakane N, Hirota Y, Yamamoto A, Miura J, Takaike H, Hoshina S, Toyoda M, Saito N, Hosoda K, Matsubara M, Tone A, Kawashima S, Sawaki H, Matsuda T, Domichi M, Suganuma A, Sakane S, Murata T

(原著論文)

Information-seeking behaviour of community pharmacists during the COVID-19 pandemic : an ecological study.
BMJ open, 13, 2, e062465, 2023.02
Suzuki S, Nishikawa Y, Okada H, Nakayama T

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

Cystatin C-based eGFR predicts cardiovascular disease in patients with overweight/obesity and hyperglycemia.

Obes Sci Pract, 2022.07

Suzuki K, Tsujiguchi H, Hara A, Nakamura H, Kotani K, Noda M, Yamakage H, Satoh-Asahara N,
Takamura T.

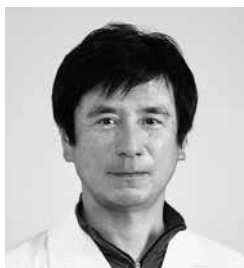
原著論文以外

Serum paraoxonase activity in familial hypercholesterolemia

Arch Med Sci Atheroscler Dis., 8, 1, e1, 2023

Kotani K, Sakane N, Alejandro G

腎臓内科



地域医療部長
診療科長
瀬田 公一

専門医資格等

日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会
専門医・指導医
日本高血圧学会
専門医・指導医
日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医・
JMECCインストラクター

日本集中治療医学会専門医
日本救急医学会
ICLSインストラクター
ICD制度協議会
認定インフェクション
コントロールドクター

京都大学博士（医学）
京都大学医学部臨床教授
奈良県立医科大学非常勤講師
日本内科学会近畿支部評議員
京都府医師会勤務医部会幹事
伏見医師会理事
京都透析医会理事

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師 教育研修 副部長	小泉 三輝	日本腎臓学会専門医・指導医 日本透析医学会専門医・指導医 日本集中治療医学会専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・ JMECCインストラクター 日本急性血液浄化学会認定指導者	腎臓内科	透析、 急性血液浄化
医師	高折 光司	日本腎臓学会専門医・指導医・評議員 日本透析医学会専門医・指導医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定医・指導医 京都大学博士（医学）	腎臓内科	透析、 急性血液浄化
医師	平井 大輔	日本内科学会認定内科医	腎臓内科	透析
医師	泉谷 梓	日本内科学会認定内科医 日本腎臓学会専門医	腎臓内科	透析
専攻医	小阪 健祥		腎臓内科	透析

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本透析医学会認定施設
- ・日本急性血液浄化学会認定指定施設

クリティカルパスは3つ活用している。

- ・CKD教育入院パス 7日間
- ・腎生検パス 7日間
- ・トルパプタン導入入院パス 2日間

| 診療実績 |

入院患者数

	2022年度
入院患者数/日(名)	7.6
平均在院日数(日)	7.8
外来患者数/日(名)	23.8
紹介患者数(地域連携)(名)	248
腎生検数(名)	51

人工腎件数

	2022年度
血液浄化療法件数(延べ人数)	2273
血液透析導入患者数(人)	55
腹膜透析導入患者数(人)	3

腎生検診断一覧(2022年度)

IgA腎症	14例	糖尿病性腎症	3例
腎硬化症	12例	Minor glomerular abnormality	2例
膜性腎症	5例	抗GBM抗体腎炎	1例
微小変化型ネフローゼ	4例	FSGS	1例
半月体形成性腎炎	4例	TMA	1例
間質性腎炎	3例	肥満関連腎症	1例

合計：51例

| 教育・啓発活動 |

- ・毎週金曜日 腎臓病教室基礎編
- ・毎週火曜日 腎臓病教室腎代替療法編
- ・伏見CKD医療連携の会 (ハイブリッド開催 伏見医師会館)
第24回 2022年4月9日(土)

「腎代替療法選択の実際と保存的腎臓療法 (CKM : Conservative Kidney Management)」

京都医療センター 腎臓内科 小泉 三輝、平井 大輔

「臓器保護を見据えた高血圧診療 ～新規MRBへの期待を含めて～」

信州大学 循環器内科学 教授 桑原 宏一郎先生

第25回 2022年10月15日(土)

「血尿のミカタ」

京都医療センター 腎臓内科 小阪 健祥

「CKD患者における骨粗鬆症とサルコペニアの診療」

京都医療センター 臨床研究センター 内分泌代謝高血圧研究部 日下部 徹先生

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.11.18 「腎生検後11日目に腎仮性動脈瘤破裂をきたした1例」 小泉 三輝、河合悠里子、平井 大輔、高折 光司、瀬田 公一、桑原 遼、濱中 訓生	第52回日本腎臓学会西部学術大会
2022.11.18 「蛍光抗体法にて尿細管にκ強陽性像を認めた一例」 平井 大輔、河合悠里子、高折 光司、小泉 三輝、益澤 尚子、瀬田 公一	第52回日本腎臓学会西部学術大会
2022.11.18 「非典型的な多発肉芽腫を認めた多発血管炎性肉芽腫症 (GPA) の一例」 泉谷 梓、高折 光司、小阪 健祥、平井 大輔、小泉 三輝、瀬田 公一、森吉 弘毅	第52回日本腎臓学会西部学術大会
2022.11.18 「膜性腎症に続発した抗糸球体基底膜 (GBM) 抗体型糸球体腎炎の一例」 小阪 健祥、高折 光司、泉谷 梓、平井 大輔、小泉 三輝、瀬田 公一	第52回日本腎臓学会西部学術大会
2023.03.02 「当院における腎臓内科救急オンコール連絡の調査～救命救急科からの相談例を中心に～」 小泉 三輝、小阪 健祥、泉谷 梓、平井 大輔、高折 光司、瀬田 公一	第50回日本集中治療医学会
2023.03.05 「京都医療センターにおける腎代替療法選択の実際、保存的腎臓療法 (CKM ; Conservative Kidney Management) と臨床倫理コンサルテーションチームについて」 小泉 三輝、小阪 健祥、泉谷 梓、平井 大輔、高折 光司、瀬田 公一	第42回京都透析医会 学術集会

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
(原著論文以外) Peritoneal dialysis-related peritonitis caused by <i>Rhodococcus corynebacterioides</i> Clinical and Experimental Nephrology (CEN) Case Reports, 12, 1, 68-72, 2023.02 Yuki Tanaka, Daisuke Hirai, Yuriko Kawai, Naoko Ueda, <u>Koji Takaori</u> , Mitsuteru Koizumi, Koichi Seta
(原著論文) Comparison of the acceptability and safety of molnupiravir in COVID-19 patients aged over and under 80 years. Aging Health Res., PMID : 36919008, 2023.06 Fujita K, Kanai O, Hata H, Ishigami K, Nanba K, Esaka N, Seta K, Mio T, Odagaki T.
(原著論文) Antibiotic prophylaxis for percutaneous renal biopsy : study protocol for a prospective randomized trial. Trials., 23, 1, 646, 2022.07 Yahata K, Yoshimoto A, Kinoshita C, <u>Seta K</u> , Tsukamoto T, Yanagita M, Hata H, Sakane N.

腫瘍内科



専門医資格等
日本臨床腫瘍学会
がん薬物療法専門医
日本内科学会認定内科医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医

専門分野
腫瘍内科学（臨床腫瘍学）

得意疾患
がん薬物療法（化学療法）

診療科長
宇良 敬

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本臨床腫瘍学会研修施設

外科と消化器癌全般の症例について、消化器内科と胃癌、大腸癌症例について外来化学療法を協働している。

多診療科の腫瘍横断的ながん遺伝子パネル検査について当科が中心となりがんゲノム外来を行っている。

| 診療実績 |

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	15	12.2

| 学術活動報告（学会・研究発表など） |

発表年月日	発表学会
2023.02.09	第33回伏見薬業連携協議会
演題名等 / 演者（下線は当院所属）	
「消化管癌の化学療法」 宇良 敬	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

Early tumor shrinkage and depth of response in patients with metastatic esophageal cancer treated with 2-weekly docetaxel combined with cisplatin plus fluorouracil : an exploratory analysis of the JCOG0807 Esophagus, 20, 2, 272-280, 2022.11

Ura T, Hironaka S, Tsubosa Y, Mizusawa J, Kato K, Tsushima T, Fushiki K, Chin K, Tomori A, Okuno T, Matsushita H, Kojima T, Doki Y, Kusaba H, Fujitani K, Seki S, Kitagawa Y.

原著論文

A Single-Arm Confirmatory Study of Definitive Chemoradiation Therapy Including Salvage Treatment for Clinical Stage II/III Esophageal Squamous Cell Carcinoma (JCOG0909 Study)

Int J Radiat Oncol Biol Phys, 114, 3, 454-462, 2022.11

Takeuchi H, Ito Y, Machida R, Kato K, Onozawa M, Minashi K, Yano T, Nakamura K, Tsushima T, Hara H, Okuno T, Hironaka S, Nozaki I, Ura T, Chin K, Kojima T, Seki S, Sakanaka K, Fukuda H, Kitagawa Y : Japan Esophageal Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group.

原著論文

Erratum to : Fibroblast growth factor receptor 2 (FGFR2) fusions in Japanese patients with intrahepatic cholangiocarcinoma

Jpn J Clin Oncol, 51, 11, 1694, 2022.11

Tsujie M, Iwai T, Kubo S, Ura T, Hatano E, Sakai D, Takeda Y, Kaibori M, Kobayashi T, Katanuma A, Katayose Y, Fukase K, Sakurai N, Ito Y, Sato F, Maeda A, Asada M, Morizane C.

精神科



専門医資格等
精神保健指定医
日本精神神経学会
指導医・専門医
専門分野
精神医学一般

診療科長
吉田 貴子

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	沼本 和記		精神病理学	
非常勤医師	栗野 雄大	精神保健指定医 日本医師会認定産業医	精神医学一般	

| 令和3年度の主な取組 |

施設認定

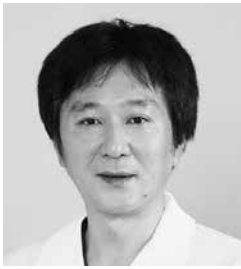
日本精神神経学会 研修施設

| 診療実績 |

外来患者数

	2020年度	2021年度
1日平均総患者数(名)	46.6	50.9

脳神経内科



診療科長
井内 盛遠

専門医資格等
 日本神経学会
 神経内科専門医・指導医
 日本てんかん学会
 てんかん専門医・指導医
 日本臨床神経生理学会
 専門医（脳波・筋電図分野）
 日本内科学会認定内科医

専門分野
 臨床神経生理
得意疾患
 てんかん、脳神経内科一般

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	梶川 駿介	日本神経学会神経内科専門医 日本脳卒中学会脳卒中専門医 日本てんかん学会てんかん専門医 日本臨床神経生理学会専門医	てんかん、 脳神経内科一般	てんかん
医師	吉田 弘樹	日本専門医機構認定内科専門医	脳神経内科一般	認知症
専攻医	西村 光平		脳神経内科一般	
専攻医	大西 優輝		脳神経内科一般	
専攻医	中前 拓也		脳神経内科一般	

| 令和4年度の主な取組 |

日本神経学会認定 准教育施設であり、以下の特徴がある。

- ・脳卒中の入院患者が最も多く、超急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法（tPA）、血管内再開通療法を含めた診療を脳神経外科と協力して行なっている。
- ・パーキンソン病などの変性疾患、てんかん、炎症性疾患など幅広い疾患の診療を行っている。
- ・てんかん専門医が2名在籍、ポータブル脳波型1台を有しており、非けいれん性てんかん重積状態が鑑別に挙がるなど急を要する場合には当科医師が脳波記録・判読とも実施して迅速な診断・治療に役立っている。
- ・認知症患者に対して外来で音楽療法（自由診療）を行っている。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	27.1	29.5
新入院患者数(名)	399	498
平均在院日数(日)	23.4	20.6

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	42.8	44.7

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
2022.05.19	第63回日本神経学会学術大会
	「認知機能障害に対する外来個人音楽療法の有効性に関する検討」 吉田 弘樹、大西 優輝、西村 光平、高橋 俊哉、梶川 駿介、飯塚三枝子、谷口奈緒美、中村 道三、井内 盛遠
2022.06.18	第61回亀山正邦記念神経懇話会
	「水痘帯状疱疹ウイルス血管症の多彩な病型：当院で経験した2例」 西村 光平、中前 拓也、大西 優輝、吉田 弘樹、高橋 俊哉、梶川 駿介、井内 盛遠
2022.07.31	第123回日本神経学会近畿地方会
	「突発的な意識障害・頭痛で発症した健康成人のStreptococcus agalactiae髄膜炎の一例」 西村 光平、中前 拓也、大西 優輝、吉田 弘樹、梶川 駿介、井内 盛遠
2022.09.21	第55回日本てんかん学会学術大会
	「Case presentation. Intracranial EEG」 Shunsuke Kajikawa, Akio Ikeda
2022.11.24	日本神経生理学会第52回学術大会
	「Ictal Direct Current Shift (Ictal DC shift : 発作時直流緩電位) と Ictal High frequency oscillations (HFO) の最近の知見と今後の展望」 梶川 駿介、池田 昭夫
2022.11.24	第52回日本臨床神経生理学会学術大会
	「非けいれん性てんかん重積状態に律動性のInfraslow activity (ISA) を認めた一例」 西村 光平、梶川 駿介、大西 優輝、中前 拓也、吉田 弘樹、井内 盛遠
2022.11.24	第52回日本臨床神経生理学会
	「脳波上Cyclic Alternative Pattern of Encephalopathyに重畳するInfraslow Activityを認めた1例」 中前 拓也、田村 優、大西 優輝、西村 光平、吉田 弘樹、梶川 駿介、井内 盛遠
2022.11.25	日本神経生理学会第52回学術大会
	「一過性全健忘患者2症例の頭皮上脳波における機能結合解析」 梶川 駿介、中前 拓也、大西 優輝、西村 光平、吉田 弘樹、井内 盛遠
2022.11.25	第41回日本認知症学会学術集会
	「個人音楽療法の効果が得られやすい認知機能障害患者の臨床的特徴」 吉田 弘樹、梶川 駿介、中前 拓也、大西 優輝、西村 光平、飯塚三枝子、谷口奈緒美、中村 道三、井内 盛遠
2022.12.04	第63回亀山正邦記念神経懇話会
	「末梢性顔面神経麻痺を来した巨細胞性動脈炎の一例」 中前 拓也、井口美季子、大西 優輝、西村 光平、吉田 弘樹、梶川 駿介、井内 盛遠

発表年月日 発表学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属)

2022.12.17 第123回日本神経学会近畿地方会

「ランダム皮膚生検を再検して診断に至った、血管内大細胞型B細胞型リンパ腫による多発性脳梗塞の2例」
吉田 弘樹、梶川 駿介、中前 拓也、大西 優輝、西村 光平、井内 盛遠

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

(原著論文)

Ictal direct current shifts contribute to defining the core ictal focus in epilepsy surgery
BRAIN COMMUNICATIONS, 4, 5, fcac222, 2022.09

Mitsuyoshi Nakatani, Morito Inouchi, Masako Daifu-Kobayashi, Tomohiko Murai, Jumpei Togawa,
Shunsuke Kajikawa, Katsuya Kobayashi, Takefumi Hitomi, Takeharu Kunieda, Satoka Hashimoto,
Motoki Inaji, Hiroshi Shirozu, Kyoko Kanazawa, Masaki Iwasaki, Naotaka Usui, Yushi Inoue,
Taketoshi Maehara, Akio Ikeda

(原著論文)

Two types of clinical ictal direct current shifts in invasive EEG of intractable focal epilepsy identified by waveform cluster analysis

Clin Neurophysiol, 137, 113-121, 2022.05

Kajikawa S, Matsunashi M, Kobayashi K, Hitomi T, Daifu-Kobayashi M, Kobayashi T, Yamao Y,
Kikuchi T, Yoshida K, Kunieda T, Matsumoto R, Kakita A, Namiki T, Tsuda I, Miyamoto S, Takahashi R,
Ikeda A

呼吸器内科



副院長
診療部長 (医事管理担当)
呼吸器内科診療科長
三尾 直士

専門医資格等

日本がん治療認定医機構
暫定教育医
日本医師会認定産業医
アメリカ胸部疾患学会 (ATS)
アメリカ臨床腫瘍学会 (ASCO)
京都大学博士 (医学)
京都大学医学部臨床教授

専門分野

呼吸器内科

得意疾患

肺癌・間質性肺炎

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	橘 洋正 2022年11月1日から	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医	呼吸器内科一般	抗酸菌感染症、 呼吸器感染症
医 長	中谷 光一 2022年6月30日まで	日本内科学会認定内科医 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医	呼吸器内科一般	肺癌・睡眠時無呼 吸症候群・呼吸器 内科全般
医 師	藤田 浩平	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医 日本感染症学会感染症専門医・指導医 日本感染症学会認定研修施設代表 京都大学博士 (医学)	呼吸器内科一般	呼吸器感染症・ 肺癌・ 呼吸器内科全般
医 師	金井 修	日本内科学会認定内科医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本感染症学会感染症専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 日本エイズ学会認定医 エイズ拠点病院施設代表 京都市 HIV 感染症対策専門委員会委員	呼吸器内科一般	HIV 感染症、睡眠 時無呼吸症候群
医 師	大井 一成	日本内科学会内科認定医・総合内科専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 インфекションコントロールドクター 京都大学博士 (医学)	呼吸器内科一般	
医 師	今北 卓間	日本内科学会認定内科医 日本呼吸器学会呼吸器専門医	呼吸器内科一般	
専攻医	伊藤 高範		呼吸器内科一般	
専攻医	斉藤漸太郎		呼吸器内科一般	

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本呼吸器学会認定研修施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定研修施設
- ・日本感染症学会認定研修施設

クリニカルパスは主に3つ活用している。

- ・気管支鏡検査パス 2日間
- ・CTガイド下生検パス 2日間
- ・PSG検査パス 2日間

呼吸器の疾患は肺がんや中皮腫などの悪性腫瘍、喘息・慢性閉塞性肺疾患などの気道系疾患、細菌や抗酸菌などの病原微生物による感染症、びまん性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群、種々の呼吸不全など多岐にわたる。

これらの疾患全てに対応するとともに、主に肺癌診療に力を入れている。また感染症専門医が2名在籍しており、COVID-19診療にも対応している。

当院はエイズ拠点病院に指定されていて、HIV感染症/AIDS（後天性免疫不全症候群）の診療は当科で行っている。

| 診療実績 |

呼吸器内科入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	32.83	25.67
新入院患者数(名)	925	843
平均在院日数(日)	12.5	10.7

呼吸器内科外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	57.3	52.1

主な手術・検査の件数(2022年度)

気管支鏡検査	231件	局所麻酔下胸腔鏡検査	8件
CTガイド下肺生検	22件		

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
演題名等	演者(下線は当院所属)
2022.04.22-23	第96回日本感染症学会・学術講演会
	「市中肺炎で耐性菌の頻度・致命率を予測する因子の検討—階層別クラスター分類を用いて—」 大井 一成、伊藤 功朗、濱尾 信叔、白田 全弘、西岡 憲亮、林 康之、今井誠一郎、安友 佳朗、大西 尚、石田 直、富岡 洋海、平井 豊博
2022.04.22-23	第96回日本感染症学会・学術講演会
	「Safety of remdesivir for elderly (over 80 years of age) patients with COVID-19」 金井 修、藤田 浩平、畑 啓昭

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.04.22-24	第62回日本呼吸器学会学術講演会
[肺限局性アミロイドーシスの画像所見および臨床経過に関する後方視的調査] 伊藤 高範、金井 修、齋藤漸太郎、今北 卓間、大井 一成、藤田 浩平、中谷 光一、澤井 聡、森吉 弘毅、三尾 直士	
2022.04.22-24	第62回日本呼吸器学会学術講演会
[酸素投与不要であるが肺炎像のある COVID-19患者への早期ステロイド投与の後ろ向き検討] 齋藤漸太郎、月野 光博、渡邊 勇夫、岡本 菜摘	
2022.04.22-24	第62回日本呼吸器学会学術講演会
[当院における進行・再発非小細胞肺癌に対する nivolumab/ipilimumab 併用免疫療法の有効性及び安全性の検討] 今北 卓間、藤田 浩平、伊藤 高範、齋藤漸太郎、金井 修、岡村 美里、中谷 光一、三尾 直士	
2022.04.22-24	第62回日本呼吸器学会学術講演会
[レムデシビル＋ステロイド療法の本邦の新型コロナウイルス肺炎に対する有効性の検討] 大井 一成、伊藤 功朗、富井 啓介、江村 正仁、遠藤 和夫、杉田 孝和、長谷川吉則、高橋 憲一、北 英夫、小嶋 徹、土谷美知子、山田 孝、福井 基成、富岡 洋海、藤田 浩平、中治 仁志、赤井 雅也、西村 尚志、大塚浩二郎、安井 浩明、石田 直、加持 雄介、寺田 悟、濱尾 信叔、平井 豊博	
2022.04.22-23	第96回日本感染症学会総会
[Serial interferon-gamma release assay in lung cancer patients receiving immune checkpoint inhibitors : a prospective cohort study] 藤田 浩平、金井 修	
2022.05.13-18	American Thoracic Society International Congress
[Safety of Remdesivir for Elderly (Over 80 Years of Age) Patients with Coronavirus Disease 2019 (COVID-19)] Osamu Kanai, Kohei Fujita, Kazutaka Nanba, Naoki Esaka, Hiroaki Hata, Koichi Seta, Akihiro Yasoda, Tadashi Mio	
2022.05.27-28	第45回日本呼吸器内視鏡学会総会
[COVID-19 pandemic が当院の呼吸器内視鏡検査等にも与えた影響] 藤田 浩平、金井 修、山本 佑樹、橋本 雅之、澤井 聡	
2022.07.23	第99回日本呼吸器学会近畿地方会
[超高齢男性に認めた肺原発悪性黒色腫の一例] 藤田 浩平、中谷 光一、今北 卓間、金井 修、三尾 直士	
2022.07.23	第99回日本呼吸器学会近畿地方会
[経気管支肺生検にて確定診断に至った HIV 感染症に伴う肺カポジ肉腫の一例] 齋藤漸太郎、月野 光博、渡邊 勇夫、岡本 菜摘	
2022.07.23	第99回日本呼吸器学会近畿地方会
[免疫療法関連肺臓炎との鑑別に病理学的評価の重要性を再認識した癌性リンパ管症の一例] 今北 卓間、伊藤 高範、齋藤漸太郎、大井 一成、金井 修、藤田 浩平、中谷 光一、三尾 直士	
2022.07.23	第99回日本呼吸器学会近畿地方会
[癌性リンパ管炎による重症呼吸不全を発症した血液透析患者にアフアチニブが奏功した肺扁平上皮癌の一例] 金井 修、小泉 三輝、今北 卓間、藤田 浩平、中谷 光一、三尾 直士	
2022.09.04-06	European Respiratory Society International Congress 2022
[Comparison of frailty in patients with nontuberculous mycobacterial lung disease and bronchiectasis : a prospective cohort study] Kohei Fujita, Yutaka Ito, Takuma Imakita, Yuki Yamamoto, Osamu Kanai, Misato Okamura, Koichi Nakatani, Tadashi Mio	
2022.11.18-20	第36回日本エイズ学会学術集会
[生活習慣病リスクが低いにもかかわらず若年で脳血管イベントを発症した HIV 陽性者 2 例の検討] 金井 修	
2022.11.03-05	第65回日本感染症学会中日本地方会
[COVID-19 pandemic が当院の呼吸器内科診療にも与えた影響] 藤田 浩平、伊藤 高範、齋藤漸太郎、大井 一成、金井 修、畑 啓昭	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.11.03-05 「免疫抑制状態で浸潤影と結節影の混在病変を呈しつつも無症状であった肺クリプトコックス症」 伊藤 高範、金井 修、斉藤漸太郎、大井 一成、畑 啓昭、藤田 浩平	第92回日本感染症学会西日本地方会学術集会
2022.11.03-05 「肺結核治療中に顕在化した重症原発性甲状腺機能低下症」 藤本 直輝、伊藤 高範、斉藤漸太郎、大井 一成、金井 修、藤田 浩平	第92回日本感染症学会西日本地方会学術集会
2022.11.03-05 「本邦のCOVID-19肺炎における予後予測スコアリングの開発と検討」 大井 一成、伊藤 功朗、富井 啓介、江村 正仁、杉田 孝和、長谷川吉則、北 英夫、小嶋 徹、 土谷美知子、福井 基成、富岡 洋海、藤田 浩平、西村 尚志、大塚浩二郎、安井 浩明、石田 直、 加持 雄介、中川 淳、井上 大生、平井 豊博	第92回日本感染症学会西日本地方会学術集会
2022.12.01-03 「当院での肺癌患者に対するアナモレリンの投与経験」 伊藤 高範、藤田 浩平、斉藤漸太郎、今北 卓間、大井 一成、金井 修、三尾 直士	第63回日本肺癌学会学術集会
2022.12.01-03 「AYA世代 (15-39歳) の原発性肺腫瘍の臨床的特徴に関する後方視的調査」 斉藤漸太郎、今北 卓間、伊藤 高範、大井 一成、金井 修、藤田 浩平、澤井 聡、三尾 直士	第63回日本肺癌学会学術集会

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
(原著論文以外) Asymptomatic pulmonary cryptococcosis presenting with mixed lesions of infiltrative and nodular shadow in an immunocompromised patient BMJ Case Rep, 15, 12, e253113, 2022.12 <u>Ito T, Kanai O, Moriyoshi K, Fujita K</u>
(原著論文) Comparison of frailty in patients with nontuberculous mycobacterial lung disease and bronchiectasis : a prospective cohort study BMC Pulm Med, 3, 22, 395, 2022.11 <u>Fujita K, Ito Y, Yamamoto Y, Kanai O, Imakita T, Oi I, Ito T, Saito Z, Mio T</u>
(原著論文以外) Pulmonary Lymphangitis Carcinomatosa Mimicking Immunotherapy-Related Interstitial Pneumonitis : A Case Report Case Rep Oncol, 15, 2, 732-737, 2022.08 <u>Imakita T, Fujita K, Kanai O, Mio T</u>
(原著論文以外) Natural course of pulmonary hyalinizing granuloma over a decade Respir Med Case Rep, 31, 39, 101715, 2022.07 <u>Fujita K, Okamura M, Imakita T, Yamamoto Y, Sawai S, Moriyoshi K, Mio T</u>
(原著論文) Serial interferon-gamma release assay in lung cancer patients receiving immune checkpoint inhibitors : a prospective cohort study Cancer Immunol Immunother, 71, 11, 2757-2764, 2022.11 <u>Fujita K, Elkington P, Redelman-Sidi G, Kanai O, Yamamoto Y, Imakita T, Okamura M, Nakatani K, Mio T</u>
(原著論文以外) Multisystem Inflammatory Syndrome in Adults Accompanied with Kikuchi-Fujimoto Disease Internal Medicine, 61, 16, 2527-2532, 2022.08 <u>Kashihara E, Doi K, Fujita K</u>

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

〔原著論文以外〕

Primary Pulmonary Malignant Melanoma Successfully Treated with Immunotherapy in a 90-Year-Old Patient
Case Rep Oncol, 15, 1, 394-398, 2022.04

Fujita K, Nakatani K, Imakita T, Kanai O, Mio T

〔原著論文以外〕

Mycobacterium farcinogenes infection after fracture repair of the tibia and fibula
ID cases, 28, e01468, 2022.03

Kashihara E, Fujita K, Yamamoto H, Odagaki T

〔原著論文〕

Protein C activity as a potential prognostic factor for nursing home-acquired pneumonia
PLOS ONE, 12, 17, e0274685, 2022.10

Oi I, Ito I, Tanabe N, Konishi S, Hamao N, Shirata M, Imai S, Yasutomo Y, Kadowaki S, Matsumoto H, Hidaka Y, Morita S, Hirai T

消化器内科



診療部長（健診担当）
診療科長（消化器内科）
食道・胃がんユニット長
宮本 心一

専門医資格等

日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医
日本消化器病学会
専門医・指導医・
近畿支部評議員
日本消化器内視鏡学会
専門医・指導医・
近畿支部評議員
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
緩和ケア研修会
指導者講習会修了者
京都大学医学部非常勤講師
京都大学博士（医学）

専門分野

消化管癌内視鏡治療
消化器癌化学療法

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 内視鏡治療 センター長 肝・胆道・ 膵がんユ ニット長	水本 吉則	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医・近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・近畿支部評議員・本部評議員 日本胆道学会 指導医（内視鏡診断治療・経皮経肝の診断治療） 日本消化器がん検診学会胃・大腸認定医	消化器内科全般	消化管・胆・膵、 内視鏡検査・治療 全般（EUS、ESD、 Stenting、ERCP・関 連治療等）、PTC・ PTCD関連治療、 炎症性腸疾患
医 長	岩本 諭	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会 専門医・指導医・近畿支部評議員・本部評議員 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・近畿支部評議員 日本肝臓学会専門医・指導医 京都大学博士（医学）	消化器内科全般	内視鏡検査・治療、 肝疾患全般
医 師	江坂 直樹	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・ JMECC インストラクター 日本消化器病学会専門医・近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・近畿支部評議員 日本肝臓学会専門医 日本カプセル内視鏡学会JACEカプセル内視鏡認定医・ 指導医 緩和ケア研修会指導者講習会修了者 臨床研修指導医	消化器内科全般	内視鏡検査・治療 （小腸内視鏡、食道 胃静脈瘤治療、PEG を含む）、緩和医療
医 師	太田 義之	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医	消化器内科全般	消化管疾患

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師 (育児休業)	中野 佳子 2023年1月10日から	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医・指導医・近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・近畿支部評議員 日本肝臓学会専門医 神戸大学医学博士	消化器内科全般	内視鏡検査・治療
医師	下釜 翼	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医	消化器内科全般	胆道・膵疾患検査・ 治療 (EUS, ERCP, PTBD等)
医師	村井 克行	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本臨床腫瘍学会	消化器内科全般	消化管癌の内視鏡 診断と治療 (ESD)、 消化器癌の化学療 法 (抗癌剤)
医師	村田 雅樹	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本ヘリコバクター学会H.pylori感染症認定医 東京医科大学医学博士	消化器内科全般	内視鏡検査・治療、 炎症性腸疾患、小 腸内視鏡検査
医師	森 すみれ	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 兵庫医科大学医学博士	消化器内科全般	消化管疾患
レジデント	山崎 由希			
レジデント	黄 莉媛			
レジデント	平井 達基	日本内科学会内科専門医	消化器内科全般	
レジデント	芝田くるみ	日本内科学会内科専門医		
専攻医	渡邊 康博			
専攻医	米田 佳司			
非常勤 医師 (診療援助)	勝島 慎二	日本内科学会認定内科医・指導医・近畿支部評議員 日本消化器病学会 専門医・指導医・近畿支部評議員・本部評議員 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・近畿支部評議員・本部評議員 日本医学放射線学会放射線科診断専門医 日本肝臓学会専門医・指導医・西部会評議員 日本がん治療認定医機構がん治療認定医・指導責任者 日本消化管学会胃腸科専門医 日本消化器がん検診学会総合認定医 京都府国民健康保険団体連合会 国民健康保険診療報酬審査委員会委員 京都大学博士 (医学)	消化器内科全般 肝疾患	肝疾患 炎症性腸疾患
非常勤 医師 (診療援助)	小畑 達郎	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医・指導医・近畿支部評議員 日本肝臓学会専門医・指導医 日本超音波医学会専門医		
非常勤 医師 (診療援助)	米田 俊貴	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医・指導医・西部会評議員 京都大学博士 (医学)	消化器内科全般	肝疾患

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
非常勤 医師 (診療援助)	遠藤 文司	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医・近畿支部評議員・本部評議員 日本肝臓学会専門医 日本膵臓学会専門医 日本胆道学会 指導医 (内視鏡診断治療・経皮経肝的診断治療) 日本消化器がん検診学会胃・肝胆膵認定医・ 総合認定医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医・指導医 ICD協議会認定 インフェクションコントロールドクター 日本医師会認定産業医 臨床研修指導医	消化器内科全般	胆道・膵疾患検査・ 治療
非常勤 医師 (診療援助)	中野 重治	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本肝臓学会専門医	消化器内科	肝疾患・治療

| 令和4年度の主な取組 |

認定施設

- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本超音波学会専門医研修施設
- ・日本胆道学会指導施設
- ・京都府肝疾患専門医療機関
- ・胃がん・大腸がん検診二次精密検査医療機関 (京都府医師会)

1. 三次救急病院の消化器内科として、緊急内視鏡検査に24時間対応しています。
2. 地域がん診療連携拠点病院の消化器内科として消化器癌全般の診断、早期癌の内視鏡治療、進行癌に対する化学療法から終末期の緩和ケアに至るまでシームレスに対応します。
3. 炎症性腸疾患の専門診療を実施、多くの企業治験に参加しています。

主な対象疾患として

消化器癌全般 (食道、胃、十二指腸、大腸、肝臓、膵臓、胆道系)
 炎症性腸疾患 (クローン病、潰瘍性大腸炎)
 急性及び慢性肝疾患 (ウイルス性、アルコール性、自己免疫性)
 肝硬変
 ヘリコバクター感染症関連疾患 (消化性潰瘍、MALTリンパ腫)
 消化器救急疾患 (消化管出血、閉塞性黄疸、急性膵炎)

診療（業務）内容

消化器内科一般外来

上部消化管、下部消化管内視鏡検査および治療

ERCPおよびERCP関連治療

PTCおよびPTC関連治療

EUSおよびEUS-FNA、Interventional EUS

消化管・胆膵系ステント留置

小腸内視鏡（カプセルおよびバルーン内視鏡）

炎症性腸疾患に対する専門的治療（免疫調節剤、生物学的製剤）

進行癌に対する化学療法（腫瘍内科とワークシェア）

ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法（内服薬、インターフェロン）

肝臓に対する経皮的治療

セカンドオピニオン外来

診療実績

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	38.3	37.6
新入院患者数（名）	1202	1345
平均在院日数（日）	11.2	9.9

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数（名）	101.6	96.7

主な手術・検査の件数（2022年度）

上部消化管内視鏡検査	5122件	食道・胃ESD	109件
下部消化管内視鏡検査	2079件	大腸ESD	58件
ERCP	463件	肝臓ラジオ波焼灼術	25件

学術活動報告（学会・研究発表など）

発表年月日	発表学会
2022.03.04	地域で診る腸疾患
	「酸関連疾患と下部消化管疾患」 村田 雅樹
2022.04.23	第108回日本消化器病学会総会
	「Parenchymal sparing hepatectomyを企図した術前レンパチニブ投与が奏効した1例」 成田 匡大、水本 吉則、中西 保貴
2022.05.27	第25回京都大腸内視鏡研究会
	「大腸狭窄の1例」 平井 達基
2022.05.28	京都北医師会学術講演会
	「大腸疾患 UP TO DATE～腫瘍性病変から炎症性病変～」 水本 吉則

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.06.11	第108回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会
「大腸単独転移を来した膵体部癌の一例」 尾松 梨沙、中野 佳子、浅野 陽一、芝田くるみ、山崎 由希、黄 莉媛、永田 健、村田 雅樹、 村井 克行、下釜 翼、太田 義之、江坂 直樹、岩本 諭、水本 吉則、宮本 心一	
2022.06.24	第28回日本ヘリコバクター感染症学会学術集会
「ポノプラザンテラード治療は有効か？実臨床における、薬剤感受性検査に基づく一次除菌薬選択の検証」 村田 雅樹、前川 高天、宮本 心一	
2022.07.09	宇治久世医師会 Web 講演会
「潰瘍性大腸炎の診断・治療マネジメント」 村田 雅樹	
2022.07.09	宇治久世医師会 Web 講演会
「大腸腫瘍のマネジメント」 太田 義之	
2022.09.05	Kyoto Digestive Disease Seminar
「ディスカッションテーマ：肝細胞癌「こんな時どうする？～適応判断/治療継続・再開～」 ディスカッサーとして：中野 佳子、西村 健、池田 敦之	
2022.09.22	BTSにおける大腸カバードステントの可能性
「BTSにおける大腸カバードステントの可能性？」 水本 吉則	
2022.10.14	第77回日本大腸肛門病学会学術集会
「消化器内視鏡洗浄の標準化を目指した洗浄工程の見直しに関する多施設共同研究」 榊原 祐子、高橋 康雄、久保 公利、渡邊 典子、濱田 博重、豊川 達也、桑井 寿雄、万波 智彦、 藤本 愛、林 亨、勝島 慎二、神田 暁博、斎藤 裕樹、荒 誠之、島田 昌明、加賀谷尚史、 藤井 宏行、陳 文筆、中水流正一、原田 直彦	
2022.10.27	第26回日本肝臓学会大会
「肝臓専門医はいつまでSVR後の経過観察を行うべきか：SVR例の長期予後」 勝島 慎二、岩本 諭、米田 俊貴	
2022.10.27	第64回日本消化器病学会大会
「実臨床における、 <i>Helicobacter pylori</i> 薬剤感受性検査に基づく vonoprazan を用いたテラード除菌治療の有効性」 村田 雅樹、宮本 心一	
2022.10.29	JDDW2022 FUKUOKA プレックファーストセミナー25
「大腸ステント留置後の腫瘍学的考察とカバードステントの可能性」 水本 吉則	
2022.11.05	第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会
「直腸癌術後補助化学療法施行後に、著明な縮小を認めた盲腸腺腫 LST-G (Mix) の一例」 芝田くるみ、水本 吉則、岩本 諭、村田 雅樹、米田 佳司、渡邊 康博、平井 達基、黄 莉媛、 山崎 由希、森 すみれ、村井 克行、下釜 翼、中野 佳子、太田 義之、江坂 直樹、宮本 心一	
2022.11.05	第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会
「中咽頭癌に対する化学放射線治療後の難治性頸部食道狭窄に対して、胃瘻側から逆行性にアプローチし、バルーン 拡張し得た一例」 平井 達基、宮本 心一、牛呂 幸司、田中 千賀、安里 亮	
2022.11.05	第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会
「胃管癌 ESD 後の胃管肺癆に対してポリグリコール酸シートを用いて内視鏡的瘻孔閉鎖に成功した 1 例」 北出 将之、二階堂光洋、内海 貴裕、中西 祐貴、清水 孝洋、妹尾 浩、角田 茂、宮本 心一、 萬川 和、熊谷 健	
2022.11.17	第32回京滋消化管病態フォーラム
「GERD 診療 UP TO DATE ～GERD ガイドライン2021を踏まえて～」 村田 雅樹	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.12.08	第32回伏見薬業連携協議会
「炎症性腸疾患の薬剤選択～“既存治療で効果不十分な場合に限る”を読み解く～」 村田 雅樹	
2022.12.23	第2回日本医療研究開発機構研究班会議
「肝臓専門医は、いつまでSVR後の経過観察を行うべきか：SVR後の長期予後」 岩本 諭	
2023.01.21	日本消化器病学会近畿支部第118回例会
「ペムプロリズマブにより組織学的完全奏効が得られた大腸癌異時性肝転移の1例」 村井 克行、成田 匡大、森吉 弘毅、宮本 心一	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
<p>総説</p> <p>ポノプラザンテラード治療は有効か？実臨床における、薬剤感受性検査に基づく一次除菌薬選択の検証 日本ヘリコバクター学会誌, 24, 2, 123～131, 2023.01.15, 一般財団法人口腔保健協会 村田 雅樹、宮本 心一、前川 高天</p>
<p>解説</p> <p>胃癌 わかりやすい内科学 第5版, 458～462, 2023.01.09, 文光堂 宮本 心一</p>
<p>原著論文以外</p> <p>Spontaneous Rapid Improvement of Small Intestinal Edema. Gastroenterology., 162, 4, e12-e13, 2022.04 Nakano Y, Kuwahara R, Miyamoto S.</p>
<p>原著論文以外</p> <p>Colonic Stenosis Caused by Transcatheter Arterial Embolization. Clin Gastroenterol Hepatol., 20, 4, e645-e646, 2022.04 Murata M, Watanabe Y, Miyamoto S.</p>
<p>原著論文</p> <p>Expansion of Gastric Intestinal Metaplasia with Copy Number Aberrations Contributes to Field Cancerization. Cancer Res., 82, 9, 1712-1723, 2022.05 Kumagai K, Shimizu T, Takai A, Kakiuchi N, Takeuchi Y, Hirano T, Takeda H, Mizuguchi A, Teramura M, Ito T, Iguchi E, Nikaido M, Eso Y, Takahashi K, Ueda Y, <u>Miyamoto S</u>, Obama K, Ogawa S, Marusawa H, Seno H.</p>
<p>原著論文</p> <p>Efficacy of polyglycolic acid sheeting with fibrin glue for perforations related to gastrointestinal endoscopic procedures : a multicenter retrospective cohort study. Surg Endosc., 36, 7, 5084-5093, 2022.07 Takimoto K, Matsuura N, Nakano Y, Tsuji Y, Takizawa K, Morita Y, Nagami Y, Hirasawa K, Araki H, Yamaguchi N, Aoyagi H, Matsuhashi T, Iizuka T, Saegusa H, Yamazaki K, Hori S, Mannami T, Hanaoka N, Mori H, Kobara H, Takeuchi Y, Ono H ; Polyglycolic Acid Study Group.</p>
<p>原著論文</p> <p>Treatment strategies for reducing early and late recurrence of colonic diverticular bleeding based on stigmata of recent hemorrhage : a large multicenter study. Gastrointest Endosc., 95, 6, 1210-1222, 2022.06 Gobinet-Suguro M, Nagata N, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, <u>Murata M</u>, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kawagishi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Uemura N, Itawa E, Sugimoto M, Fukuzawa M, Kawai T, Kaise M, Itoi T.</p>

原著論文

Effectiveness and adverse events of endoscopic clipping versus band ligation for colonic diverticular hemorrhage : a large-scale multicenter cohort study.

Endoscopy., 54, 8, 735-744, 2022.08

Kobayashi K, Nagata N, Furumoto Y, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Kaise M;CODE BLUE-J study collaborators.

原著論文

Effectiveness of second-look endoscopy after gastric endoscopic submucosal dissection in patients taking antithrombotic agents : a multicenter propensity score matching analysis.

Gastric Cancer., 25, 5, 916-926, 2022.09

Iwatsubo T, Takeuchi T, Hakoda A, Fujiwara Y, Nagami Y, Naito Y, Dohi O, Tatsuta T, Sawaya M, Jin X, Koike T, Sugimoto M, Murata M, Hamada K, Okada H, Kobara H, Chiyo T, Yoshida N, Tomatsuri N, Inaba T, Ishikawa S, Nagahara A, Ueyama H, Koizumi E, Iwakiri K, Mizukami K, Murakami K, Furuta T, Suzuki T, Ogasawara N, Kasugai K, Isomoto H, Kawaguchi K, Shibagaki K, Kataoka H, Shimura T, Suzuki H, Nishizawa T, Higuchi K.

原著論文以外

Correction to : Effectiveness of second-look endoscopy after gastric endoscopic submucosal dissection in patients taking antithrombotic agents : a multicenter propensity score matching analysis.

Gastric Cancer., 25, 5, 927-928, 2022.09

Iwatsubo T, Takeuchi T, Hakoda A, Fujiwara Y, Nagami Y, Naito Y, Dohi O, Tatsuta T, Sawaya M, Jin X, Koike T, Sugimoto M, Murata M, Hamada K, Okada H, Kobara H, Chiyo T, Yoshida N, Tomatsuri N, Inaba T, Ishikawa S, Nagahara A, Ueyama H, Koizumi E, Iwakiri K, Mizukami K, Murakami K, Furuta T, Suzuki T, Ogasawara N, Kasugai K, Isomoto H, Kawaguchi K, Shibagaki K, Kataoka H, Shimura T, Suzuki H, Nishizawa T, Higuchi K.

原著論文

Third-Generation High-Vision Ultrathin Endoscopy Using Texture and Color Enhancement Imaging and Narrow-Band Imaging to Evaluate Barrett's Esophagus.

Diagnostics (Basel) ., 12, 12, 3149, 2022.12

Sugimoto M, Kawai Y, Akimoto Y, Hamada M, Iwata E, Murata M, Mizuno H, Niikura R, Nagata N, Fukuzawa M, Itoi T, Kawai T.

原著論文

Nationwide cohort study identifies clinical outcomes of angioectasia in patients with acute hematochezia.

J Gastroenterol., accepted, in press

Kobayashi M, Akiyama S, Narasaka T, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaïke K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Tsuchiya K, Kaise M, Nagata N.

原著論文

Timing of colonoscopy in acute lower GI bleeding : a multicenter retrospective cohort study.

Gastrointest Endosc., 97, 1, 89-99, 2023.01

Shiratori Y, Ishii N, Aoki T, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaïke K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Yamamoto K, Yoshimoto T, Takasu A, Ikeya T, Omata F, Fukuda K, Kaise M, Nagata N.

原著論文

Analysis of prognostic factors in patients with self-expandable metallic stents for treatment of malignant gastric outlet obstruction.

Scand J Gastroenterol., 1-8, 2023.02

Nakano Y, Mizumoto Y, Endoh B, Shimogama T, Iwamoto S, Esaka N, Ohta Y, Murai K, Murata M, Miyamoto S.

原著論文

Development and Validation of a Novel Model for Predicting Stigmata of Recent Hemorrhage in Acute Lower Gastrointestinal Bleeding : Multicenter Nationwide Study.

Dig Endosc., accepted, in press

Aoki T, Yamada A, Kobayashi K, Yamauchi A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Fujishiro M, Kaise M, Nagata N ; Collaborators.

原著論文

Outcomes and recurrent bleeding risks of detachable snare and band ligation for colonic diverticular bleeding : a multicenter retrospective cohort study.

Gastrointest Endosc., accepted, in press

Yamauchi A, Ishii N, Yamada A, Kobayashi K, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Gunji N, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaïke K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Mori Y, Osawa K, Nakagami S, Kawai Y, Yoshikawa T, Kaise M, Nagata N.

原著論文以外

Treating delayed perforation after esophageal endoscopic submucosal dissection using polyglycolic acid sheets and fibrin glue.

Endoscopy., 55, S01, E446-E447, 2023.02

Kawata N, Murai K, Hosotani K, Ono H.

循環器内科



診療部長（内科系担当・病棟管理担当併任）
診療科長
臨床研究センター
展開医療研究部 主任研究員
赤尾 昌治

専門医資格等

日本循環器学会
認定循環器専門医・社員・
近畿支部評議員・FJCS会員
日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医・指導医・
近畿支部評議員
日本不整脈心電学会評議員
日本心血管脳卒中学会評議員
京都大学医学部臨床教授
京都大学医学部非常勤講師

欧州心臓学会（ESC）・
FESC会員
米国心臓協会（AHA）
日本心臓病学会
京都大学博士（医学）
京都府医師会学術・
生涯教育委員

専門分野

心房細動、不整脈、臨床疫学

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
心血管カテーテル治療科 科長 心血管治療センター長 医長 医療安全管理副部長 臨床工学科長 産業医 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	阿部 充	日本循環器学会認定循環器専門医・ 近畿支部評議員 日本内科学会認定内科医・ 総合内科専門医・指導医 日本心血管インターベンション治療学会 専門医・指導医・代議員 米国心臓協会（AHA）、日本心臓病学会、 日本高血圧学会 京都大学博士（医学）	冠動脈、下肢動脈および大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療、造影剤腎症、臨床研究一般	
医長 病棟医長 リスクマネージャー 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	益永 信豊	日本循環器学会循環器専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本心血管インターベンション治療学会 認定医・専門医 腹部大動脈ステントグラフト指導医 日本心臓病学会、日本糖尿病学会	冠動脈カテーテル治療、末梢動脈カテーテル治療、大動脈ステントグラフト治療	
院内医長 不整脈チーフ 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	小川 尚 2022年12月31日まで	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本不整脈心電学会不整脈専門医 植込み型除細動器（ICD）/ペーシングによる心不全治療（CRT）研修修了 アメリカ心臓協会（AHA） ヨーロッパ心臓病学会（ESC） ヨーロッパ不整脈学会（EHRS）	電気生理、カテーテルアブレーション治療、デバイス治療	不整脈
院内医長 心不全チーフ 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	井口 守丈	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医・ 総合内科専門医・指導医 日本超音波医学会超音波専門医（心臓） 京都大学博士（医学） 心臓リハビリテーション指導士 日本心不全学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本心エコー図学会、 SCCT研究会、アメリカ心臓協会（AHA）、 ヨーロッパ心臓病学会（ESC）	循環器領域の画像診断	心不全

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
院内医長	石井 充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本心血管インターベンション治療学会 専門医 日本心臓病学会 JMECC インストラクター、 ICLS インストラクター 京都大学博士 (医学)	循環器内科一般	狭心症・心筋 梗塞・閉塞性 動脈硬化症な どのインター ベンション
医師 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	藤野 明子	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本心血管インターベンション治療学会 認定医 日本心臓病学会 兵庫医科大学博士 (医学)	冠動脈血管内 イメージング	
医師	井手 裕也	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会 京都大学博士 (医学)	循環器内科一般	
医師 臨床研究センター 展開医療研究部 研究員	濱谷 康弘	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会認定循環器専門医 日本超音波学会認定超音波専門医 日本心エコー図学会 SHD 心エコー図認証医 ASD 治療 TEE 認証医 日本心臓病学会、日本心不全学会、日本心 血管インターベンション治療学会 京都大学博士 (医学)	心不全緩和ケ ア、心エコー (経 食道心エコー・負 荷エコー)	心不全、 心筋症
医師	吉澤 尚志	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本不整脈心電学会不整脈専門医 植込み型除細動器 (ICD) / ペーシングによ る心不全治療 (CRT) 研修修了 日本超音波医学会超音波専門医	臨床不整脈 カテーテルアブ レーション	
医師	土井 康佑	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会 日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT)	冠動脈および末 梢動脈のカテー テル検査・治療、 循環器全般	静脈血栓塞栓 症
医師	池田 周平	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会 日本心血管インターベンション治療学会	循環器内科一般	
医師	石上健二郎	日本内科学会 日本循環器学会 日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 日本心エコー図学会	循環器内科一般	
専攻医	南 公人	日本内科学会 日本循環器学会	循環器内科一般	
専攻医	仲西優美子	日本内科学会 日本循環器内科学会	循環器内科一般	

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本循環器学会認定循環器研修施設

診療科の特色・体制

- 急性心筋梗塞を始めとする循環器救急疾患
24時間365日、万全の体制で対応します。狭心症、末梢動脈疾患などの血管内治療も、最高レベルの術者が、エビデンスに基づいた最善の治療を提供します。
- 不整脈
複数の不整脈専門医が在籍し、アブレーションやペースメーカー植込を始め全ての治療に対応します。
- 心室細動に伴う心停止
救命救急科とも密に連携を取り、補助循環であるECMO/PCPSを用いた蘇生を積極的に行っています。
- 高齢化で増加している心不全
心不全専門医、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士など多職種からなる心不全チームで、心不全患者の急性期から慢性期の管理、再入院予防を行っており、心不全患者の緩和ケアにも先駆的に取り組んでいます。
- TAVIハートチーム
重症大動脈弁狭窄に対するカテーテル治療であるTAVIを2022年6月から開始しました。心臓外科、麻酔科、看護部、放射線科、臨床工学科などと共にハートチームとして、万全の体制で術前評価や実際の手術を行っています。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	31.3	26.3
新入院患者数(名)	970	1035
平均在院日数(日)	11.6	9.2

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	59.3	57.5

主な手術・検査の件数(2022年度)

冠動脈カテーテル治療	216件	カテーテルアブレーション	71件
冠動脈カテーテル検査	411件	ペースメーカー植込	57件
下肢動脈カテーテル治療	21件	経カテーテル大動脈弁留置術	9件

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日 発表学会
演題名等 / 演者(下線は当院所属)

2022.04.16 北河内心血管フォーラム

「心不全緩和ケアにおける現状と課題」

濱谷 康弘

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.04.19 「抗凝固薬用量別サブ解析」 赤尾 昌治	ANAFIE Registry 結果報告会
2022.04.22 「伏見AFレジストリからみたニッポンの抗凝固療法の10年」 赤尾 昌治	エリキュースインターネット講演会 in Hokuriku
2022.04.23 「高齢・低体重・低腎機能の日本人患者にアピキサバンを活かす～J-ELD AF研究徹底解説！」 赤尾 昌治	最新のデータから考える！高齢AF診療～Now and the Future～
2022.05.11 「伏見AFレジストリからみた、心不全合併心房細動患者の現状」 赤尾 昌治	ベーリンガーWeb講演会～心房細動と心不全～
2022.05.13 「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	超高齢化社会の心房細動治療を考える会 in Miyazaki
2022.05.20 「心不全急性期にベッドサイドでハンドグリップ負荷心エコーを施行した、虚血性僧帽弁逆流症の一例」 濱谷 康弘	第95回 日本超音波医学会学術集会
2022.05.20 「慢性血栓塞栓性肺高血圧症に合併したPlatydeoexia」 井口 守丈、濱谷 康弘、石上健二郎、阿部 充、赤尾 昌治	日本超音波医学会第95回学術集会
2022.05.25 「ANAFIEから考えるフレイルな高齢者心房細動診療」 山下 武志、赤尾 昌治、秋下 雅弘、平山 篤志	ANAFIE Registry Round Table Discussion
2022.05.27 「OCTによる石灰化病変の評価」 藤野 明子	K-PCI OCT
2022.05.28 「伏見AFレジストリからみたニッポンの抗凝固療法の10年」 赤尾 昌治	第1回伏見医師会学術講演会～地域で診る心房細動治療 Web セミナー～
2022.05.28 「心房細動と弁膜症の、深い関係」 阿部 充	第1回伏見医師会学術講演会～地域で診る心房細動治療 Web セミナー～
2022.06.04 「これからの心不全治療について～再入院予防とQOL改善を目指した多職種介入～」 濱谷 康弘	心不全地域連携セミナー
2022.06.09 「Comparison of pulmonary vein reconnection and outcomes after AF ablation : From the TRANQUILIZE-AF registry」 Takashi Yoshizawa, Tetsuma Kawaji, Takanori Aizawa, Shushi Nishiwaki, Suguru Nishiuchi, Satoshi Shizuta	68th Japanese Heart Rhythm Society
2022.06.11 「心不全患者におけるフレイルと血管内皮増殖因子Cとの関連」 井口 守丈、和田 啓道、篠崎 毅、鈴木 雅裕、網代 洋一、松田 守弘、小池 明広、小泉 智三、清水 雅俊、小野裕二郎、竹中 孝、阪上 学、森田有紀子、藤本 和輝、米澤 一也、吉田 和朗、二宮 暁代、中村 俊博、船田 淳一、梶川 裕、大石 佳史、加藤 徹、小谷 和彦、阿部 充、赤尾 昌治、長谷川浩二	第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
2022.06.16 「超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来」 赤尾 昌治	循環器診療のNew Stage Webセミナー@岸和田

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.06.18	第133回日本循環器学会近畿地方会
[変形性膝関節症の術後血栓予防を行っていたにも関わらず、急性肺塞栓にいたり心肺停止に陥った一例] <u>石上健二郎</u> 、 <u>井口 守丈</u> 、 <u>向井 章吾</u> 、 <u>南 公人</u> 、 <u>池田 周平</u> 、 <u>土井 康佑</u> 、 <u>吉澤 尚志</u> 、 <u>濱谷 康弘</u> 、 <u>井手 裕也</u> 、 <u>藤野 明子</u> 、 <u>石井 充</u> 、 <u>小川 尚</u> 、 <u>益永 信豊</u> 、 <u>和田 啓道</u> 、 <u>長谷川浩二</u> 、 <u>阿部 充</u> 、 <u>赤尾 昌治</u>	
2022.06.22	抗凝固療法カンファレンス@富士市・富士宮市
[その抗血小板薬併用、本当に必要ですか?~最新のエビデンスとガイドラインから] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.06.28	高齢者AF Webセミナー@横浜
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢~エドキサバン15 mgが切り拓く未来] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.06.30	STOP CVD in Miyagi 2022
[アスピリンを心房細動患者にいつ使う?~ガイドラインとAFIRE試験最新のサブ解析から] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.07.01	第21回二葉の里循環器地域連携セミナー
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢~エドキサバン15 mgが切り拓く未来] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.07.09	伏見AFネットワークミーティング
[心房細動と心不全の「これまで」と「これから」 ~伏見から世界に向けた情報発信~] <u>濱谷 康弘</u>	
2022.07.14	循環器連携を深める会@尼崎
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢~エドキサバン15 mgが切り拓く未来] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.08.18	地域で繋ぐ循環器診療 Web Seminar@西宮
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢~エドキサバン15 mgが切り拓く未来] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.08.26-29	ESC Congress 2022
[The association of left ventricular ejection fraction with incident heart failure in patients with atrial fibrillation] <u>Yasuhiro Hamatani</u> , <u>Moritake Iguchi</u> , <u>Kimihito Minami</u> , <u>Kenjiro Ishigami</u> , <u>Syuhei Ikeda</u> , <u>Kosuke Doi</u> , <u>Takashi Yoshizawa</u> , <u>Nobutoyo Masunaga</u> , <u>Masahiro Esato</u> , <u>Hikari Tsuji</u> , <u>Hiromichi Wada</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , <u>Hisashi Ogawa</u> , <u>Mitsuru Abe</u> , <u>Masaharu Akao</u>	
2022.08.26-29	ESC Congress 2022
[Association of beta blocker use with new-onset heart failure and mortality in atrial fibrillation without pre-existing heart failure : The Fushimi AF registry] <u>Moritake Iguchi</u> , <u>Nobutoyo Masunaga</u> , <u>Mitsuru Ishii</u> , <u>Akiko Fujino</u> , <u>Yuya Ide</u> , <u>Yasuhiro Hamatani</u> , <u>Kosuke Doi</u> , <u>Masahiro Esato</u> , <u>Hiromichi Wada</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , <u>Hisashi Ogawa</u> , <u>Mitsuru Abe</u> , <u>Masaharu Akao</u>	
2022.08.26-29	ESC Congress 2022
[Association of cardiothoracic ratio with heart failure hospitalization in patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF Registry] <u>Syuhei Ikeda</u> , <u>Moritake Iguchi</u> , <u>Hisashi Ogawa</u> , <u>Kimihito Minami</u> , <u>Kenjiro Ishigami</u> , <u>Kosuke Doi</u> , <u>Yasuhiro Hamatani</u> , <u>Takashi Yoshizawa</u> , <u>Yuya Ide</u> , <u>Akiko Fujino</u> , <u>Mitsuru Ishii</u> , <u>Nobutoyo Masunaga</u> , <u>Masahiro Esato</u> , <u>Hiromichi Wada</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , <u>Mitsuru Abe</u> , <u>Masaharu Akao</u>	
2022.08.26-29	ESC Congress 2022
[Clinical characteristics and outcomes of atrial fibrillation patients with peripheral artery disease : The Fushimi AF Registry] <u>Nobutoyo Masunaga</u> , <u>Hisashi Ogawa</u> , <u>Kimihito Minami</u> , <u>Kenjiro Ishigami</u> , <u>Syuhei Ikeda</u> , <u>Kosuke Doi</u> , <u>Yasuhiro Hamatani</u> , <u>Takashi Yoshizawa</u> , <u>Yuya Ide</u> , <u>Akiko Fujino</u> , <u>Mitsuru Ishii</u> , <u>Moritake Iguchi</u> , <u>Masahiro Esato</u> , <u>Hiromichi Wada</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , <u>Mitsuru Abe</u> , <u>Masaharu Akao</u>	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.08.26-29	ESC Congress 2022
[Usefulness of echocardiographic parameters in predicting the incidence of ischemic stroke in Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation] Yuji Tezuka, Masaharu Akao, Shinya Suzuki, Takeshi Yamashita, Eitaro Kodani, Toyonobu Tsuda, Kenshi Hayashi, Hiroshi Furusho, Mitsuaki Sawano, Keiichi Fukuda, Michikazu Nakai, Yusuke Sasahara, Yoshihiro Miyamoto, Hirofumi Tomita, Ken Okumura	
2022.09.08	エリキュース発売10周年記念対談「抗凝固療法のRWD」
[伏見AFレジストリからみたニッポンの抗凝固療法の10年] 赤尾 昌治	
2022.09.15	由利本荘・にかほ抗凝固セミナー
[高齢・低体重・低腎機能の日本人患者にアピキサバンを活かす～J-ELD AF研究徹底解説！] 赤尾 昌治	
2022.09.16	野田市医師会学術講演会
[超高齢・高出血リスク 心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治	
2022.09.16	K-PCIカンファレンス
[治療方針に苦慮した動脈硬化性病変合併の中年女性SCADの1例] 石上健二郎	
2022.09.17	China Heart Congress (CHC) 2022
[Strategies for the management of elderly patients with atrial fibrillation : Asian options] 赤尾 昌治	
2022.09.23	第70回 日本心臓病学会学術集会
[Association of intravenous heparin administration with in-hospital clinical outcomes among hospitalized patients with acute heart failure] Hamatani Y, Kato T, Morimoto T, Iguchi M, Yaku H, Inuzuka Y, Kitai T, Nagao K, Tamaki Y, Yamamoto E, Ozasa N, Yamashita Y, Abe M, Sato Y, Kuwahara K, Akao M, Kimura T	
2022.09.24	Annual Scientific Meeting of The Korean Society of Cardiology
[Low dose NOACs for the very elderly with high bleeding risk] 赤尾 昌治	
2022.09.24	第70回 日本心臓病学会学術集会
[Fushimi AF Registryから考える、心不全発症予防を目指したカテーテルアブレーションの至適患者像] 濱谷 康弘	
2022.09.28	日医生涯教育講座学術講演会@長野
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治	
2022.10.07	高齢者トータルケアセミナー@彦根
[超高齢・高出血リスク心房細動患者への新たな選択肢～エドキサバン15 mgが切り拓く未来] 赤尾 昌治	
2022.10.08	第39回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会
[治療方針に苦慮した動脈硬化性病変合併の中年女性SCADの1例] 石上健二郎、阿部 充、仲西優美子、南 公人、池田 周平、土井 康佑、濱谷 康弘、井手 裕也、藤野 明子、石井 充、益永 信豊、赤尾 昌治	
2022.10.14	高齢者トータルケアセミナー in Hokkaido
[伏見AFレジストリからみたニッポンの抗凝固療法の10年] 赤尾 昌治	
2022.10.18	New Era Summit in Niigata
[伏見AFレジストリからみたニッポンの抗凝固療法の10年] 赤尾 昌治	

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.10.21	第26回日本心不全学会学術集会
[HFpEF、HFmrEF、HFrEFにおける血管内皮増殖因子CとD] 井口 守丈、和田 啓道、篠崎 毅、鈴木 雅裕、網代 洋一、松田 守弘、小池 明広、小泉 智三、清水 雅俊、小野裕二郎、竹中 孝、阪上 学、森田有紀子、藤本 和輝、米澤 一也、吉田 和朗、二宮 暁代、中村 俊博、船田 淳一、梶川 裕、大石 佳史、加藤 徹、 <u>小谷 和彦</u> 、阿部 充、赤尾 昌治、 <u>長谷川浩二</u>	
2022.10.22	第26回 日本心不全学会学術集会
[Total pain assessment in hospitalized heart failure patients using Integrated Palliative care Outcome Scale and Hospital Anxiety and Depression Scale] <u>濱谷 康弘</u>	
2022.10.23	第26回 日本心不全学会学術集会
[Thromboembolism prophylaxis using anticoagulation in hospitalized patients with acute heart failure ~current status and future perspective~] <u>濱谷 康弘</u>	
2022.10.27	脳卒中 Cross Talk Seminar@仙台
[伏見AFレジストリからみたニッポンの抗凝固療法の10年] 赤尾 昌治	
2022.10.27	京橋循環器メディカルスタッフ勉強会
[心不全緩和ケアの現状と未来] <u>濱谷 康弘</u>	
2022.10.29	第2回日本不整脈心電学会近畿支部地方会
[左房前壁の癒痕組織を介した心房頻拍の1例] 吉澤 尚志、小川 尚、仲西優美子、池田 周平、井手 裕也、阿部 充、赤尾 昌治	
2022.11.04	京都循環器病対策を考える会
[EPA/AA比と他のバイオマーカーとの関係を考える] 阿部 充	
2022.11.05-07	American Heart Association Scientific Sessions 2022
[Concomitance of diabetes mellitus and prior myocardial infarction associated with poor clinical outcomes in patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF registry] <u>Yuya Ide, Hisashi Ogawa, Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Takashi Yoshizawa, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao</u>	
2022.11.05-07	American Heart Association Scientific Sessions 2022
[Association between weight loss and prognosis in patients with atrial fibrillation:The Fushimi AF registry] <u>Moritake Iguchi, Yasuhiro Hamatani, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Yuya Ide, Akiko Fujino, Takashi Yoshizawa, Kosuke Doi, Syuhei Ikeda, Kenjiro Ishigami, Kimihito Minami, Yumiko Nakanishi, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao</u>	
2022.11.05-07	American Heart Association Scientific Sessions 2022
[Prognostic value of proteinuria on cardiac events in Japanese patients with atrial fibrillation:The Fushimi AF Registry] <u>Syuhei Ikeda, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Takashi Yoshizawa, Yuya Ide, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao</u>	
2022.11.05-07	American Heart Association Scientific Sessions 2022
[Association between use of oral anticoagulants after minor bleeding and mortality outcomes in patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF Registry] <u>Kenjiro Ishigami, Hisashi Ogawa, Yumiko Nakanishi, Kimihito Minami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Takashi Yoshizawa, Yasuhiro Hamatani, Yuya Ide, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao</u>	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.11.05-07	American Heart Association Scientific Sessions 2022
[Association of left ventricular relative wall thickness with thromboembolism in non-valvular atrial fibrillation patients with or without hypertension : The Fushimi AF Registry.] Yuji Tezuka, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, <u>Hiromichi Wada</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , <u>Hisashi Ogawa</u> , <u>Mitsuru Abe</u> , <u>Masaharu Akao</u>	
2022.11.05-07	American Heart Association Scientific Session 2022
[The relationship between history of surgery for valvular heart disease and heart failure in Japanese atrial fibrillation patients : The Fushimi AF Registry] Kosuke Doi, Yumiko Nakanishi, Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Syuhei Ikeda, Yasuhiro Hamatani, <u>Takashi Yoshizawa</u> , <u>Yuya Ide</u> , <u>Akiko Fujino</u> , <u>Mitsuru Ishii</u> , <u>Moritake Iguchi</u> , <u>Hisashi Ogawa</u> , <u>Nobutoyo Masunaga</u> , <u>Hiromichi Wada</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , <u>Mitsuru Abe</u> , <u>Masaharu Akao</u>	
2022.11.05-07	American Heart Association Scientific Session 2022
[Prognostic significance of left ventricular ejection fraction in atrial fibrillation patients without pre-existing heart failure] Yasuhiro Hamatani, Moritake Iguchi, Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, <u>Akiko Fujino</u> , <u>Nobutoyo Masunaga</u> , <u>Masahiro Esato</u> , <u>Hikari Tsuji</u> , <u>Hiromichi Wada</u> , <u>Koji Hasegawa</u> , <u>Hisashi Ogawa</u> , <u>Mitsuru Abe</u> , <u>Masaharu Akao</u>	
2022.11.10	第13回伏見心血管病勉強会
[ガイドラインからみた現在の心不全治療] <u>井手 裕也</u>	
2022.11.12	New Horizons in Cardiovascular Conference
[3年の時を経て、いま改めて振り返るAFIRE試験のエビデンス] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.11.20	ARIA 2022
[CTO-PCIにおいて冠動脈CT検査が果たす役割とは] <u>藤野 明子</u>	
2022.11.21	Online Expert Meeting for SPAF Management@台中
[Low dose NOACs for the very elderly with high bleeding risk] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.11.22	Online Expert Meeting for SPAF Management@台北
[Low dose NOACs for the very elderly with high bleeding risk] <u>赤尾 昌治</u>	
2022.11.24	HFpEFカンファレンス
[HFpEF初回入院時にARNiを導入した一例] <u>濱谷 康弘</u>	
2022.11.25	カテーテルアブレーション関連秋季大会2022
[停止様式からは Junctional tachycardiaが疑われた房室結節リエントリー性頻拍 (AVNRT) へのクライオアブレーションの1例] <u>吉澤 尚志</u> , <u>小川 尚</u> , <u>仲西優美子</u> , <u>池田 周平</u> , <u>井手 裕也</u> , <u>阿部 充</u> , <u>赤尾 昌治</u>	
2022.12.02	アミオダロンWEBシンポジウム
[心房細動患者における、心不全発症予防を目指したリズムコントロール] <u>濱谷 康弘</u>	
2022.12.10	第134回日本循環器学会近畿地方会
[心不全合併の長期持続性AFに対して、電氣的除細動でのrhythmコントロールをおこなった1例] <u>石上健二郎</u> , <u>仲西優美子</u> , <u>池田 周平</u> , <u>土井 康佑</u> , <u>吉澤 尚志</u> , <u>濱谷 康弘</u> , <u>井手 裕也</u> , <u>藤野 明子</u> , <u>石井 充</u> , <u>井口 守丈</u> , <u>小川 尚</u> , <u>益永 信豊</u> , <u>和田 啓道</u> , <u>長谷川浩二</u> , <u>阿部 充</u> , <u>赤尾 昌治</u>	
2022.12.12	秋田県循環器勉強会
[臨床研究論文がpublishされるまで] <u>赤尾 昌治</u>	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.12.16 「JCSガイドライン・レジストリ研究の疑問に答える」 赤尾 昌治	MASTERCLASS New Era
2022.12.20 「伏見AFレジストリからみたニッポンの抗凝固療法の10年」 赤尾 昌治	The Summit of Cardiology@盛岡
2023.01.12 「心房細動と心不全と血栓塞栓症～現状と未来～」 濱谷 康弘	Deep Dive in Kyoto
2023.01.19 「ANAFIEから考える「超」高齢者心房細動診療」 山下 武志、赤尾 昌治、鈴木 信也、井上 博	ANAFIE Registry Round Table Discussion
2023.01.21 「伏見AFレジストリからみたニッポンの抗凝固療法の10年」 赤尾 昌治	第31回頻拍症カンファランス「心房細動治療 Up-to-date」
2023.02.04 「冠動脈疾患と腎障害～PCIの安全性を追求する～」 阿部 充	第18回日本PCIフェローコース
2023.02.11 「多量血栓を伴い治療に苦慮したSTEMIの1例」 土井 康佑、仲西優美子、南 公人、石上健二郎、池田 周平、濱谷 康弘、吉澤 尚志、井手 裕也、 藤野 明子、石井 充、井口 守丈、小川 尚、益永 信豊、阿部 充、赤尾 昌治	第40回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会
2023.02.25 「心室細動発症後COVID-19陽性となったBrugada症候群患者に対し、着用型自動除細動器を導入した一例」 仲西優美子、吉澤 尚志、石上健二郎、池田 周平、土井 康佑、濱谷 康弘、藤野 明子、石井 充、 井口 守丈、益永 信豊、井手 裕也、阿部 充、赤尾 昌治	第15回植込みデバイス関連冬季大会
2023.03.03 「組織性状をみたらPCI戦略が変わる？」 藤野 明子	Tokyo Physiology Live
2023.03.04 「PCIは心筋梗塞を予防する」 藤野 明子	Tokyo Physiology Live
2023.03.10-12 「Association between gender and bleeding events in elderly patients with atrial fibrillation at high bleeding risk : The Fushimi AF registry」 Yuya Ide, Hisashi Ogawa, Yumiko Nakanishi, Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Takashi Yoshizawa, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao	第87回日本循環器学会学術集会
2023.03.10-12 「Clinical Characteristics, Anticoagulation Strategies and Outcomes Comparing Patients with and without History of Venous Thromboembolism : From the COMMAND VTE Registry-2」 Kosuke Doi, Ryuki Chatani, Kazuhisa Kaneda, Yuji Nishimoto, Nobutaka Ikeda, Yohei Kobayashi, Satoshi Ikeda, Kitae Kim, Toru Takase, Shuhei Tsuji, Maki Oi, Takuma Takada, Kazunori Otsui, Jiro Sakamoto, Yoshito Ogihara, Masaharu Akao, Yugo Yamashita	第87回日本循環器学会学術集会
2023.03.10-12 「Comparison of concomitant antiplatelet drugs in atrial fibrillation patients with anticoagulation therapy : The Fushimi AF Registry」 Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Yumiko Nakanishi, Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Shuhei Ikeda, Kosuke Doi, Takashi Yoshizawa, Yasuhiro Hamatani, Akiko Fujino, Yuya Ide, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji, Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao	第87回日本循環器学会学術集会

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2023.03.10-12	第87回日本循環器学会学術集会
[Relationship between Brinkman-Index and hospitalization for heart failure in patients with atrial fibrillation without heart failure : The Fushimi AF Registry] Mitsuru Ishii, Hisashi Ogawa, Yumiko Nakanishi, Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Takashi Yoshizawa, Yasuhiro Hamatani, Yuya Ide, Akiko Fujino, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao	
2023.03.10-12	第87回日本循環器学会学術集会
[Comparison of pulmonary vein reconnection and outcomes after AF ablation : From the TRANQUILIZE-AF registry] Takashi Yoshizawa, Tetsuma Kawaji, Takanori Aizawa, Shushi Nishiwaki, Suguru Nishiuchi, Satoshi Shizuta	
2023.03.10-12	第87回日本循環器学会学術集会
[Left atrial diameter is a useful predictor for future heart failure events in patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF Registry] Yasuhiro Hamatani, Moritake Iguchi, Yumiko Nakanishi, Kimihito Minami, Kenjiro Ishigami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Takashi Yoshizawa, Yuya Ide, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, and Masaharu Akao	
2023.03.10-12	第87回日本循環器学会学術集会
[Effectiveness and Safety of Morphine Administration for Refractory Dyspnea among Hospitalized Patients with Advanced Heart Failure : The Morphine-HF Study] Yasuhiro Hamatani, Moritake Iguchi, Kenji Moriuchi, Yuta Anchi, Yasutaka Inuzuka, Ryusuke Nishikawa, Kiyotaka Shimamura, Hirokazu Kondo, Yugo Yamashita, Kensuke Takabayashi, Kotoe Takenaka, Kengo Korai, Yuichi Kawase, Ryosuke Murai, Hidenori Yaku, Kazuya Nagao, Mariko Yano, Yuya Aono, Takeshi Kimura, Masaharu Akao	
2023.03.10-12	第87回日本循環器学会学術集会
[Weight loss and mortality in elderly patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF registry] Moritake Iguchi, Yasuhiro Hamatani, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Yuya Ide, Akiko Fujino, Takashi Yoshizawa, Kosuke Doi, Syuhei Ikeda, Kenjiro Ishigami, Kimihito Minami, Yumiko Nakanishi, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.	
2023.03.10-12	第87回日本循環器学会学術集会
[The long-term clinical outcomes after major and non-major bleeding in patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF Registry] Kenjiro Ishigami, Yumiko Nakanishi, Kimihito Minami, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Yasuhiro Hamatani, Yuya Ide, Akiko Fujino, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao	
2023.03.11	Edoxaban Asian Scientific Lecture in Fukuoka
[Low dose NOACs for the very elderly with high bleeding risk] 赤尾 昌治	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
総説 知っておきたい抗凝固薬の基本 レジデントノート, 24, 6, 954-962, 2022.07.01, 羊土社 赤尾 昌治
総説 虚血性心疾患と心房細動を合併している患者の抗血栓療法はどのようにしたらよいでしょうか？ 内科, 130, 3, 334-337, 2022.09.01, 南江堂 赤尾 昌治

総説

造影剤はこう使うべし! : [備えあれば憂いなし! 心臓カテーテル検査・治療の重大合併症と回避術]
月刊「Heart View」, 26, 2022年5月号, P14~19, 2022.04.09, メジカルビュー社
阿部 充

総説

Case11 大動脈解離によるSTEMI
限られた時間での対応にもう悩まない! 緊急PCIマニュアル, P.157~163, 2022.07.31, 南江堂
阿部 充

症例検討会

プッシュ法によるOCT撮像が有用であった一例
Yes Foundation OCT Academy, webコラム
藤野 明子

座談会

石灰化病変に対するOCTを用いた治療戦略
Yes Foundation OCT Academy, webコラム
藤野 明子

解説

特集③ 抗血栓薬
HEART nursing 2022年8月号, 35, 8, 20-25, 2022.08.01, メディカ出版
井口 守丈

原著論文

10-year trends of antithrombotic therapy status and outcomes in Japanese atrial fibrillation patients—The Fushimi AF Registry.
Circ J, 86, 4, 726-736, 2022.05
Akao M, Ogawa H, Masunaga N, Minami K, Ishigami K, Ikeda S, Doi K, Hamatani Y, Yoshizawa T, Ide Y, Fujino A, Ishii M, Iguchi M, Wada H, Hasegawa K, Tsuji H, Esato M, Abe M.

原著論文

Outcomes and Safety of Very-Low-Dose Edoxaban in Frail Patients With Atrial Fibrillation in the ELDERCARE-AF Randomized Clinical Trial.
JAMA Netw Open, 5, 8, e2228500, 2022.08
Akashi S, Oguri M, Ikeno E, Manita M, Taura J, Watanabe S, Hayashi T, Akao M, Okumura K, Akishita M, Yamashita T.

原著論文

Frailty and outcomes in older adults with non-valvular atrial fibrillation from the ANAFIE registry.
Arch Gerontol Geriatr, 101, 104661, 2022.07
Akishita M, Suzuki S, Inoue H, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Yamashita T.

原著論文

Rivaroxaban underdose for atrial fibrillation with stable coronary disease : The AFIRE Trial findings.
Thromb Haemost, 122, 9, 1584-1593, 2022.09
Arashi H, Yamaguchi J, Hagiwara N, Yasuda S, Kaikita K, Akao M, Ako J, Matoba T, Nakamura M, Miyauchi K, Kimura K, Hirayama A, Matsui K, Ogawa H.

原著論文

Age-dependent risk for thromboembolism in atrial fibrillation : The Fushimi AF registry
Int J Cardiol Heart Vasc, 41, 101055, 2022.05
Esato M, An Y, Ogawa H, Wada H, Hasegawa K, Tsuji H, Abe M, Akao M.

原著論文

Effects of high-absorption curcumin for the prevention of hypertensive heart disease : a double-blind, placebo-controlled, randomized clinical study
Eur Heart J Open, 2, 5, oeac057, 2022.09
Funamoto M, Sunagawa Y, Katanasaka Y, Kato T, Funada J, Ajiro Y, Komiyama M, Akao M, Yasoda A, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Wada H, Ikeda Y, Morimoto T, Hasegawa K.

原著論文

Comprehensive symptom assessment using Integrated Palliative care Outcome Scale in hospitalized heart failure patients.

ESC Heart Fail, 9, 3, 1963, 2022.06

Hamatani Y, Iguchi M, Ikeyama Y, Kunugida A, Ogawa M, Yasuda N, Fujimoto K, Ichihara H, Sakai M, Kinoshita T, Nakashima Y, Akao M.

原著論文

Isometric handgrip stress test during right heart catheterization in patients with mitral regurgitation —A case series study.

Intern Med, 61, 12, 1817, 2022.06

Hamatani Y, Iguchi M, Minami K, Ishigami K, Ikeda S, Doi K, Yoshizawa T, Ide Y, Fujino A, Ishii M, Ogawa H, Masunaga N, Abe M, Akao M.

原著論文

Machine learning risk prediction for incident heart failure in patients with atrial fibrillation.

JACC Asia, 2, 6, 706-716, 2022.11

Hamatani Y, Nishi H, Iguchi M, Esato M, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Ogawa H, Abe M, Fukuda S, Akao M.

原著論文

Echocardiographic structure and function in elderly patients with atrial fibrillation in Japan —The ANAFIE echocardiographic substudy.

Circ J, 86, 2, 222-232, 2022.01

Hiasa KI, Kaku H, Kawahara G, Inoue H, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Kaburagi J, Takita A, Tsutsui H.

原著論文

Optimal quality of vitamin K antagonist therapy in Japanese patients with venous thromboembolism.

J Cardiol, 80, 5, 487-494, 2022.11

Hiramori S, Yamashita Y, Morimoto T, Kadota K, Takase T, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Inoko M, Tada T, Izumi T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Saga S, Nishimoto Y, Sasa T, Matsuda M, Sakamoto J, Kinoshita M, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Nakagawa Y, Kato T, Ono K, Ando K, Kimura T.

原著論文

Effect of cancer on clinical outcomes in elderly patients with non-valvular atrial fibrillation —Substudy of the ANAFIE Registry.

Circ J, 86, 2, 202-210, 2022.01

Ikeda T, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Kaburagi J, Takita A, Inoue H.

原著論文

Rivaroxaban Monotherapy in Patients With Atrial Fibrillation and Coronary Stenting at Multiple Vessels or the Left Main Trunk : The AFIRE Trial Subanalysis.

J Am Heart Assoc, 11, 21, e027107, 2022.11

Ishii M, Akao M, Yasuda S, Kaikita K, Ako J, Matoba T, Nakamura M, Miyauchi K, Hagiwara N, Kimura K, Hirayama A, Matsui K, Ogawa H.

原著論文

Association of low body weight with clinical outcomes in elderly atrial fibrillation patients receiving apixaban-J-ELD AF Registry Subanalysis.

Cardiovasc Drugs Ther, 36, 4, 691-703, 2022.08

Kadosaka T, Nagai T, Suzuki S, Sakuma I, Akao M, Yamashita T, Anzai T, Okumura K.

原著論文

Home Blood Pressure Can Predict the Risk for Stroke/Bleeding Events in Elderly Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation From the ANAFIE Registry.

Hypertension, 79, 12, 2696-2705, 2022.12

Kario K, Hasebe N, Okumura K, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Shimizu W, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Inoue H.

原著論文

Fine fibrillatory wave as a risk factor for heart failure events in patients with atrial fibrillation: The Fushimi Atrial Fibrillation (AF) Registry.

J Am Heart Assoc, 11, 7, e024341, 2022.04

Kawaji T, Ogawa H, Hamatani Y, Kato M, Yokomatsu T, Miki S, Abe M, Akao M.

原著論文

Impact of baseline blood pressure on adverse outcomes in Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation: the J-RISK AF.

Eur Heart J Open, 2, 6, oeac081, 2022.12

Kodani E, Tomita H, Nakai M, Akao M, Suzuki S, Hayashi K, Sawano M, Goya M, Yamashita T, Fukuda K, Ogawa H, Tsuda T, Isobe M, Toyoda K, Miyamoto Y, Miyata H, Okamura T, Sasahara Y, Okumura K.

原著論文

Effect of 15-mg edoxaban on clinical outcomes in 3 age strata in older patients with atrial fibrillation: A prespecified subanalysis of the ELDERCARE-AF Randomized Clinical Trial.

JAMA Cardiol, 7, 6, 583-590, 2022.06

Kuroda M, Tamiya E, Nose T, Ogimoto A, Taura J, Imamura Y, Fukuzawa M, Hayashi T, Akao M, Yamashita T, Lip GYH, Okumura K.

原著論文

Association of concomitant coronary artery disease with cardiovascular events in patients with atrial fibrillation —The Fushimi AF Registry.

Circ J, 86, 8, 1252-1262, 2022.07

Masunaga N, Ogawa H, Minami K, Ishigami K, Ikeda S, Doi K, Hamatani Y, Yoshizawa T, Ide Y, Fujino A, Ishii M, Iguchi M, Wada H, Hasegawa K, Tsuji H, Esato M, Abe M, Akao M.

原著論文

The impact of kidney function in patients on antithrombotic therapy: a post hoc subgroup analysis focusing on recurrent bleeding events from the AFIRE trial.

BMC Med, 20, 1, 69, 2022.02

Matsui K, Yasuda S, Kaikita K, Akao M, Ako J, Matoba T, Nakamura M, Miyauchi K, Hagiwara N, Kimura K, Hirayama A, Ogawa H.

原著論文

Laboratory Test Predictors for Major Bleeding in Elderly (≥ 80 Years) Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation Treated With Edoxaban 15mg: Sub-Analysis of the ELDERCARE-AF Trial.

J Am Heart Assoc, 11, 17, e024970, 2022.09

Mikami T, Hirabayashi K, Okawa K, Betsuyaku T, Watanabe S, Imamura Y, Tanizawa K, Hayashi T, Akao M, Yamashita T, Okumura K.

原著論文

Rivaroxaban monotherapy vs combination therapy with antiplatelets on total thrombotic and bleeding events in atrial fibrillation with stable coronary artery disease: A post hoc secondary analysis of the AFIRE Trial.

JAMA Cardiol, 7, 8, 787-794, 2022.08

Naito R, Miyauchi K, Yasuda S, Kaikita K, Akao M, Ako J, Matoba T, Nakamura M, Hagiwara N, Kimura K, Hirayama A, Matsui K, Ogawa H.

原著論文

Clopidogrel monotherapy after 1-month dual antiplatelet therapy in percutaneous coronary intervention: From the STOPDAPT-2 total cohort.

Circ Cardiovasc Interv., 15, 8, Circinterventions122012004, 2022.08

Obayashi Y, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Natsuaki M, Domei T, Yamaji K, Suwa S, Isawa T, Watanabe H, Yoshida R, Sakamoto H, Akao M, Hata Y, Morishima I, Tokuyama H, Yagi M, Suzuki H, Wakabayashi K, Suematsu N, Inada T, Tamura T, Okayama H, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Morino Y, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T.

原著論文

Prognosis of elderly non-valvular atrial fibrillation patients stratified by B-type natriuretic peptide: ELDERCARE-AF subanalysis.

Am Heart J, 250, 66-75, 2022.08

Okazaki O, Higashino Y, Yokoya K, An Y, Tanizawa K, Imamura Y, Hayashi T, Akao M, Okumura K, Yamashita T.

原著論文

Oral Anticoagulants in Very Elderly Nonvalvular Atrial Fibrillation Patients With High Bleeding Risks : ANAFIE Registry.

JACC Asia, 2, 6, 720-733, 2022.11

Okumura K, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Shimizu W, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Inoue H.

原著論文

JCS/JHRS 2020 Guideline on Pharmacotherapy of Cardiac Arrhythmias.

Circ J, 86, 11, 1790-1924, 2022.10

Ono K, Iwasaki YK, Akao M, Ikeda T, Ishii K, Inden Y, Kusano K, Kobayashi Y, Koretsune Y, Sasano T, Sumitomo N, Takahashi N, Niwano S, Hagiwara N, Hisatome I, Furukawa T, Honjo H, Maruyama T, Murakawa Y, Yasaka M, Watanabe E, Aiba T, Amino M, Itoh H, Ogawa H, Okumura Y, Aoki-Kamiya C, Kishihara J, Kodani E, Komatsu T, Sakamoto Y, Satomi K, Shiga T, Shinohara T, Suzuki A, Suzuki S, Sekiguchi Y, Nagase S, Hayami N, Harada M, Fujino T, Makiyama T, Maruyama M, Miake J, Muraji S, Murata H, Morita N, Yokoshiki H, Yoshioka K, Yodogawa K, Inoue H, Okumura K, Kimura T, Tsutsui H, Shimizu W

原著論文

Impact of anemia on the clinical outcomes in elderly patients with atrial fibrillation receiving apixaban : J-ELD AF registry subanalysis.

Int J Cardiol Heart Vasc, 40, 100994, 2022.03

Tanaka N, Inoue K, Okada M, Sakata Y, Akao M, Yamashita T, Suzuki S, Okumura K.

原著論文

Impact of chronic kidney disease on the associations of cardiovascular biomarkers with adverse outcomes in patients with suspected or known coronary artery disease : The EXCEED-J Study.

J Am Heart Assoc, 11, 3, e023464, 2022.02

Wada H, Shinozaki T, Suzuki M, Sakagami S, Ajiro Y, Funada J, Matsuda M, Shimizu M, Takenaka T, Morita Y, Yonezawa K, Matsubara H, Ono Y, Nakamura T, Fujimoto K, Ninomiya A, Kato T, Unoki T, Takagi D, Wada K, Wada M, Iguchi M, Yamakage H, Kusakabe T, Yasoda A, Shimatsu A, Kotani K, Satoh-Asahara N, Abe M, Akao M, Hasegawa K.

原著論文

Effect of polypharmacy on clinical outcomes in elderly patients with non-valvular atrial fibrillation —A sub-analysis of the ANAFIE Registry.

Circ J, 87, 1, 6-16, 2022.12

Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Inoue H.

原著論文

Causes of long-term mortality in patients with venous thromboembolism in the real world : From the COMMAND VTE registry.

Thromb Res, 219, 30, 2022.11

Yamashita Y, Morimoto T, Kadota K, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Inoko M, Tada T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Nishimoto Y, Sakamoto J, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Kato T, Ono K, Kimura T.

原著論文

Clinical characteristics, management strategies and outcomes of patients with recurrent venous thromboembolism in the real world.

Sci Rep, 12, 1, 22437, 2022.12

Yamashita Y, Morimoto T, Kadota K, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Inoko M, Tada T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Nishimoto Y, Sakamoto J, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Kato T, Ono K, Kimura T.

原著論文

Efficacy and safety of edoxaban 15 mg according to renal function in very elderly patients with atrial fibrillation : A Subanalysis of the ELDERCARE-AF Trial.

Circulation, 145, 9, 718-720, 2022.03

Yoshida T, Nakamura A, Funada J, Amino M, Shimizu W, Fukuzawa M, Watanabe S, Hayashi T, Yamashita T, Okumura K, Akao M.

原著論文

Impact of previous stroke on clinical outcome in elderly patients with nonvalvular atrial fibrillation: ANAFIE Registry.

Stroke, 53, 8, 2549-2558, 2022.08

Yoshimoto T, Toyoda K, Ihara M, Inoue H, Yamashita T, Suzuki S, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Okumura K, Koretsune Y, Shimizu W, Tsutsui H, Hirayama A, Yasaka M, Maruyama H, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Yamaguchi T.

原著論文

Clinical characteristics and outcomes of Japanese atrial fibrillation patients with poor medication adherence : A sub-analysis of the GENERAL study.

J Cardiol, 81, 2, 209-214, 2023.02

Akao M, Tsuji H, Kusano K, Matsui K, Hiramitsu S, Hatori Y, Odakura H, Ogawa H.

原著論文

Association of intravenous heparin administration with in-hospital clinical outcomes among hospitalized patients with acute heart failure.

Int J Cardiol, 370, 229-235, 2023.01

Hamatani Y, Kato T, Morimoto T, Iguchi M, Yaku H, Inuzuka Y, Kitai T, Nagao K, Tamaki Y, Yamamoto E, Ozasa N, Yamashita Y, Abe M, Sato Y, Kuwahara K, Akao M, Kimura T.

原著論文

Proteinuria is independently associated with heart failure events in patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF registry.

Eur Heart J Qual Care Clin Outcomes., 2023.01

Ikeda S, An Y, Iguchi M, Ogawa H, Nakanishi Y, Minami K, Ishigami K, Aono Y, Doi K, Hamatani Y, Yoshizawa T, Ide Y, Fujino A, Ishii M, Masunaga N, Esato M, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Abe M, Akao M.

原著論文

Prognostic impact of heart rate during atrial fibrillation on clinical outcomes in elderly non-valvular atrial fibrillation patients : ANAFIE Registry sub-cohort study.

J Cardiol, 2022.11

Ikeda T, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Inoue H.

原著論文

Impact of cognitive impairment on clinical outcomes in elderly patients with atrial fibrillation : ANAFIE Registry.

BMJ Neurol Open., 5, 1, e000370, 2023.01

Nagata K, Inoue H, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Yasaka M.

原著論文

Clinical phenotypes of older adults with non-valvular atrial fibrillation not treated with oral anticoagulants by hierarchical cluster analysis in the ANAFIE Registry.

PLoS One, 18, 2, e0280753, 2023.02

Suzuki S, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Okumura K, Koretsune Y, Shimizu W, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Inoue H.

原著論文

Clinical application of artificial intelligence algorithm for prediction of one-year mortality in heart failure patients.

Heart Vessels, 2023.02

Takahama H, Nishimura K, Ahsan B, Hamatani Y, Makino Y, Nakagawa S, Irie Y, Moriuchi K, Amano M, Okada A, Kitai T, Amaki M, Kanzaki H, Noguchi T, Kusano K, Akao M, Yasuda S, Izumi C.

原著論文

Causes of Death in Elderly Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation —Results From the ANAFIE Registry.

Circ J, 2023.01

Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Inoue H.

原著論文

Impact of Heart Rate at Diagnosis on Clinical Outcomes in Patients With Acute Pulmonary Embolism.
Am J Cardiol, 187, 38-47, 2023.01
Yamashita Y, Morimoto T, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Chen PM,
Murata K, Tsuyuki Y, Nishimoto Y, Sakamoto J, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Kato T, Ono K,
Kimura T.

原著論文以外

A case of infective endocarditis mimicking antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis.
J Cardiol Cases, 26, 1, 32-34, 2022.03
Doi K, Minami K, Ishigami K, Ikeda S, Hamatani Y, Yoshizawa T, Ide Y, Fujino A, Ishii M, Iguchi M,
Ogawa H, Masunaga N, Abe M, Akao M.

原著論文以外

Caseous calcification of mitral annulus evaluated by multi-modality imaging including cardiac magnetic resonance parametric mapping.
J Cardiol Cases, 26, 3, 221-224, 2022.05
Tanaka Y, Hamatani Y, Iguchi M, Minami K, Ishigami K, Ikeda S, Masunaga N, Abe M, Kono T, Akao M.

原著論文以外

Multisystem inflammatory syndrome and lymphohistiocytic myocarditis after Covid-19 vaccine in a middle-aged woman.
ESC Heart Fail, 2022.11
Kobayashi K, Hamatani Y, Moriyoshi K, Iguchi M, Masunaga N, Terashima M, Abe M, Sasahashi N,
Akao M.

原著論文

Rationale, Design, and Baseline Characteristics of the CURRENT AS Registry-2.
Circ J, 86, 11, 1769, 2022.10
Takeji Y, Taniguchi T, Morimoto T, Shirai S, Kitai T, Tabata H, Kitano K, Ono N, Murai R, Osakada K,
Murata K, Nakai M, Tsuneyoshi H, Tada T, Amano M, Shiomi H, Watanabe H, Yoshikawa Y,
Yamamoto K, Toyofuku M, Tatsushima S, Kanamori N, Miyake M, Nakayama H, Nagao K, Izuhara M,
Nakatsuma K, Inoko M, Fujita T, Kimura M, Ishii Mitsuru, Usami S, Sawada K, Nakazeki F,
Okabayashi M, Shirotani M, Inuzuka Y, Komiya T, Minatoya K, Kimura T

原著論文

Atrial fibrillation in patients with severe aortic stenosis.
J Cardiol, 81, 2, 144, 2023.02
Matsuda S, Kato T, Morimoto T, Taniguchi T, Minamino-Muta E, Matsuda M, Shiomi H, Ando K,
Shirai S, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Izumi C, Miyake M, Mitsuoka H, Kato M, Hirano Y,
Nagao K, Inada T, Mabuchi H, Takeuchi Y, Yamane K, Toyofuku M, Ishii M, Inoko M, Ikeda T,
Komasa A, Ishii K, Hotta K, Higashitani N, Jinnai T, Kato Y, Inuzuka Y, Morikami Y, Saito N, Minatoya K,
Kimura T.

原著論文

Clopidogrel Monotherapy After 1-Month Dual Antiplatelet Therapy in Patients With Diabetes Undergoing Percutaneous Coronary Intervention
JACC Cardiovasc Interv, 16, 1, 19, 2023.01
Yamamoto K, Watanabe H, Morimoto T, Obayashi Y, Natsuaki M, Yamaji K, Domei T, Ogita M,
Ohya M, Tatsushima S, Suzuki H, Tada T, Ishii M, Nikaido A, Watanabe N, Fujii S, Mori H, Nishikura T,
Suematsu N, Hayashi F, Komiyama K, Shigematsu T, Isawa T, Suwa S, Ando K, Kimura T

原著論文

Prognostic impact of catheter ablation in patients with asymptomatic atrial fibrillation
PLOS One, 17, 12, e0279178, 2022.12
Tetsuma Kawaji, Satoshi Shizuta, Munekazu Tanaka, Shushi Nishiwaki, Takanori Aizawa,
Shintaro Yamagami, Akihiro Komasa, Takashi Yoshizawa, Masashi Kato, Takafumi Yokomatsu,
Shinji Miki, Koh Ono, Takeshi Kimura

原著論文

STOPDAPT-2 ACS Investigators. Comparison of Clopidogrel Monotherapy After 1 to 2 Months of Dual Antiplatelet Therapy With 12 Months of Dual Antiplatelet Therapy in Patients With Acute Coronary Syndrome : The STOPDAPT-2 ACS Randomized Clinical Trial.
JAMA Cardiol, 7, 4, 407-417, 2022.04
Watanabe H, Morimoto T, Natsuaki M, Yamamoto K, Obayashi Y, Ogita M, Suwa S, Isawa T, Domei T,
Yamaji K, Tatsushima S, Watanabe H, Ohya M, Tokuyama H, Tada T, Sakamoto H, Mori H, Suzuki H,
Nishikura T, Wakabayashi K, Hibi K, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Morino Y,
Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T

小児科



小児科診療科長
浅井 康一

専門医資格等
 日本小児科学会
 小児科専門医・指導医
 日本アレルギー学会
 アレルギー専門医・指導医
 代議員
 日本小児アレルギー学会
 代議員
 小児感染症学会
 小児感染症認定医・代議員
 ICD
 京都小児科医会理事
 京都大学博士（医学）
 京都大学医学部臨床教授

専門分野
 小児アレルギー・小児感染症



NICU診療科長
松倉 崇

専門医資格等
 日本小児科学会
 小児科専門医・指導医
 日本周産期新生児医学会
 周産期専門医（新生児）
 京都大学博士（医学）

専門分野
 新生児

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	石塚 哲也		小児科一般、 小児救急	小児感染症
医師	北 誠	日本小児科学会小児科専門医・指導医 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医 新生児蘇生法「専門」コースインストラクター	小児科一般、 遺伝	虐待・遺伝性疾患
医師 (育児短時間)	橋本有紀子	日本小児科学会小児科専門医・指導医 日本内分泌学会内分泌代謝科（小児科）専門医 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医	内分泌、代謝、 遺伝、小児科一 般	低身長・甲状腺・ 遺伝性疾患
医師	常念 大輔	日本小児科学会小児科専門医・指導医 日本アレルギー学会アレルギー専門医 出生前コンサルト小児科医	小児アレルギー、 小児科一般	食物アレルギー
医師	上月 景弘	日本小児科学会小児科専門医	小児血液腫瘍、 小児科一般	小児白血病
非常勤 医師	仁井 純子	日本小児科学会小児科専門医	小児科一般	心身症

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定

京都大学小児科専門医研修プログラム連携施設
日本アレルギー学会専門医教育研修施設

診療内容

NICU（新生児集中治療室）6床により、産婦人科と協力し24時間体制での新生児診療。
小児病棟（2 - 3病棟）での小児一般急性疾患（感染症全般・熱性痙攣・川崎病・食物アレルギー経口負荷試験など）の診療。
小児一般外来や予防接種・健診の他、アレルギー・内分泌・NICUフォローアップ・神経・心臓などの専門外来。
京都市からの委託により、院内病児保育の実施。
院内保育所ひまわり保育園の集団健診。
京都市立桃陽支援学校の協力により、長期入院が必要な学童に対する院内学級を併設。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	8.50	6.9
新入院患者数（名）	278	246
平均在院日数（日）	8.5	10.2

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数（名）	17	18.2

| 学術活動報告（学会・研究発表など） |

発表年月日	発表学会
2022.05.08	第447回日本小児科学会京都地方会
[網羅的遺伝子解析にて診断されたSchaaf-Yang症候群の兄弟例] 橋本有紀子、上月 景弘、常念 大輔、仁井 純子、北 誠、石塚 哲也、松倉 崇、浅井 康一、矢野 直子、吉田 健司、滝田 順子	
2022.11.02	第55回日本小児内分泌学会学術集会
[成長ホルモン分泌不全性低身長症を呈し、遺伝子解析で診断したSchaaf-Yang症候群の兄弟例] 橋本有紀子、北 誠、松倉 崇、浅井 康一、矢野 直子、吉田 健司、滝田 順子	
2022.11.13	第59回日本小児アレルギー学会学術大会
[食物アレルギー再燃を疑い受診され、シェーグレン症候群が判明した思春期女児例] 常念 大輔、浅井 康一、井澤 和司	
2023.03.12	第36回近畿小児科学会
[蕁麻疹を契機にシェーグレン症候群の診断に至った思春期女児例] 常念 大輔、上月 景弘、橋本有紀子、北 誠、仁井 純子、石塚 哲也、松倉 崇、浅井 康一、井澤 和司	

呼吸器外科



診療科長
澤井 聡

専門医資格等

日本呼吸器外科学会
専門医・指導医・評議員
呼吸器外科専門医
日本外科学会専門医
日本呼吸器内視鏡学会
気管支鏡専門医・指導医
滋賀医科大学医学博士

専門分野

呼吸器外科全般

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
呼吸器外科医長	橋本 雅之	日本外科学会外科専門医・指導医 日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医・評議員 日本呼吸器外科学会ロボット支援手術プロクター 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 肺がんCT検診認定機構肺がんCT検診認定医 INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール術者 滋賀医科大学呼吸器外科非常勤講師（診療）	呼吸器外科全般	呼吸器外科 ロボット手術
医師	余田 誠		呼吸器外科全般	
医師	賀来 良輔	日本外科学会外科専門医 日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール術者 滋賀医科大学呼吸器外科非常勤講師 滋賀医科大学医学博士	呼吸器外科全般	呼吸器外科 ロボット手術

| 令和4年度の主な取組 |

認定施設

- ・日本呼吸器外科基幹施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設

クリティカルパスは術前・術後に分け、手術症例の大半に適応している。

- ・縦隔鏡検査 3日間
- ・術前（標準） 術前日～術当日
- ・術前（長期） 術7日前～術当日（術前ヘパリン化など）
- ・術後（短期） 術直後～7病日
- ・術後（標準） 術直後～9病日
- ・術後（長期） 術直後～11病日

その他、気管支鏡検査、化学療法等は呼吸器内科のクリティカルパスを適応している。

令和4年度の手術件数の90%は胸腔鏡手術で、そのうちロボット支援下手術は24件と例年より増加した。また、根治度と肺機能温存を考慮した区域切除（難易度の高い複雑区域切除を多く含む）が27件と増加した。その他、術前導入化学療法や術後補助化学療法など、最新の知見に基づいた治療（分子標的治療やICI治療）も積極的に行っている。

引き続き患者に優しい医療に努めて参りたい。

| 診療実績 |

呼吸器外科入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	9.2	9.0
新入院患者数（名）	281	284
平均在院日数（日）	11.4	11.3

呼吸器外科外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	12.6	12.2

主な手術・検査の件数（2022年度）

手術（全身麻酔）	174件	転移性肺腫瘍手術	18件
手術（全身麻酔）（ロボット支援下）	24件	縦隔腫瘍手術	18件
肺癌手術（診断含む）	105件	気胸手術	13件

| 学術活動報告（学会・研究発表など） |

発表年月日	発表学会
演題名 等 / 演者（下線は当院所属）	
2022.05.20	第39回日本呼吸器外科学会学術集会
「ロボット支援下肺葉切除術におけるCOVID-19感染症の影響について」	
橋本 雅之、余田 誠、武田 恵子、大塩麻友美、澤井 聡	

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.05.20	第39回日本呼吸器外科学会学術集会
「肺腺癌術後再発に対しニボルマブ・イピリムマブ併用療法後、著効を示すも自己免疫性脳炎を発症した1例」 余田 誠、武田 恵子、橋本 雅之、大塩麻友美、澤井 聡	
2022.12.01	第63回日本肺癌学会学術集会
「癌性腹膜炎・乳び腹水に対し腹水濾過濃縮再静注法長期頻回施行が治療継続に有効であった再発肺癌の一例」 余田 誠、賀来 良輔、橋本 雅之、大塩麻友美、澤井 聡	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
<p>原著論文</p> <p>術前未診断であった肺悪性腫瘍に対するロボット支援胸腔鏡下肺葉切除の検討 日本呼吸器外科学会雑誌, 36, 5, 498~503, 2022.07.01, 日本呼吸器外科学会 橋本 雅之、余田 誠、武田 恵子、大塩麻友美、澤井 聡</p>
<p>原著論文</p> <p>Treatment for Bronchial Fistula at the Bronchial Membrane with Extensive Postoperative Ischemic Bronchitis : Combination of a Free Pericardial Fat Pad and Muscle Flaps J Clin Med case Stud., 7, 4, 1-6, 2022.05 Hashimoto M, Yoden M, Takeda K, Kaku R, Oshio M, Sawai S</p>

外科



診療科長
(下部消化管責任者)
山口 高史
(2023年3月31日まで)

専門医資格等
日本外科学会
外科専門医・指導医
日本消化器外科学会
消化器外科専門医・指導医
日本消化器外科学会
消化器がん外科治療認定医
日本大腸肛門病学会
大腸肛門病専門医・指導医

日本内視鏡外科学会
内視鏡外科学術認定医(大腸)・
技術認定審査員・評議員
ダ・ヴィンチ コンソール
術者ライセンス医
京都大学医学部臨床教授
京都大学医学部非常勤講師

専門分野
下部消化管
得意疾患
大腸がん



診療科長
感染制御副部長
(上部消化管責任者)
堀 啓昭
(2023年4月1日から)

専門医資格等
日本外科学会外科専門医・
指導医
日本消化器外科学会
消化器外科専門医・指導医
日本内視鏡外科学会
内視鏡外科学術認定医(胃)・
評議員
日本感染症学会
感染症専門医・評議員・
臨床研究促進委員会委員
日本食道学会食道科認定医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
日本消化器外科学会
消化器がん外科治療認定医
ICD (インフェクションコント
ロールドクター)

日本外科感染症学会
周術期感染管理認定医・
教育医・評議員・
教育委員会委員長・
編集委員会委員
日本化学療法学会
評議員・抗菌化学療法認定
医制度審議委員会委員・国
際渉外委員会委員
日本化学療法学会・日本感染
症学会
JAID/JSC 感染症治療ガイ
ド・ガイドライン作成委員・
MRSA 感染症の治療ガイド
ライン作成委員・薬剤耐性
菌感染症を対象とした抗菌
薬ガイドライン作成に関す
る合同委員会委員

Journal of Infection and
Chemotherapy,
Senior Editor
日本環境感染学会
評議員・JHAIS委員会委員・
あり方委員会委員
日本臨床外科学会評議員
ダ・ヴィンチ コンソール
術者ライセンス医
京都大学博士(医学)
専門分野
上部消化管・外科感染症
得意疾患
胃がん・食道がん

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
診療部長 (がん診療 担当) 緩和ケア 診療科長	大谷 哲之	日本外科学会外科専門医 日本消化器外科学会消化器外科認定医 京都大学医学部臨床教授	上部消化管	食道がん、胃がん
医長 (肝胆膵責 任者)	成田 匡大	日本外科学会外科専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本肝胆膵外科学会 評議員・肝胆膵外科高度技能専門医 日本内視鏡外科学会内視鏡外科学術認定医(肝臓) 日本消化器病学会専門医 Le Diplôme Inter Universitaire EUROPEAN CANCERS HEPATO BILIO PANCREATIQUES 日本ヘルニア学会評議員 関西ヘルニア研究会世話人 京都大学医学部臨床准教授 京都大学博士(医学)	肝胆膵	肝臓がん、 胆道がん、 膵臓がん 鼠径ヘルニア・鼠 径ヘルニア術後疼 痛

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長	松末 亮 2022年8月31日まで	日本外科学会外科専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本大腸肛門病学会大腸肛門病専門医 日本内視鏡外科学会内視鏡外科技術認定医（大腸） 内痔核治療法研究会四段階注射法講習会受講 ダ・ヴィンチ コンソール術者ライセンス医 京都大学博士（医学）	下部消化管	大腸がん 肛門疾患
医師	山岡 竜也	日本外科学会外科専門医 日本消化器外科学会消化器外科専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本肝胆膵外科学会評議員 京都大学博士（医学）	肝胆膵	肝臓がん、 胆道がん、 膵臓がん
医師	中西 保貴	日本外科学会外科専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器外科専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本食道学会食道科認定医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化管学会胃腸科専門医 近畿外科学会評議員 京都大学博士（医学）	上部消化管	胃がん・食道がん
医師	西川 元 2022年9月1日から	日本外科学会外科専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器外科専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 京都大学博士（医学）	下部消化管	大腸がん 肛門疾患
医師	中西 宏貴	日本外科学会外科専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医	外科全般	消化器がん
医師	三木 晶森	日本外科学会外科専門医	外科全般	
医師	神部 宏幸		外科全般	
医師	末永 尚浩		外科全般	
専攻医	小嶋 大也 2022年12月31日まで			
専攻医	伏谷 仁志 2022年7月1日から		外科全般	
専攻医	出川佳奈子		外科全般	
専攻医	守山 雅晃 2022年12月31日まで		外科全般	

| 令和4年度の主な取組 |

消化器悪性疾患を中心に、良性疾患から緊急手術まで24時間対応で診療を行っている。

専門医制度修練施設

- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技術専門医修練施設 A
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・食道外科専門医準認定施設
- ・日本胃癌学会認定施設 A
- ・日本外科感染症学会 外科周術期感染管理教育施設
- ・Japan Clinical Oncology Group (JCOG) 大腸がんグループ参加施設
- ・Japan Clinical Oncology Group (JCOG) 胃がんグループ参加施設

また、多数の治験・医師主導治験・他機関共同臨床研究に参加している。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	33.6	34.9
新入院患者数(名)	937	967
平均在院日数(日)	13	13

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	36.6	37.8

手術実績(2022年度)

全手術数(外来手術を含める)	994件	局麻手術	248件
全麻手術	726件	緊急手術件数	174件
腰麻手術	20件		

主な術式別手術件数(うち鏡視下手術)(2022年度)

(1) 食道	6(6)件	(11) 臍体尾部	11(5)件
(2) 幽門側	33(32)件	(12) 臍切	2(0)件
(3) 胃全摘	13(12)件	(13) 乳癌	100(0)件
(4) 結腸	76(72)件	(14) 胆摘	94(90)件
(5) 直腸切除	33(30)件	(15) 脾摘	0(0)件
(6) 直腸切断	2(2)件	(16) 虫垂	35(33)件
(7) 肝葉	10(4)件	(17) ヘルニア	130(14)件
(8) 肝区域・垂区域	7(6)件	(18) 肛門	22(2)件
(9) 肝部分	18(15)件	(19) 小児	2(2)件
(10) 臍頭十二指腸	19(0)件		

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.04.14-16	第122回日本外科学会定期学術集会
「直腸癌の予後予測に有用な炎症性バイオマーカーに関する多施設共同後向き研究」 山本 健人、河田 健二、松末 亮、山口 高史、奥知 慶久、福田 明輝、田中 英治、上田 修吾、 小濱 和貴、寺嶋 宏明	
2022.04.14-16	第122回日本外科学会定期学術集会
「直腸癌術後排便機能の経時的推移と術前化学療法の影響：多施設共同前向き研究」 下池 典広、肥田 侯矢、河田 健二、岡田 倫明、山口 高史、間中 大、山田 理大、加藤 滋、 山之内 賢、橋田 裕毅、福田 明輝、京極 高久、小濱 和貴	
2022.05.13	正しく認識しよう 鼠径部ヘルニア術後慢性疼痛 (CPIP) ー至適TAPP法のおくなき追及ー
「正しく認識しよう 鼠径部ヘルニア術後慢性疼痛 (CPIP) ー至適TAPP法のおくなき追及ー」 成田 匡大	
2022.06.03-04	第20回日本ヘルニア学会学術集会
「シンポジウム1 世界へ発信できる日本初のヘルニアのエビデンス 「本邦における鼠径ヘルニア術後慢性疼痛の実態ー多機関共同前向き研究」」 成田 匡大、片岡 政人、藤田 洋一、新田 敏勝、田崎 達也、濱 直樹、宮木佑一郎、清水 亘、 西原 佑一、若杉 正樹	
2022.06.03-04	第20回日本ヘルニア学会学術集会
「鼠径部ヘルニア術後慢性疼痛に対する至適術式の選択」 成田 匡大	
2022.06.03-04	第20回日本ヘルニア学会学術集会
「メッシュ除去施行後も残存する鼠径ヘルニア術後慢性疼痛症例から学ぶヘルニア外来診療」 宗景 史晃	
2022.06.03-04	第20回日本ヘルニア学会学術集会
「11年間にわたる術後慢性疼痛が手術により改善した1例」 守山 雅晃、成田 匡大、出川佳奈子、小嶋 大也、末永 尚浩、神部 宏幸、三木 晶森、中西 宏貴、 中西 保貴、山岡 竜也、松末 亮、畑 啓昭、山口 高史	
2022.06.03-05	第70回日本化学療法学会総会
「教育講演22 術後感染予防抗菌薬の最新情報」 畑 啓昭	
2022.06.04	第7回日本ヘルニア学会 教育セミナー
「正しく認識しよう 鼠径部ヘルニア術後慢性疼痛 (CPIP)」 成田 匡大	
2022.06.10-11	第34回日本肝胆膵外科学会・学術集会
「The clinicopathological factors associated with early recurrence in patients with ampullary carcinoma following curative resection」 成田 匡大、山岡 竜也、宗景 史晃	
2022.06.10-11	第34回日本肝胆膵外科学会・学術集会
「Impact of diabetes mellitus on surgical site infection following liver resection」 山岡 竜也、成田 匡大	
2022.06.15-17	第47回日本外科系連合学会学術集会
「Shouldice法」 成田 匡大、山岡 竜也、松末 亮、畑 啓昭、山口 高史	
2022.06.16-18	第37回日本環境感染症学会総会・学術集会
「合同シンポジウム2 外科感染症学会 手術室での感染対策手技を見ようー消化器外科編」 畑 啓昭	
2022.06.16-18	第37回日本環境感染症学会総会・学術集会
「シンポジウム27 術野消毒の実際、どうしてますかー安全な手術とSSI低下を目指してー」 畑 啓昭	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.06.16-18 「消化器外科領域の安全で有効な術野消毒」 畑 啓昭	第37回日本環境感染症学会総会・学術集会
2022.07.09 特別講演「鼠径ヘルニア術後慢性疼痛」 成田 匡大	京都外科医会7月例会
2022.07.20-22 「縫合不全予防のベストプラクティス～市中病院でできることは何か」 松末 亮、山口 高史、出川佳奈子、守山 雅晃、末永 尚浩、三木 晶森、神部 宏幸、中西 保貴、 畑 啓昭、成田 匡大	第77回日本消化器外科学会総会
2022.07.20-22 「当院におけるロボット支援下直腸手術の工夫と短期成績」 三木 晶森、松末 亮、守山 雅晃、出川佳奈子、末永 尚浩、豊田 有紀、神部 宏幸、宗景 史晃、 後藤健太郎、山口 高史	第77回日本消化器外科学会総会
2022.07.29 「肝臓治療における薬物治療—切除の実際」 成田 匡大	肝臓治療を語る会 in 京滋 (WEB配信)
2022.09.17 「BR-/UR- 膀胱に対する術前化学療法の術後長期成績」 成田 匡大、水本 吉則、下釜 翼、山岡 竜也、宇良 敬、山口 高史、宮本 心一	第16回膀胱癌術前治療研究会
2022.09.21 「消化器外科領域におけるNPWT、最近のエビデンスと実臨床での活用」 畑 啓昭	関西 NPWT セミナー 予防から治療まで (WEB開催)
2022.09.22 「困ったときの脾胃吻合」 成田 匡大	京都 肝胆膵手術手技フォーラム
2022.09.24-26 「貧血合併食道裂孔ヘルニア症例の特徴と手術加療の意義」 中西 保貴、畑 啓昭、大谷 哲之、守山 雅晃、出川佳奈子、伏谷 仁志、小嶋 大也、末永 尚浩、 神部 宏幸、三木 晶森、山岡 竜也、松末 亮、成田 匡大、山口 高史	第76回日本食道学会学術集会
2022.09.24-26 「一般病棟における食道癌 左結腸再建例の成績」 末永 尚浩、畑 啓昭、中西 保貴、守山 雅晃、出川佳奈子、小嶋 大也、伏谷 仁志、神部 宏幸、 三木 晶森、中西 宏貴、山岡 竜也、松末 亮、成田 匡大、山口 高史	第76回日本食道学会学術集会
2022.09.26-28 「Clinical Characteristics of Hiatal Hernia With Anemia and Significance of Surgical Repair」 Nakanishi Y, Hata H, Suenaga T, Moriyama M, Degawa K, Fushitani H, Kojima H, Kanbe H, Miki Akimori, Nakanishi H, Nishikawa G, Yamaoka R, Matsusue R, Narita M, Otani T, Yamaguchi T	18th ISDE World Congress
2022.09.26-28 「Results of Left Colon Reconstruction for Esophagectomy in a Low Volume Hospital in Japan」 Takahiro S	18th ISDE World Congress
2022.09.30-10.01 「交通外傷を契機に診断され、一時出血性ショックを呈した胃粘膜下腫瘍に対し腹腔鏡下胃部分切除術を施行した1例」 末永 尚浩、畑 啓昭、佐治 雅史、寺嶋真理子、出川佳奈子、守山 雅晃、小嶋 大也、神部 宏幸、 三木 晶森、中西 宏貴、西川 元、中西 保貴、山岡 竜也、松末 亮、成田 匡大、山口 高史	第14回日本Acute Care Surgery学会学術集会
2022.10.13-14 「当院における遠位部胆管癌術後長期成績」 成田 匡大、山岡 竜也、山口 高史	第58回日本胆道学会学術集会

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.10.26-28	第71回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第69回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会 第64回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー
「事例検討 悩ましい外科領域の症例」 畑 啓昭	
2022.11.03-05	第92回日本感染症学会西日本地方学術集会 第65回日本感染症学会中日本地方会学術集会 第70回日本化学療法学会西日本支部総会
「日本感染症学会・日本外科感染症学会 合同シンポジウム 外科領域感染症 Up to Date 一般外科領域感染症の Up to Date」 畑 啓昭	
2022.11.03-05	第92回日本感染症学会西日本地方学術集会 第65回日本感染症学会中日本地方会学術集会 第70回日本化学療法学会西日本支部総会
「腓体尾部切除後の腓液瘻に起因する腹腔内遺残膿瘍、皮下膿瘍に対し、局所陰圧閉鎖療法が有効であった一例」 末永 尚浩、畑 啓昭、出川佳奈子、守山 雅晃、小嶋 大也、伏谷 仁志、神部 宏幸、三木 晶森、 中西 宏貴、西川 元、中西 保貴、山岡 竜也、成田 匡大、山口 高史	
2022.11.03-05	第92回日本感染症学会西日本地方学術集会 第65回日本感染症学会中日本地方会学術集会 第70回日本化学療法学会西日本支部総会
「COVID-19罹患後の消化器悪性腫瘍手術における周術期合併症の検討」 出川佳奈子、畑 啓昭、末永 尚浩、藤田 浩平、金井 修	
2022.11.08-09	第35回日本外科感染症学会総会学術集会
「消化器外科医として外科感染症への取り組み～若手医師に魅力的な科を目指して～」 佐治 雅史、畑 啓昭	
2022.11.08-09	第35回日本外科感染症学会総会学術集会
「日本環境感染学会 JHAIS委員会 合同セミナー 日本の医療関連感染サーベイランスの現況 「サーベイランスのためのSSI判定事例」」 畑 啓昭	
2022.11.08-09	第35回日本外科感染症学会総会学術集会
「教育委員会 委員会企画5 外科感染症領域の最近のFACT 「COVID-19と手術/外科感染症一般」」 畑 啓昭	
2022.11.08-09	第35回日本外科感染症学会総会学術集会
入門講座25 「複雑性虫垂炎の治療方針」 畑 啓昭	
2022.11.22	いわて外科周術期感染管理セミナー
「術後感染合併症の予防で気をつけるポイント」 畑 啓昭	
2022.11.24-26	第84回日本臨床外科学会総会
イブニングセミナー3 「メッシュプラグ法、正しくやっていますか？～アンチプラグの立場から～」 成田 匡大	
2022.11.24-26	第84回日本臨床外科学会総会
「食道裂孔ヘルニア経口摂取不良例の臨床的特徴と手術加療の有効性」 中西 保貴、守山 雅晃、出川佳奈子、伏谷 仁志、小嶋 大也、末永 尚浩、神部 宏幸、三木 晶森、 中西 宏貴、佐治 雅史、西川 元、山岡 竜也、畑 啓昭、成田 匡大、大谷 哲之、山口 高史	
2022.11.24-26	第84回日本臨床外科学会総会
「腹腔内経路S状結腸人工肛門造設後の内ヘルニアに対し用手的整復が有効であった1例」 三木 晶森、中西 保貴、出川佳奈子、伏谷 仁志、小嶋 大也、末永 尚浩、神部 宏幸、中西 宏貴、 西川 元、山岡 竜也、畑 啓昭、成田 匡大、山口 高史	
2022.11.24-26	第84回日本臨床外科学会総会
「Guillain Barre 症候群加療中に発症した上腸間膜動脈症候群に対し、腹腔鏡下胃空腸吻合術が有効であった一例」 小嶋 大也、中西 保貴、出川佳奈子、守山 雅晃、伏谷 仁志、末永 尚浩、神部 宏幸、三木 晶森、 中西 宏貴、山岡 竜也、畑 啓昭、成田 匡大、山口 高史	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.12.04	研修医のための輸液セミナー
『術後輸液』の部屋「何をどれだけ どんな根拠で？」 畑 啓昭	
2022.12.08-10	第35回日本内視鏡外科学会総会
『保存的加療無効鼠径ヘルニア術後慢性疼痛症例に対する鏡視下再手術の成績と至適術式の提案』 成田 匡大	
2022.12.08-10	第35回日本内視鏡外科学会総会
『Inferior approach が有効であった十二指腸下行脚GISTの1切除例』 神部 宏幸、中西 保貴、畑 啓昭、三木 晶森、中西 宏貴、山岡 竜也、松末 亮、成田 匡大、 山口 高史	
2022.12.08-10	第35回日本内視鏡外科学会総会
『食道内に発育した有茎性の食道胃接合部癌に対し、経裂孔的切除を行った1例』 末永 尚浩、中西 保貴、畑 啓昭、出川佳奈子、守山 雅晃、小嶋 大也、伏谷 仁志、神部 宏幸、 三木 晶森、中西 宏貴、西川 元、山岡 竜也、成田 匡大、山口 高史	
2022.12.10	特別セミナー 日米のリーダーから学ぶ最新のSSI対策
『最近の外科に関わる感染症の話題』 畑 啓昭	
2022.12.17	第16回関西ヘルニア研究会
パネルディスカッション「私の困難症例：Painful inguinal hernia」 成田 匡大	
2022.12.17	第16回関西ヘルニア研究会
『Shouldice法から学んだ鼠径ヘルニア手術のコツ』 山岡 竜也	
2022.12.17	第16回関西ヘルニア研究会
『難治性ヘルニア術後メッシュ感染に対して手術加療で治療し得た一例』 伏谷 仁志	
2022.12.17	第16回関西ヘルニア研究会
『CPIPに対するメッシュ除去後鼠径部修復の有無の検討』 守山 雅晃、成田 匡大、出川佳奈子、伏谷 仁志、小嶋 大也、末永 尚浩、神部 宏幸、三木 晶森、 中西 宏貴、西川 元、中西 保貴、山岡 竜也、畑 啓昭、山口 高史	
2023.02.23-25	第95回日本胃癌学会総会
『Stage III胃癌術後補助化学療法中止例の臨床的特徴と治療成績』 中西 保貴、出川佳奈子、末永 尚浩、三木 晶森、佐治 雅史、大谷 哲之、畑 啓昭	
2023.02.23-25	第95回日本胃癌学会総会
『噴門部胃静脈瘤を伴った胃癌に対してロボット支援下噴門側胃切除術が有用であった1例』 三木 晶森、中西 保貴、出川佳奈子、末永 尚浩、佐治 雅史、畑 啓昭	
2023.02.23-25	第95回日本胃癌学会総会
『食道胃接合部癌化学放射線治療後潰瘍の心嚢穿破に対し保存的加療が有効であった一例』 出川佳奈子、中西 保貴、末永 尚浩、三木 晶森、畑 啓昭	
2023.03.27	秋田県周産期新生児医療研究会 第122回遠隔テレビ会議
『周術期医療における感染症とその対策』 畑 啓昭	

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

総説

COVID-19流行下での手術治療戦略

日本環境感染学会誌, 37, 5, 158-163, 2022.09.25, 日本環境感染学会

畑 啓昭, 佐治 雅史

総説

多施設共同後ろ向き研究における研究デザインと人材育成：京都食道胃手術勉強会での取り組み

日本外科学会雑誌, 123, 3, 286-293, 2022.05.01, 日本外科学会

藤田 悠介, 錦織 達人, 下池 典広, 村上 克宏, 門川 佳央, 伊丹 淳, 近藤 正人, 金谷誠一郎,
川田 洋憲, 畑 啓昭, 山本 道宏, 金城 洋介, 田中 英治, 間中 大, 佐藤 誠二, 岡部 寛,
山下 好人, 菱 貴嗣, 後藤 禎人, 中山 健夫, 川上 浩司, 田中 司朗, 久森 重夫, 角田 茂,
肥田 侯矢, 小濱 和貴

総説

総特集：鼠径部切開法を見直す Shouldice法

手術, 76, 6, 877-883, 2022.05.15, 金原出版

成田 匡大

原著論文

空腸腹壁固定を行った反復性胃切除術後空腸重責の1例

日本臨床外科学会雑誌, 83, 5, 883-890, 2022.05.25, 日本臨床外科学会

後藤健太郎, 畑 啓昭, 花田 圭太, 松末 亮, 成田 匡大, 山口 高史

解説

特集：消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドラインを検証する トピックス「消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドラインと諸外国のガイドラインとの比較」

日本外科感染症学会雑誌, 18, 5, 6, 389-395, 2022.05.26, 日本外科感染症学会

畑 啓昭, 後藤健太郎, 宗景 史晃, 三木 晶森, 末永 尚浩, 中西 保貴, 山口 高史

総説

第35回誌上ディベート 腹腔鏡下手術：体腔内吻合 vs 体腔外吻合 「体腔外吻合の立場から」

消化器外科, 45, 11, 1254-1258, 2022.11.10, へるす出版

中西 宏貴, 山口 高史, 松末 亮, 西川 元, 中西 保貴, 山岡 竜也, 畑 啓昭, 成田 匡大

総説

【専門医が行う感染症マネジメント】外科医が行う外科的感染症マネジメント

内科, 130, 6, 1103-1105, 2023.01.01, 南江堂

畑 啓昭, 出川佳奈子, 末永 尚浩, 佐治 雅史

解説

特集 新・外科感染症診療ハンドブック 総論「多職種による感染症合併症対策 (ICTとAST)」

臨床外科, 77, 13, 1433-1437, 2022.12.20, 医学書院

畑 啓昭

一般

感染界限 MyTopic 「手術中の煙で新型コロナウイルス感染症はうつるのか？」

INFECTION CONTROL, 32, 1, 78-80, 2023.01.01, メディカ出版

畑 啓昭

一般

疾患別・臨床事例の全診療行為 カルテ・レセプトの原風景 カルテ247 虫垂炎に対する治療の考え方

月刊保険診療, 77, 12, 82-84, 2022.12.10, 医学通信社

畑 啓昭

解説

1章 肝臓 6. 肝右葉切除

外科レジデントのための肝胆膵のベーシック手術, 64-81, 2023.02.10, 日本医事新報社

成田 匡大

原著論文以外

Safety assessment of robotic gastrectomy and analysis of surgical learning process : a multicenter cohort study

Gastric Cancer, 25, 4, 817-826, 2022, 2022.07

Norihiro Shimoike, Tatsuto Nishigori, Yoshito Yamashita, Masato Kondo, Dai Manaka, Yoshio Kadokawa, Atsushi Itami, Seiichiro Kanaya, Hisahiro Hosogi, Seiji Satoh, Hiroaki Hata, Takatsugu Kan, Hironori Kawada, Michihiro Yamamoto, Eiji Tanaka, Shigeru Tsunoda, Shigeo Hisamori, Koya Hida, Kentaro Ueno, Shiro Tanaka, Kazutaka Obama, Kyoto Esophageal and Gastric Surgery Study Group

原著論文以外

Comparison of Minimally Invasive Surgery with Open Surgery for Remnant Gastric Cancer : A Multi-institutional Cohort Study

Annals of Surgical Oncology, 2022, 2023.02

Ryuhei Aoyama MD, Shigeru Tsunoda MD, PhD, FACS, Ryosuke Okamura MD, PhD, FACS, Yoshito Yamashita MD, PhD, Hiroaki Hata MD, PhD, Yosuke Kinjo MD, PhD, Akira Miki MD, Seiichiro Kanaya MD, PhD, FACS, Michihiro Yamamoto MD, Koichi Matsuo MD, PhD, Dai Manaka MD, PhD, Eiji Tanaka MD, PhD, Hironori Kawada MD, PhD, Masato Kondo MD, FACS, Atsushi Itami MD, PhD, FACS, Takatsugu Kan MD, PhD, Yoshio Kadokawa MD, PhD, FACS, Tetsuo Ito MD, PhD, Kenjiro Hirai MD, PhD, Hisahiro Hosogi MD, PhD, Tatsuto Nishigori MD, PhD, FACS, Shigeo Hisamori MD, PhD, FACS, Nobuaki Hoshino MD, PhD, MPH, Koya Hida MD, PhD, ...Kazutaka Obama MD, PhD, FACS

原著論文以外

Long-term results of a phase 2 study of neoadjuvant chemotherapy with molecularly targeted agents for locally advanced rectal cancer

Int J Clin Oncol, 2022, 2023.02

Ryuhei Aoyama, Koya Hida, Suguru Hasegawa, Takashi Yamaguchi, Dai Manaka, Shigeru Kato, Masahiro Yamada, Satoshi Yamanokuchi, Takahisa Kyogoku, Akiyoshi Kanazawa, Kenji Kawada, Takashi Sakamoto, Saori Goto, Yoshiharu Sakai, Kazutaka Obama

乳 腺 外 科



専門医資格等
日本外科学会外科専門医
日本乳癌学会乳腺指導医
京都大学医学部臨床教授
京都大学博士（医学）

専門分野
乳腺（乳がん）

診療科長
加藤 大典

| スタッフ |

	氏 名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 師	山賀 郁	日本外科学会外科専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本乳癌学会乳腺専門医 検診マンモグラフィ読影認定医 京都大学博士（医学） 新リンパ浮腫研修修了	乳腺（乳がん）	

| 令和4年度の主な取組 |

認定施設

- ・日本乳癌学会認定施設
- ・遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設
- ・日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会再建実施施設認定

患者教室として「乳がん教室」の開催を開始し、患者教育に取り組んでいる

| 診療実績 |

入院患者数

	2022年度
1日平均患者数(名)	2.7
新入院患者数(名)	120
平均在院日数(日)	8.1

外来患者数

	2022年度
1日平均総患者数(名)	26.6

主な手術の件数(2022年度)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
乳癌手術(乳房数)	62	67	86	103
温存手術(乳房数)	20	30	43	55
乳房同時再建	4	0	3	0
HBOC乳房リスク低減手術	0	0	1	1

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
演題名等 / 演者(下線は当院所属)	
2022.06.30	第30回日本乳癌学会学術総会
	「患者さんのための乳がん診療ガイドライン」を使った患者教室による啓発活動 加藤 大典、山賀 郁
2022.06.30	第30回日本乳癌学会学術総会
	「体組成計を用いた乳がん術後上肢リンパ浮腫の評価」 山賀 郁、加藤 大典
2022.12.03	第20回日本乳癌学会近畿地方会
	「再発乳癌患者におけるエベロリムス薬物動態に基づく投与量漸増の試み」 出川佳奈子、加藤 大典、山賀 郁

整形外科



専門医資格等
 日本専門医機構
 認定整形外科専門医
 日本整形外科学会
 認定運動器
 リハビリテーション医
 京都大学医学部臨床教授
 京都大学博士（医学）

専門分野
 人工股関節

診療科長
山田 茂

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	山本 博史	日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定リウマチ医 日本整形外科学会認定スポーツ医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医 日本手外科学会専門医 日本マイクロサージャリー学会評議員 日本肘関節学会評議員 京都大学博士（医学）	マイクロサージャリーによる組織再建	上肢・手の外科、四肢外傷
医 長	向井 章悟	日本専門医機構認定整形外科専門医 日本体育協会公認スポーツドクター 京都大学博士（医学）	関節鏡視下手術、スポーツ整形外科、小児整形外科	
医 長	宮田 誠彦	日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医 日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄病医 日本専門医機構認定整形外科専門医 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医 京都大学博士（医学）	脊椎外科	
医 師	坪内 直也	日本専門医機構認定整形外科専門医	脊椎外科、整形外科一般	
医 師	中山 雄介	日本専門医機構認定整形外科専門医 日本体育協会公認スポーツドクター	膝関節、外傷、骨粗鬆症	
医 師 (育児休業)	南 良輔 2022年10月20日から	日本専門医機構認定整形外科専門医	人工股関節	
専 攻 医	中村 亮太 2022年6月30日まで		整形外科一般	
専 攻 医	高橋 基		整形外科一般	
専 攻 医	樋 謙作			
専 攻 医	笹原慎太郎 2022年10月1日から			

令和4年度の主な取組

整形外科には複数のサブスペシャリティがあります。

脊椎部門は専門医二人体制で外来日、手術日を増やし、ハイブリッド手術室稼働で難易度の高い手術も安全に行えるようになりました。

膝は靭帯再建術や、関節温存手術、人工関節置換術などを行います。後者は従来の全置換のみならず、低侵襲の単類型人工関節も行うようになりました。

肩は鏡視下手術や専門資格が必要な特殊な人工関節置換術も行います。

手外科およびマイクロサージェリーの技術により手指機能再建や末梢神経関連の複雑な手術も行います。

人工股関節置換術には一定の成果があります。

このように的確な診断と高い技術が要求される難易度の高い疾患分野を扱っていることが大病院の整形外科の証であると思っております。

骨折などの外傷についても広い分野をカバーしております。

診療実績

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	43.5	33.9
新入院患者数(名)	640	565
平均在院日数(日)	23.4	20.7

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	77.3	62.5

主な術式別手術件数(2022年度)

頸椎手術	26件	人工膝関節置換	37件
胸腰椎手術	71件	骨接合術	226件
人工股関節置換	56件	腱・靭帯手術	20件
人工骨頭置換	42件		

学術活動報告(学会・研究発表など)

発表年月日	発表学会
2022.02.11-12	第34回日本肘関節学会学術集会
	演題名等 / 演者(下線は当院所属)
	「砂時計様くびれによる橈骨神経麻痺の手術適応についての一考」 山本 博史、向井 章悟、中川 泰彰
2022.02.18-19	第34回日本軟骨代謝学会
	「高吸収グルクミン1年間内服による臨床効果と軟骨保護作用の検討」 中川 泰彰、森 浩二、山田 茂、向井 章悟、廣瀬 晶子、中村 亮太
2022.04.21-22	第51回日本脊椎脊髄病学会学術総会
	「腰椎椎弓根 screw 刺入点は副突起周囲のどこに位置するか?—3D シミュレーションソフトウェアによる解剖学的検討—」 坪内 直也、宮田 誠彦、向井 章悟、山田 茂、中川 泰彰

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.04.21-22	第51回日本脊椎脊髄病学会学術総会
[頸椎症性脊髄症における屈曲位K-line (-) と後方除圧術後の頸椎前彎減少 中間位K-line (+) から (-) に転じるリスクの評価]	
宮田 誠彦、坪内 直也、向井 章悟、山田 茂、中川 泰彰	
2022.05.19-22	第95回日本整形外科学会学術総会
[膝軟骨損傷の術前MRI診断はどこまで可能か。]	
中川 泰彰、山田 茂、山本 博史、向井 章悟、宮田 誠彦、坪内 直哉、南 良輔、坂井沙也子、新屋 祐希、中村 亮太、高橋 真	
2022.05.19-22	第95回日本整形外科学会学術総会
[膝骨軟骨疾患に対する自家骨軟骨移植術で正座はどこまで可能となるか]	
中川 泰彰、山田 茂、山本 博史、向井 章悟、宮田 誠彦、坪内 直哉、南 良輔、坂井沙也子、新屋 祐希、中村 亮太、高橋 真	
2022.05.19-22	第95回日本整形外科学会学術総会
[病巣部面積4cm ² 以上の膝軟骨損傷における自家骨軟骨移植術の治療成績]	
高橋 真、中川 泰彰、山田 茂、山本 博史、向井 章悟、宮田 誠彦、坪内 直哉、南 良輔、坂井沙也子、新屋 祐希、中村 亮太	
2022.05.28	第34回西整医病診連携の会
[Degloved hand]	
山本 博史	
2022.06.16-18	JOSKAS-JOSSM 2022
[Suture buttonを用いたPCL付着部裂離骨折鏡視下固定術2例の小経験]	
向井 章悟、中川 泰彰	
2022.06.16-18	第14回日本関節鏡膝スポーツ整形外科学会
[膝関節の自家骨軟骨移植術における長期経過後の再鏡視像]	
高橋 真、中川 泰彰、向井 章悟、新屋 祐希、中村 亮太	
2022.06.24-25	第48回日本骨折治療学会学術集会
[開放骨折の感染を拡大させないためのデブリドマン—その質を高めるための模索]	
山本 博史、中村 亮太	
2022.06.24-25	第48回日本骨折治療学会学術集会
[手根中手関節脱臼骨折治療の診断と治療のpitfall]	
中村 亮太、山本 博史	
2022.11.12-13	第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会
[コロナ禍における少年野球の練習時間と投球障害発生の関係について]	
向井 章悟、中川 泰彰、中村 亮太、井上 直人、横田 尚子、木下 和昭	
2023.02.11	第115回京都整形外科懇話会
[Degloving injuryの3例]	
山本 博史、山田 茂、向井 章悟、宮田 誠彦、坪内 直也、中山 雄介、樋 謙作、笹原慎太郎、高橋 基	
2023.02.03-04	第35回日本肘関節学会学術集会
[肘関節内骨折に対する経肘頭的アプローチの有効性と限界]	
山本 博史、向井 章悟	
2023.03.03-04	第35回日本軟骨代謝学会
[生体膝における関節軟骨の超音波利用による力学的特性診断—変制度や年齢との比較—]	
中川 泰彰、森 浩二、向井 章悟、山田 茂	

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

膝軟骨損傷の術前MRI診断はどこまで可能か

映像情報 Medical, 54, 9, 26-29, 2022.08, 産業開発機構映像情報メディカル編集部

中川 泰彰, 山田 茂, 山本 博史, 向井 章悟, 宮田 誠彦, 坪内 直哉, 南 良輔, 坂井沙也子,
新屋 祐希, 中村 亮太, 高橋 真

原著論文

上腕二頭筋麻痺で肘屈曲がMMT4である症例

臨床整形外科, 57, 11, 1369-1373, 2022.11, 医学書院

山本 博史, 中川 泰彰, 向井 章悟

原著論文

砂時計様くびれを認めた橈骨神経麻痺に対する神経剥離術の成績—2例報告と文献的考察

日本肘関節学会雑誌, 29, 2, 256-260, 2022

山本 博史, 向井 章悟, 中川 泰彰

原著論文

小学軟式野球選手における超音波検査かつX線や、CT, MRI所見で認められた肘障害の因子～1年前の検診結果から～
日臨スポ会誌, 30, 2, 468-474, 2022

木下 和昭, 中川 泰彰, 向井 章悟, 井上 直人, 横田 尚子, 橋本 雅至

原著論文

自家骨軟骨移植術でのドナー採取不可能例は術前診断ができるか？

JOSKAS, 47, 510-513, 2022

中川 泰彰, 向井 章悟

原著論文

膝軟骨損傷の術前MRI診断はどこまで可能か。

映像情報 Medical, 54, 9, 26-29, 2022

中川 泰彰, 山田 茂, 山本 博史, 向井 章悟, 宮田 誠彦, 坪内 直哉, 南 良輔, 坂井沙也子,
新屋 祐希, 中村 亮太, 高橋 真

原著論文

大腿骨滑車部離断性骨軟骨炎のX線所見の検討

日臨スポ会誌, 30, 643-648, 2022

新屋 祐希, 中川 泰彰, 向井 章悟, 前田 峻宏, 里見健太郎, 中村 亮太

原著論文

前腕切断に対する再接着術の予後決定因子

整形外科, 74, 3, 209-214, 2023

山本 博史, 藤田 俊史

原著論文

The oral administration of highly-bioavailable cur cumin for one year has clinical chondro-protective effects
Arthroscopy, Sports Medicine, and Rehabilitation, 4, 2, pp e393-e402, 2022.04

Yasuaki Nkagawa, Koji Mori, Shigeru Yamada, Shogo Mukai, Akiko Hirose, Ryota Nakamura

原著論文

Reoperation for Misplaced Pedicle Screws : A Multicenter Retrospective Study

Spine (Phila Pa 1976), 47, 21, 1525-1531, 2022.11

Seiichi Odate, Shunsuke Fujibayashi, Bungo Otsuki, Jitsuhiko Shikata, Naoya Tsubouchi,
Ryosuke Tsutsumi, Masato Ota, Kanba Yusuke, Hiroaki Kimura, Eijiro Onishi, Shimei Tanida, Hideo Ito,
Tatsuya Ishibe, Shuichi Matsuda

原著論文

Neurological severity evaluation using magnetic resonance imaging in

International Orthopaedics, 46, 10, 2347-2355, 2022.10

Shintaro Honda 1, Shunsuke Fujibayashi 2, Takayoshi Shimizu 2, Naoya Tsubouchi 3, Yusuke Kanba 4,
Takashi Sono 5, Hiroaki Kimura 6, Seichi Odate 7, Eijiro Onishi 8, Yasuyuki Tamaki 9,
Takuya Tomizawa 10, Ryosuke Tsutsumi 11, Ko Yasura 12, Koichi Murata 2, Bungo Otsuki 2,
Shuichi Matsuda 2

原著論文

Autologous osteochondral grafts result in improved clinical outcomes in patients with early knee
osteoarthritis

ASMAR, 4, 2, e713-719, 2022

Nakagawa Y, Mukai S, Nishitani K, Murata, S, Satomi K, Shinya Y, Nakamura R

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

〔原著論文〕

Radiological osteoarthritic knee joint changes in high school and collegiate sumo wrestlers—The observational study—

Medicine, 101, 37, e30642, 2022.09

Nakagawa Y, Mukai S, Minami K, Hattori Y, Yamagishi, H, Nakamura R

〔原著論文〕

The effects of alendronate on the uppression of bone resorption and the promotion of cartilage formation in the human mosaicplasty donor site : a randomized, double-blind, placebo-controlled prospective study
J Orthop Sci, 27, 4, 835-843, 2022

Nakagawa Y, Mukai S, Mori K, Yabumoto H, Nakamura R, Shinya Y.

〔原著論文〕

Intraoperative acoustic evaluation of living human knee cartilage—comparison with respect to cartilage degeneration and aging—

Cartilage 2023, 19476035231154509., 2023.02

Nakagawa Y, Mori K, Mukai S, Shinya Y, Nakamura R, Takahashi M.

形成外科



医長
海透 修子

専門医資格等
日本形成外科学会専門医
日本創傷外科学会専門医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定産業医

専門分野
形成外科一般

得意疾患
外傷
熱傷
眼瞼下垂
乳房再建

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	尹 庸	日本形成外科学会専門医 日本医師会認定産業医	形成一般	足、レーザー
医師	松田 翔太	日本形成外科学会専門医	形成一般	眼瞼下垂、 皮膚悪性腫瘍
非常勤医	荒田 順	日本形成外科学会評議員・形成外科専門医 日本手外科学会代議員・手外科専門医 日本創傷外科学会専門医 小児形成外科分野指導医 再建・マイクロサージャリー分野指導医 レーザー分野指導医 乳房再建用エキスパンダー・インプラント責任医師 日本体育協会公認スポーツドクター 滋賀医科大学病院教授 京都大学医学部臨床教授 京都大学博士(医学)		手外科、眼瞼形成、 レーザー、再建外科

| 令和4年度の主な取組 |

眼瞼下垂症手術の一泊二日入院を推奨しています。

眼瞼下垂症は術後の腫れによる視界の不良や、特に高齢の患者さんでは自己処置が困難であることが多いため、入院で手術を受けていただくことで、より安心して安全な医療を提供して参ります。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	7.9	9.2
新入院患者数(名)	284	284
平均在院日数(日)	9.8	11.4

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	21.2	18.4

主な術式別手術件数(2021年度)

外傷	176件	難治性潰瘍	80件
先天異常	43件	炎症、変性疾患	47件
腫瘍	585件	レーザー	337件
瘢痕、ケロイド	72件	その他	78件

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名等 / 演者(下線は当院所属)	発表学会
2022.03.12 (座長) 海透 修子	第140回関西形成外科学会学術集会
2022.04.20-22 [外陰部に発生したAngiomyofibromaの一例] 松田 翔太、荒田 順、鈴木 茉友、海透 修子、尹 庸、山下 輝世	第66回日本形成外科学会学術集会
2022.07.14-15 [小児における金属製フォークによる眼窩内刺創の一例] 海透 修子、荒田 順、尹 庸、松田 翔太	第14回日本創傷外科学会学術集会

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者(下線は当院所属)
(総説) 糖尿病性足病変の感染症対策—IWGDFの国際ガイドラインから— 糖尿病プラクティス, 39, 4, 414-418, 2022.07.08, 医歯薬出版 尹 庸、荒田 順、海透 修子、松田 翔太、河野 茂夫

脳神経外科



専門医資格等
 日本脳神経外科学会
 脳神経外科専門医
 日本脳卒中学会
 脳卒中専門医・指導医
 日本脳卒中の外科学会
 技術指導医
 京都大学博士（医学）
 京都大学医学部臨床教授・
 非常勤講師

専門分野
 脳血管障害
 頭蓋底外科
 良性脳腫瘍
 聴神経腫瘍

脳神経センター長
 診療科長
 がんセンター
 脳腫瘍ユニット長
 臨床研究センター
 血管障害室長
福田 俊一

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	土井 健人	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医 日本脳卒中学会脳卒中専門医 日本神経内視鏡学会技術認定医 日本脳神経血管内治療学会脳血栓回収療法実施医	脳神経外科	脳血管障害、 脳腫瘍
医師 (育児休業)	岸田 夏枝 2022年5月8日から	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医 日本脳卒中学会脳卒中専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医 日本医師会認定産業医 京都大学博士（医学）	脳卒中外科	脳血管内手術
医師	牧野 恭秀	日本脳神経外科脳神経外科専門医 日本脳腫瘍学会脳腫瘍診療ガイドライン システムティックレビュー委員 日本脳神経血管内治療学会脳血栓回収療法実施医 京都大学博士（医学）	脳腫瘍	脳腫瘍、脳血管障 害、脊椎脊髄疾患
医師	足立 拓優			

| 令和4年度の主な取組 |

令和4年4月に待望の脳血管内手術の専門医資格を有する足立先生が赴任されました。3年度後半に在籍していた住吉先生は3年度末で異動され、残念ながら脳神経外科は2名欠員のままで4年度もやりくりすることになりました。岸田先生は1年間育休であったため、定員7名のところを実質4名での診療体制となりました。

足立先生に来ていただいたことで、血管内手術の件数は激増し、たとえば脳動脈瘤コイル塞栓術は、令和3年の6件/年から30件/年に増加しました。COVID-19の影響で件数が低下していた直達手術に関しても回復傾向が見られ、脳動脈瘤クリッピング術は6件/年から16件/年に増えました。脳腫瘍手術に関しては、もともと京都府下の市中病院の中ではトップを守ってきましたが、令和4年もこれを維持できました。

2021年12月に導入されたハイブリッド手術室によって難易度の高い脳動脈瘤手術や脳動静脈奇形摘出術の手術をより安全に早く施行することができるようになりました。術中CT撮像が可能でありことから、最新手術用顕微鏡カールツァイス社キネポ900と術中ナビゲーション装置Curve2を連動させることで、病変や周囲の重要な組織などの位置をより正確に把握できるようになりました。令和4年度には脳腫瘍手術におけるナビゲーションシステムの利用や、脳動静脈奇形などにおける術中脳血管撮影を伴う摘出術など、ハイブリッド手術室を大いに活用しました。

当科では、脳卒中を中心とした複数のNHO共同臨床研究を研究代表施設として施行してきました。令和4年度には、土井医師が研究代表である「急性期BAD型脳梗塞に対する抗血栓療法の種類と神経学的予後に関する前向き探索研究」が採択されました。また、「計算流体力学（CFD）解析を用いた内頸動脈狭窄症における血行力学的因子の役割研究」（Carotid CFD Study）の解析結果を論文報告し、「脳動脈瘤の増大およびコイル塞栓術後再発におけるパロキセチンの抑制効果の後ろ向き検討」の結果報告を複数の主要学会で報告しました。臨床研究センターでは、2つ科研費を資金源として、脳血管障害に関する動物実験を行いました。循環器内科と共同で機械学習を利用した論文も2本報告しました。

当科は、京大脳外科関連施設の中でもmajor surgeryの比率が高く、入院症例における手術症例の比率が高い傾向にあることから、症例あたりの入院単価が高いという特徴があります。4年度も入院1日単価は増加傾向にあり、平均在院日数は減少傾向、いまだ低いものの入院期間Ⅱ以内退院率も上昇傾向にあり、おおむね良好な経過でした。今後も単価の高い脳腫瘍や脳血管障害手術症例を中心に症例を集めていく方針です。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	17.6	15.1
新入院患者数（名）	284	276
平均在院日数（日）	20.8	18.3

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数（名）	22.9	21.7

主な手術件数（2022年度）

脳血管障害	脳動脈瘤クリッピング術	16件
	頸動脈内膜剥離術（CEA）	5件
	脳動静脈奇形摘出術	1件
	浅側頭動脈-中大脳動脈バイパス術	6件
	ハイフロー・バイパス術	1件
	脳内出血摘出術	7件
開頭脳腫瘍摘出術	神経膠腫	9件
	髄膜腫	8件
	転移性脳腫瘍	1件
	その他の脳腫瘍	5件
経蝶形骨洞手術	下垂体腫瘍	4件
外傷性頭蓋内血腫摘出術		6件
神経減圧術（顔面痙攣等）		4件
神経内視鏡手術		1件
脊椎・脊髄手術	脊髄腫瘍摘出術	1件
	脊椎症・ヘルニア手術	2件
シャント手術		7件
穿頭術		34件
脳血管内手術	脳動脈瘤コイル塞栓術	30件
	血管形成術（CAS）	4件
	脳血栓回収術	17件
	脳動静脈奇形塞栓術	0件
	脳動静脈瘻塞栓術	2件
	脳腫瘍血管塞栓術	4件
その他の手術	その他の開頭術	2件
	その他	5件
合計		182件

学術活動報告（学会・研究発表など）

発表年月日	発表学会
2022.09.28	日本脳神経外科学会第81回学術総会
「血流感知阻害薬パロキセチンの脳動脈瘤コイル塞栓術後再開通抑制効果について Drug for aneurysm study」 福田 俊一、丹羽 陽子、連 乃駿、福田 美雪、飯原 弘二	
2022.12.02	第41回東海クモ膜下出血研究会
「血行力学的アプローチによる脳動脈瘤コイル塞栓術後の再開通予防薬開発について」 福田 俊一	
2023.02.10	International Stroke Conference 2023
「The P2X4 Inhibitor, Paroxetine Dramatically Prevents Not Only Growth Of Unruptured Cerebral Aneurysms But Also Recanalization After Aneurysm Coil Embolization ; A Retrospective Clinical Study, Drug For Aneurysm Study」 Shunichi Fukuda, Youko Niwa, Naohiro Yonemoto, Nice Ren, Koji Iihara, NHO Drug for aneurysm study group	

発表年月日 発表学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属)

2023.03.16 STROKE2023

「Drug for aneurysm Study解析結果：血流感知阻害薬パロキセチンの未破裂脳動脈瘤増大抑制効果について」
福田 俊一、丹羽 陽子、連 乃駿、福田 美雪、飯原 弘二

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

Pretreatment with perlecan-conjugated laminin-E8 fragment enhances maturation of grafted dopaminergic progenitors in Parkinson's disease model

Stem Cell Translational Medicine, 11, 7, 767-777, 2022.07

Hiromasa Adachi, Asuka Morizane, Sadaharu Torikoshi, Fabian Raudzus, Yukimasa Taniguchi,
Susumu Miyamoto, Kiyotoshi Sekiguchi, Jun Takahashi

原著論文

Hemodynamic Risk Factors for the Development of Carotid Stenosis in Patients with Unilateral Carotid Stenosis.

World Neurosurg, 160, e353-e371, 2022.04

Fukuda S, Shimogonya Y, Yonemoto N, Fukuda M, Watanabe A, Fujiwara K, Enomoto R, Hasegawa K,
Yasoda A, Tsukahara T ; NHO Carotid CFD Study Group.

原著論文

Predicting cerebral infarction in patients with atrial fibrillation using machine learning : The Fushimi AF registry.

J Cereb Blood Flow Metab, 42, 5, 746-756, 2022.05

Nishi H, Oishi N, Ogawa H, Natsue K, Doi K, Kawakami O, Aoki T, Fukuda S, Akao M,
Tsukahara T ; Fushimi AF Registry investigators.

原著論文

Machine Learning Risk Prediction for Incident Heart Failure in Patients With Atrial Fibrillation.

JACC Asia, 2, 6, 706-716, 2022.11

Hamatani Y, Nishi H, Iguchi M, Esato M, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Ogawa H, Abe M, Fukuda S,
Akao M ; Fushimi AF Registry Investigators.

血管外科



診療科長
浅田 秀典

専門医資格等
心臓血管外科専門医
日本外科学会専門医
日本脈管学会評議員
旭川医科大学医学博士

専門分野
血管外科（閉塞性動脈硬化症、
動脈瘤、急性動脈閉塞、血管炎、
血管外傷に対する各種血行再建
術）静脈、リンパ疾患

令和4年度の主な取組

診療科の特徴

- あらゆる診療科や地域医療機関で直面した血管疾患の問題に迅速に対応してまいります。
- 患者さんには診療内容に対する十分な説明と満足な治療成果が得られるよう努力いたします。
2006年（平成18年）4月に発足した、主に末梢動脈疾患に対する血行再建を担当する診療科です。
近年、糖尿病や腎不全による慢性透析患者さんが増加するとともに、閉塞性動脈硬化症例（ASO）が増加しています。
閉塞性動脈硬化症とは、動脈硬化による下肢血流障害により各種症状（歩行時の下肢の痛み、安静時の足の痛みおよび足部潰瘍・壊死）を生じ、最終的には下肢切断にも至る疾患です。
このような症例には、迅速な診断とともに適切な治療が必要で、時には技術的に困難とされる足関節周囲への末梢バイパス手術と適切な局所処置が必要となります。
当科は、京都では数少ない血管外科専門科として日々下肢血流障害の治療にあたっています。
患者さんの多くは動脈硬化性の全身合併症があり、術前評価には循環器内科、脳神経外科、また、術前後には麻酔科はもちろん、糖尿病内科、腎臓内科、形成外科、整形外科、皮膚科などとの協力が必要で、各科連携した総合的診療を心がけています。

主な対象疾患

大動脈疾患（腹部大動脈瘤、大動脈解離など）
閉塞性動脈硬化症（糖尿病合併症例、慢性透析例を含む）
閉塞性血栓性血管炎（パージャール病）
急性動脈閉塞症（血栓症、塞栓病、外傷など）
下肢静脈瘤、静脈（鬱滞）性潰瘍
深部静脈血栓症、肺塞栓症
リンパ浮腫
血管内治療（動・静脈閉塞性疾患、動脈瘤）
内シャント（blood access）作成

診療（業務）内容

外来診療は、月、水の午前・午後、木曜日午前中の週3日間実施しております。

心疾患、脳疾患、糖尿病、腎臓病などの併存症を持っている方でも院内全体の診療科が協力し、安全で安心できる治療を行っています。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	7.3	7.4
新入院患者数（名）	186	207
平均在院日数（日）	14.2	13

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数（名）	9.6	9.4

主な手術・検査の件数（2022年度）

下肢末梢動脈手術	43件	下肢静脈瘤手術	1件
腹部大動脈瘤置換術	10件	四肢カテーテル治療	62件
透析内シャント作成術	73件	四肢動脈造影検査	79件

心 臓 外 科



副院長
診療部長 (医療安全担当・
医療技術担当併任)
診療科長
白神 幸太郎

専門医資格等

三学会構成心臓血管外科
専門医認定機構認定
心臓血管外科専門医・
修練指導者
日本外科学会認定
外科専門医
京都大学医学部臨床教授
京都大学医学部非常勤講師
日本医療機能評価機構認定
医療クオリティマネージャー
日本医療メディエーター協会
認定医療メディエーター
(医療対話推進者)
産業医

専門分野

成人心臓大血管手術

| スタッフ |

	氏 名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	片岡 剛	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定 心臓血管外科専門医・修練指導者 日本外科学会認定外科専門医 日本脈管学会認定脈管専門医・指導医	成人心臓大血管 疾患	成人心臓大血管手 術および周術期管 理、血管内治療
医 長	幾野 毅	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定 心臓血管外科専門医・修練指導者 日本外科学会認定外科専門医 京都大学博士 (医学)	成人心臓大血管 手術	

| 令和4年度の主な取組 |

2022年度総括

2022年手術件数は、虚血性心疾患手術20例（冠動脈バイパス術18例、うち人工心肺非使用1例）、心臓弁膜症手術26例（うちメイズ手術併施4例、単弁22例、二弁3例、三弁1例）、胸部大動脈手術14例（急性解離6例、ステントグラフト留置術TEVAR2例）、腹部大動脈ステントグラフト留置術EVAR10例であった。

新たな治療方法として、2022年よりハートチームとして経カテーテル的大動脈弁移植術TAVIを開始し、2022年度は9例を施行した。また外科的大動脈弁置換術においてもスーチャーレス大動脈弁の適用を開始し手術侵襲の低減に努めた。その他新たな手術術式として三尖弁に対する spiral suspension 法による形成術、ステントグラフト開窓を行うオープンステントグラフト法などを導入し、良好な成績を上げることができた。

手術死亡は1例で大動脈弁閉鎖不全症と上行大動脈瘤に対して上行大動脈置換術及び大動脈弁置換術を施行し、術後3日目に突然の右冠動脈閉塞による急性心筋梗塞を発症し救命できなかった症例である。術後大動脈解離が疑われた。

以下に、日本心臓血管外科手術データベースによる予測死亡率、死亡を含む有害イベント予測発生率を実測値と比較する。胸部大動脈手術で1例の死亡症例を認めたもののおおむね良好な成績が維持できている。

	実測死亡率	予測死亡率	有害イベント 実測発生率	有害イベント 予測発生率
冠動脈手術	0%	3.92%	0%	15.88%
心臓弁膜症手術	0%	6.30%	0%	20.65%
胸部大動脈手術	7.14%	8.63%	21.43%	34.55%

今後の課題

当科では低侵襲心臓治療の拡充に向けて2023年度のMICS：Minimally Invasive Cardiac Surgeryの導入を計画している。導入当初のlearning curveの時期に患者安全に留意しつつ手術成績を維持したい。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	4.4	5.3
新入院患者数(名)	55	81
平均在院日数(日)	24.5	22.8

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	4.8	12.9

主な手術・検査の件数(2022年度)

冠動脈バイパス術	18件	胸部大動脈ステントグラフト留置術	2件
弁膜症手術	26件	腹部大動脈ステントグラフト留置術	1件
胸部大動脈手術	12件		

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
2022.07.09	第25回日本医療マネジメント学会
	「病院目標としての平均在院日数短縮に寄与したクリティカルパス活動について」 東野 和美、白神幸太郎
2022.07.09	第25回日本医療マネジメント学会
	「プレアボイド報告増加に向けた薬剤部の取り組みによる医薬品適正使用の推進」 小原 直紘、土井 敏行、白神幸太郎
2022.09.03	第61回京滋心臓血管外科研究会
	「Spiral suspension法を施行したsevere TRの一例」 幾野 毅、片岡 剛、白神幸太郎
2023.01.21	第11回東海医療安全研究会
	「特別講演：ハイリスク診療におけるコミュニケーションー心臓外科医と医療安全ー」 白神幸太郎

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2023.02.04 「慢性期心室中隔穿孔に対して心室中隔穿孔閉鎖術、左室形成術（オーバーラッピング法）を施行した一例」 片岡 剛、幾野 毅、白神幸太郎	第62回京滋心臓血管外科研究会
2023.03.23 「虚血によるかたい切断後の創治癒不全に対して、バイパスによる血行再建で治癒した2例」 片岡 剛、浅田 秀典、幾野 毅、白神幸太郎	第53回日本心臓血管外科学会
2023.03.23 「CLTIに対して人工血管を併用したdistal bypassは有用か」 浅田 秀典、片岡 剛、幾野 毅、白神幸太郎	第53回日本心臓血管外科学会

皮膚科



診療科長
十一 英子

専門医資格等

日本皮膚科学会皮膚科専門医
京都大学博士（医学）
京都大学医学部臨床教授
京都皮膚科医会理事

専門分野

皮膚科一般
皮膚免疫

得意疾患

乾癬
掌蹠膿疱症
糖尿病足病変

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	小阪 志帆 2023年3月1日まで	日本皮膚科学会皮膚科専門医	皮膚科一般	
医師	辻花光次郎 2023年1月1日から		皮膚科一般	
専攻医	高本 一盛		皮膚科一般	
専攻医	米倉 慧	パリ・サクレ大学博士（医学）	皮膚科一般	

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本皮膚科学会専門医研修施設
- ・生物学的製剤使用承認施設

診療科の特徴

1. 乾癬、アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹、掌蹠膿疱症に対して生物学的製剤による治療を行っています。
2. 糖尿病、悪性腫瘍など基礎疾患を持つ蜂窩織炎、帯状疱疹などの感染症や難治性潰瘍など、総合病院の特色を生かして他科と密に連携して治療しています。
3. 地域の他病院から紹介された診断困難な症例、難治例、重症例なども多く受け入れています。

主な対象疾患

尋常性乾癬、乾癬性関節炎、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、うっ滞性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、水疱症、細菌感染症（ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、伝染性膿痂疹、など）、ウイルス感染症（帯状疱疹、単純疱疹、カポジ水痘様発疹症、尋常性疣贅など）、真菌感染症（足白癬、股部白癬、爪白癬、カンジダ症など）、皮膚潰瘍、皮膚腫瘍など

診療（業務）内容

乾癬：治療が急速に進展し、難治の皮疹や関節炎のため生物学的製剤の治療を受ける患者さんが増えており、スクリーニング検査を行い適応を決め、投与しています。

掌蹠膿疱症：病巣感染などの検索を行って治療しています。生物学的製剤を使用する場合があります。

アトピー性皮膚炎：

外用剤や免疫抑制剤内服で十分改善しない場合、生物学的製剤の治療を行っています。

蕁麻疹：抗アレルギー剤内服で効果不十分な場合、生物学的製剤の治療を行っています。

糖尿病に合併する皮膚疾患：

糖尿病と関連した難治性足潰瘍や皮膚病変を、糖尿病科、形成外科、血管外科、整形外科、循環器科などと連携して診療しています。

帯状疱疹（ヘルペス）：重症度に応じて、抗ウイルス剤の内服、或いは入院で点滴治療を行っています。

爪白癬：難治な爪の水虫には抗真菌剤の内服治療を行っています。

接触皮膚炎：かぶれの原因検索に、パッチテストを行っています。

薬疹：重症薬疹は入院で治療しています。

水疱症：天疱瘡の中等症以上では血漿交換療法や免疫グロブリン大量療法を行っています。

診断・治療のために積極的に皮膚生検を行っています。

診療実績

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	3.5	3.7
新入院患者数（名）	54	42
平均在院日数（日）	25.7	30

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数（名）	54.2	55.4

主な手術・検査の件数（2022年度）

皮膚生検	213件	皮膚皮下腫瘍摘出術	29件
皮膚切開術	38件	皮膚悪性腫瘍摘出術	9件

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	
2022.12.17	第478回 日本皮膚科学会京滋地方会
「デュピルマブで増悪した慢性光線性皮膚炎の1例」	
米倉 慧、高本 一盛、小阪 志帆、十一 英子	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

(原著論文)

乾癬性関節炎に対しイキセキズマブ投与中にCOVID-19感染をおこした例.
皮膚病診療, 44, 4, 298-300, 2022.04.01, 協和企画
飯岡 孝英、足立 晃正、野々村優美、十一 英子

(その他)

掌蹠膿疱症診療の手引き2022.
日本皮膚科学会雑誌, 132, 9, 2055-2113, 2022.08.20, 日本皮膚科学会
照井 正、小林 里美、山本 俊幸、大久保ゆかり、阿部名美子、井汲 菜摘、石井まどか、伊藤 明子、
梅澤 慶紀、金蔵 拓郎、川上 洋、岸部 麻里、黒木 香奈、車谷 紋乃、河野 通良、清水 忠道、
辻 成佳、十一 英子、中村 元樹、西田 絵美、葉山 惟大、平野 宏文、藤澤 大輔、藤城 幹山、
藤田 英樹、松本 由香

(原著論文)

骨変形をきたさずに治療し得たシャルコー足の1例.
皮膚科の臨床, 64, 9, 1584-1588, 2022.08.01, 金原出版株式会社
岡本奈都子、河野 茂夫、十一 英子

(原著論文)

美容師の職業性アレルギー性接触皮膚炎—パッチテストでインシアゾリノンミックスに陽性反応を示した1例—.
皮膚科の臨床, 64, 11, 1797-1801, 2022.10.01, 金原出版株式会社
渋谷 真美、猪上 奈奈、岡本奈都子、十一 英子

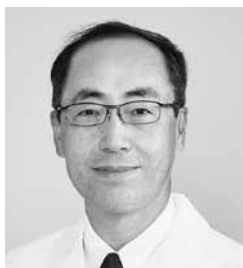
(原著論文)

静脈高血圧症による手指の皮膚潰瘍.
Visual Dermatology, 22, 2, 120-122, 2023.01.25, 秀潤社
野々村優美、浅田 秀典、十一 英子

(原著論文)

前胸部皮下に炎症性腫瘤を生じた掌蹠膿疱症の1例
皮膚科の臨床, 65, 3, 373-377, 2023.03.01, 金原出版株式会社
飯岡 孝英、岡本奈都子、渋谷 真美、十一 英子

泌尿器科



診療部長
(外科系担当)
科長
奥野 博

専門医資格等

日本泌尿器科学会
専門医・指導医
日本泌尿器科内視鏡学会
代議員
日本生殖医学会評議員
日本アンドロロジー学会
評議員
がん治療認定医
日本内視鏡外科学会
技術認定医
日本泌尿器内視鏡学会
腹腔鏡技術認定医

日本泌尿器内視鏡学会
ロボット支援手術プロク
ター（前立腺・腎・膀胱）
AMS社認定PVPトレーナー
INTUITIVE社認定
ダ・ヴィンチコンソール術者
京都大学博士（医学）
京都大学医学部臨床教授
関西医科大学臨床教授
京都府医師会前立腺がん検診
委員長
京都泌尿器科医会会長

専門分野

泌尿器科一般

得意疾患

ロボット支援手術
前立腺癌
男性学

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	三品 睦輝	日本泌尿器科学会専門医・指導医 がん治療認定医 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール術者 京都大学博士（医学）	泌尿器科一般	膀胱癌 尿路結石症
医 師	宮崎 有	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医 がん治療認定医 臨床研修指導医 INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール術者	泌尿器科一般	前立腺癌 泌尿器科腫瘍 尿路結石症
医 師	三浦 高慶	日本泌尿器科学会専門医 INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール術者 日本DMAT隊員 臨床研修指導医	泌尿器科一般	泌尿器病理
医 師	早田 直生	INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール術者	泌尿器科一般	
専 攻 医	渡邊 岳之	INTUITIVE社認定ダ・ヴィンチコンソール助手	泌尿器科一般	

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本泌尿器科学会研修施設

診療科の特徴

1. ロボット支援手術、体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術・検査（痛みが少なく入院期間を短く）により患者さんへの負担の軽減を図ります。
2. 最先端医療も積極的に取り入れます。
3. 地域の開業医、診療所、病院と積極的に医療連携を行います。
4. 患者さんの人権を尊重し、安心と満足のいく良質の医療提供を目指します。

主な対象疾患

腎臓癌、膀胱癌、腎盂癌、尿管癌、前立腺癌、副腎腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石症、過活動膀胱、夜間頻尿、尿失禁、膀胱瘤、骨盤臓器脱、男性不妊症、性機能障害、内分泌障害、尿路感染症、性感染症、小児泌尿器科、腹膜透析、慢性腎不全

診療（業務）内容

- ・尿路性器悪性腫瘍に対する集学的治療を多部門と連携し積極的に行っている
- ・ロボット支援手術を含め、体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術に取り組んでいる
- ・初診外来担当医は患者さんの入院、手術、退院後の診療を一貫して責任をもって受け持つ
- ・外来及び入院看護師には排尿機能検査士の取得者を配置し、専門的な医療と看護を提供
- ・外来診療：木曜は4診 火曜、金曜は3診、月曜、水曜は2診
- ・手術：月、水、金曜日の週3日間
- ・火曜日の早朝には外来カンファレンス
- ・水曜日の早朝には病理医を招いて臨床病理カンファレンス
- ・木曜日の早朝から全体回診（医師、看護師長）
- ・木曜日の朝に放射線科医を招いて放射線画像・放射線治療カンファレンス
- ・金曜日の早朝には薬剤師、看護師を交えた病棟症例カンファレンス
- ・平成19年06月～「夜間頻尿外来」開設
- ・平成23年11月～前立腺肥大症に対し、光選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP）HPSを導入
- ・平成26年08月～前立腺癌に対し、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘を導入
- ・平成28年04月～「女性外来」開設
- ・平成28年08月～腎臓癌に対し、ロボット支援腎部分切除術を導入
- ・平成30年08月～経皮・経尿道同時尿路結石内視鏡手術を導入
- ・平成31年02月～膀胱癌に対し、ロボット支援膀胱全摘を導入
- ・令和3年2月～過活動膀胱、切迫性尿失禁に対し、ボトックス膀胱内注入療法を導入
- ・令和3年3月～前立腺肥大症に対し、光選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP）XPSに更新
- ・令和3年8月～MRI超音波画像融合経会陰前立腺生検（バイオジェット）を導入
- ・令和4年9月～光線力学診断（PDD）を用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術を導入

診療実績

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	20.0	20.5
新入院患者数(名)	875	976
平均在院日数(日)	8.2	7.6

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	66.3	69.9

主な手術・検査の件数(2022年度)

ロボット支援前立腺全摘	37件	TURBT	89件	
ロボット支援腎部分切除術	17件	光線力学診断(PDD)を用いたTURBT	17件	
ロボット支援膀胱全摘	13件	骨盤臓器脱・ 尿失禁手術	TVM	3件
副腎腫瘍手術	16件		TOT	3件
腹腔鏡(後腹腔鏡)下腎癌手術(腎摘)	14件	前立腺針生検	経直腸前立腺生検	29件
腹腔鏡(後腹腔鏡)下腎(尿管)悪性腫瘍手術	12件		経会陰前立腺生検	32件
尿路結石手術	TUL		44件	MRI超音波画像融合 経会陰前立腺生検
	PNL	0件		
	ECRIS	3件		
前立腺肥大症 内視鏡手術	PVP	67件		
	TURP	17件		

学術活動報告(学会・研究発表など)

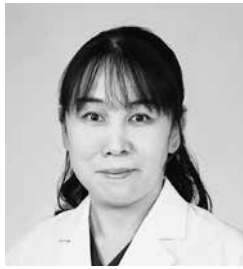
発表年月日	発表学会
演題名等 / 演者(下線は当院所属)	
2022.04.16	山科薬剤師会研修会
「泌尿器科疾患に対する薬物療法の最前線」～調剤薬局の薬剤師様とともに高齢者のポリファーマシーを考える～ 奥野 博	
2022.05.21	伏見薬剤師会研修会
「泌尿器科領域における薬物療法の最前線」 奥野 博	
2022.06.16	第2回「Advanced Urology Seminar」
「導入までのプロセスと運用について 特に症例数を増やす秘訣は？」 奥野 博、渡邊 岳之、五十嵐 篤、早田 直生、三浦 高慶、宮崎 有、三品 睦輝	
2022.09.02	第29回日本排尿機能学会
「夜間頻尿患者に対するノビレチン・タンゲレチン混合物の効果と安全性に関する研究(NoT-nocturia study)」 伊東 晴喜、根来 宏光、河野 仁、渡邊 岳之、早田 直生、三浦 高慶、真鍋 由美、宮崎 有、 三品 睦輝、禹 濟泰、奥野 博	
2022.09.09	International Continence Society 52nd Annual Meeting
「Efficacy and safety of a mixture of Nobiletin and Tangeretin in patients with nocturia (NoT-nocturia study): A randomized, placebo-controlled, double-blind, crossover study」 Ito H, Negoro H, Kono J, Igarashi A, Hayata N, Miura T, Manabe Y, Miyazaki Y, Mishina M, Woo Je Tae, Okuno H	

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.10.14	The Expert RCC For Next Generations
「パネリスト：Panel Discussion Caseから考えるmRCC Meet」 三浦 高慶	
2023.02.18	第252回 日本泌尿器科学会関西地方会
「腹腔鏡下嚢胞摘除術を施行し後腹膜黄色肉芽腫と診断された1例」 渡邊 岳之、早田 直生、三浦 高慶、宮崎 有、三品 睦輝、奥野 博	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
<p>総説</p> <p>長期制癌にてアンドロゲン遮断療法を中止した限局性前立腺癌症例の検討 泌尿紀要, 68, 337~343, 2022 荒木 博賢、伊藤 克弘、五十嵐 篤、三浦 高慶、宮崎 有、三品 睦輝、奥野 博</p>
<p>原著論文</p> <p>Comparison of the medical costs between active surveillance and other treatments for early prostate cancer in Japan using data from the PRIAS-JAPAN study Int J Urol, 29, 11, 1271-1278, 2022.11 Takuma Kato, Akira Yokomizo, Ryuji Matsumoto, Yoichiro, Tohi, Jimpei Miyakawa, Koji Mitsuzuka, Hiroshi Sasaki, Junichi Inokuchi, Masafumi Matsumura, Shinichi Sakamoto, Hidefumi Kinoshita, Hiroshi Fukuhara, Naoto Kamiya, Ryu Kimura, Masahiro Nitta, <u>Hiroshi Okuno</u>, Koichiro Akakura, Yoshiyuki Kakehi and Mikio Sugimoto</p>

産科婦人科



診療科長
安彦 郁

専門医資格等

日本産科婦人科学会
専門医・指導医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
日本婦人科腫瘍学会
専門医・指導医
日本産科婦人科内視鏡学会
認定腹腔鏡技術認定医
日本内視鏡外科学会
技術認定医
日本ロボット外科学会専門医

女性ヘルスケア暫定指導医
日本婦人科腫瘍学会代議員
京都産婦人科医会理事
ダ・ヴィンチコンソール術者
日本婦人科ロボット手術学会
認定プロクター（良性・悪性・RSC）
京都大学博士（医学）
京都大学医学部臨床教授
関西医科大学医学部
臨床教授

専門分野

婦人科悪性腫瘍手術
婦人科内視鏡手術
婦人科ロボット手術

得意疾患

婦人科腫瘍

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	天野 泰彰	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本婦人科腫瘍学会専門医・指導医 臨床研修指導医 母体保護法指定医 ダ・ヴィンチコンソール術者 京都大学博士（医学）	産婦人科一般	婦人科腫瘍 婦人科悪性腫瘍
医 長	江本 郁子	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本周産期新生児医学会周産期専門医（母体・胎児） 日本産科婦人科内視鏡学会認定腹腔鏡技術認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医 日本産科婦人科遺伝診療学会認定医（周産期） 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本婦人科腫瘍学会専門医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医 日本産科婦人科学会女性のヘルスケアアドバイザー J-MELS ベーシックコースインストラクター 日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法「一次」コース（Bコース）インストラクター 臨床研修指導医 母体保護法指定医 ダ・ヴィンチコンソール術者	周産期 産婦人科一般	
医 師	上田 匡 2022年9月30日まで	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本周産期新生児医学会周産期専門医（母体・胎児） 日本生殖医学会生殖医療専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 臨床研修医指導医 母体保護法指定医 ダ・ヴィンチコンソール術者 京都大学博士（医学）	産婦人科一般 生殖医療	

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	岸本 尚也	日本産科婦人科学会専門医 ダ・ヴィンチコンソール術者	産婦人科一般	
医師	露木 大地	日本産科婦人科学会専門医 ダ・ヴィンチコンソール術者	産婦人科一般	
専攻医	北野 照 2022年5月31日まで 2022年9月1日から		産婦人科一般	
専攻医	市川 尚寛	AHA ACLSプロバイダー JPTECプロバイダー	産婦人科一般	
専攻医	住永 優里		産婦人科一般	
専攻医	田中 有紀		産婦人科一般	
専攻医	西川 晶子 2023年2月28日まで			
専攻医	田辺優理子 2022年12月1日から		産婦人科一般	

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定

日本産科婦人科学会 総合型専攻医指導施設
 日本婦人科腫瘍学会 指定修練A施設
 日本周産期・新生児学会 母胎胎児指定施設
 日本産科婦人科内視鏡学会 認定研修施設
 臨床遺伝専門医制度 認定研修施設
 日本女性医学学会 認定研修施設

令和4年度の主な取組

- ・ロボット手術件数、無痛分娩件数が増加している。
- ・助産制度を利用した分娩受け入れは少数ながら需要がある。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	20.3	18.3
新入院患者数(名)	1200	1119
平均在院日数(日)	6.2	6

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	49.9	51.7

主な手術・検査の件数(2022年度)

分娩件数	274件(双胎8件)	腹腔鏡手術(ロボット手術含む)	258件
帝王切開件数	91件	ロボット手術	76件
無痛分娩件数	38件		

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.02.16 「若手によるTLH 1例目」 北野 照	第18回麗し手術会
2022.04.07 「妊娠中の付属器手術」 市川 尚寛	第13回麗し手術会
2022.06.02 「仙骨前の展開メドレー腹膜切開から前縦靭帯の露出」 岸本 尚也	第14回麗し手術会
2022.06.18 「Posterior Direct Approach in Laparoscopic Radical Hysterectomy」 Kaoru Abiko	the 5th Xinhua Hospital Obstetrics and Gynecology Summit Forum
2022.06.25 「仙骨腔固定術に対する後方視的検討 腹腔鏡手術とロボット手術の比較 (会議録)」 上田 匡、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、岸本 尚也、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、安彦 郁	近畿産科婦人科学会
2022.06.25 「当院の1型糖尿合併妊娠9例の検討」 北野 照、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、上田 匡、岸本 尚也、田村 紗也、市川 尚寛、住永 優里、安彦 郁	近畿産科婦人科学会
2022.06.25 「卵巣腫瘍合併妊娠に対して上腹部ダイヤモンド配置で腹腔鏡手術を施行した3例 (会議録)」 市川 尚寛、住永 優里、北野 照、田村 紗也、岸本 尚也、上田 匡、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、安彦 郁	近畿産科婦人科学会
2022.07.12 「当院における硬膜外無痛分娩の導入とその成績」 北野 照、江本 郁子、田中 有紀、市川 尚寛、住永 優里、西川 晶子、岸本 尚也、露木 大地、上田 匡、天野 泰彰、安彦 郁、七野 力	日本周産期医学会
2022.07.15 「当院における初期子宮体癌に対するロボット支援手術と腹腔鏡手術の比較検討」 上田 匡、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、岸本 尚也、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、安彦 郁	第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
2022.07.16 「当院で経験した後腹膜血管平滑筋腫の1例」 岸本 尚也、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、上田 匡、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、安彦 郁	第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
2022.08.06 「後腹膜血管平滑筋腫に対して腹腔鏡下手術を行った1例」 上田 匡、市川 尚寛、北野 照、田村 紗也、田中 美柚、岸本 尚也、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、安彦 郁	日本産科婦人科学会
2022.09.09 「後方ダイレクトアプローチによる腹腔鏡下広汎子宮全摘出術」 安彦 郁	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会
2022.09.09 「骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨腔固定術 (LSC) とロボット支援下仙骨腔固定術 (RSC) の手術成績の後方視的検討」 住永 優里、田中 有紀、西川 晶子、市川 尚寛、北野 照、岸本 尚也、露木 大地、上田 匡、江本 郁子、天野 泰彰、安彦 郁	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.09.10	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会
「卵巣腫瘍合併妊娠に対する腹腔鏡下手術 上腹部ダイヤモンド配置を用いて施行した3例」 住永 優里、田中 有紀、西川 晶子、市川 尚寛、北野 照、岸本 尚也、露木 大地、上田 匡、 江本 郁子、天野 泰彰、安彦 郁	
2022.09.10	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会
「輸血拒否患者に対する鏡視下手術の後方視的検討」 岸本 尚也、田中 有紀、西川 晶子、住永 優里、市川 尚寛、北野 照、露木 大地、上田 匡、 江本 郁子、天野 泰彰、安彦 郁	
2022.10.02	女性のヘルスケア研究会
「当院における輸血拒否患者に対する治療の後方視的検討」 住永 優里、田中 有紀、市川 尚寛、西川 晶子、北野 照、岸本 尚也、露木 大地、江本 郁子、 天野 泰彰、安彦 郁	
2022.10.09	The 12th Asia Pacific Conference of Gynecologic Surgery
「A Novel Direct Approach to the Deep Uterine Vein in Laparoscopic Radical Hysterectomy」 Kaoru Abiko	
2022.10.13	第16回麗し手術会
「重複尿管のTLH」 住永 優里	
2022.10.15	京都産婦人科学会令和4年度学術集会
「骨盤臓器脱の手術療法についての後方視的検討」 田中 有紀、西川 晶子、住永 優里、市川 尚寛、北野 照、岸本 尚也、露木 大地、江本 郁子、 天野 泰彰、安彦 郁	
2022.10.22	第60回日本癌治療学会学術集会
「輸血拒否患者の悪性腫瘍に対する治療」 岸本 尚也、田中 有紀、西川 晶子、住永 優里、市川 尚寛、北野 照、露木 大地、上田 匡、 江本 郁子、天野 泰彰、安彦 郁	
2022.10.30	産婦人科遺伝学会
「当院で施行したリスク低減卵管卵巣摘出術6例の検討」 江本 郁子、小西 陽介、上田 匡、安彦 郁、三宅 秀彦	
2022.11.18	第5回産婦人科骨盤内手術手技研究会
「進行卵巣癌の治療戦略～試験開腹手術/IDSにおける腹腔鏡の有用性～」 天野 泰彰	
2022.12.10	日本内視鏡外科学会
「ロボット支援下仙骨腔固定術における仙骨前面の展開に要する時間の予測」 岸本 尚也、江本 郁子、天野 泰彰、安彦 郁	
2022.12.16	第2回「TLH、その次に目指すもの」セミナー
「良性腫瘍に使える鏡視下悪性腫瘍手術のテクニック」 安彦 郁	
2022.12.17	京都鏡視下手術研究会
「子宮頸癌照射野内リンパ節再発および小腸転移に対して外科的治療が有効であった一例」 西川 晶子、田中 有紀、市川 尚寛、住永 優里、北野 照、田辺優理子、岸本 尚也、露木 大地、 江本 郁子、天野 泰彰、安彦 郁	
2023.01.21	京都産婦人科医会1月学術研修会
「腹腔鏡下子宮全摘術の工夫～出血の少ない手術を目指して～」 安彦 郁	
2023.01.29	第11回日本婦人科ロボット手術学会
「ロボット支援下子宮全摘からロボット支援下仙骨腔固定術(RSC)へ～安全な導入と発展のために」 安彦 郁	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2023.02.03	第15回日本ロボット外科学会
「ロボット支援下仙骨腔固定術における仙骨前展開の難易度の予測」 岸本 尚也、江本 郁子、天野 泰彰、安彦 郁	
2023.02.07	MSD Cervical Cancer Seminar
「どこが変わった？新しい取扱い規約とガイドラインをおさえた子宮頸がんの診かた・治しかた」 安彦 郁	
2023.03.25	第16回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会
「ロボット支援下仙骨腔固定術 (RSC) の後方視的検討」 安彦 郁、田中 有紀、西川 晶子、住永 優里、市川 尚寛、北野 照、田辺優理子、岸本 尚也、 露木 大地、江本 郁子、天野 泰彰	
2023.03.25	第16回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会
「骨盤臓器脱に対する手術療法の比較検討」 西川 晶子、安彦 郁、田中 有紀、住永 優里、市川 尚寛、北野 照、田辺優理子、岸本 尚也、 露木 大地、江本 郁子、天野 泰彰	
2023.03.30	伏見区医師会イブニングセミナー
「子宮頸がんとHPVワクチン～必要な情報提供をするための知識アップデート～」 安彦 郁	

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
(その他) 卵巣癌における試験開腹術および診断的腹腔鏡の目的と手技 OGS NOW basic 12巻 明日からできる卵巣がん手術, 52-60, 2022.11 安彦 郁
(その他) 骨盤臓器脱に対するロボット支援下仙骨腔固定術 (RSC) (2) OGS NOW basic 10巻 骨盤臓器脱完全マスター, 134~145, 2022.04 安彦 郁
(原著論文) 再発子宮体癌に対しpembrolizumab投与中にCOVID-19感染による全身症状が遷延した1例 産婦人科の進歩, 74, 3, 383~390, 2022.08 田村 紗也、北野 照、上田 匡、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、小田垣孝雄、安彦 郁
(原著論文) 異所性成分を含む子宮平滑筋肉腫破裂の1例 日本婦人科腫瘍学会雑誌, 40, 2, 55-61, 2022.04 田中 美柚、高尾 由美、鈴木 直宏、天野 泰彰、宇治田麻里、江本 郁子、安彦 郁
(原著論文) 糖代謝異常合併妊娠の後方視的検討 京都医学会雑誌, in press 北野 照、江本 郁子、後藤 禎人、田中 有紀、市川 尚寛、住永 優里、西川 晶子、岸本 尚也、 露木 大地、天野 泰彰、安彦 郁
(原著論文) 卵巣腫瘍合併妊娠に対して上腹部diamond配置で腹腔鏡手術を施行した3例 京都医学会雑誌, in press 市川 尚寛、田中 有紀、西川 晶子、住永 優里、北野 照、岸本 尚也、露木 大地、江本 郁子、 天野 泰彰、安彦 郁
(原著論文) Characteristic of Concurrent Uterine Lipoleiomyoma and Hemangioma by Algorithm of Candidate Biomarkers for Uterine Mesenchymal Tumor Diagnostics, 12, 10, 2468, 2022.10 Shoko Nishikawa, Takuma Hayashi, Yasuaki Amano, Nobuo Yaegashi, Kaoru Abiko, Ikuo Konishi

(原著論文以外)

Dynamic host immunity and PD-L1/PD-1 blockade efficacy : developments after “IFN- γ from lymphocytes induces PD-L1 expression and promotes progression of ovarian cancer”
British Journal of Cancer, 128, 3, 461-467, 2023.02
Kaoru Abiko, Junzo Hamanishi, Noriomi Matsumura, Masaki Mandai

(原著論文以外)

Peritoneal dissemination of high-grade serous ovarian cancer : pivotal roles of chromosomal instability and epigenetic dynamics
Journal of Gynecologic Oncology, 33, 5, e83, 2022.09
Ikuo Konishi, Kaoru Abiko, Takuma Hayashi, Koji Yamanoi, Ryusuke Murakami, Ken Yamaguchi,
Junzo Hamanishi, Tsukasa Baba, Noriomi Matsumura, Masaki Mandai ;
Kyoto Study Group for Ovarian Cancer Research

(原著論文)

CXCL13-producing CD4+ T cells accumulate in the early phase of tertiary lymphoid structures in ovarian cancer
JCI Insight, 7, 12, e157215, 2022.06
Masayo Ukita 1, Junzo Hamanishi 1, Hiroyuki Yoshitomi 2 3, Koji Yamanoi 1, Shiro Takamatsu 1,
Akihiko Ueda 1, Haruka Suzuki 1, Yuko Hosoe 1, Yoko Furutake 1, Mana Taki 1, Kaoru Abiko 4,
Ken Yamaguchi 1, Hidekatsu Nakai 5, Tsukasa Baba 6, Noriomi Matsumura 5, Akihiko Yoshizawa 7,
Hideki Ueno 2 3, Masaki Mandai 1

(原著論文)

Immunosuppressive tumor microenvironment in uterine serous carcinoma via CCL7 signal with myeloid-derived suppressor cells
Carcinogenesis, 43, 7, 647-658, 2022.08
Yuka Mise 1, Junzo Hamanishi 1, Takiko Daikoku 2, Shiro Takamatsu 1, Taito Miyamoto 1, Mana Taki 1,
Koji Yamanoi 1, Ken Yamaguchi 1, Masayo Ukita 1, Naoki Horikawa 1, Kaoru Abiko 1,
Ryusuke Murakami 1, Yoko Furutake 1, Yuko Hosoe 1, Jumpei Terakawa 2, Masahiro Kagabu 3,
Tamotsu Sugai 4, Mitsumasa Osakabe 4, Hiroshi Fujiwara 5, Noriomi Matsumura 6, Masaki Mandai 1,
Tsukasa Baba 1 3

(原著論文)

Tertiary lymphoid structures are associated with favorable survival outcomes in patients with endometrial cancer
Cancer Immunol Immunother., 71, 6, 1431-1442, 2022.06
Meng Qin 1 2, Junzo Hamanishi 3, Masayo Ukita 1, Koji Yamanoi 1, Shiro Takamatsu 1,
Kaoru Abiko 1 4, Ryusuke Murakami 1 5, Taito Miyamoto 1, Haruka Suzuki 1, Akihiko Ueda 1,
Yuko Hosoe 1, Akihito Horie 1, Ken Yamaguchi 1, Masaki Mandai 1

緩和ケア科



専門医資格等
 日本外科学会専門医
 日本消化器外科学会認定医
 麻酔科標榜医
 PEACE緩和ケア指導者
 京都大学医学部臨床教授

専門分野
 緩和ケア、消化器外科、
 臨床栄養、麻酔

診療部長 (がん診療担当)
 診療科長
大谷 哲之

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	木下 多愛	日本緩和医療学会認定医 日本麻酔科学会専門医 麻酔科標榜医 PEACE緩和ケア指導者	緩和ケア 麻酔	
音楽療法士	飯塚三枝子	音楽療法士 臨床音楽士 臨床音楽協会理事 ヴィオラニスト	音楽療法	
音楽療法士	谷口奈緒美	日本音楽療法学会認定音楽療法士	音楽療法	
アロマセラピスト	畑 亜紀子	公認心理師 IFPA (The International Federation of Professional Aromatherapists) 認定アロマセラピスト (公社) 日本アロマ環境協会認定アロマセラピスト/アロマインストラクター	アロマセラピー	

| 令和4年度の主な取組 |

在宅緩和ケアを行っている診療所との連携を密にし、切れ目のない緩和ケアを提供
 更なる緩和ケアの啓発・普及に努める
 緩和ケア外来での症状緩和の取り組み

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	17.4	18.5
新入院患者数(名)	66	85
平均在院日数(日)	27.1	24.7

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	1.6	1.1

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名等 / 演者(下線は当院所属)	発表学会
2022.05.19 「特別講演：緩和ケアにおける薬物療法～症状緩和でQOL向上～」 太谷 哲之	第30回伏見葉葉連携協議会 web
2022.07.07 「生命のがん教育」 太谷 哲之	男山第二中学校
2022.07.23 「緩和ケアの実際」 太谷 哲之、木下 多愛	京都医療センター 医療連携フォーラム チームでささえる緩和ケア
2022.07.23 「緩和ケアとは」 木下 多愛	京都医療センター 医療連携フォーラム チームでささえる緩和ケア
2022.09.03 「しなやかなリズムで 医療、看護とともに歩む音楽療法」 飯塚三枝子	第64回看護学会
2022.09.05 「京都医療センター看護助産師学校第18回生ホームカミングデー「すぐに使えるアロマ講座～香りの効果で癒しを～」」 畑 亜紀子	公益社団法人 京都府看護協会
2022.10.15 「禁煙治療におけるアロマセラピー併用療法臨床研究の進捗状況」 畑 亜紀子、小見山麻紀、高橋 裕子、八十田明宏、浅原 哲子、山陰 一、森本 達也、和田 啓道、長谷川浩二	第17回日本禁煙科学会学術総会
2022.11.03 「e-learningの復習・質問」 木下 多愛	第15回緩和ケア研修会 うずらPEACE集合研修
2022.11.26-27 「自宅で出来る森林浴+アロマセラピー」 畑 亜紀子	NPO法人キャンサーリボンズ「がんの治療と暮らしフェア」
2022.12.18 「がん治療における栄養」 太谷 哲之	がん看護研修

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.12.18 「がんとアロマセラピー」 畑 亜紀子	京都医療センターがん看護研修
2023.01.21 「心の恩楽 ターミナルケアでの音楽の質」 飯塚三枝子	大阪教育大学
2023.01.23 「ターミナルケア 人は音楽と共に生きてきた」 飯塚三枝子	京都光華大学
2023.02.11 「禁煙治療とインヘーラーによるアロマセラピーの併用療法の臨床研究について」 畑 亜紀子	International Federation of Professional Aromatherapists
2023.03.02 「特別講演：抗がん薬治療による末梢神経障害（CIPN）のマネジメント」 座長：大谷 哲之 演者：松原 淳	緩和医療を多職種で考える会

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
解説 『メディカ出版編集局 合同企画ページ Campanio カンパニオ!』きもちとつきあうアロマケア・不安やイライラに効果的なオレンジ 「整形外科看護」他21誌, 27, 4, 422, 2022.04.01, メディカ出版 畑 亜紀子
解説 『メディカ出版編集局 合同企画ページ Campanio カンパニオ!』きもちとつきあうアロマケア・やるせなさや悲しみを癒すバニラの香り 「整形外科看護」他21誌, 27, 6, 622, 2022.06.01, メディカ出版 畑 亜紀子
解説 『メディカ出版編集局 合同企画ページ Campanio カンパニオ!』きもちとつきあうアロマケア・レモンの香りで集中力を高める 「整形外科看護」他21誌, 27, 8, 822, 2022.08.01, メディカ出版 畑 亜紀子
解説 『メディカ出版編集局 合同企画ページ Campanio カンパニオ!』きもちとつきあうアロマケア・ペパーミントでテンションを上げる 「整形外科看護」他21誌, 27, 10, 1022, 2022.10.01, メディカ出版 畑 亜紀子
解説 『メディカ出版編集局 合同企画ページ Campanio カンパニオ!』きもちとつきあうアロマケア・ラベンダーで最高の休息を 「整形外科看護」他21誌, 27, 12, 1239, 2022.12.01, メディカ出版 畑 亜紀子
原著論文 Psychological Effects of Aromatherapy on Smokers With Depressive Tendencies During Smoking Cessation Treatment : Protocol for a Pre-Post Single-Arm Clinical Trial JMIR Research Protocols, 11, 7, e38626, 2022.07 Akiko Hata, Maki Komiyama, Akihiro Yasoda, Hiromichi Wada, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Tatsuya Morimoto, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa

眼科



診療部長（先進医療担当）
科長
喜多 美穂里

専門医資格等

京都大学医学部臨床教授
京都大学医学部非常勤講師
日本眼科学会認定
眼科指導医
日本眼科学会認定
眼科専門医
PDT認定医
京都大学博士（医学）
2012-2023
Best Doctors選出

専門分野

網膜硝子体疾患
内視鏡併用硝子体手術

得意疾患

網膜剥離
糖尿病網膜症

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	濱 祥代	日本眼科学会認定眼科専門医	眼科一般	
専攻医	小林嶺央奈		眼科一般	
専攻医	細田 明良		眼科一般	
専攻医	三木 岳		眼科一般	

| 令和4年度の主な取組 |

- ・網膜硝子体分野を中心に、3D内視鏡併用硝子体手術、3Dビジュアルシステムを用いた手術など高度で先進的な眼科医療を行い、良好な手術成績をあげ、多くの紹介を得た。
- ・当科主催の「眼科連携FSM2022」を本年度も開催し、地域との連携を強化した。
- ・先進的な眼科治療について、国際学会や国内学会等で、シンポジスト、オーガナイザー、特別講演者などとして、情報を発信した。

| 診療実績 |

入院患者数

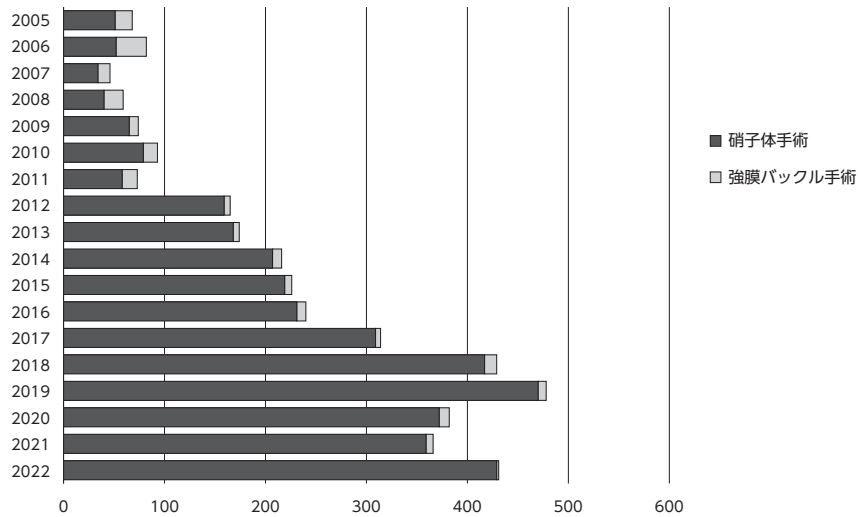
	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	9.5	8.2
新入院患者数（名）	856	939
平均在院日数（日）	4.1	3.2

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	48.2	52.6

主な手術の件数(2022年度)

水晶体再建術	617件	中央手術室手術合計	974件
硝子体手術	429件	緑内障手術	31件
強膜バックル手術	2件	外来手術	562件



学術活動報告(学会・研究発表など)

発表年月日	発表学会
2022.04.23	Fuji Retina
[3D vitreoretinal surgery (symposium)] Mihori Kita	
2022.04.23	Fuji Retina
[Surgical/Medical Asian retina (chair)] Mihori Kita	
2022.05.19	眼薬連携セミナー
[その飛蚊症、網膜剥離によるものかも] 喜多美穂里	
2022.06.11	眼科連携FSM
[デジタルがとまらない!] 喜多美穂里	
2022.06.11	眼科連携FSM
[左右間違えダメ、ゼッタイ!手術室で守る医療安全] 正藍 香、富田 碧、藤岡 陸、坪井 直、喜多美穂里	
2022.06.11	眼科連携FSM
[OCTアンギオでみる!] 加藤 慶、武村美智代、大門 彩香、山藤 満、吉田 直子、片山 真優、喜多美穂里	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.06.11 「はじめました！レンティスコンフォート トーリック」 瀨 祥代、三木 岳、細田 明良、喜多美穂里	眼科連携FSM
2022.06.11 「黄斑浮腫を斬る！抗VEGF薬治療」 三木 岳、細田 明良、瀨 祥代、喜多美穂里	眼科連携FSM
2022.06.11 「早期診断・早期治療が大切！原田病」 細田 明良、三木 岳、瀨 祥代、喜多美穂里	眼科連携FSM
2022.06.11 「早期診断・早期治療が大切！（追加）原田病」 喜多美穂里、細田 明良、三木 岳、瀨 祥代	眼科連携FSM
2022.06.11 「硝子体黄斑牽引症候群を斬る！」 喜多美穂里、細田 明良、三木 岳、浜 祥代、加藤 慶、山崎真理子、久保奈津子	眼科連携FSM
2022.06.11 「(座長) 眼表面の層別診断・層別治療 セカンドステージ」 喜多美穂里	眼科連携FSM
2022.06.25 「デジタルがとまらない (モーニングセミナー)」 喜多美穂里	第37回 JSCRS 学術総会
2022.06.25 「ケースレポート2. 特殊症例 (座長)」 喜多美穂里	第37回 JSCRS 学術総会
2022.10.13 「See better, Do better バックル手術も3D (イブニングセミナー みんなのレチナ)」 喜多美穂里	第76回日本臨床眼科学会
2022.10.15 「網膜剥離ファイトクラブ round18—症例をシェアして自分のものにする (インストラクションコース)」 喜多美穂里、大島 佑介、門之園一明、木村 英也、日下 俊次、栗山 晶治、竹内 忍	第76回日本臨床眼科学会
2022.12.03 「3Dシステムを用いた網膜硝子体手術教育 (シンポジウム3)」 喜多美穂里	第61回日本網膜硝子体学会総会
2022.12.17 「薬物、眼疾患の基礎知識、眼科用薬剤」 喜多美穂里	第44回メディカルスタッフ講習会
2023.01.06 「眼の構造と機能、眼の検査と治療」 喜多美穂里	看護学校講義
2023.01.13 「眼の疾患」 喜多美穂里	看護学校講義
2023.01.19 「疑ったら、撮る (パネリスト)」 喜多美穂里	眼科コールドケース2023
2023.01.19 「あたらしい硝子体手術と抗VEGF療法ほか (座長・オーガナイザー)」 喜多美穂里、中尾新太郎、大澤 俊介、門之園一明、瓶井 資弘、日下 俊次、栗山 晶治、本田 茂	眼科コールドケース2023

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

総説

網膜硝子体手術のインフォームド・コンセント

新しい眼科, 39, 臨時増刊号, 288-299, 2022.11.30, 文光堂

喜多美穂里

総説

裂孔原性網膜剥離 (黄斑未剥離)

新篇 眼科プラクティス, 5, NA, 154-157, 2022.10.10, 文光堂

喜多美穂里

耳鼻咽喉科・頭頸部外科



耳鼻咽喉科医長
辻 純

専門医資格等
日本耳鼻咽喉科専門医
京都大学博士（医学）
京都大学医学部臨床教授

専門分野
耳科学・耳鼻咽喉科

得意疾患
耳疾患
頭頸部がん
めまい



頭頸部外科医長
安里 亮

専門医資格等
日本耳鼻咽喉科学会専門医
気管食道科専門医
頭頸部がん暫定指導医
頭頸部がん専門医
内分泌・甲状腺外科専門医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医

専門分野
頭頸部外科・甲状腺外科

得意疾患
頭頸部腫瘍
甲状腺腫瘍
頭頸部がん
甲状腺がん

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	牛呂 幸司	日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会臨床研修指導医 日本がん治療学会認定医	頭頸部がん・甲状腺がんの手術	頭頸部がん 甲状腺がん
医師	辻 拓也	日本耳鼻咽喉科専門医 京都大学博士（医学）	耳鼻咽喉科一般	
医師 (育児短時間)	伊藤 通子 2023年2月1日から	日本耳鼻咽喉科専門医 頭頸部がん専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医	耳鼻咽喉科一般	頭頸部腫瘍
医師	石田 宏規 2023年2月1日から		耳鼻咽喉科一般	
医師	筑後 千智 2023年2月1日から		耳鼻咽喉科一般	

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本耳鼻咽喉科学会学会認定 耳鼻咽喉科専門医研修施設
- ・日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医制度 指定研修施設
- ・日本内分泌外科学会専門医制度 認定施設
- ・日本気管食道科学会認定専門医研修施設

クリティカルパスは10種類活用している。

- ・喉頭微細手術 4日間
- ・免疫チェックポイント阻害剤（頭頸部がん） 3日間
- ・口蓋扁桃摘出術（小児用） 7日間
- ・口蓋扁桃摘出術（成人用） 8日間
- ・甲状腺全摘術（副甲状腺全摘） 8日間
- ・甲状腺全摘術（副甲状腺温存） 8日間
- ・甲状腺半切7日間 7日間
- ・甲状腺半切8日間（金曜入院） 8日間
- ・耳下腺・顎下腺・頸部腫瘍摘出術 7日間
- ・鼻副鼻腔手術（全身麻酔） 6日間

以下のように、甲状腺手術・頭頸部腫瘍（頭頸部がん）手術が多いのが特徴である。

- ・甲状腺がん 38件
- ・頭頸部腫瘍手術 111件（頭頸部がん手術 60件）

耳鼻咽喉科手術を中心に頭頸部がんでは低侵襲手術から再建を要する進行癌手術まで幅広く対応している

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	16.9	14.9
新入院患者数（名）	495	513
平均在院日数（日）	12.5	10.5

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数（名）	38.8	39.1

主な手術・検査の件数（2022年度）

耳手術	19件	甲状腺・副甲状腺手術	72件
鼻副鼻腔手術	27件	頭頸部腫瘍手術	111件

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.05.28	第123回日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会
「当科における舌癌手術例の再発因子の検討」 伊藤 通子、安里 亮、山本 卓也、安田 佳織、辻 拓也、牛呂 幸司、辻 純	
2022.06.24	第34回日本内分泌外科学会総会
「甲状腺乳頭癌の患側Vbリンパ節転移についての検討」 牛呂 幸司、山本 卓也、伊藤 通子、安里 亮	
2023.01.19	第32回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会
「口腔底に生じた巨大類皮嚢胞の治療経験」 石田 宏規、安里 亮、田中 千智、伊藤 通子、牛呂 幸司	
2023.01.20	第32回日本頭頸部外科学会総会
「頭頸部悪性腫瘍手術における抗血栓療法の影響」 牛呂 幸司、安里 亮、石田 宏規、田中 千智、伊藤 通子	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
<p>〔原著論文〕 甲状腺・副甲状腺手術における抗血栓療法の術後出血への影響 日内分泌外会誌, 39, 4, 276~281, in press, 医学教育出版社 牛呂 幸司、安里 亮、山本 卓也、安田 佳織、伊藤 通子、辻 拓也、辻 純</p>
<p>〔原著論文〕 耳下腺・頸部リンパ節転移を認めた眼瞼結膜原発扁平上皮癌の一例 頭頸部癌 48 (3) 1 : 280-285, 2022, 48, 3, 280~285, 2022.10.26, 日本頭頸部癌学会 小紫 彩奈、牛呂 幸司、吉川 勝宇</p>
<p>〔原著論文〕 上咽頭癌に対する化学放射線療法後の内頸動脈仮性動脈瘤破裂例 耳鼻臨床 115 (8) : 685-691, 2022, 115, 8, 685~691, 2022.08, 耳鼻咽喉科臨床学会 宮部 祥悟、牛呂 幸司、小紫 彩奈、久保 友紀、松本 昌宏、扇田 秀章、竹林 慎治、藤野 清大</p>
<p>〔原著論文〕 術後放射線療法を行った頸部myxofibrosarcomaの1例 頭頸部癌, 48, 3, 291~294, 2022.10.25, 日本頭頸部癌学会 伊藤 通子、本多 啓吾、嘉田 真平、宮崎 真和、安里 亮</p>
<p>〔原著論文〕 Real-world 2-year long-term outcomes and prognostic factors in patients receiving nivolumab therapy for recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck Auris Nasus Larynx, 49, 5, 834-844, 2022 Shuya Otsuki, Ryusuke Hori, Shogo Shinohara, Tsuyoshi Kojima, Hisanobu Tamaki, <u>Ryo Asato</u>, Morimasa Kitamura, Kazuyuki Ichimaru, Yoshiharu Kitani, Yohei Kumabe, Keigo Honda, Takashi Tsujimura, Hiroyuki Harada, <u>Koji Ushiro</u>, Koichi Omori</p>
<p>〔原著論文〕 Clinical study of Meniere's disease in the outpatient vertigo clinic at Kyoto Medical Center AINO JOURNAL, 19, 1-7, 2021 Akiko TAURA, Yukiko <u>ITO</u>, Kana NAGAHARA, Kaori YASUDA, Takashi TSUJIMURA, Mami MORITA, Shinpei KADA, Masakazu MIYAZAKI, <u>Ryo ASATO</u>, Jun TSUJI</p>

麻 醉 科



診療部長
(手術管理担当)
診療科長
七野 力

専門医資格等

厚生労働省による
麻酔科標榜許可
日本麻酔科学会認定
麻酔科指導医
日本専門医機構認定
機構専門医
日本集中治療医学会認定
集中治療専門医
京都大学医学部臨床教授
関西医科大学臨床教授
京都大学博士 (医学)

専門分野

麻酔科学全般
集中治療管理

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	杉本 亮大	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定麻酔科指導医 日本専門医機構認定機構専門医	麻酔管理一般 心臓血管外科手術の麻酔管理	
医 師	藤田 靖子	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定麻酔科専門医	麻酔管理一般	
医 師	原 祐介	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定麻酔科認定医	麻酔管理一般	
医 師	松山 智紀	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定麻酔科専門医・指導医 京都大学博士 (医学)	麻酔管理一般	
医 師	吉岡 清行	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定麻酔科専門医・指導医	麻酔管理一般	
医 師	宮井 善三	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定麻酔科専門医	麻酔管理一般	
医 師	森 悠	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定麻酔科指導医 日本専門医機構認定機構専門医 日本心臓血管麻酔学会認定心臓血管麻酔専門医 日本周術期経食道工コ一認定試験 (JB POT) 合格 米国周術期経食道工コ一認定試験 (PTEeXAM) 合格 日本小児麻酔学会認定医	麻酔管理一般 心臓血管外科手術の麻酔管理 小児の麻酔管理	
医 師	木村 詩織	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定麻酔科指導医 日本専門医機構認定機構専門医	麻酔管理一般 集中治療管理 小児の集中治療	
医 師・ 集中治療 室 長	水津 悠	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定麻酔科専門医 日本集中治療医学会認定集中治療専門医 日本呼吸器療法学会認定呼吸療法学会専門医 日本周術期経食道工コ一認定試験 (JB POT) 合格	麻酔管理一般 心臓血管外科手術の麻酔管理 集中治療管理	

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	鈴木 陽世	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定麻酔科専門医	麻酔管理一般	
医師	井澤 真代	日本集中治療医学会認定集中治療専門医 日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医	麻酔管理一般	
専攻医	平林 雅史		麻酔管理一般	
専攻医	小西 拓馬		麻酔管理一般	
専攻医	上松 優奈		麻酔管理一般	

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本麻酔科学会認定病院（麻酔科標榜のための研修施設）
- ・日本集中治療医学会専門研修施設
- ・日本専門医機構 麻酔科専門研修プログラム基幹病院

総手術件数5608件（麻酔科管理件数3568件）のうち臨時手術553件（368件）、緊急手術497件（410件）と積極的に臨時手術、緊急手術を受け入れている。

令和2年に開始した24時間対応の硬膜外無痛分娩は順調に増加し、令和4年度は43件であった。

| 診療実績 |

主な手術・検査の件数（2022年度）

麻酔科管理症例	3568件	硬膜外無痛分娩数	43件
院内集中治療室入室患者数	709件		

| 学術活動報告（学会・研究発表など） |

発表年月日 演題名等 / 演者（下線は当院所属）	発表学会
2022.07.23 「手術終了からPACU退室までに要した時間からみたレミゾラムによる全静脈麻酔の有用性」 小西 拓馬、松山 智紀、杉本 亮大、七野 力	第28回侵襲反応制御医学研究会
2022.09.02-10.03 「6か月間に19回の全身麻酔を実施した低心機能患者の一例」 平林 雅史、小西 拓馬、松山 智紀、七野 力	第68回日本麻酔科学会関西支部学術集会
2022.09.02-10.03 「手術部位とは離れた位置にエントリーをもつ術中急性大動脈解離の一例」 小西 拓馬、水津 悠、七野 力、白神幸太郎、片岡 剛、幾野 毅、浅田 秀典	第68回日本麻酔科学会関西支部学術集会
2022.09.02-10.03 「術前に高度徐脈と心静止を呈した卵巣奇形腫に伴う抗NMDA受容体脳炎患者における麻酔管理」 上松 優奈、宮井 善三、七野 力	第68回日本麻酔科学会関西支部学術集会

発表年月日 発表学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属)

2023.03.03 第50回日本集中治療医学会学術集会

「胆嚢炎と胆管炎治療中にギラン・バレー症候群を発症した1症例」
水津 悠、大西 優輝、七野 力

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

(一般)

治療出血が危惧された宗教的輸血拒否患者の大腿骨骨折観血的整復術に選択的動脈化学塞栓術と経皮的動脈遮断術を用いて輸血を回避した一症例

麻醉, 71, 9, 1029~1032, 2022.09.01, 克誠堂

南迫 一請、新屋 祐希、山田 茂、七野 力

放射線診断科



診療科長
笠原 誓子

専門医資格等
 日本医学放射線学会
 放射線診断専門医・
 研修指導者
 日本核医学会専門医
 PET 核医学認定医
 臨床研修指導医
 京都大学博士（医学）
 京都大学医学部臨床准教授

専門分野
 画像診断

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	伊藤 剛	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導者 日本病理学会認定病理医 京都大学博士（医学）	画像診断、IVR	放射線診断全般
医長	黒田 昌志	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導者 日本核医学会専門医 PET 核医学認定医 検診マンモグラフィ読影認定医（評価 A-S）	画像診断	骨軟部画像診断
医長	大堂さやか	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導者 京都大学博士（医学）	画像診断	婦人科画像診断
医師	桑原 遼	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導者 京都大学博士（医学）	画像診断 （女性骨盤）	婦人科画像診断
医師	濱中 訓生 2022年6月1日から	日本救急医学会専門医・指導医 日本集中治療医学会専門医 日本医学放射線学会放射線診断専門医 日本内科学会認定内科医 麻酔科標榜医	画像診断、IVR	
専攻医	日高 啓介 2022年9月30日まで		画像診断、IVR	
専攻医	吉田 純		画像診断、IVR	

診療放射線技師スタッフ

	氏名	専門資格等
技師長	松尾 浩二	磁気共鳴専門技術者、エックス線作業主任者、衛生工学衛生管理者、第1種放射線取扱主任者、第一種作業環境測定士、臨床実習指導者、臨床技術能力検定MRI検査3級
副技師長	井上 賀仁	エックス線作業主任者、ガンマ線透過写真撮影作業主任者
副技師長	花房 範計	第1種放射線取扱主任者、エックス線作業主任者、ガンマ線透過写真撮影作業主任者
RI検査主任	清水 彰英	核医学専門技師、PET認定技師、ラジウム223治療安全取扱講習会
特殊撮影主任	室屋 隆伸	
撮影透視主任	久木 繁行	第1種放射線取扱主任者、X線CT認定技師

	氏名	専門資格等
撮影透視主任	前川 則彦	X線CT認定技師、救急撮影認定技師
照射主任	松本 一繁	エックス線作業主任者、ガンマ線透過写真撮影作業主任者、肺がんCT検診認定技師、医療情報技師、放射線治療専門放射線技師、放射線治療品質管理士
特殊撮影主任	森山 尚貴	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師、マンモグラフィー認定技師
技師	木村 浩一	X線CT認定技師、肺がんCT検診認定技師
技師	柴田 真啓	X線CT認定技師
技師	嵯峨根真也	核医学専門技師、第1種放射線取扱主任者、PET認定技師、ラジウム223治療安全取扱講習会
技師	瀧田佳代子	医療情報技師、マンモグラフィ認定技師、PET認定技師、情報セキュリティマネージメント
技師	吉川 拓行	
技師	若畑 旬弥	放射線管理士、放射線機器管理士、PET認定技師、ラジウム223治療安全取扱講習会
技師	小林 哲也	放射線治療専門放射線技師
技師	池上 周平	エックス線作業主任者、ガンマ線透過写真撮影作業主任者、X線CT認定技師
技師	竹位 応輝	磁気共鳴専門技術者
技師	山本 眸	マンモグラフィ認定技師
技師	小嶋 智大	X線CT認定技師
技師	戸川 謙太	放射線治療専門放射線技師
技師	穴吹 泰博	ラジウム223治療安全取扱講習会
技師	日名地美花	マンモグラフィ認定技師
技師	的場 徹	日本DMAT隊員登録
技師	仲山 暁介	放射線管理士
技師	澤井 智将	
技師	林 由貴	マンモグラフィ認定技師、京都DMAT隊員登録
技師	吉田 彩乃	マンモグラフィ認定技師
技師	清水ももこ	
技師	牧原 佑樹	
技師	永野 双葉	第1種放射線取扱主任者、マンモグラフィー認定技師
技師	春日 衿那	
技師	山田 彬人	
技師	羽太みづき	

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関認定
- ・日本核医学会専門医教育病院
- ・日本医学放射線学会画像診断管理認定施設
 - ▶日本医学放射線学会が定める「適切な被ばく管理に関する事項」
 - ▶日本磁気共鳴医学会が定める「MRI安全管理に関する事項」
 - ▶日本磁気共鳴医学会が定める「全身MRIに関する事項」
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構 マンモグラフィ検診施設・画像認定

| 診療実績 |

年間実施件数・読影件数（2022年度）

CT 検査	28,454件 (うち読影件数：27,903件)	超音波検査（放射線診断科枠）	593件
MR 検査	12,909件 (うち読影件数：12,868件)	消化管透視検査（放射線診断科枠）	98件
アイソトープ（核医学）検査	2,626件 (うち読影件数：2,500件)	血管造影検査・治療 (IVR)（放射線診断科枠）	90件
エックス線単純撮影検査	58,140件		

| 学術活動報告（学会・研究発表など） |

発表年月日	発表学会	演題名 等 / 演者（下線は当院所属）
2022.04.16	第78回日本放射線技術学会総会学術大会	「X線CT検査における脂肪計測において、脂肪計測専用ソフトウェアの汎用ワークステーションによる代用の検討」 的場 徹
2022.04.20	第336回 関西NR勉強会	症例解答【若年成人の glioblastoma】 日高 啓介
2022.06.28	FM845「カラダ元気」	「放射線科にまつわること」 笠原 誓子
2022.07.09	第26回 藤ノ森カンファレンス 内科-泌尿器科病診連携の会	「実地医家のためのMRI講座」 日高 啓介
2022.09.21	第340回 関西NR勉強会	症例解答【dural AVFによる両側視床病変と視床性認知症】 吉田 純
2022.10.01	第30回国立病院近畿放射線技師会学術大会	「頭頸部照射における固定具の違いによるセットアップエラーの比較」 仲山 暁介
2022.10.08	第332回 日本医学放射線学会関西地方会	「FDG集積亢進とリンパ節腫大を認めた胃粘膜下神経鞘腫の一例」 (放射線診断科) 吉田 純、桑原 遼、日高 啓介、濱中 訓生、大堂さやか、黒田 昌志、伊藤 剛、 笠原 誓子、(病理診) 森吉 弘毅
2022.10.21	第72回関西GUR研究騎会	症例解答【Childhood asymmetric labium majus enlargement】 吉田 純

放射線治療科



高度放射線療法部長
診療科長
荒木 則雄

専門医資格等
日本放射線腫瘍学会および
日本医学放射線学会
放射線治療専門医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
臨床研修指導医
京都大学医学部臨床教授

専門分野
放射線治療全般、乳がん、
食道がん、脳腫瘍

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	植木 一仁	日本放射線腫瘍学会および日本医学放射線学会 放射線治療専門医 京都大学博士 (医学)	放射線治療全般、肺がん、高精度放射線治療	

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本医学放射線学会総合修練施設
- ・日本放射線腫瘍学会認定施設

診療科の特徴

様々な臓器のがんに対して、画像誘導放射線治療 (IGRT)、定位照射 (SRS, SRT)、強度変調放射線治療 (IMRT) を施行しています。

①各診療科との協働

院内の各種がん診療科と定期的にカンファレンスを開催し、臨床病期・治療選択・経過観察において、様々な検討を行って最適ながん診療を提供しています。

②オンコロジックエマージェンシー

がん診療における緊急状態 (有症状脳転移、脊髄麻痺など) に対して、積極的かつ迅速に対応しています。

③研究活動

京都大学および関連病院と連携し、国内の各種の臨床試験にも積極的に参加しています。
日々の臨床の中で、新規照射法を検討しています。

診療内容 (対象疾患・専門疾患)

- ・根治照射から緩和照射まで、悪性腫瘍全般に幅広く対応しています。
- ・良性疾患 (バセドウ眼症、ARMD、ケロイドなど) にも積極的に対応しています。

主な対象疾患

悪性腫瘍全般

| 診療実績 |

主な手術・検査の件数（2022年度）

放射線治療	470件
-------	------

JASTRO分類	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
脳脊髄	6	23	11	11
頭頸部	49	43	38	57
食道	24	26	24	27
肺気管縦隔	88	112	103	93
乳腺	61	61	84	92
肝胆膵	9	27	28	26
消化器	13	37	26	25
婦人科	15	31	25	28
泌尿器	48	82	76	79
血液・リンパ	27	11	12	16
皮膚・骨軟部	2	2	1	1
その他悪性腫瘍	2	0	0	5
良性	3	10	2	10
合計	347	465	430	470

		2020年度	2021年度	2022年度
定位照射	脳転移・脳腫瘍	15	19	13
	肺	22	17	13
	肺転移	1	0	2
	肝臓	19	19	13
	骨	1	4	12
	その他オリゴ転移	5	5	6
	定位照射小計	63	64	59
IMRT	脳	11	3	8
	頭頸部	20	15	28
	食道	6	14	13
	乳腺	0	1	3
	肺	15	10	7
	肛門、直腸	1	1	1
IMRT	婦人科	1	4	14
	前立腺	41	42	36
	リンパ腫	3	4	2
	IMRT小計	98	94	112
高精度照射合計		161	158	171

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

Impact of Local Recurrence on Cause-Specific Death After Stereotactic Body Radiotherapy for Early-Stage Non-Small Cell Lung Cancer : Dynamic Prediction Using Landmark Model

Int J Radiat Oncol Biol Phys., 112, 5, 1135-1143, 2022.04

Ueki K, Matsuo Y, Takeda A, Morita S, Taguri M, Kishi N, Hanazawa H, Tsurugai Y, Mizowaki T.

原著論文

Usefulness of pro-gastrin-releasing peptide as a predictor of the incidence of brain metastasis and effect of prophylactic cranial irradiation in patients with limited-stage small-cell lung cancer

J Radiat Res., 63, 4, 636-645, 2022.07

Ueki K, Matsuo Y, Kishi N, Yoneyama M, Yoshida H, Sakamori Y, Ozasa H, Hirai T, Mizowaki T.

原著論文

Temporal Profiles of Symptom Scores After Palliative Radiotherapy for Bleeding Gastric Cancer With Adjustment for the Palliative Prognostic Index : An Exploratory Analysis of a Multicentre Prospective Observational Study (JROSG 17-3).

Clin Oncol (R Coll Radiol)., 34, 12, e505-e514, 2022.12

Kawamoto T, Saito T, Kosugi T, Nakamura N, Wada H, Tonari A, Ogawa H, Mitsuhashi N, Yamada K, Takahashi T, Ito K, Sekii S, Araki N, Nozaki M, Heianna J, Murotani K, Hirano Y, Satoh A, Onoe T, Shikama N.

原著論文

Incidence of and risk factors for non-hematologic toxicity with combined radiotherapy and CDK4/6 inhibitors in metastatic breast cancer using dose-volume parameters analysis : a multicenter cohort study. Breast Cancer, 2022.12

Kawamoto T, Shikama N, Imano N, Kubota H, Kosugi T, Sekii S, Harada H, Yamada K, Naoi Y, Miyazawa K, Hirano Y, Wada Y, Tonari A, Saito T, Uchida N, Araki N, Nakamura N.

原著論文

Recurrence patterns and progression-free survival after chemoradiotherapy with or without consolidation durvalumab for stage III non-small cell lung cancer.

J Radiat Res., 64, 1, 142-153, 2023.01

Kishi N, Matsuo Y, Shintani T, Ogura M, Mitsuyoshi T, Araki N, Fujii K, Okumura S, Nakamatsu K, Kishi T, Atsuta T, Sakamoto T, Ohtsu S, Katagiri T, Narabayashi M, Fujishiro S, Iizuka Y, Ozasa H, Hirai T, Mizowaki T ; Kyoto Radiation Oncology Study Group (KROSG).

心臓リハビリテーション科

(2022年7月1日、総合リハビリテーション科より改定)



診療科長
中島 康代
(2022年9月30日まで)

専門医資格等
日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医・指導医
日本循環器学会循環器専門医
日本リハビリテーション医学会
認定臨床医
心臓リハビリテーション
指導士
京都大学博士（医学）

専門分野
循環器内科
心臓リハビリテーション



診療科長
(心臓リハビリテーション科)
井口 守丈
(2023年4月1日から)
※2022年7月1日から2023年3月31日まで
心臓リハビリテーション科医長

専門医資格等
日本循環器学会認定循環器
専門医
日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医・指導医
日本超音波医学会超音波
専門医（心臓）
京都大学博士（医学）
心臓リハビリテーション
指導士
日本心不全学会
日本心臓リハビリテーション学会
日本心エコー図学会
SCCT研究会
アメリカ心臓協会（AHA）
ヨーロッパ心臓病学会（ESC）

専門分野
循環器領域の画像診断

得意疾患
心不全

| スタッフ |

	氏名	専門資格等
主任理学療法士	福井 教之	心臓リハビリテーション指導士
理学療法士	奥脇 基	
2-7病棟看護師	上田 美穂	
2-7病棟看護師	嶋田 紫帆	
2-7病棟看護師	星野 幸葵	
2-7病棟看護師	萩原亜沙美	
2-7病棟看護師	樺田 敦子	
2-7病棟看護師	山口 真季	
2-7病棟看護師	細見 真子	
2-7病棟看護師	富井 朱理	

令和4年度の主な取組

心不全に代表される心疾患は増悪を繰り返し、その度ごとに身体機能が低下していきます。心臓リハビリテーションでは多職種チームによる運動療法・患者指導を中心とした包括的なプログラムにより、心疾患患者の身体機能・疾病管理を向上し、再発の予防・予後の改善・QOLの改善を目指しています。

急増する高齢の心疾患患者でも心臓リハビリが継続できるようチーム全体でメニューを工夫して行っています。

今年度の取り組み

1. 外来心臓リハビリテーション、心肺運動負荷試験（CPX）の再開

心臓リハビリテーションは継続が最も重要です。コロナにより休止していた外来心臓リハビリテーションを再開しました。退院後5か月をめぐり、週1回、準備体操・有酸素運動・クールダウンなどの約1時間のメニューを行っています。現在、火・金の二枠ですが、徐々に参加人数を増やしています。また、運動耐容能や負荷量の正確な評価のための心肺運動負荷試験（CPX）も再開しました。

2. 集中治療における早期離床の取り組み

救命センター・集中治療室での早期離床を促すため、心臓外科術後や緊急入院患者に対して、チーム全体で介入を行っています。

3. 高齢心不全患者のHAD（Hospital associated disability）予防の取り組み

心不全パンデミックとなり急増する高齢心不全患者に対しても、入院中の機能低下を予防するため、早期離床を促し、テラスエルゴを用いた低強度の有酸素運動やレジスタンストレーニングを積極的に取り入れています。

診療実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心大血管疾患リハビリ新規患者数（心筋梗塞、狭心症、開心術後、心不全を含む）	49	46	39	29	31	33	50	39	46	59	50	55	526
心大血管疾患リハビリ新規慢性心不全患者数	10	2	7	10	12	9	17	14	27	21	17	21	167
心大血管疾患リハビリテーション実施件数（算定件数のみ）	517	423	428	359	306	258	398	423	393	468	509	506	4988
総単位数	937	867	885	773	627	555	827	956	803	971	1068	1150	10419
外来心臓リハビリ実施件数	0	0	0	0	0	0	0	1	6	16	27	26	76

歯科口腔外科



医長
吉田 和也

専門医資格等

日本口腔外科学会
指導医・専門医
日本顎関節学会
指導医・専門医
日本補綴歯科学会
指導医・専門医
日本睡眠学会
歯科専門医・評議員
日本睡眠歯科学会
指導医・専門医・評議員

厚生労働省
歯科医師臨床研修
指導歯科医
大阪歯科大学博士（歯学）
京都大学博士（医学）
日本ボツリヌス治療学会
理事

専門分野

歯科口腔外科一般

得意疾患

睡眠時無呼吸症候群
顎口腔領域の不随意運動
顎顔面補綴

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	桐澤 知子	日本口腔外科学会専門医 厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医	歯科口腔外科 一般	抜歯
医師	河岡 有美	日本口腔外科学会専門医・認定医 日本口腔科学会指導医・認定医 日本小児口腔外科学会指導医・認定医 厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医	歯科口腔外科 一般	口腔ケア
レジデント	竹内 文乃		歯科口腔外科 一般	

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本口腔外科学会
- ・日本顎関節学会
- ・日本睡眠学会
- ・日本補綴歯科学会

クリティカルパス

- 小手術（2泊3日）
- 小手術（3泊4日）

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数(名)	1.9	1.3
新入院患者数(名)	159	100
平均在院日数(日)	5.5	4.9

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数(名)	39.3	37.7

主な手術・検査の件数(2022年度)

抜歯術	803件	骨折手術	2件
嚢胞摘出術	50件	顎変形症手術	10件
腫瘍摘出術	45件	顎関節手術	3件

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
2022.07.02	第35回日本顎関節学会総会・学術大会
	「顎関節症の難治性筋痛に対するボツリヌス治療」 吉田 和也
2022.07.02	第27回日本緩和医療学会学術大会
	「時間依存性ROC曲線を用いた緩和ケア患者における口腔状態と生命予後との関連：OHAT-PC study(第一報)」 中尾 美文、下郷麻衣子、坂根 直樹、中島 健
2022.07.02	第27回日本緩和医療学会学術大会
	「緩和ケア患者における死亡への口腔状態のリスク因子の特定：OHAT-PC study(第二報)」 下郷麻衣子、中尾 美文、坂根 直樹、中島 健
2022.11.04-06	第67回日本口腔外科学会 総会・学術大会
	「口腔内装置によって治療した睡眠時無呼吸症候群を伴う耳下腺気腫の1例」 吉田 和也、河岡 有美、兵 行忠
2022.11.04-06	第67回日本口腔外科学会 総会・学術大会
	「Three cases of minimally invasive surgery using surgical endoscope and navigation system」 Kizuka S, Kawaoka Y, Yoshida K, Hyo Y
2022.11.04-06	第67回日本口腔外科学会 総会・学術大会
	「Crouzon症候群男児に発生したセメント質骨形成線維腫の1例」 河岡 有美、吉田 和也、兵 行忠

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者(下線は当院所属)
解説 がん患者に対する口腔ケア 4. 終末期における口腔ケア 介護福祉士のための口腔ケアマニュアル. 竹内一夫(編), 12章, 141~142, 2022.08, 口腔保健協会 下郷麻衣子

〔原著論文〕

Botulinum toxin therapy for oromandibular dystonia and other movement disorders in the stomatognathic system.

Toxins., 14, 4, 282, 2022.04

Yoshida K.

〔原著論文〕

Botulinum toxin therapy for oromandibular dystonia.

Scholarly Community Encyclopedia., <https://encyclopedia.pub/entry/23511>, 6, 23511, 2022.06

Yoshida K.

〔原著論文〕

Effects of botulinum toxin therapy on health-related quality of life evaluated by the Oromandibular Dystonia Rating Scale.

Toxins., 14, 9, 656, 2022.10

Yoshida K.

〔原著論文〕

Neurophysiological basis of deep brain stimulation and botulinum neurotoxin injection for treating oromandibular dystonia.

Toxins., 14, 11, 751, 2022.11

Maezawa H, Hirata M, Yoshida K.

〔原著論文〕

Etiology of pneumoparotid : A systematic review.

Journal of Clinical Medicine., 12, 1, 144, 2022.12

Yoshida K.

救命救急センター（救命救急科）



救急部長
菅橋 望

専門医資格等
日本救急医学会
指導医・専門医
日本外科学会認定医
日本胸部外科学会
認定医・指導医
日本DMAT隊員・統括DMAT

専門分野
救急医学



救命救急科科长
救命救急センター長
寺嶋 真理子

専門医資格等
日本救急医学会
指導医・専門医・評議員
日本集中治療医学会
専門医・評議員
日本外科学会
指導医・専門医・認定医
Acute Care Surgery学会
評議員・認定医
日本腹部救急医学会評議員
ICLSインストラクター/
ディレクター
JATECインストラクター
JPTECインストラクター
MCLSインストラクター
日本DMAT隊員
京都大学医学部臨床教授

専門分野
救急医学
集中治療学
外傷熱傷
一般外科
腹部救急



救命集中治療科長
救命救急センター
副センター長
別府 賢

専門医資格等
日本救急医学会
指導医・専門医
日本集中治療医学会
専門医・評議員
日本麻酔科学会
指導医・専門医・認定医
麻酔科標榜医
日本集中治療医学会 評議員
JATECインストラクター
FCCSインストラクター
ICLSインストラクター/
ディレクター
死体解剖資格認定者
京都府立医科大学臨床准教授

専門分野
麻酔・集中治療
感染症
救急医学
法医学

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	吉岡 崇 2022年6月1日から	日本救急医学会専門医 日本産科婦人科学会専門医 麻酔科標榜医 京都DMAT隊員	救急医学 産婦人科救急	
医 師	田中 博之	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本医師会認定産業医 呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医/指導医 ICLSインストラクター/ディレクター ITLSインストラクター JATECインストラクター JMECCインストラクター/ディレクター JPTECインストラクター 日本DMAT隊員・統括DMAT	救急医学 呼吸管理 災害医療	体外循環 (W ECMO) を用 いた重症呼吸管理

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	宇仁田 亮	日本小児科学会専門医 日本集中治療医学会専門医 麻酔科専門医 麻酔科認定医 麻酔科標榜医 日本救急医学会専門医	小児科学 麻酔科学 集中治療学 救急医学	
医師	吉田 浩輔	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 ICD制度協議会認定 インフェクションコントロールドクター	救急医学 集中治療学 重症感染症	
医師	益満 茜	日本救急医学会専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 AHA BLSインストラクター ICLSインストラクター JMECCインストラクター JPTEC近畿世話人 JATECインストラクター MCLS管理世話人 DMATインストラクター 日本医師会認定産業医 ICD制度協議会認定 インフェクションコントロールドクター	救急医学 災害医療	
医師	村田 真紀	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本腎臓学会専門医・指導医 日本透析医学会専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 ICD制度協議会認定 インフェクションコントロールドクター 日本DMAT隊員	救急医学	
医師	杉谷 勇季	日本内科学会認定内科医 ICLSインストラクター JMECCインストラクター 厚生労働省認定臨床研修指導医 緩和ケア研修会終了 日本循環器学会PCASセミナー修了	循環器 集中治療 内科救急	
医師	橋本 賢吾	日本救急医学会専門医 日本DMAT隊員	救急医学	
医師	中川貴美子	日本救急医学会専門医 麻酔科認定医 麻酔科標榜医 JPTECインストラクター	救急医学	
医師	西川 直輝	日本救急医学会専門医 ICLSインストラクター	救急医学	

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本救急医学会 専門医・指導医認定施設
- ・日本集中治療医学会 専門医認定施設

診療科の特徴

1. 京都南部の重症患者を受け入れる拠点として活動。
2. 重症多発外傷、重度熱傷、敗血症性ショックなど重症患者を集中治療室にて管理。
3. 循環器、脳卒中など専門各科と協力し、質の高い医療を提供。
4. 積極的に研修医に救急外来で初期対応をさせ、教育。

主な対象疾患

敗血症/重症感染症、多発外傷、重症熱傷、急性呼吸不全、中毒

診療（業務）内容

救急搬送症例に対する初期外来対応、専門診療科紹介、入院加療など

重症救急患者への集中治療

院内重症患者に対する集中治療

他院からの重症紹介症例の受け入れ

多施設との症例検討会や情報交換

各種災害訓練の実施と参加

蘇生講習などへの参加と指導

研修医教育（京都大学、京都府立医科大学病院研修医を含む）

臨床医学教育（京都大学、京都府立医科大学、同志社大学、橘大学）

コメディカルに対する教育研修

市民に対する救急啓蒙教育

消防局との連携ならびに情報交換

医師会、他病院との連携ならびに情報交換

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	11.0	10.9
新入院患者数（名）	1270	1071
平均在院日数（日）	5.1	5.9

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数（名）	7.5	10.8

| 学術活動報告（学会・研究発表など） |

発表年月日 演題名等 / 演者（下線は当院所属）	発表学会
2022.07.03	the 22nd KSCCM-JSICM joint Congress
[Multisystem inflammatory syndrome in an adult after COVID-19 vaccination : A case report] Ryo Unita, Satoru Beppu, Mariko Terashima, Yuki Sugitani, Kosuke Yoshida, Hiroki Shimada	
2022.10.19	第50回日本救急医学会総会・学術集会
[リバウンドを疑いステロイドを再開し良好な転帰を得た重症COVID-19肺炎の一例：ステロイドは一律に10日間投与でよいのか？] 宇仁田 亮、村田 真紀、岡田 奈月、元濱 啓介、西川 直輝、田中 博之、別府 賢、寺嶋真理子	
2022.10.19	第50回日本救急医学会総会・学術集会
[血管内体温管理システム（ThermogardXPTM）を用いて復温し心拍再開を得た重症低体温症の一例] 吉田 浩輔、寺嶋真理子、徳山 裕貴、宇仁田 亮、杉谷 勇季、橋本 賢吾、村田 真紀、増永 直久、 笹橋 望	
2022.10.19	第50回日本救急医学会総会・学術集会
[造影MRIで保存的加療に成功した区域性精巣梗塞の一例] 元濱 啓介、増永 直久、藤沢 聖哉、吉岡 崇、佐治 雅史、中川真美子、笹橋 望	
2023.03.02	第50回日本集中治療医学会学術集会
[COVID-19に対する治療で血球減少が改善したため診断が遅れ、予後不良の転帰をたどった血球貪食症候群の一例] 宇仁田 亮	
2023.03.02	第50回日本集中治療医学会学術集会
[COVID-19入院症例における Do Not Intubation（DNI意思についての検討）] 吉田 浩輔、寺嶋真理子	
2023.03.03	第50回日本集中治療医学会学術集会
[縊頸による心肺停止蘇生後の体温管理療法後に巨大静脈血栓を形成した一例] 岡田 奈月、吉田 浩輔、宇仁田 亮、寺嶋真理子	
2023.03.18	第125回近畿救急医学研究会 日本救急医学会近畿地方会
[AppleWatchの転倒検出機能の作動により救急搬送された2例] 小西 貴博、岡田 奈月、藤沢 聖哉、中川真美子、増永 直久、宇仁田 亮、吉岡 崇、別府 賢、 寺嶋真理子、笹橋 望	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名、巻、号、ページ、発行年月、出版社 著者（下線は当院所属）
会議録 救急救命領域における早期経腸栄養の違いが退院時の栄養投与経路に及ぼす影響 国立病院総合医学会講演抄録集76回, 600, 2022.10 森岡 宏介、宮本真奈美、平野 和保、別府 賢、寺嶋真理子、阪根 直樹、村田 敬
会議録 血管内体温管理システム（ThermogardXPTM）を用いて復温し心拍再開を得た重症低体温症の一例 日本救急医学会雑誌, 33, 10, 789, 2022.10 吉田 浩輔、寺嶋真理子、徳山 裕貴、宇仁田 亮、杉谷 勇季、橋本 賢吾、村田 真紀、増永 直久、 笹橋 望
会議録 リバウンドを疑いステロイドを再開し良好な転帰を得た重症COVID-19肺炎の一例：ステロイドは一律に10日間投与でよいのか？ 日本救急医学会雑誌, 33, 10, 764, 2022.10 宇仁田 亮、村田 真紀、岡田 奈月、元濱 啓介、西川 直輝、田中 博之、別府 賢、寺嶋真理子

会議録

交通外傷を契機に診断され、一時出血性ショックを呈した胃粘膜下腫瘍に対し腹腔鏡下胃部分切除を施行した1例
Japanese Journal of Acute Care Surgery, 12, 153, 2022.09
末永 尚浩、畑 啓昭、佐治 雅史、寺嶋真理子、出川佳奈子、守山 雅晃、小嶋 大也、神部 宏行、
三木 晶森、中西 宏貴、中西 保貴、山岡 竜也、松末 亮、成田 匡大、山口 高史

原著論文

救急搬送事例となった企図的過量服用医薬品等の適正投与時の生理学的薬物動態モデルを用いた血中薬物動態再現の
基盤研究
中毒研究, 35巻3号, page179-185, 2022.09
安達昂一朗、別府 賢、清水真紀子、福田 利明、山崎 浩史

原著論文

DOCK2 is involved in the host genetics and biology of severe COVID-19.
Nature, 609, 754-760, 2022.09
Japan COVID-19 Task Force.

原著論文

The whole blood transcriptional regulation landscape in 465 COVID-19 infected samples from Japan
COVID-19 Task Force.
Nat Commun, 13, 1, 2022.08
Japan COVID-19 Task Force.

原著論文

Japan COVID-19 Task Force. Characteristics of hospitalized patients with COVID-19 during the first to fifth
waves of infection : a report from the Japan COVID-19 Task Force.
BMC Infect Dis., 22, 935, 2022.12
Japan COVID-19 Task Force.

原著論文

Prevalence and Risk Factor Analysis of Post-Intensive Care Syndrome in Patients with COVID-19 Requiring
Mechanical Ventilation : A Multicenter Prospective Observational Study.
J Clin Md., 11, 19, 2022.09
Japan COVID-19 Task Force.

臨床研究センター



臨床研究センター長
八十田 明宏

専門医資格等
日本内分泌学会内分泌代謝科
専門医・指導医
日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医

専門分野
内科・内分泌代謝・骨代謝

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
内分泌代謝 高血圧 研究部長	浅原 哲子	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本内分泌学会 幹事・評議員 内分泌代謝科専門医・指導医 Endocrine Journal 編集委員 男女共同参画推進委員会 近畿支部 代表委員 日本神経内分泌学会評議員 日本心血管内分泌代謝学会評議員 日本糖尿病学会糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会理事・評議員 日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医・評議員 日本病態栄養学会評議員 日本抗加齢医学会専門医 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医・指導医 日本糖尿病学会近畿支部評議員 日本糖尿病生活習慣病ヒューマンデータ学会評議員 日本性差医学・医療学会評議員 日本糖尿病協会療養指導医 The Endocrine Society Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism, Editorial board 編集委員 京都大学博士 (医学) 京都大学医学部非常勤講師 名古屋大学環境医学研究所 メタボ栄養科学寄附研究部門特任教授 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門客員教授 同志社大学スポーツ健康科学部客員教授 久留米大学医学部内科学講座心臓・血管内科部門 客員教授 国立循環器病研究センター客員研究員 公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センターフェロー	糖尿病、肥満症 (メタボリックシ ンドローム)、内 分泌代謝、予防 医学、遺伝診療	糖尿病、肥満症 (メ タボリックシン ドローム)、内 分泌代謝、予防 医学、遺 伝性疾患全般

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
展開医療 研究部長	長谷川浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 アメリカ心臓協会専門医 (FAHA) アメリカ心臓協会専門医 (FACC) 日本禁煙科学会認定上級禁煙支援医 日本臨床分子医学会評議員 日本心不全学会評議員 日本心血管内分泌代謝学会評議員 国際心臓研究学会 (ISHR) 評議員 日本禁煙科学会治療分科会長 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 認定NPO法人日本心血管協会特別名誉会員 日本動脈硬化学会評議員禁煙推進部会委員 国際心筋症・心筋炎・心不全学会幹事 国際心血管薬物療法学会 (ISCP) 常任理事・元理事長 京都大学博士 (医学) 大阪医科大学非常勤講師 静岡県立大学客員教授 京都大学医学部臨床教授	心不全、虚血性 心疾患、心血管 危険因子管理・ 特に禁煙指導、 心血管展開医 療、薬物療法に 関する研究	
予防医学 研究室長	坂根 直樹	日本内科学会認定内科医 京都府立医科大学医学博士	糖尿病 予防医学	
臨床 内分泌 代謝 (専任) 研究室長	日下部 徹	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本糖尿病学会糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会評議員 日本心血管内分泌代謝学会評議員 日本神経内分泌学会評議員 日本サルコペニア・フレイル学会評議員 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医 日本骨粗鬆症学会認定医 京都大学博士 (医学) 京都大学客員研究員	糖尿病、肥満症 (メタボリックシ ンドローム)、脂 肪萎縮症、内分 泌代謝サルコペ ニア、骨粗鬆症、 遺伝診療	
研究室長 (先端医療 技術開発)	和田 啓道	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本循環器学会認定循環器専門医 認定NPO法人日本心血管協会評議員 京都大学博士 (医学)	内科・循環器内 科、冠動脈疾患、 慢性腎臓病、コ ホート研究、バイ オマーカー開発	
がんゲノム 医療研究 室 長	林 琢磨	日本人類遺伝学会・遺伝医学 臨床研究コーディネーター 日本救急医学会認定 ICLS インストラクター 臨床心理カウンセラー 米国国立衛生研究所 (NIH) / 米国疾病対策センター (CDC) BL3 (P3) 感染マテリアル取り扱い主任者資格 (新興 感染症) 東京都 / 動物取扱管理責任者 (同資格) がん展開医療研究会 幹事 学校法人梅花女子大学 / 大学院 教授 (兼務) 医学博士	婦人科腫瘍学 癌ゲノム医療学 腫瘍学 新興感染症学	

令和4年度の主な取組

国立病院機構のミッションのひとつとして「臨床研究」があります。令和3年度に、院内でおこなわれる様々な臨床研究をサポートする目的で「臨床研究支援事務局」を設置しましたが、今年度はスタッフを拡充して体制を強化しました。将来的には臨床の活性化に寄与することを目指します。

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) ※各研究部より一部抜粋 |

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.05.12-13	第65回日本糖尿病学会年次学術集会
「1型糖尿病におけるisCGMのスキャン頻度と相関する要因の探索 ISCHIA研究post-hoc解析」 村田 敬、坂根 直樹、黒田 暁生、三浦順之助、廣田 勇士、加藤 研、豊田 雅夫、神山 隆治、 鴻山 訓一、島田 朗、川嶋 聡、的場 ゆか、目黒 周、楠 宣樹、肥田 和之、田中 剛史、 利根 淳仁、清水 一紀、鈴木 渉太、西村 邦宏、細田 公則	
2022.05.12-13	第65回日本糖尿病学会年次学術集会
「1型糖尿病における無自覚低血糖の頻度と危険因子に関する研究 PR-IAH研究」 加藤 研、秦 誠倫、西村英里香、荒木 里香、鴻山 訓一、畑尾満佐子、松下 裕一、的場 ゆか、 村田 敬、坂根 直樹	
2022.05.25-26	第95回日本産業衛生学会
「特定保健指導用ヘルスケアアプリの開発とリクルート状況 KENPO-appsutdy」 坂根 直樹、菅沼 彰子、藤崎 章好、金澤 亜依、杉本麻美子	
2022.09.17	第27回日本糖尿病教育・看護学会学術集会
「日本語版低血糖問題解決尺度 (HPSS-J) の開発と無自覚低血糖における意義」 坂根 靖子、同道 正行、菅沼 彰子、坂根 直樹	
2022.10.07	第76回国立病院総合医学会
「周術期等口腔機能管理の現在と問題点—リアルワールドエビデンス創出のためのデータベース構築— 周術期口腔 機能管理 エビデンス創出のための研究デザインと解析法 (会議録)」 坂根 直樹	
2022.12.03	第43回日本肥満学会
「楽しく学んで内臓脂肪を希望に変えましょう！」市民公開講座 坂根 直樹	
2022.12.16	伏見医師会ランチョンセミナー
「骨代謝系の内分泌代謝疾患—最近注目されるFGF23関連疾患を含めて—」 八十田明宏	
2022.05.12	第65回日本糖尿病学会
「PAX4遺伝子R192H変異による若年発症成人型糖尿病の母娘例」 日下部 徹、小西 陽介、河野 茂夫、田上 哲也、八十田明宏、浅原 哲子	
2022.06.03	第95回日本内分泌学会学術総会 (第3回脂肪萎縮症候群研究会)
「部分性脂肪萎縮症候群とサルコペニア肥満の病態の異同」 日下部 徹	
2022.06.17-19	第22回日本抗加齢医学会総会
「糖尿病の認知機能低下におけるTREM2の病態意義」 田中 将志、山陰 一、岩下 香里、加藤 久詞、岩佐 真代、浅原 哲子	
2022.10.14	The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension
「Concurrent somatic mutations in <i>CTNNB1</i> and <i>GNA11</i> in an aldosterone-producing adenoma」 Nanba K, Amy R. Blinder, Aaron M. Udager, Hirokawa Y, Okuno H, Moriyoshi K, Yamazaki Y, Sasano H, William E. Rainey, Yasoda A, Satoh-Asahara N, Tagami T	
2022.10.29-30	第9回日本サルコペニア・フレイル学会大会
「新たな肥満評価指標 ABSI は脳心血管病リスクの高い肥満症患者の特定に有用である」 池上健太郎、日下部 徹、村中 和哉、山陰 一、石井好二郎、浅原 哲子	
2022.11.11-12	第32回臨床内分泌代謝 Update
「糖尿病における認知症・コグニティブフレイル (脳筋連関) と予知バイオマーカー」 浅原 哲子	
2022.12.02-03	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
「肥満症のスティグマとアドボカシー活動—肥満専門外来の患者と共に—」 浅原 哲子、岩佐 真代、加藤さやか	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.12.02-03	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
「肥満症の減量治療抵抗性に関連する遺伝素因同定と精密医療の確立：G-FORCE study」 加藤さやか、山陰 一、松波 雅俊、尾崎 浩一、前田 士郎、 <u>浅原 哲子</u>	
2022.12.02-03	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
「肥満症治療ガイドライン2022の読み解き方・活かし方・内科の視点から」 <u>浅原 哲子</u>	
2022.12.02-03	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
「副腎・甲状腺疾患と肥満症」 <u>浅原 哲子</u>	
2022.11.18	第42回医療情報学連合大会（第23回日本医療情報学会学術大会）
「高統合率、高可用性を目指した仮想基盤の構築」 中原 孝洋、守下 昌輝、林 政成、佐伯 智恵、首藤 雅一、久藤 元、富永 和宏	
2022.08.28	European Society of Cardiology [ESC] Congress 2022
「Associations of soluble frms-like tyrosine kinase-1 with cardiovascular events and stroke in patients with atrial fibrillation and suspected or known coronary artery disease」 <u>Hiromichi Wada</u> , Tsuyoshi Shinozaki, Masahiro Suzuki, Satoru Sakagami, Yoichi Ajiro, Junichi Funada, <u>Morihiro Matsuda</u> , Masatoshi Shimizu, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, <u>Kyohma Wada</u> , <u>Kazuhiko Kotani</u> , Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Koji Hasegawa	
2022.08.29	European Society of Cardiology [ESC] Congress 2022
「Serum amyloid A-low-density-lipoprotein complex and mortality in patients with suspected or known coronary artery disease」 Masahiro Suzuki, <u>Kazuhiko Kotani</u> , <u>Morihiro Matsuda</u> , Yoichi Ajiro, Tsuyoshi Shinozaki, Satoru Sakagami, Kazuya Yonezawa, Masatoshi Shimizu, Junichi Funada, Takashi Takenaka, <u>Miyaka Wada</u> , <u>Mitsuru Abe</u> , <u>Masaharu Akao</u> , Koji Hasegawa, <u>Hiromichi Wada</u>	
2022.08.29	European Society of Cardiology [ESC] Congress 2022
「Involvement of growth differentiation factor 15 in paradoxical relationship between body mass index and mortality in patients with suspected or known coronary artery disease」 <u>Morihiro Matsuda</u> , Masahiro Suzuki, Yoichi Ajiro, Tsuyoshi Shinozaki, Satoru Sakagami, <u>Kazuya Yonezawa</u> , Masatoshi Shimizu, Junichi Funada, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, <u>Moritake Iguchi</u> , <u>Mitsuru Abe</u> , <u>Masaharu Akao</u> , Koji Hasegawa, <u>Hiromichi Wada</u>	
2022.10.13	the 77th World Congress of Cardiology
「Neutrophil/lymphocyte ratio is correlated with levels of inflammatory markers and is significantly reduced by smoking cessation.」 <u>Maki Komiyama</u> , <u>Hiromichi Wada</u> , Hajime Yamakage, Koji Hasegawa	
2022.10.13	the 77th World Congress of Cardiology
「Gender differences in nicotine dependency and depressive tendency among smokers」 <u>Maki Komiyama</u> , <u>Hiromichi Wada</u> , Hajime Yamakage, Koji Hasegawa	
2023.03.10-12	第87回日本循環器学会学術集会
「Probability of Obstructive Coronary Artery Disease in High-risk Japanese Patients With Chest Pain or Dyspnea : The ANOX and EXCEED-J Studies」 <u>Hiromichi Wada</u> , Tsuyoshi Shinozaki, Masahiro Suzuki, Yoichi Ajiro, Satoru Sakagami, <u>Morihiro Matsuda</u> , Junichi Funada, Masatoshi Shimizu, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, Kazuya Yonezawa, <u>Hiromi Matsubara</u> , Toshihiro Nakamura, Kazuteru Fujimoto, Yujiro Ono, Toru Kato, Akiyo Ninomiya, <u>Takashi Unoki</u> , Daisuke Takagi, Nobutoyo Masunaga, <u>Mitsuru Ishii</u> , <u>Kyohma Wada</u> , <u>Miyaka Wada</u> , <u>Takumi Nakayama</u> , <u>Moritake Iguchi</u> , <u>Kazuhiko Kotani</u> , <u>Mitsuru Abe</u> , <u>Masaharu Akao</u> , Koji Hasegawa	
2023.03.10-12	第87回日本循環器学会学術集会
「Sex Differences in the Associations Between HDL-cholesterol Levels and Mortality in High-risk Japanese Patients : The ANOX and EXCEED-J Studies」 <u>Hiromichi Wada</u> , Tsuyoshi Shinozaki, Masahiro Suzuki, Yoichi Ajiro, Satoru Sakagami, <u>Morihiro Matsuda</u> , Junichi Funada, Masatoshi Shimizu, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, Kazuya Yonezawa, <u>Hiromi Matsubara</u> , Toshihiro Nakamura, Kazuteru Fujimoto, Yujiro Ono, Toru Kato, Akiyo Ninomiya, <u>Takashi Unoki</u> , Daisuke Takagi, Nobutoyo Masunaga, <u>Mitsuru Ishii</u> , <u>Kyohma Wada</u> , <u>Miyaka Wada</u> , <u>Takumi Nakayama</u> , <u>Moritake Iguchi</u> , <u>Kazuhiko Kotani</u> , <u>Mitsuru Abe</u> , <u>Masaharu Akao</u> , Koji Hasegawa	

発表年月日 発表学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属)

2023.03.10-12 第87回日本循環器学会学術集会

「Age- and Sex-dependent Reference Values of GDF-15 in Apparently Healthy Japanese Subjects and Their Impact on Mortality in High-risk Patients」

Hikomichi Wada, Masahiro Suzuki, Kazuhiko Kotani, Morihiro Matsuda, Yoichi Ajiro, Tsuyoshi Shinozaki, Satoru Sakagami, Kazuya Yonezawa, Masatoshi Shimizu, Junichi Funada, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, Toshihiro Nakamura, Kazuteru Fujimoto, Hiromi Matsubara, Toru Kato, Takashi Unoki, Daisuke Takagi, Kyohma Wada, Miyaka Wada, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Koji Hasegawa.

2023.03.10-12 第87回日本循環器学会学術集会

「Involvement of Growth Differentiation Factor 15 in Obesity Paradox in Suspected or Known Coronary Artery Disease : The ANOX Study」

Morihiro Matsuda, Masahiro Suzuki, Yoichi Ajiro, Tsuyoshi Shinozaki, Satoru Sakagami, Kazuya Yonezawa, Masatoshi Shimizu, Junichi Funada, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, Toshihiro Nakamura, Kazuteru Fujimoto, Hiromi Matsubara, Toru Kato, Takashi Unoki, Daisuke Takagi, Kyohma Wada, Miyaka Wada, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Kazuhiko Kotani, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Koji Hasegawa, Hiromichi Wada

2022.07.14-16 第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会

「子宮間葉性腫瘍の血行性転移に関する腫瘍バイオマーカーの解析：PRUM iBio study」

林 琢磨、八重樫伸生、小西 郁生

| 投稿論文など ※各研究部より一部抜粋 |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

解説

統計からみた糖尿病の地域差

糖尿病・内分泌代謝科, 56, 1, 74-78, 2023.01

坂根 直樹

原著論文

1型糖尿病の持続皮下インスリン注入療法とQOLに関するシステマティックレビュー

日本先進糖尿病治療研究会雑誌, 16, 1, 8-16, 2022.08, 日本先進糖尿病治療研究会

坂根 直樹

原著論文

体験・共感型食育活動による保育士等の意識・行動・自信度変化と子どもの食行動変化～保育士等と園児が一緒に楽しむ活動で子どもの食と保育の質を向上～

チャイルドヘルス, 25, 6, 461～467, 2022.06.01, 診断と治療社

梁井順一郎、河川八重子、坂根 直樹

総説

「骨粗鬆症」

わかりやすい内科学 第5版 編集主幹 井村裕夫, 771-775, 2023.01.11, 文光堂

八十田明宏

総説

脂肪萎縮症

ガイドラインにないリアル糖尿病薬物療法をガイドする, 99～105, 2022.11.15, 振興科学出版社

日下部 徹

総説

新型コロナウイルス流行期における糖尿病患者の血糖コントロール

糖尿病・内分泌代謝科, 55, 2, 232-241, 2022.08, 科学評論社

加藤さやか、浅原 哲子

総説

遺伝的要因から糖尿病を考える

月刊糖尿病さかえ, 62, 8, 5-10, 2022.08, 日本糖尿病協会

加藤さやか、浅原 哲子

原著論文

Factors associated with hemoglobin glycation index in adults with type 1 diabetes mellitus : The FGM-Japan study

J Diabetes Investig, 2023.02

Naoki Sakane, Yushi Hirota, Akane Yamamoto, Junnosuke Miura, Hiroko Takaïke, Sari Hoshina, Masao Toyoda, Nobumichi Saito, Kiminori Hosoda, Masaki Matsubara, Atsuhito Tone, Satoshi Kawashima, Hideaki Sawaki, Tomokazu Matsuda, Masayuki Domichi, Akiko Suganuma1, Seiko Sakane, Takashi Murata

原著論文

To Use or Not to Use a Self-monitoring of Blood Glucose System? Real-world Flash Glucose Monitoring Patterns Using a Cluster Analysis of the FGM-Japan Study

Internal Medicine, 1-9, 2023.01

Naoki Sakane, Yushi Hirota, Akane Yamamoto, Junnosuke Miura, Hiroko Takaïke, Sari Hoshina, Masao Toyoda, Nobumichi Saito, Kiminori Hosoda, Masaki Matsubara, Atsuhito Tone, Satoshi Kawashima, Hideaki Sawaki, Tomokazu Matsuda, Masayuki Domichi, Akiko Suganuma1, Seiko Sakane, Takashi Murata

原著論文

Prevention of hypoglycemia by intermittent-scanning continuous glucose monitoring device combined with structured education in patients with type 1 diabetes mellitus : A randomized, crossover trial

Diabetes Res Clin Pract, 14, 2022, 2023.01

Takashi Murata, Kiminori Hosoda, Kunihiro Nishimura, Yoshihiro Miyamoto, Naoki Sakane, Noriko Satoh-Asahara, Masao Toyoda, Yushi Hirota, Munehide Matsuhisa, Akio Kuroda, Ken Kato, Ryuji Kouyama, Junnosuke Miura, Atsuhito Tone, Masato Kasahara, Shu Kasama, Shota Suzuki, Yukie Ito, Tomokazu Watanabe, Akiko Suganuma, Zhuo Shen, Hiroko Kobayashi, Satoshi Takagi, Sari Hoshina, Kanako Shimura, Yukiko Tsuchida, Moritsugu Kimura, Nobumichi Saito, Akira Shimada, Yoichi Oikawa, Atsushi Satomura, Akifumi Haisa, Satoshi Kawashima, Shu Meguro, Hiroshi Itoh, Yoshifumi Saïsho, Junichiro Irie, Masami Tanaka, Masanori Mitsuishi, Yuya Nakajima, Jun Inaishi, Kenichiro Kinouchi, Shintaro, amaguchi, Arata Itoh, Kazutoshi Sugiyama, Kazuma Yagi, Tami Tsuchiya, Noriko Kodani, Ikki Shimizu, Tetsuya Fukuda, Yoshiki Kusunoki, Tomoyuki Katsuno, Yuka Matoba, Yumi Hitaka, Kentaro Abe, Natsuko Tanaka, Ryoko Taniguchi, Toshihiko Nagao, Kazuyuki Hida, Izumi Iseda, Masaya Takeda, Yuichi Matsushita, Masafumi Tenta, Tsuyoshi Tanaka, Kunichi Kouyama, Michiru Fukunaga

原著論文

High-throughput Screening in Combination With a Cohort Study for Iodothyronine Deiodinases.

Endocrinology., 163 (8) : bqac090. doi : 10.1210/endo/bqac090.PMID : 35695766, 2022.08

Yamauchi I, Sakane Y, Okuno Y, Sugawa T, Hakata T, Fujita H, Okamoto K, Taura D, Yamashita T, Hirota K, Ueda Y, Fujii T, Yasoda A, Inagaki N.

原著論文

Prediction of long-term biochemical cure in patients with unilateral primary hyperaldosteronism treated surgically based on the early post-operative plasma aldosterone value

Endocr J., 69, 4, 407-415, 2022.04

Ishihara Y, Umakoshi H, Kaneko H, Nanba K, Tsuiki M, Kusakabe T, Satoh-Asahara N, Yasoda A, Tagami T.

原著論文

Association of daily sleep duration with the incident dementia by serum soluble TREM2 in a community.

J Am Geriatr Soc., 70, 4, 1147-1156, 2022.04

Ohara T, Hata J, Tanaka M, Honda T, Yamakage H, Inoue T, Hirakawa Y, Kusakabe T, Shibata M, Kitazono T, Nakao T, Satoh-Asahara N, Ninomiya T.

原著論文

A combined index of waist circumference and muscle quality is associated with cardiovascular disease risk factor accumulation in Japanese obese patients : a cross-sectional study.

Endocrine, 77, 1, 30-40, 2022.06

Ikeue K, Kusakabe T, Muranaka K, Yamakage H, Inoue T, Ishii K, Satoh-Asahara N.

原著論文

Higher serum soluble TREM2 as a potential indicative biomarker for cognitive impairment in inadequately controlled type 2 diabetes without obesity : the DOR-KyotoJ-1.

Front. Endocrinol., 13, 880148, 2022.05

Tanaka M, Yamakage H, Muranaka K, Yamada T, Araki R, Ogo A, Matoba M, Watanabe T, Saito M, Kurita S, Yonezawa K, Tanaka T, Suzuki M, Sawamura M, Matsumoto M, Nishimura M, Kusakabe T, Wada H, Hasegawa K, Kotani K, Noda M, Satoh-Asahara N

原著論文

Analysis of time-dependent changes in the FIB4 index in obese patients receiving weight reduction therapy.
Sci Rep, 12, 1, 15219, 2022.09
Kawai S, Yamakage H, Kotani K, Noda M, Satoh-Asahara N, Hashimoto K.

原著論文

Soluble TREM2 and Alzheimer-related biomarker trajectories in the blood of patients with diabetes based on their cognitive status.
Diabetes Res Clin Pract, 193, 110121, 2022.11
Satoh-Asahara N, Yamakage H, Tanaka T, Kawasaki T, Matsuura S, Tatebe H, Akiguchi I, Tokuda T.

原著論文

Novel Therapeutic Potentials of Taxifolin for Obesity-Induced Hepatic Steatosis, Fibrogenesis, and Tumorigenesis.
Nutrient, 15, 2, 350, 2023.01
Inoue T, Fu B, Nishio M, Tanaka M, Kato H, Tanaka M, Itoh M, Yamakage H, Ochi K, Ito A, Shiraki Y, Saito S, Ihara M, Nishimura H, Kawamoto A, Inoue S, Saeki K, Enomoto A, Suganami T, Satoh-Asahara N.

原著論文

Randomized double-blind placebo-controlled multicenter trial for the effects of a polyherbal remedy, Yokukansan (YiganSan), in smokers with depressive tendencies
BMC Complement Med Ther, 22, 1, 311, 2022.11
Komiyama M, Ozaki Y, Wada H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Yasoda A, Sunagawa Y, Morimoto T, Tamaki S, Masahiro Suzuki, Shibayama T, Kato T, Okada Y, Kita T, Takahashi Y, Hasegawa K.

原著論文

Study protocol to determine the effects of highly absorbable oral curcumin on the indicators of cognitive functioning : a double-blind randomised controlled trial
BMJ Open, 12, 9, e057936, 2022.09
Komiyama M, Ozaki Y, Wada H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Kishimoto A, Katsuura Y, Imaizumi A, Hashimoto T, Sunagawa Y, Morimoto T, Hasegawa K.

原著論文

Gingival bleeding and pocket depth among smokers and the related changes after short-term smoking cessation
Acta Odontol Scand, 80, 4, 258-263, 2022.05
Mittal S, Komiyama M, Ozaki Y, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Yasoda A, Wada H, Funamoto M, Shimizu K, Miyazaki Y, Katanasaka Y, Sunagawa Y, Morimoto T, Takahashi Y, Nakayama T, Hasegawa K.

原著論文

Psychological Effects of Aromatherapy on Smokers With Depressive Tendencies During Smoking Cessation Treatment : Protocol for a Pre-Post Single-Arm Clinical Trial.
JMIR Research Protocols, 11, 7, e38626, 2022.07
Akiko Hata, Maki Komiyama, Akihiro Yasoda, Hiromichi Wada, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Tatsuya Morimoto, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa

原著論文

Are SGLT2 inhibitors effective against 'all' heart failure with preserved ejection fraction?
Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother., 8, 3, E10, 2022.05
Hasegawa K, Lewis BS.

原著論文

Pharmapulse report-does the arrival of factor XI inhibitors mark the end of the NOAC era?
Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother., 8, 3, E9, 2022.05
Hasegawa K, Ikeda T.

原著論文

Importance of diagnostic methods for round ligament leiomyomas in clinical practice.
Quant Imaging Med Surg., 13, 1, 2033-2037, 2023.03
Hayashi T, Yaegashi N, Tonegawa S, Konishi I.

原著論文

Molecular Histopathology for Establishing Diagnostic Method and Clinical Therapy for Ovarian Carcinoma
J Clin Med Res., 15, 2, 68-75, 2023.02
Hayashi T, Konishi I.

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

Pathological Evidence for Residual SARS-CoV-2 in the Micrometastatic Niche of a Patient with Ovarian Cancer

Curr Issues Mol Biol., 44, 12, 5879-5889., 2022.11

Hayashi T, Sano K, Yaegashi N, Konishi I.

原著論文

Possibility of SARS-CoV-2 Infection in the Metastatic Microenvironment of Cancer.

Curr Issues Mol Biol., 44, 1, 233-241, 2022.04

Hayashi T, Sano K, Konishi I.

遺 伝 診 療 部



診療部長
八十田 明宏

専門医資格等
 日本内分泌学会内分代謝科
 専門医・指導医
 日本内科学会認定内科医・
 総合内科専門医
 京都大学博士（医学）
 京都大学医学部非常勤講師

専門分野
 内科・内分代謝（骨代謝）

| スタッフ |

	氏 名	専門医資格等
顧 問	三宅 秀彦	臨床遺伝専門医・指導医、お茶の水女子大学教授
室 長	浅原 哲子	臨床遺伝専門医・指導医、内分代謝高血圧研究部部長
スタッフ	日下部 徹	臨床遺伝専門医、内分代謝高血圧研究部室長
スタッフ	橋本有紀子	臨床遺伝専門医、小児科医師
スタッフ	小西 陽介	認定遺伝カウンセラー、臨床研究センター
スタッフ	北 誠	臨床遺伝専門医、小児科医師
スタッフ	安彦 郁	産科婦人科診療科長
スタッフ	江本 郁子	臨床遺伝専門医、産科婦人科病棟医長
スタッフ	難波 多挙	内分代謝内科医師
スタッフ	林 琢磨	がん医療研究室室長

| 令和4年度の主な取組 |

昨年に引き続き、遺伝性腫瘍の遺伝カウンセリング症例が大半を占める結果となりました。

産科分野では非侵襲性出生前遺伝学的検査（NIPT）の基幹施設を取得し、出生前診断の相談にも対応が可能になりました。

診療実績

遺伝診療部外来患者数

	2021年度	2022年度
年間総患者数 (名)	138	105
年間初診患者数 (名)	111	73

主な疾患の件数 (2022年度)

腫瘍	66件	成人一般	11件
神経筋疾患	8件	周産期	16件
小児	4件		

学術活動報告 (学会・研究発表など)

発表年月日	発表学会
演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	
2022.05.08	第447回日本小児科学会京都地方会
[網羅的遺伝子解析にて診断されたSchaaf-Yang症候群の兄弟例] 橋本有紀子、上月 景弘、常念 大輔、仁井 純子、北 誠、石塚 哲也、松倉 崇、浅井 康一、 矢野 直子、吉田 健司、滝田 順子	
2022.05.12	第65回日本糖尿病学会
[PAX4遺伝子R192H変異による若年発症成人型糖尿病の母娘例] 日下部 徹、小西 陽介、河野 茂夫、田上 哲也、八十田明宏、浅原 哲子	
2022.06.03	第95回日本内分泌学会学術総会 (第3回脂肪萎縮症候群研究会)
[部分性脂肪萎縮症候群とサルコペニア肥満の病態の異同] 日下部 徹	
2022.10.07	第60回日本糖尿病学会 九州地方会
[糖尿病に伴う認知症の特徴と効果的なバイオマーカー・評価系 - TREM2の有用性] 浅原 哲子	
2022.10.14	The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension
[Concurrent somatic mutations in CTNFB1 and GNA11 in an aldosterone-producing adenoma] Kazutaka Nanba, Amy R. Blinder, Aaron M. Udager, Yuusuke Hirokawa, Hiroshi Okuno, Koki Moriyoshi, Yuto Yamazaki, Hironobu Sasano, William E. Rainey, Akihiro Yasoda, Noriko Satoh-Asahara, Tetsuya Tagami	
2022.10.30	第9回日本サルコペニア・フレイル学会大会
[生体電気インピーダンス法により得られるPhase Angleを用いたサルコペニア診療の可能性] 日下部 徹	
2022.11.02	第55回日本小児内分泌学会学術集会
[成長ホルモン分泌不全性低身長症を呈し、遺伝子解析で診断したSchaaf-Yang症候群の兄弟例] 橋本有紀子、北 誠、松倉 崇、浅井 康一、矢野 直子、吉田 健司、滝田 順子	
2022.11.11-12	第32回臨床内分泌代謝Update
[糖尿病における認知症・コグニティブフレイル (脳筋連関) と予知バイオマーカー] 浅原 哲子	
2022.12.02-03	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
[肥満症・糖尿病と認知症 - 効果的な早期診断指標と予防戦略 -] 浅原 哲子	
2023.10.28	The 8th ASIAN CONFERENCE for FRAILITY AND SARCOPENIA
[Phase angle as a new indicator of muscle quality and Its application for sarcopenia evaluation] Toru Kusakabe	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

異所性成分を含む子宮平滑筋肉腫破裂の1例

日本婦人科腫瘍学会雑誌, 40, 2, 55-61, 2022.04

田中 美柚、高尾 由美、鈴木 直宏、天野 泰彰、宇治田麻里、江本 郁子、安彦 郁

原著論文

再発子宮体癌に対しpembrolizumab投与中にCOVID-19感染による全身症状が遷延した1例

産婦人科の進歩, 74, 3, 383~390, 2022.08

田村 紗也、北野 照、上田 匡、江本 郁子、天野 泰彰、宇治田麻里、小田垣孝雄、安彦 郁

原著論文

Higher serum soluble TREM2 as a potential indicative biomarker for cognitive impairment in inadequately controlled type 2 diabetes without obesity : the DOR-KyotoJ-1.

Front. Endocrinol., 13, 880148, 2022.05

Tanaka M, Yamakage H, Muranaka K, Yamada T, Araki R, Ogo A, Matoba Y, Watanabe T, Saito M, Kurita S, Yonezawa K, Tanaka T, Suzuki M, Sawamura M, Matsumoto M, Nishimura M, Kusakabe T, Wada H, Hasegawa K, Kotani K, Noda M, Satoh-Asahara N.

原著論文

Soluble TREM2 and Alzheimer-related biomarker trajectories in the blood of patients with diabetes based on their cognitive status.

Diabetes Res Clin Pract, 193, 110121, 2022.11

Satoh-Asahara N, Yamakage H, Tanaka T, Kawasaki T, Matsuura S, Tatebe H, Akiguchi I, Tokuda T.

原著論文

A combined index of waist circumference and muscle quality is associated with cardiovascular disease risk factor accumulation in Japanese obese patients : a cross-sectional study.

Endocrine, 77, 1, 30-40, 2022.06

Ikeue K, Kusakabe T, Muranaka K, Yamakage H, Inoue T, Ishii K, Satoh-Asahara N.

Review

Pathophysiology of bilateral hyperaldosteronism.

Curr Opin Endocrinol Diabetes Obes., 29, 3, 233-242, 2022.06

Nanba K, Rainey WE.

原著論文

Histopathology and Genetic Causes of Primary Aldosteronism in Young Adults.

J Clin Endocrinol Metab., 107, 9, 2473-2482, 2022.08

Nanba K, Baker JE, Blinder AR, Bick NR, Liu CJ, Lim JS, Wachtel H, Cohen DL, Williams TA, Reincke M, Lyden ML, Bancos I, Young WF, Else T, Giordano TJ, Udager AM, Rainey WE.

Brief Report

ACTH-independent production of 11-oxygenated androgens and glucocorticoids in an adrenocortical adenoma

Eur J Endocrinol., 187, 6, K39-K45, 2022.12

Kitamura T, Blinder AR, Nanba K, Tsuiki M, Mishina M, Okuno H, Moriyoshi K, Yamazaki Y, Sasano H, Yoneyama K, Udager AM, Rainey WE, Yasoda A, Satoh-Asahara N, Tagami T.

原著論文

Prediction of long-term biochemical cure in patients with unilateral primary hyperaldosteronism treated surgically based on the early post-operative plasma aldosterone value

Endocr J., 69, 4, 407-415, 2022.04

Ishihara Y, Umakoshi H, Kaneko H, Nanba K, Tsuiki M, Kusakabe T, Satoh-Asahara N, Yasoda A, Tagami T.

原著論文

Primary Aldosteronism : State-of-the-Art Review.

Am J Hypertens., 35, 12, 967-988, 2022.12

Vaidya A, Hundemer GL, Nanba K, Parksook WW, Brown JM.

Review

Primary aldosteronism caused by a pI157S somatic KCNJ5 mutation in a black adolescent female with aldosterone-producing adenoma

Front Endocrinol., 13, 921449, 2022.08

Gomez-Sanchez CE, van Rooyen D, Rainey WE, Nanba K, Blinder AR, Baliga R.

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

Importance of diagnostic methods for round ligament leiomyomas in clinical practice.

Quant Imaging Med Surg., 13, 2033-2037, 2023.03

Hayashi T, Yaegashi N, Tonegawa S, Konishi I.

医療安全管理部



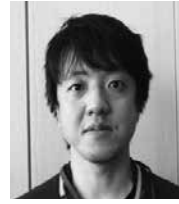
副院長
医療安全管理部長
白神 幸太郎



医療安全管理副部長
阿部 充



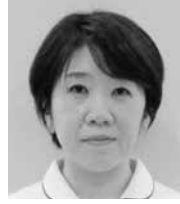
医療安全管理係長
吉田 活子
(2023年3月31日まで)



副看護師長
中野 達也
(2023年2月28日まで)



訴訟専門職
栗谷 圭一
(2023年3月31日まで)



医療安全管理係長
浅井 真由美
(2023年4月1日から)



副看護師長
増田 友香
(2023年3月1日から)



訴訟専門職
池田 健太郎
(2023年4月1日から)

患者安全の確保、医療の質の担保と向上への取り組みは、急性期基幹病院である当院において最も重要な課題であり、安全文化の醸成は医療教育機関としての責務である。これらの課題、責務を達成するために医療安全管理部が活動している。院内に医療安全管理室を設置し、各部署に医療安全推進担当者（リスクマネージャー）において医療安全管理体制を整備している。医療安全管理委員会、リスクマネージャー会議などの定例会議を主催するとともに、随時オカレンス症例検討会、ハイリスク診療検討会などを開催している。また、電子化した報告システムによりインシデント・アクシデント事例を収集し、個々の事例に対応するだけでなく、マニュアル等の定期的な見直しを行い、医療安全管理体制の強化充実を図っている。院内で共有すべき情報については積極的に情報発信を行い、スタッフ教育にも力を注いでいる。医療事故調査制度より、当院で生じた死亡症例についてはモニタリングし、迅速かつ適切に事例の収集と検討が可能となるシステムが整備された。これらの取り組みを通じて、医療に伴って発生する様々な危険や有害事象をモニターし、調査、分析して医療に反映させること、重大な有害事象に対して病院をあげて迅速に対応すること、スタッフ教育や院内システムの改善に役立てることを目標としている。

1. 医療安全管理体制

1) 組織図……医療安全管理マニュアル 参照

2) 構成メンバー

医療安全管理部長 1名

医療安全管理副部長 1名

医療訴訟専門職 1名

医療安全管理係長 1名

看護部医療安全担当副看護師長：1名

医療安全推進担当者（リスクマネージャー）各部署から1名 計61名

2. 医療安全に関する日常活動

- 1) 医療安全に関する院内の情報収集及び実態調査（定期的な院内の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検）
- 2) マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等
- 3) インシデント・アクシデントレポートの収集、保管、分析、具体的な改善策の提案、分析結果の現場へのフィードバックと集計結果の管理
- 4) 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
- 5) 医療安全に関する職員への啓発、広報
- 6) 医療安全に関する教育研修の企画・運営
- 7) 医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告
- 8) 医療安全管理に係る連絡調整に関すること

3. 業務実績

1) 医療事故に関する会議開催状況（2022年度）

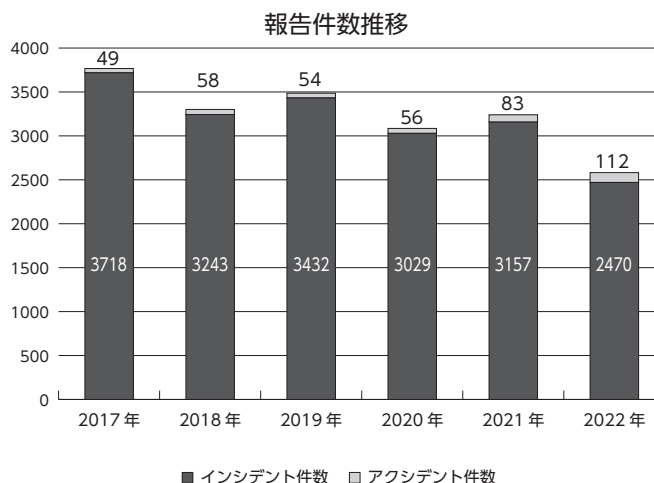
- | | |
|----------------|-----|
| （1）拡大医療安全管理委員会 | 0件 |
| （2）医療事故本部対策会議 | 0件 |
| （3）オカレンス事例検討会議 | 15件 |
| （4）ハイリスク診療検討会議 | 13件 |

2) マニュアル、ガイドライン等の作成・改訂

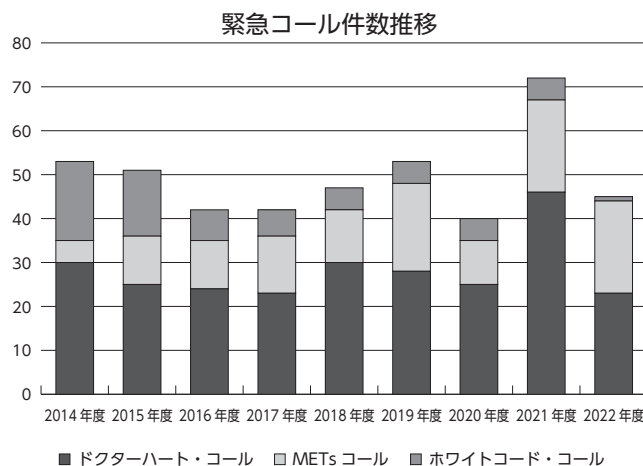
- ・ 中心静脈カテーテル運用マニュアル（2012年）
- ・ ロヒプノール院内使用指針（2014年）
- ・ 院内転倒時の頭部・顔面打撲対応（2019年改訂）
- ・ 深部静脈血栓症・肺塞栓症の予防対策ガイドライン（2019年改訂）
- ・ 抗血栓薬の適正使用と周術期の取り扱いに関するガイドライン（2021年改訂）
- ・ 血糖測定・インスリン指示に関するテンプレート整備（2021年改訂）
- ・ 患者用パンフレット：転倒転落予防のご協力をお願い（2021年作成）
- ・ 全部署の救急カートの新規購入と救急カート内容・配置の統一（2022年）
- ・ 医療安全管理マニュアル（2020年改訂）
- ・ 医療事故防止対策マニュアル（2021年改訂）
- ・ 医療安全管理マニュアルと医療事故防止マニュアルを改定合冊（令和5年3月）

3) インシデント・アクシデントレポート収集

- ・ 2022年度報告件数 2582件
- インシデント 2470件
(レベル0～レベル3a)
- アクシデント 112件
(レベル3b～レベル5)



- 4) 2022年度 緊急コール件数
 ドクターハートコール：23件
 METsコール：21件
 ホワイトコードコール：1件



5) 医療安全に関する活動及び情報提供

- ・医療安全管理委員会 1回/月 計12回
- ・リスクマネージャー会議 1回/月 計12回
- ・診療科長会議、医局会、管理診療会議での情報提供
- ・事故事例の情報発信等
- ・各部門カンファレンス・検討会等参加

6) 医療安全に関する教育研修

(1) 医療安全研修会

第1回 令和4年7月21日

重症心身障害児(者)の特徴と関わり

国立病院機構やまと精神医療センター

副院長 谷口謙先生

院内認定頼人強度行動障害者看護師 細田実先生 橋本みどり先生

第2回 令和5年1月19日

カルテ記載について考える—多職種によるチーム医療の記録で情報共有しよう—

国立病院機構姫路医療センター元教育研修室長

研修オフィス shima代表 嶋崎明美先生

(2) 医療事故防止研修会

第1回 膀胱留置カテーテルの挿入と管理：令和4年6月21日

7) 医療安全に関する講義

新採用者研修、看護助手等採用時研修、幹部看護師任用候補者研修、IVナース講義、看護学校講義、医療安全管理研修、スペシャルメ-ディカルクラーク研修 等

8) 医療安全対策地域連携加算の相互評価

加算1：京都市立病院 令和4年11月4日

加算2：蘇生会総合病院 令和4年12月7日

医療情報部



専門医資格等
九州歯科大学特任教授
京都大学客員研究員

専門分野
医療ICT、教育ICT、
ネットワークセキュリティ
口腔外科

医療情報部長
情報化推進研究室
研究室長
中原 孝洋

| スタッフ |

- ・診療情報管理室
診療情報管理士 5名
院内がん登録実務中級者 2名、同初級者 1名、医療情報技師 1名、
情報セキュリティマネジメント試験合格者 1名 (延べ数)
- ・診療支援チーム
スペシャル医療クラーク 23名
医師事務作業補助者 12名
- ・医療情報システム管理室
運用管理職員 (委託) 5名

| 令和4年度の主な取組 |

活動実績

2022年度 (2022/4/1～2023/3/31まで)

1. 新任者研修 合計 3回実施
2. 医療情報委員会 12回開催 (メール開催含む)
3. 医療情報小委員会 42回開催
4. 京都府がん医療戦略推進会議 院内がん登録部会 5回開催
5. 京都府がん医療戦略推進会議 院内がん登録部会 登録実務WG 5回開催
6. 京都府がん医療戦略推進会議 院内がん登録部会研修会 5回開催
7. 京都府院内がん登録セミナー 1回開催
8. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会—がん登録部会 1回参加

院内情報処理業務支援

- ・ DVD-R 作成件数

2022年度 病診連携用画像DVD-R作成件数（放射線科、手術術野動画等） 5850件（月平均472件）

2021年度 病診連携用画像DVD-R作成件数（放射線科、手術術野動画等） 5608件（月平均460件）

2020年度 病診連携用画像DVD-R作成件数（放射線科、手術術野動画等） 4505件（月平均363件）

- ・ データ抽出の相談件数及びデータ出力件数

2022年度 相談件数（6件） データ出力件数（52件）

- ・ 医療情報システム運用対応

2022年度 電話および来室によるヘルプデスク問い合わせ件数 10671件（月平均889件）

| 学術活動報告（学会・研究発表など） |

発表年月日	発表学会
2022.11.18	第42回医療情報学連合大会（第23回日本医療情報学会学術大会）
「高統合率、高可用性を目指した仮想基盤の構築」 中原 孝洋、守下 昌輝、林 政成、佐伯 智恵、首藤 雅一、久藤 元、富永 和宏	
2023.03.01-22（オンデマンド配信）	医療機関における安心・安全な電波利用推進シンポジウム（総務省・電波環境協議会）
「病院における次世代PHS [sXGP]」 中原 孝洋	

感染制御部



感染制御部長
ICTリーダー (ICD) (専任)
診療科長
(総合診療科・感染症科)
小田垣 孝雄

専門医資格等

ICD : Infection Control
Doctor
日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医・指導医
日本化学療法学会
抗菌化学療法指導医
日本プライマリ・ケア連合
学会プライマリ・ケア
認定医・指導医
日本医師会認定産業医

専門分野

内科一般、感染制御

得意疾患

一般内科疾患



感染制御副部長
外科診療科長 (ICD)
畑 啓昭

専門医資格等

日本外科学会外科専門医・
指導医
日本消化器外科学会
消化器外科専門医・指導医
日本内視鏡外科学会
内視鏡外科技術認定医 (胃)・
評議員
日本感染症学会
感染症専門医・評議員・
臨床研究促進委員会委員
日本食道学会食道科認定医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
日本消化器外科学会
消化器がん外科治療認定医
ICD (インフェクションコント
ロールドクター)

日本外科感染症学会
周術期感染管理認定医・
教育医・評議員・
教育委員会委員長・
編集委員会委員
日本化学療法学会
評議員・抗菌化学療法認定
医制度審議委員会委員・国
際渉外委員会委員
日本化学療法学会・日本感染
症学会
JAID/JSC 感染症治療ガイ
ド・ガイドライン作成委員・
MRSA 感染症の治療ガイド
ライン作成委員・薬剤耐性
菌感染症を対象とした抗菌
薬ガイドライン作成に関す
る合同委員会委員

Journal of Infection and
Chemotherapy,
Senior Editor
日本環境感染学会
評議員・JHAIS委員会委員・
あり方委員会委員
日本臨床外科学会評議員
ダ・ヴィンチ コンソール
術者ライセンス医
京都大学博士 (医学)

専門分野

上部消化管・外科感染症

得意疾患

胃がん・食道がん



副看護師長 (専従)
宮川 英和

専門医資格等

CNIC (Certified Nurse
in Infection Control,
感染管理認定看護師)

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
薬剤師 (ICT専任)	保井 健太	KLEC認定薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師		
薬剤師 (AST専任)	稲田 顕慶	KLEC認定薬剤師		
検査科 (専任)	吉川 耕平	感染制御認定臨床微生物検査技師 認定臨床微生物検査技師 感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT)		
経営企画 室長	小林 良平			

| 令和4年度の主な取組 |

令和4年度(2022年度) ICTメンバー

小田垣孝雄	感染制御部長・総合診療科長、院内感染管理者、ICTリーダー (ICD) (専任)
畑 啓昭	感染制御副部長・外科診療科長 (ICD)
陣内 牧子	総合内科医師 (ICD)
宮川 英和	感染制御部専従看護師 (CNIC) (専従)
保井 健太	薬剤師 (専任)
塚原 優太	主任薬剤師
稲田 顕慶	薬剤師
山階 規子	薬剤師
吉川 耕平	主任臨床検査技師
小林 良平	経営企画室長

令和4年度(2022年度) ASTメンバー

小田垣孝雄	感染制御部長・総合診療科長 (ICD) (抗菌化学療法指導医) (専任)
畑 啓昭	感染制御副部長・外科診療科長 (ICD)
佐治 雅史	救命救急科医師
藤田 浩平	呼吸器内科医長
金井 修	呼吸器内科医師
宮川 英和	感染制御部専従看護師 (CNIC) (専任)
稲田 顕慶	薬剤師 (専任)
塚原 優太	主任薬剤師
保井 健太	薬剤師
山階 規子	薬剤師
吉川 耕平	主任臨床検査技師 (専従)
小林 良平	経営企画室長

令和4年度(2022年度) の主な取組

定例のチーム活動

ICTミーティング 毎週水曜日 午後

ICTラウンド 毎週木曜日 午前

ASTカルテラウンド

血液培養陽性者カルテラウンド：随時

集中治療室ラウンド：随時

特定抗菌薬使用患者カルテラウンド：毎週月曜日と木曜日

連携施設との合同カンファレンス、訪問指導・助言

第1回感染対策向上 地域連携カンファレンス 2022年6月3日

「新興感染症に備えた個人防護具着脱訓練」

第2回感染対策向上 地域連携カンファレンス 2022年9月2日（ZOOMクラウドミーティングで実施）

ミニレクチャー「抗菌薬（メロペネムなど）欠品に対する対応」

感染対策に関する相互討論

第3回感染対策向上 地域連携カンファレンス 2022年12月2日（ZOOMクラウドミーティングで実施）

「COVID-19院内感染に備えた机上訓練の事前準備レクチャー」

第4回感染防対策向上 地域連携カンファレンス 2023年2月3日（ZOOMクラウドミーティングで実施）

「COVID-19患者発生に備えたオンライン机上訓練」

感染対策向上 地域連携相互評価：

2022年11月7日 京都市立病院と宇多野病院が当院を訪問して評価

2022年12月5日 当院が宇多野病院を訪問して評価

連携医療機関訪問指導・助言

2022年4月25日 浩照会伏見桃山総合病院を訪問してラウンドおよびカンファレンス

2022年5月6日 医聖会学研都市病院を訪問してラウンドおよびカンファレンス

2023年1月16日 浩照会伏見桃山総合病院を訪問してラウンドおよびカンファレンス

外来感染対策向上 連携カンファレンス

2022年10月8日 「薬剤耐性（AMR：Antimicrobial Resistance）について」

「経口抗菌薬の使い方」

2023年1月28日 「診療所における新興感染症に備えたPPE着脱訓練」

2022年度 院内感染対策講習会、抗菌薬適正使用教育セミナー

第1回院内感染対策講習会 2022年6月 YouTube配信またはDVD視聴

「京都医療センターICT こんなことを気にしています」

- ① ICT・AST活動と病院経営
- ② 環境ラウンドの着目点
- ③ 血液培養コンタミを減らそう！
- ④ COVID-19アップデート

第2回院内感染対策講習会 2022年11月 YouTube配信またはDVD視聴

（第1回抗菌薬適正使用教育セミナーを兼ねて）

- ① メロペネム欠品への対応
- ② 今さら訊けないメタローβ-ラクタマーゼ

第2回抗菌薬適正使用教育セミナー 2023年2月 YouTube配信またはDVD視聴

「セファゾリンに強くなるよう」

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.06.03-05 [教育講演22 術後感染予防抗菌薬の最新情報] 畑 啓昭	第70回日本化学療法学会総会
2022.06.16-18 [合同シンポジウム2 外科感染症学会 手術室での感染対策手技を見ようー消化器外科編] 畑 啓昭	第37回日本環境感染症学会総会・学術集会
2022.06.16-18 [シンポジウム27 術野消毒の実際、どうしてますか～安全な手術とSSI低下を目指して～] 畑 啓昭	第37回日本環境感染症学会総会・学術集会
2022.06.16-18 [消化器外科領域の安全で有効な術野消毒] 畑 啓昭	第37回日本環境感染症学会総会・学術集会
2022.10.26-28 [事例検討 悩ましい外科領域の症例] 畑 啓昭	第71回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第69回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会 第64回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー
2022.11.03-05 [日本感染症学会・日本外科感染症学会 合同シンポジウム 外科領域感染症 Up to Date 一般外科領域感染症の Up to Date] 畑 啓昭	第92回日本感染症学会西日本地方学術集会 第65回日本感染症学会中日本地方会学術集会 第70回日本化学療法学会西日本支部総会
2022.11.08-09 [日本環境感染学会 JHAIS委員会 合同セミナー 日本の医療関連感染サーベイランスの現況 「サーベイランスのためのSSI判定事例」] 畑 啓昭	第35回日本外科感染症学会総会学術集会
2022.11.08-09 [教育委員会 委員会企画5 外科感染症領域の最近のFACT 「COVID-19と手術/外科感染症一般」] 畑 啓昭	第35回日本外科感染症学会総会学術集会
2022.11.22 [術後感染合併症の予防で気をつけるポイント] 畑 啓昭	いわて外科周術期感染管理セミナー
2022.12.10 [最近の外科に関わる感染症の話題] 畑 啓昭	特別セミナー 日米のリーダーから学ぶ最新のSSI対策
2023.03.27 [周術期医療における感染症とその対策] 畑 啓昭	秋田県周産期新生児医療研究会 第122回遠隔テレビ会議

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
(総説) COVID-19流行下での手術治療戦略 日本環境感染学会誌, 37, 5, 158-163, 2022.09.25, 日本環境感染学会 畑 啓昭, 佐治 雅史

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

解説

特集：消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドラインを検証する トピックス「消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドラインと諸外国のガイドラインとの比較」

日本外科感染症学会雑誌, 18, 5, 6, 389-395, 2022.05.26, 日本外科感染症学会

畑 啓昭、後藤健太郎、宗景 史晃、三木 晶森、末永 尚浩、中西 保貴、山口 高史

総説

【専門医が行う感染症マネジメント】外科医が行う外科的感染症マネジメント

内科, 130, 6, 1103-1105, 2023.01.01, 南江堂

畑 啓昭、出川佳奈子、末永 尚浩、佐治 雅史

解説

特集 新・外科感染症診療ハンドブック 総論「多職種による感染症合併症対策 (ICTとAST)」

臨床外科, 77, 13, 1433-1437, 2022.12.20, 医学書院

畑 啓昭

一般

感染界限 MyTopic 「手術中の煙で新型コロナウイルス感染症はうつるのか？」

INFECTION CONTROL, 32, 1, 78-80, 2023.01.01, メディカ出版

畑 啓昭

教育研修部



統括診療部長
教育研修部長
小山 弘

専門医資格等

医療系大学間共用試験実施
評価機構医学系OSCE実施
管理委員会委員他
独立行政法人国立病院機構
医師育成・教育委員会委員
京都大学医学部臨床教授
京都大学博士（医学）

専門分野

内科一般
内科診断学
医学教育
臨床疫学

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師 教育研修 副部長	小泉 三輝	日本腎臓学会専門医・指導医 日本透析医学会専門医・指導医 日本集中治療医学会専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・ JMECCインストラクター 日本急性血液浄化学会認定指導者	腎臓内科	透析、 急性血液浄化
医 師	難波 多挙	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医 米国心臓協会FAHA 臨床研修指導医 ミシガン大学医学部 リサーチ・アシスタント・プロフェッサー（非常勤）	内科・ 内分泌代謝	内分泌疾患、 副腎疾患

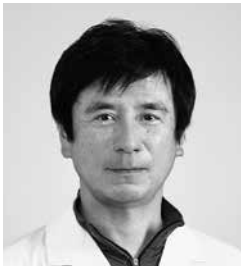
| 令和4年度の主な取組 |

2023年度採用臨床研修医のオリエンテーションにおいて各種レクチャーを行った。

2024年度採用臨床研修医のマッチング試験を、COVID-19パンデミックを踏まえ、オンラインで行った。

定数（10名）に対する受験者数は46人であった。

地域医療部



地域医療部長
瀬田 公一



地域医療連携室長
笹橋 望

| 地域医療部の特徴 |

2019年11月に「患者支援センター」を開設しました。

退院支援センター、入院支援センター、救急診療受付、診療受付センター、がん相談支援センター、患者相談窓口を同じフロアへ統合・移転を行い、より緊密な医療連携を築いていけるよう職員一同精進しています。

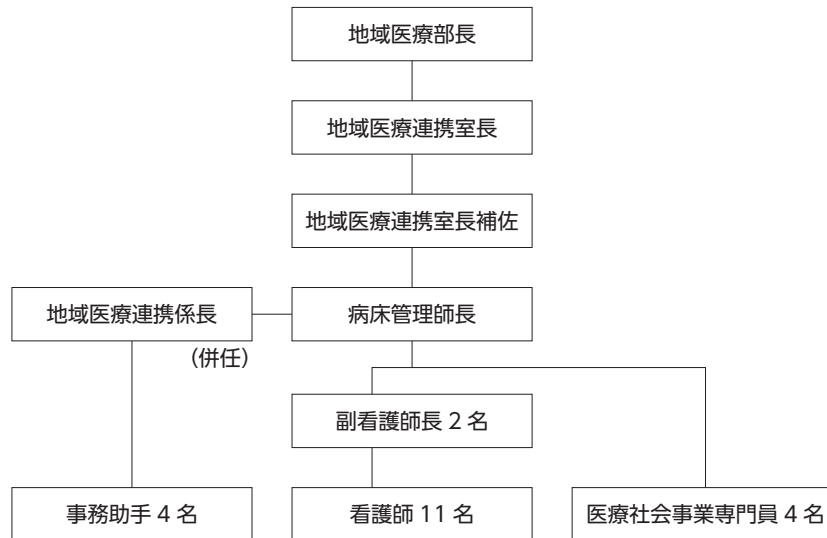
| 患者支援センターの業務内容 |

退院支援	退院支援（転院や退院の調整） 医療、介護、福祉に関わる機関との連携
入院支援	入院前までの患者情報の聴取 利用している社会資源（介護サービス等）の確認 入院生活のオリエンテーション 内服中の薬剤の確認
救急診療受付	救急紹介患者受診の受付
診療受付	他院からの初診、検査予約 他院への診療、検査予約 診療情報の提供、依頼 他院からの転院調整 セカンドオピニオン外来申し込み 居宅介護支援計画連絡票の受付 訪問看護指示書、訪問リハビリ指示書の管理
がん相談支援センター	がんに関する相談
患者相談窓口	療養に関する相談 福祉制度（介護保険、障害制度、難病等）に関する説明、相談 医療費、生活費などの経済的問題についての相談
その他	開放型病床のデータ管理 市民公開講座、各種講演会の開催 広報誌、外来担当医表等の送付 各医療機関への訪問

1. 沿革と体制

- 2002年 地域医療連携室設置
- 2007年 地域がん診療拠点病院の指定
- 2008年 地域医療支援病院の承認
- 2018年 地域連携支援センターへ名称変更
- 2019年 患者支援センター開設

2. 構成メンバー



| 業務実績（令和4年度）患者支援センターの業務内容 |

〈退院支援〉

- ・ 転院支援件数 956件
- ・ 転院支援件数在院日数 34.0日
- ・ 地域連携診療計画加算の算定件数 37件

〈入院支援〉

- ・ 入院支援件数 6,594件

〈救急診療受付〉

- ・ 救急受診受付件数 1,512件
- ・ 救急受診受入後入院件数 600件

〈診療受付〉

- ・ 地域医療連携室経由予約件数（診療予約）9,675件（検査予約）985件
- ・ 1日平均予約件数（診療予約）39.4件（検査予約）4.1件
- ・ セカンドオピニオン相談件数 38件 実績件数 25件
- ・ 紹介率 81.2% 逆紹介率 60.0%

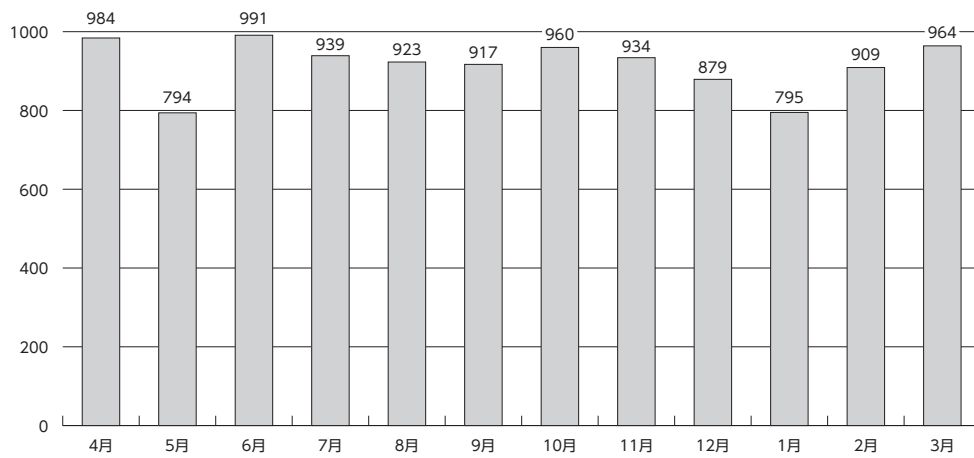
〈がん相談支援センター・患者相談窓口〉

- ・延べ相談件数 590件

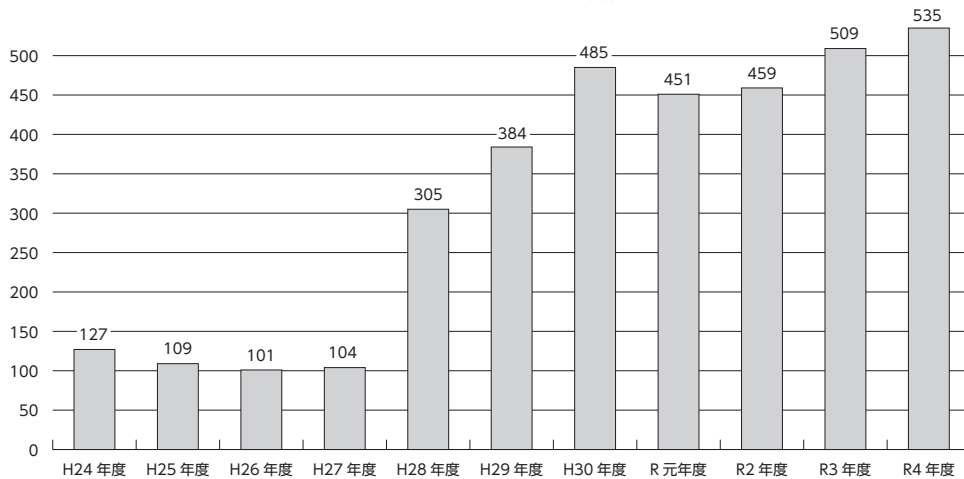
〈その他〉

- ・開放型病床登録医数 0件
- ・地域医療連携委員会 1回/月
- ・地域支援病院運営委員会 四半期1回

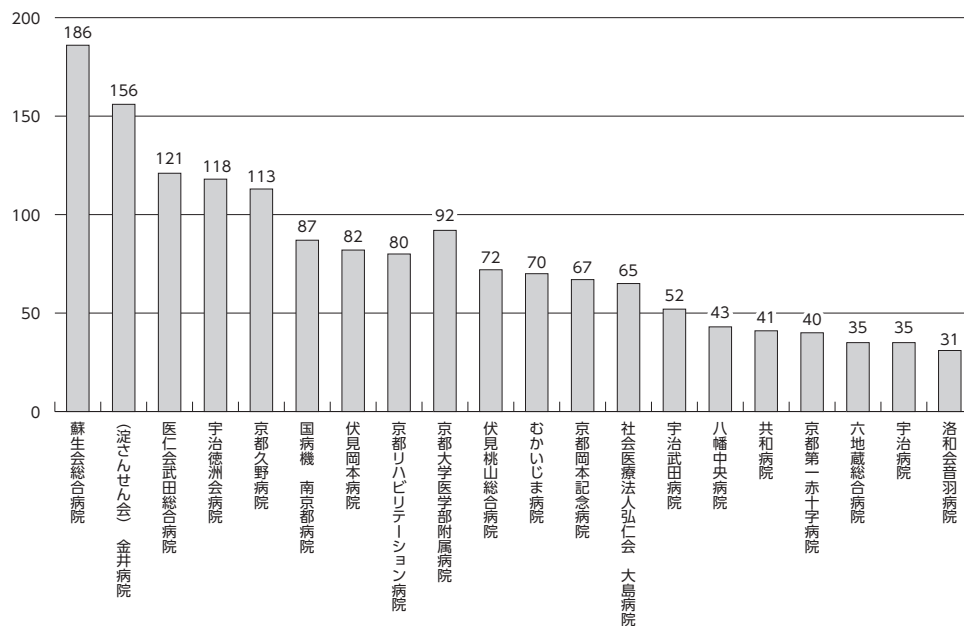
令和4年度 入退院支援加算1算定件数



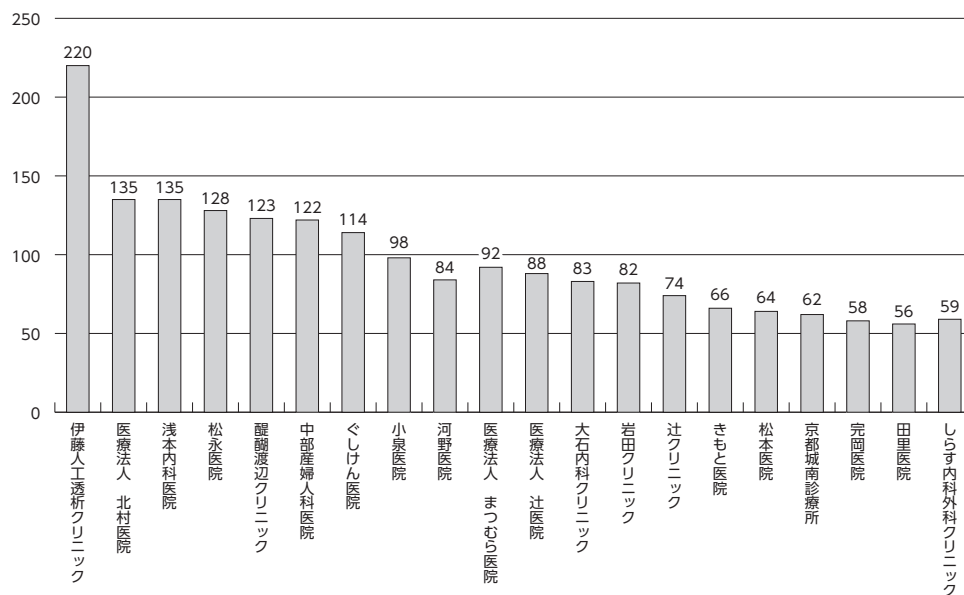
令和4年度 在宅支援件数



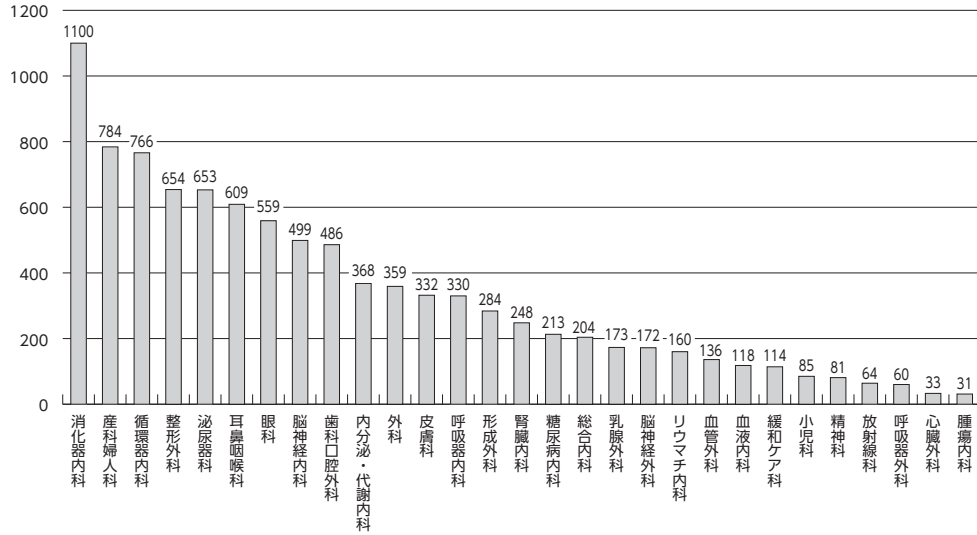
令和4年度 診療予約件数（病院別）



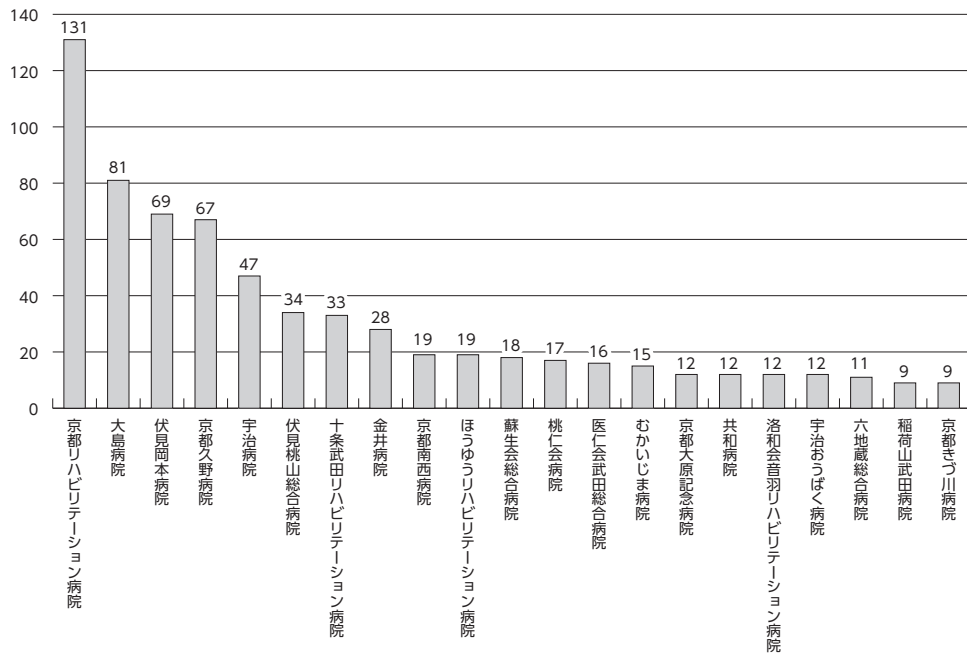
令和4年度 診療予約件数（診療所別）



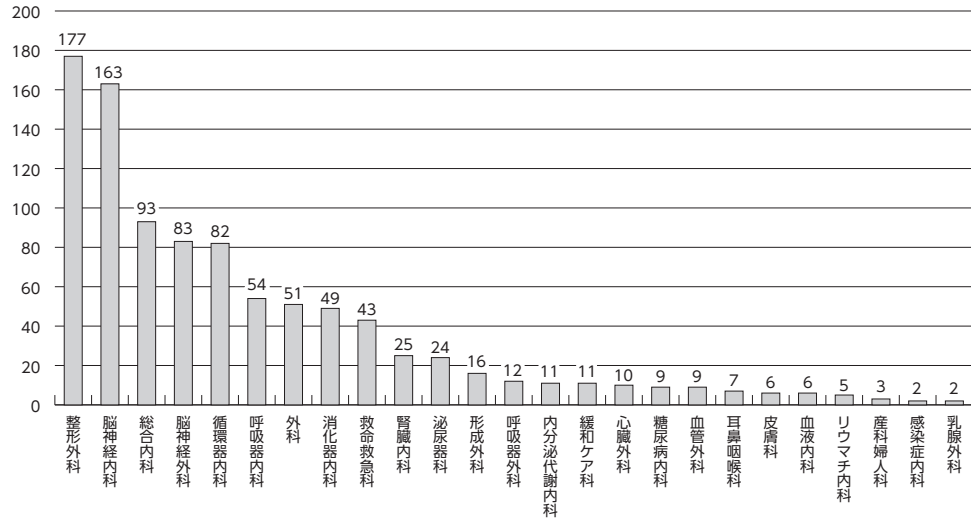
令和4年度 診療予約件数（診療科別）



令和4年度 転院支援件数（病院別）



令和4年度 転院支援件数（診療科別）



地域医療連携・広報活動

- ・「チームでささえる緩和ケア」

第19回 京都医療センター医療連携フォーラム 令和4年7月23日 Web開催

- ・「地域で生き生き、心臓リハビリテーション」

第20回 京都医療センター医療連携フォーラム 令和5年2月4日 Web開催

薬 劑 部



部長
土井 敏行

専門医資格等
KLEC 認定薬剤師
(薬剤師認定制度認証機構認証)
認定実務実習指導薬剤師
(日本薬剤師研修センター)

| スタッフ |

	氏 名	専門医資格等
副 部 長	丸山 直岳	認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、NST 専門療法士 (日本臨床栄養代謝学会)、KLEC 認定薬剤師、スポーツファーマシスト (日本アンチ・ドーピング機構)
副 部 長・ 医薬品情報 管理室長	小田 亮介	認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、抗菌化学療法認定薬剤師 (日本化学療法学会)、救急認定薬剤師 (日本臨床救急医学会)、KLEC 認定薬剤師、日病薬病院薬学認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)
製 剤 主 任	田中 亮	認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、外来がん治療専門薬剤師 (日本臨床腫瘍薬学会)、緩和薬物療法認定薬剤師 (日本緩和医療薬学会)、研修認定薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、KLEC 認定薬剤師、がん専門薬剤師 (日本医療薬学会)
医薬品情報 管理主任・ 医薬品情報 管理係長	小原 直紘	認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、KLEC 認定薬剤師
調 剤 主 任	池上 洋平	認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、心不全療養指導士 (日本循環器学会)、KLEC 認定薬剤師
薬 務 主 任	中内 崇夫	HIV感染専門薬剤師 (日本病院薬剤師会)
研 究 教 育 主 任	中澤 誉	KLEC 認定薬剤師
治 験 主 任	藤原佐知子	認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、GCP パスポート (日本臨床試験学会)、治験管理室
病 棟 業 務 管 理 主 任	塚原 優太	日病薬病院薬学認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)
薬 劑 師	森本 健幹	日本医療薬学会専門薬剤師、日本医療薬学会指導薬剤師 (日本医療薬学会)
薬 劑 師 (育児短時間)	中嶋 尚子	
薬 劑 師 (育児時間)	岩上 祥愛	
薬 劑 師	八瀬恵理子	がん薬物療法認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)、小児薬物療法認定薬剤師 (日本小児臨床薬理学会)、研修認定薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、日病薬病院薬学認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)
薬 劑 師 (育児短時間)	宮地由香里	抗菌化学療法認定薬剤師 (日本化学療法学会)

	氏名	専門医資格等
薬剤師	田淵 寿美	KLEC 認定薬剤師
薬剤師 (育児時間)	前川由季菜	
薬剤師	稲田 顕慶	抗菌化学療法認定薬剤師 (日本化学療法学会)、外来がん治療専門薬剤師 (日本臨床腫瘍薬学会)、日本DMAT 隊員 (厚生労働省)、KLEC 認定薬剤師、日病薬病院薬学認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)
薬剤師	松田 璃沙	外来がん治療専門薬剤師 (日本臨床腫瘍薬学会)、KLEC 認定薬剤師
薬剤師	保井 健太	抗菌化学療法認定薬剤師 (日本化学療法学会)、研修認定薬剤師 (日本薬剤師研修センター)、KLEC 認定薬剤師、外来がん治療専門薬剤師 (日本臨床腫瘍薬学会)
薬剤師	山階 規子	日病薬病院薬学認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)、KLEC 認定薬剤師
薬剤師	東 里奈	外来がん治療認定薬剤師 (日本臨床腫瘍薬学会)、KLEC 認定薬剤師、日病薬病院薬学認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)
薬剤師	上柳 汐果	日病薬病院薬学認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)
薬剤師	杉野 太亮	
薬剤師	中島 淳	スポーツファーマシスト (日本アンチ・ドーピング機構)、心不全療養指導士 (日本循環器学会)
薬剤師	大橋香菜子	
薬剤師	高村 有沙	
薬剤師 (育児休業)	藤本 佳奈 2022年11月7日から	外来がん治療認定薬剤師 (日本臨床腫瘍薬学会)
薬剤師	綿榎 充穂	KLEC 認定薬剤師
薬剤師	江島 怜那	KLEC 認定薬剤師、治験管理室
薬剤師	松村 亜耶	
薬剤師	杉山 紗彩 2022年6月30日まで	
薬剤師	大野 茜	スポーツファーマシスト (日本アンチ・ドーピング機構)
薬剤師	佐々木陽子	
薬剤師	須内 優衣	
薬剤師	高橋 龍磨 2022年12月31日まで	
薬剤師	林 洋太郎	
薬剤師	鬼木 彩乃	
薬剤師	小森 幸果	
薬剤師 (育児休業)	和田 遼子	小児薬物療法認定薬剤師 (日本小児臨床薬理学会)

| 令和4年度の主な取組 |

- ・プレアボイド報告 (約 111件/月)
- ・後発医薬品使用の推進 (平均使用数量割合：91.0%)
- ・薬学部実務実習生の受入 (21名/年)
- ・薬剤管理指導料 (約 1590件/月)
- ・病棟薬剤業務実施加算 1. 2 (約 2760件/月)
- ・がん化学療法連携充実加算 (約 260件/月)
- ・地域薬局との連携 (伏見薬業連携協議会の開催：4回、伏見薬剤師会研修会での講演：1回、伏見薬業連携協議会の開催：4回、伏見薬剤師会研究会での講演：1回)
- ・専門薬剤師、認定薬剤師の育成

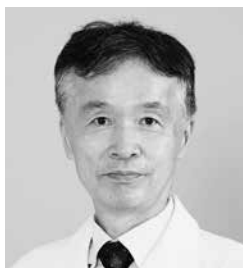
2022年度新規取得

がん専門薬剤師 (日本医療薬学会)：1名、外来がん治療認定薬剤師 (日本臨床腫瘍薬学会)：1名
 抗菌化学療法認定薬剤師 (日本化学療法学会)：1名、心不全療養指導士 (日本循環器学会)：1名
 スポーツファーマシスト (日本アンチ・ドーピング機構)：2名

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	
2022.07.09	第24回日本医療マネジメント学会
「プレアボイド報告増加に向けた薬剤部の取り組みによる医薬品適正使用の推進」 小原 直紘	
2022.07.09	2022年度 近畿国立病院薬剤師会学術大会
「患者支援センターにおける薬剤師介入の現状報告」 林 洋太郎、塚原 優太、中内 崇夫、小田 亮介、丸山 直岳、土井 敏行	
2022.09.24	第32回日本医療薬学会年会
「当院における妊娠後期の新型コロナウイルス感染患者へのソトロビマブ投与による安全性調査」 上柳 汐里、池上 洋平、小原 直紘、小田 亮介、丸山 直岳、土井 敏行	
2022.10.07	第76回国立病院総合医学会
「医薬品管理から始まるタスク・シフティングへの期待」 小原 直紘、土井 敏行、白神幸太郎	
2022.10.07	第76回国立病院総合医学会
「当院における持参薬関連業務での取り組み」 塚原 優太、小田 亮介、丸山 直岳、土井 敏行	
2023.02.04	近畿薬剤師合同学術大会2023
「外来がん化学療法におけるプレアボイド報告事例の解析と業務時間の調査」 佐々木陽子、田中 亮、松田 璃沙、小田 亮介、丸山 直岳、土井 敏行	
2023.03.11	2023年度 近畿国立病院薬剤師会学術大会
「患者支援センターにおける薬剤師介入の現状報告」 小森 幸果、塚原 優太、小田 亮介、丸山 直岳、土井 敏行	
2023.03.28	日本薬学会 第143年会
「医薬品情報管理におけるデジタルトランスフォーメーション (DX) 推進の取り組み」 小原 直紘、小田 亮介、丸山 直岳、土井 敏行	

臨床検査科



臨床検査科長
川端 浩

専門医資格等
日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医
日本血液学会専門医・指導医
日本輸血・細胞治療学会
認定医
京都大学博士（医学）

専門分野
血液一般

得意疾患
骨髄異形成症候群
希少血液疾患
鉄代謝異常



副診療科長
森吉 弘毅

専門医資格等
病理専門医
細胞診専門医
死体解剖資格

専門分野
外科病理全般

| スタッフ |

技師スタッフ

	氏名	専門医資格等
臨床検査技師長	笹 倫郎	超音波検査士（循環器）、超音波検査士（消化器）、細胞検査士、国際細胞検査士、有機溶剤作業主任者、二級臨床検査士（病理学）、京都府院内臓器移植コーディネーター、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
副臨床検査技師長	栗山 陽子	認定輸血検査技師、認定血液検査技師、二級臨床検査士（血清学）、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
副臨床検査技師長	溝上 泰司	
主任臨床検査技師	吉川 耕平	認定臨床微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
主任臨床検査技師	松延 大樹	中級バイオテクノロジスト認定、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
主任臨床検査技師	水松千香子	超音波検査士（循環器）、超音波検査士（消化器）、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
病理主任	片山 真穂	細胞検査士、国際細胞検査士、有機溶剤・特定化学作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
血液主任	里部 美咲	認定血液検査技師、2級臨床検査士（血液）、緊急臨床検査士、有機溶剤・特定化学作業主任者、毒劇物取扱責任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	西山 智美	超音波検査士（循環器）、緊急臨床検査士、管理栄養士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	前川美翠穂 2022年9月30日まで	超音波検査士（循環器）、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	伊藤 大輔	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	近澤 薫	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講

	氏名	専門医資格等
臨床検査技師	金丸 青空	中級バイオテクノロジスト認定、緊急臨床検査士、二級臨床検査士（血液学）、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	辻村 紗央	細胞検査士、国際細胞検査士、二級臨床検査士（病理学）、有機溶剤作業主任者、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、毒劇物取扱者、中級バイオテクノロジスト認定、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	松田 由美	二級臨床検査士（臨床化学）、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講、健康食品管理士
臨床検査技師	道面 将嗣	細胞検査士、有機溶剤作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	西山 絢菜	緊急臨床検査士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	竹澤 遼	緊急臨床検査士、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	鈴木 遥	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	久保 慎也	緊急臨床検査士、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	尾上 結穂	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	黒木 瑠菜	二級臨床検査士（血液）、有機溶剤作業主任者
臨床検査技師	神後なつ希 2022年10月1日まで	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	伊戸川大夢	
臨床検査技師	辰己 俊	
臨床検査技師	岡田 伊弘	緊急臨床検査士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	中西 哲	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	泉 宏明	
臨床検査技師	鶴野 緋莉	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	宮澤 尚己	毒劇物取扱責任者、乙種1.2.3.4.5.6類危険物取扱者、中級バイオテクノロジスト認定、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師 (再)	井藤 博史	
臨床検査技師	三代沙也香	超音波検査士、糖尿病療養指導士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	山口優衣子	超音波検査士（体表臓器）、緊急臨床検査士、2級検査士（循環器）、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	浦田 佳奈	
臨床検査技師	谷本 恭孝	
臨床検査技師	吹田奈帆美	認定血液検査技師、認定緊急検査技師、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
臨床検査技師	塩見 舞 2022年10月1日から	細胞検査士
非常勤臨床検査技師	三浦 辰朗	
非常勤臨床検査技師	藤田 晶絵	臨床工学士、第二種ME技術実力検定、体外循環技術認定士、健康食品管理士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講
非常勤臨床検査技師	益田 喜信	
非常勤臨床検査技師	楠木 秀和	細胞検査士、国際細胞検査士、有機溶剤作業主任者、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者

受付スタッフ

	氏名	専門医資格等
事務助手 (非常勤)	村井 佳世	
事務助手 (非常勤)	絹川 里美	
事務助手 (非常勤)	岩崎 京子	
事務助手 (非常勤)	松本弓佳利	
事務助手 (非常勤)	森川 信子	
事務助手 (非常勤)	藤井 浩美	

| 令和4年度の主な取組 |

科(室)の特徴

1. ISO15189認定取得を目指して、業務改善に取り組む。
2. 患者目線に立ち、利用目的と一致した質の高い検査を迅速に診療の場へ提供し、他職種との連携によるチーム医療の推進に努める。
3. 当センターは日本の政策医療で、内分泌・代謝性疾患の基幹的役割を担い、当科はその責務を自覚し、政策医療関連の検査の充実を行い、検査科の活性化を図る。
4. 輸血業務の一元化し、安全かつ適正な輸血管理業務を行い、緊急検査は、24時間対応しています。
5. 人材育成を念頭に適材適所を意識し、良好な業務習慣を培い、働きやすい職場環境作りを目指す。

診療(業務)内容

当科の業務は臨床検査を行うことであり、臨床検査は検体検査と生理機能検査の2つの分野に大きく分かれます。

1. 検体検査：血液、尿、便、痰、手術により切り出された組織、穿刺液等を用いて行う検査です。肝機能検査や生活習慣病の血糖・尿糖検査、貧血検査、がん細胞検査等がこの中に含まれます。検査部門としては血液学検査、生化学検査、免疫学検査、輸血関連検査、微生物学検査、病理学検査、一般検査があります。
2. 生理機能検査：直接患者さんの身体に接して、体内からの情報や変化の状態を数字や画像に変換して目で見えるようにする検査です。分野別に心電図検査、肺機能検査、脳波検査、筋電図検査、超音波検査、聴力検査、睡眠時無呼吸検査、出血時間検査があります。

| 学術活動報告(学会・研究発表など) |

発表年月日 演題名等 / 演者(下線は当院所属)	発表学会
2022.10.09 「検査機器一斉更新時における血液検査室の物理的な改造とその効果」 黒木 瑠菜、金丸 青空、里部 美咲、小森 法子、栗山 陽子	日本医療検査科学会第54回大会
2022.10.09 「化学発光免疫測定法による新しい第三世代TRAb試薬の基礎的検討」 松田 由美、栗山 陽子、里部 美咲、宮澤 尚己	日本医療検査科学会第54回大会

臨床栄養科



科長
村田 敬

専門医資格等

日本糖尿病学会
糖尿病専門医・研修指導医
日本内科学会認定内科医・
総合内科専門医・指導医
日本小児・思春期糖尿病学会
評議員
日本メディカルAI学会
評議員
東京大学医学博士
同志社女子大学客員教授

専門分野

糖尿病
若年者糖尿病
先進糖尿病治療
食事療法
臨床研究

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等
栄養管理室長	平野 和保	
副栄養管理室長	森岡 宏介	日本糖尿病療養指導士
主任栄養士 (育児短時間)	中辻 晴香	NST 専門療法士
主任栄養士	宮本真奈美	NST 専門療法士
栄養士 (育児短時間)	北川 洋子 2022年5月31日まで	
栄養士 (育児休業)	杉山 香奈 2023年2月25日から	
栄養士	福万 智子	
栄養士	本山 結恵	
栄養士	浦田 加菜	
栄養士	坊 真致子 2022年12月1日から	
調理師長	山田 弘喜 2022年12月31日まで	
副調理師長	石井 俊雄	
副調理師長	蒲生 亘	
主任調理師	坂本 尚人	
主任調理師	博多 健二	
調理師	榊村 勝利	
調理師	荒川 和彦	
調理師	澤邊 元弘	
調理師	松尾 隆生	
非常勤栄養士	苅谷 衣純	
非常勤栄養士	下神 匡貴	
非常勤栄養士	山田 未緒	

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定等

- ・日本臨床栄養代謝学会NST稼働認定施設

診療科の特徴

1. 栄養サポートチーム活動
2. 専門外来栄養指導の実施
3. 特別メニュー食の提供
4. 個人対応食（PS食）の提供
5. 緩和ケア病棟での特別行事食の実施
6. 集中治療室における早期栄養介入

診療（業務）内容

1. 食事提供

入院患者を対象に大量調理施設衛生マニュアル、HACCPに基づいた管理のもと、安全な食事（一般食及び治療食）を提供している。患者サービス、喜ばれる食事の一環として、週3回の選択食や月2回以上の行事食を実施している。患者アンケートでは、毎回70%以上の患者に良好な評価を頂いている。緩和ケア病棟、化学療法における食欲不振時には、管理栄養士が訪室し、個別対応食（PS食）の提供をしている。

2. 栄養食事相談

外来及び入院患者を対象に個人栄養相談や心臓病教室などの集団栄養教室を実施。特に外来栄養相談においては、継続したフォローアップを重視し、医師と連携した療養相談を実施している。CSII（インスリンポンプ）外来や1型糖尿病専門外来、メタボリックシンドローム外来などの専門外来栄養相談も実施している。また、自宅や職場で栄養食事相談を受けていただける、電話での栄養食事相談を実施している。Covid-19禍において、外出による感染リスクの軽減にも繋がっている。

3. チーム医療

栄養サポートチームや、緩和ケアチーム、糖尿病透析予防チームなどチームの一員として管理栄養士が積極的に参加している。集中治療室に入室される患者に対して、栄養介入を実施し、早期の経腸栄養の開始に寄与している。栄養サポートチームでは、中心的な役割を担い、患者の情報収集や情報発信を積極的に行っている。

4. 教育研修

京都医療センター臨床栄養セミナーと称し、WEB配信形式での研修会を開始した。今後年2回の定期的な開催を実施し、センター内外、特に近隣地域の病院、福祉施設への情報発信を積極的に実施していく。

管理栄養士養成大学より、30名の実習生および1名の修士課程大学院生インターンを受入れ、人材育成に寄与している。

地域医療連携・広報活動

『糖尿病週間』イベント：ポスター掲示と食品サンプル、疑似体験コーナの設置

『骨粗鬆症デー』イベント：ポスター掲示と食品サンプル

| 実績 |

食事療養数等

	2022年度
食事療養食数 (食)	375,879
特別食加算食数 (食)	98,747
特別食加算率 (%)	26.3

栄養食事相談

	2022年度
入院時栄養食事指導 (件)	1,213
外来栄養食事指導 (件)	1,942
通信機器を用いた栄養食事指導 (件)	125
集団栄養教室参加者数 (件)	32
糖尿病透析予防外来における相談 (件)	35
合計 (件)	3,347

栄養サポートチーム

	2022年度
栄養サポートチーム加算 (件)	963
栄養サポートチーム介入延べ患者数 (人)	2,102

緩和ケアチーム

	2022年度
個別栄養食事管理加算 (件)	1,502
緩和ケアチーム介入延べ患者数 (人)	452

急性期病棟における早期栄養介入

	2022年度
早期栄養介入管理加算 (件)	2,793
早期栄養介入対応延べ患者数 (人)	2,567

| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
2022.06.10-11	第4回日本メディカルAI学会
	「AIによる病院給食の物体検出と定量に関するパイロットスタディ」 村田 敬、小林 司、豊田 雅夫、廣田 勇士、三浦順之助、森岡 宏介、平野 和保
2022.07.30	第14回日本臨床栄養代謝学会近畿支部学術集会
	「地域医療連携により在宅医療移行を実現した持続経腸栄養を要する栄養障害患者の1例」 杉山 香奈、橋野 功暉、森井 奈美、本郷 佳代、宮本真奈美、柳田 直紀、八瀬恵理子、宇治本 彩、大江 智子、山口理恵子、平野 和保、村田 敬

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.08.27	日本糖尿病インフォマティクス学会
「当院における遠隔栄養相談の現状と課題」 村田 敬、杉山 香奈、中辻 晴香、森岡 宏介、平野 和保	
2022.10.07	第76回国立病院総合医学会
「栄養管理の流儀～これからの食事提供サービスを考える～ (シンポジウム)」 平野 和保	
2022.10.08	第77回国立病院総合医学会
「救命救急領域における早期経腸栄養の違いが退院時の栄養投与経路に及ぼす影響」 森岡 宏介、宮本真奈美、平野 和保、別府 賢、寺嶋真理子、坂根 直樹、村田 敬	

投稿論文など

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
<p>総説</p> <p>【周産期と最先端サイエンス】産科領域 コンピュータサイエンス・エンジニアリングの進歩 糖尿病管理における新規デバイスの展開 周産期医学, 52, 7, 963-966, 2022.07, 東京医学社 村田 敬</p>
<p>総説</p> <p>新規血糖コントロール指標 TIR、TAR、TBR の臨床研究における活用 日本先進糖尿病治療研究会雑誌, 16, 1, 17-27, 2022.08 廣田 勇士、村田 敬</p>
<p>総説</p> <p>【かかりつけ医からみた糖尿病診療】糖尿病の基礎知識 糖尿病診療における先進デバイスの活用 診断と治療, 110, 3, 275-281, 2022.03, 診断と治療社 澤木 秀明、村田 敬</p>
<p>原著論文</p> <p>Prevention of hypoglycemia by intermittent-scanning continuous glucose monitoring device combined with structured education in patients with type 1 diabetes mellitus : A randomized, crossover trial Diabetes Research and Clinical Practice, 195, 110147, 2023.01 ISCHIA Study Group (Takashi Murata, Kiminori Hosoda, Kunihiro Nishimura, Yoshihiro Miyamoto, Naoki Sakane, Noriko Satoh-Asahara, Masao Toyoda, Yushi Hirota, Munehide Matsuhisa, Akio Kuroda, Ken Kato, Ryuji Kouyama, Junnosuke Miura, Atsuhito Tone, Masato Kasahara, Shu Kasama, Shota Suzuki, Yukie Ito, Tomokazu Watanabe, Akiko Suganuma, Zhuo Shen, Hiroko Kobayashi, Satoshi Takagi, Sari Hoshina, Kanako Shimura, Yukiko Tsuchida, Moritsugu Kimura, Nobumichi Saito, Akira Shimada, Yoichi Oikawa, Atsushi Satomura, Akifumi Haisa, Satoshi Kawashima, Shu Meguro, Hiroshi Itoh, Yoshifumi Saisho, Junichiro Irie, Masami Tanaka, Masanori Mitsuishi, Yuya Nakajima, Jun Inaishi, Kenichiro Kinouchi, Shintaro Yamaguchi, Arata Itoh, Kazutoshi Sugiyama, Kazuma Yagi, Tami Tsuchiya, Noriko Kodani, Ikki Shimizu, Tetsuya Fukuda, Yoshiki Kusunoki, Tomoyuki Katsuno, Yuka Matoba, Yumi Hitaka, Kentaro Abe, Natsuko Tanaka, Ryoko Taniguchi, Toshihiko Nagao, Kazuyuki Hida, Izumi Iseda, Masaya Takeda, Yuichi Matsushita, Masafumi Tenta, Tsuyoshi Tanaka, Kunichi Kouyama, Michiru Fukunaga)</p>
<p>原著論文以外</p> <p>Diabetic ketoacidosis after the second dose of SARS-CoV-2 mRNA vaccination in a patient with pembrolizumab-induced fulminant type 1 diabetes Diabetology International Kohei Nishino, Kimiko Nakagawa, Eriko Yase, Mariko Terashima, Takashi Murata</p>
<p>原著論文</p> <p>To Use or Not to Use a Self-monitoring of Blood Glucose System? Real-world Flash Glucose Monitoring Patterns Using a Cluster Analysis of the FGM-Japan Study Internal Medicine Naoki Sakane, Yushi Hirota, Akane Yamamoto, Junnosuke Miura, Hiroko Takaike, Sari Hoshina, Masao Toyoda, Nobumichi Saito, Kiminori Hosoda, Masaki Matsubara, Atsuhito Tone, Satoshi Kawashima, Hideaki Sawaki, Tomokazu Matsuda, Masayuki Domichi, Akiko Suganuma, Seiko Sakane, Takashi Murata</p>

原著論文

Factors associated with hemoglobin glycation index in adults with type 1 diabetes mellitus : The FGM-Japan study

Journal of Diabetes Investigation

Naoki Sakane, Yushi Hirota, Akane Yamamoto, Junnosuke Miura, Hiroko Takaie, Sari Hoshina, Masao Toyoda, Nobumichi Saito, Kiminori Hosoda, Masaki Matsubara, Atsuhito Tone, Satoshi Kawashima, Hideaki Sawaki, Tomokazu Matsuda, Masayuki Domichi, Akiko Suganuma, Seiko Sakane, Takashi Murata

病理診断科



専門医資格等
 病理専門医
 細胞診専門医
 死体解剖資格
専門分野
 外科病理全般

診療科長
森吉 弘毅

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師 (育児短時間)	倉田麻里代 2022年10月1日から	病理専門医 細胞診専門医 死体解剖資格	外科病理全般	
レジデント	石田 文美 2022年7月1日から	病理専門医 死体解剖資格 細胞診専門医	外科病理全般	
専攻医	三林 聡子 2022年6月30日まで	死体解剖資格		
臨床検査技師	津高 紗央	細胞検査士、国際細胞検査士、二級臨床検査士（病理学）、有機溶剤作業主任者、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、毒劇物取扱者、中級バイオテクノロジー認定、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講		
臨床検査技師	道面 将嗣	細胞検査士、有機溶剤作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講		
臨床検査技師	西山 絢菜	緊急臨床検査士、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講		
臨床検査技師	竹澤 遼	緊急臨床検査士、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講		
臨床検査技師	久保 慎也	緊急臨床検査士、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会受講		
非常勤臨床検査技師	楠木 秀和	細胞検査士、国際細胞検査士、有機溶剤作業主任者、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者		

| 令和4年度の主な取組 |

施設認定

- ・日本病理学会研修登録施設
- ・日本臨床細胞学会認定施設

| 診療実績 |

診断件数 (2022年度)

組織診	7115件	病理解剖	6件
細胞診	7685件	CPC	4件
術中迅速診断	429件		

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

会議録

肺限局性アミロイドーシスの画像所見および臨床経過に関する後方視的調査

日本呼吸器学会誌, 11巻増刊, 280, 2022.04, 一般社団法人日本呼吸器学会

伊藤 高範、金井 修、斎藤漸太郎、今北 卓間、藤田 浩平、岡村 美里、中谷 光一、澤井 聡、
森吉 弘毅、三尾 直士

原著論文

White matter edematous change with moderate vascular lesions in pretreated acute stage of leukoencephalopathy with cerebral amyloid angiopathy.

Neuropathology, 42, 2, 134, 2022.04

Yasuda K, Ayaki T, Li F, Kuwata Y, Maki T, Sainouchi M, Moriyoshi K, Nakamura M, Takahashi R.

原著論文

Natural course of pulmonary hyalinizing granuloma over a decade.

Respir Med Case Rep, 39, 101715, 2022.07

Fujita K, Okamura M, Imakita T, Yamamoto Y, Sawai S, Moriyoshi K, Mio T.

原著論文

Multisystem inflammatory syndrome and lymphohistiocytic myocarditis after Covid-19 vaccine in a middle-aged woman.

ESC Heart Fail., 2022.11

Kobayashi K, Hamatani Y, Moriyoshi K, Iguchi M, Masunaga N, Terashima M, Abe M, Sasahashi N, Akao M.

原著論文

Asymptomatic pulmonary cryptococcosis presenting with mixed lesions of infiltrative and nodular shadow in an immunocompromised patient.

BMJ Case Rep., 15, 12, e253113, 2022.12

Ito T, Kanai O, Moriyoshi K, Fujita K.

原著論文

ACTH-independent production of 11-oxygenated androgens and glucocorticoids in an adrenocortical adenoma.

Eur J Endocrinol., 187, 6, K39, 2022.12

Kitamura T, Blinder AR, Nanba K, Tsuiji M, Mishina M, Okuno H, Moriyoshi K, Yamazaki Y, Sasano H, Yoneyama K, Udager AM, Rainey WE, Yasoda A, Satoh-Asahara N, Tagami T.

臨床工学科



科長
阿部 充
(2023年3月31日まで)



科長
片岡 剛
(2023年4月1日から)



臨床工学技士長
瓦谷 義隆

専門医資格等
特定高圧ガス取扱主任
体外循環技術認定士
第2種ME技術実力検定

所属学会
日本臨床工学技士会
全国国立病院機構
臨床工学技士協議会
日本人工臓器学会
日本体外循環技術医学会

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	所属学会
主任臨床工学技士	柳澤 雅美	3学会合同呼吸療法認定士 不整脈治療専門臨床工学技士 透析技術認定士 第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 全国国立病院機構臨床工学技士協議会 日本呼吸療法医学会
臨床工学技士	森 圭佑	3学会合同呼吸療法認定士 第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 全国国立病院機構臨床工学技士協議会 日本不整脈心電学会
臨床工学技士 (育児休業)	嵯峨根由奈 2023年3月1日まで	3学会合同呼吸療法認定士 体外循環技術認定士	日本臨床工学技士会 日本人工臓器学会 日本体外循環技術医学会
臨床工学技士	大津 暁翔	体外循環技術認定士 第2種ME技術実力検定	日本人工臓器学会 日本体外循環技術医学会
臨床工学技士	長屋祐太郎	第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 日本心血管インターベンション治療学会 日本体外循環技術医学会
臨床工学技士	上野 純弥	日本アフェレシス学会認定技士 第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 日本不整脈心電学会 日本アフェレシス学会
臨床工学技士	奥間 彩	第2種ME技術実力検定 心電図検定2級	日本臨床工学技士会 日本不整脈心電学会
臨床工学技士 (産前産後休業)	豊山 美樹 2023年12月15日から	体外循環技術認定士 第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 日本人工臓器学会 日本体外循環技術医学会
臨床工学技士	永田 京夏	第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 日本不整脈心電学会
臨床工学技士	平野 雄大	第2種ME技術実力検定	日本臨床工学技士会 日本心血管インターベンション治療学会
臨床工学技士	牟田 直史	3学会合同呼吸療法認定士 第2種ME技術実力検定	
臨床工学技士	川野 竜政	臨床ME専門認定士 第1種ME技術実力検定 透析技術認定士 第2種ME技術実力検定 心電図検定3級	

	氏名	専門医資格等	所属学会
臨床工学技士	吉川 拓都 2022年4月30日まで		
臨床工学技士	田村 成己		
臨床工学技士	樋田 貴久		

令和4年度の主な取組

1. 担当技士（人事異動）

2022年度の臨床工学科は、定数15名であるが退職することが決まっていたスタッフがいたため1名過員の16名体制でのスタートとなった。しかし、産休・育休者が1名在籍していることから、15名での運用となった。4月末日をもって1名が退職となり過員は解消された反面、夜間勤務およびセカンド待機を7名で対応せざるを得ない状況でスタッフの業務負担は増すばかりで苦慮している状況であった。集中治療加算の関係上、土・日・祝日ともに24時間体制での労務であることから、平日に週休を消化するため、以前より日勤常業務に携わる人数が3～5名少ない人数で日常の業務を行った。そのため、休祭日には日当直業務とするなど、変則勤務にて対応を行っている現状となっている。12月から更に1名が産休に入り定数より2名減での運用となったことにより更に業務負担となった。現スタッフの在籍年数は平均で2.8年であり、多岐にわたる幅広い業務が多く、かつ専門性が高く技術習得に時間がかかる業務の中で、スタッフ育成・教育について再考していき夜間勤務に対応できるスタッフを10名にすることができた。

優秀なスタッフを他施設へ流出させないよう引き続き勤務環境の是正や人材の確保等に努力をしていく次第である。

2. 診療補助業務

臨床支援業務においては、手術室業務は大幅に業務量が増加している。心臓血管外科領域では人工心肺症例は前年に比べ増加となっているが、off pump CABGやステント・人工血管置換術などの待機症例を含めた症例数では微増であった。6月から経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI：Transcatheter Aortic Valve Implantation）の業務が新たに加わり、清潔野でクリンピングを行うなど精力的に業務を行っている。

ダビンチ手術においては、肝臓手術も開始され各症例に応じた配置レイアウトの整備を行い、セッティングをはじめ臨機応変な対応を行っている。

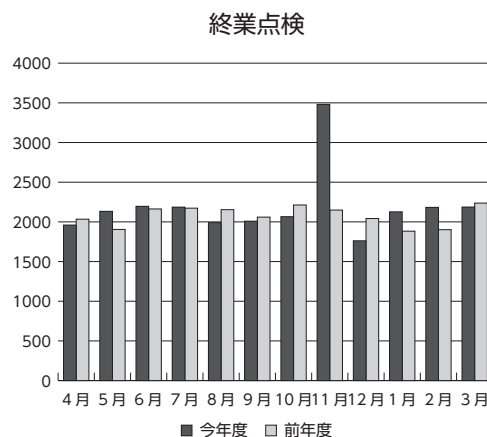
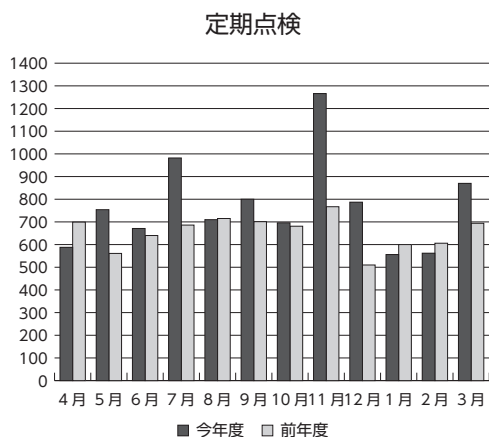
透析の件数は、前年度と同様で透析室での運用は月から土であり、月・水・金は午前からと午後からの2クールで実施しつつ、更に重症度の高い患者さんには、救命センターやICUでの透析を実施し総数で300件以上の症例に対応した。また他施設での経験がある技士を中心に穿刺業務への対応を徐々にではあるが着手することができた。今後は更にエコー下での穿刺やシャント管理における教育システムを構築していく。

循環器科領域での心臓カテーテル検査・治療、アブレーション・EPSといった不整脈治療をはじめこの領域においては前年より症例数を減らしたが、遠隔モニタリングを夜間勤務時間帯での業務として定着させ2800件の業務を行えた。ペースメーカーをはじめとした植え込み型のデバイスに関しては、新規植え込み症例がデバイスのフォローアップする件数に蓄積されていく状況であるため、スタッフの業務軽減のため遠隔モニタリングシステムの導入を視野に入れて業務の発展と共に検討していく。

新たな業務への取り組みとしては、泌尿器科から依頼のあった病棟での膀胱内圧測定の業務を7月から開始した。症例数自体は多くないが、フタッフ全員が業務として携われるよう教育を行っていく。また今後更には夜間勤務における業務の拡張を検討していく。新たな業務依頼のある内視鏡手術での診療支援やトラブル時の依頼などにも対応できるように今後の課題として調整・教育および人員要求を行っていく。

令和4年度 臨床支援業務件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液 浄化業務	血液透析件数 (人工腎)	173	172	179	146	167	157	198	160	160	195	172	170	2049
	殊血液浄化療法 (人工腎以外)	16	25	11	38	34	13	21	15	42	60	30	22	327
	今年度	189	197	190	184	201	170	219	175	202	255	202	192	2376
	前年度	232	247	196	225	179	234	190	204	243	249	209	243	2651
人工呼吸 関連業務	人工呼吸器 ラウンド	131	109	85	100	127	148	97	102	170	186	134	134	1523
	NIPV装着	60	71	72	77	112	36	81	58	48	87	107	94	903
	今年度	191	180	157	177	239	184	178	160	218	273	241	228	2426
	前年度	292	248	197	175	264	250	89	191	201	143	296	254	2600
人工心肺 業務	人工心肺	5	7	7	2	3	3	3	4	4	4	8	6	56
	off pomp	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	ステグラ	2	1	2	0	0	2	2	0	1	1	1	3	15
	今年度	7	8	9	2	3	5	5	5	5	5	10	9	73
前年度	6	6	4	7	4	4	2	7	6	2	4	4	56	
補助循環 関連業務	大動脈バルーン パンピング	0	0	3	0	1	0	2	0	0	1	0	1	8
	経皮的心肺補助	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	1	2	7
	低体温	0	5	1	2	0	0	1	2	0	2	0	5	18
	今年度	0	5	4	2	3	1	3	2	0	4	1	8	33
前年度	5	2	1	1	5	4	5	7	6	0	2	4	30	
ペース メーカー 業務	植込み・電池交換	2	6	11	9	3	5	7	4	4	1	6	4	62
	遠隔モニタリング	227	230	228	237	241	225	226	222	218	244	238	243	2779
	外来点検	58	49	63	60	34	82	52	48	48	58	35	62	649
	遠隔なしデータ	60	55	74	69	37	87	59	52	52	59	41	66	711
今年度	287	285	302	306	278	312	285	274	270	303	279	309	3490	
前年度	63	68	76	62	56	61	52	61	60	55	51	75	740	
カテ室 関連業務	診断カテ	76	46	49	30	37	42	43	45	27	42	44	42	523
	PCI	29	14	22	12	14	17	17	22	13	25	17	19	221
	ABL・EPS	5	7	7	7	5	6	9	7	8	3	6	6	76
	PTA・その他	8	7	8	10	7	9	8	7	2	4	8	5	83
今年度	118	74	86	59	63	74	77	81	50	74	75	72	903	
前年度	99	73	107	99	95	83	86	90	96	46	73	86	1033	
手術室 関連業務	ラジオ波焼灼術	1	2	1	2	2	0	4	4	1	2	2	1	22
	SEP・MEP	8	7	11	5	11	5	8	8	6	13	16	6	104
	ダヴィンチ	16	14	17	15	15	10	16	21	23	20	20	16	203
	自己血	2	0	1	2	0	0	2	1	1	0	4	2	15
	TAVI			2	2	0	1	2	1	1	1	2	3	15
	今年度	27	23	30	24	28	15	30	34	31	35	42	25	344
前年度	35	25	27	23	29	25	32	28	22	19	26	27	318	



3. ME 機器管理業務

医療機器管理業務では、従来からの輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器をはじめとした中央管理機器の返却点検業務を行っている。点検に関しては、当部署内で対応できる機種を増やして点検費用の削減を目標に掲げて運用を行った。人工呼吸器をはじめメーカーによるメンテナンス講習を受講して院内での定期点検や部品交換を実施できるように整備を進めている。実際に返却点検は昨年に比べて1400件/年の増大で、定期点検においても1300件/年の増大となった。医療機器に関する業務を夜間勤務時間帯に行っていくように調整を図るも現状として進んでいない。今後の課題として整備していく。また定期点検等の内容が浅いものも多く今後の機器管理システムの在り方を再構築していきたい。機器管理登録システムにおいても、現場で対応できるように、タブレットを用いた運用方法を構築していく。

令和4年度 機器管理業務件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
終業点検 件数	今年度	1960	2133	2196	2186	1990	2009	2066	3481	1762	2127	2183	2187	26280
	前年度	2034	1905	2163	2173	2154	2060	2213	2149	2042	1883	1902	2237	24915
定期点検 件数	当科実施	583	748	660	982	705	800	652	1066	776	547	562	870	8951
	メーカー実施	5	6	11	0	5	0	44	200	11	9	0	0	291
	今年度	588	754	671	982	710	800	696	1266	787	556	562	870	9242
	前年度	699	561	640	686	715	701	681	767	510	600	606	694	7860
	実施率 (%)		99.1	99.2	98.4	100.0	99.3	100.0	93.7	84.2	98.6	98.4	100.0	100.0
修理・ OH件数	当科実施	32	39	59	49	45	49	55	87	57	47	49	54	622
	メーカー実施	45	54	40	28	23	18	14	28	11	11	30	13	315
	今年度	77	93	99	77	68	67	69	115	68	58	79	67	937
	前年度	101	77	85	79	64	65	105	88	134	64	47	70	979
	実施率 (%)		41.6	41.9	59.6	63.6	66.2	73.1	79.7	75.7	83.8	81.0	62.0	80.6

※終業点検及び、定期点検に関する点検内容、又は実施期間に関しては取扱説明書に準ずる

日常返却点検として平均で80件/日 (月平均で約2,200件)

4. その他活動

本年度も例年通りRST（呼吸サポートチーム）に参加するとともに、臨床工学技士が毎日病棟呼吸器ラウンドを実施し、人工呼吸器が適切に使用されるよう設定等のチェックを行った。

院内での啓蒙活動として、新人看護師さんを対象とした輸液・シリンジポンプ取り扱い講習を始め、病棟における人工呼吸器などの勉強会を開催し、新規装置納入講習や各部署からの要望に対する機器・装置等の取り扱いに関する講習・勉強会を行った。京都看護助産学校にも上野臨床工学技士が医療機器安全管理の内容で講義を行った。講習会・勉強会総数は51件と院内でのME機器に関する取り扱いと共に医療機器安全管理を周知する活動ができた。

本部主催のCOVID-19研修においては、当部署のスタッフである永田臨床工学技士が「当院のCOVID-19に対する臨床工学技士の対応」の題目で登壇し講演を行った。グループ主催研修である勤務時間管理研修を瓦谷臨床工学技士長および柳澤主任臨床工学技士が受講し、臨床工学実地研修においては、大阪医療センターより1名の受講者の受け入れを行った。また労働者健康安全機構主催の臨床工学技士研修には、牟田臨床工学技士が参加し、モニターに関する受講を行った。

5. 臨地実習受け入れ

なし

6. 研究活動

論文・学会発表 なし

リハビリテーション科



専門医資格等
 日本専門医機構
 認定整形外科専門医
 日本整形外科学会
 認定運動器
 リハビリテーション医
 京都大学医学部臨床教授
 京都大学博士（医学）

専門分野
 運動器領域

診療科長
山田 茂

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等
理学療法士長	伊藤 浩一	
副理学療法士長	岡田 直秀	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修修了
主任理学療法士	今中 辰茂	心臓リハビリテーション指導士、呼吸療法認定士 日本理学療法士協会認定理学療法士（運動器）、がんのリハビリテーション研修修了
主任理学療法士	増田 圭亮	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修修了
主任理学療法士	橋本 昌樹	がんのリハビリテーション研修終了
主任理学療法士	殿水 薫	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修修了
主任理学療法士	福井 教之	心臓リハビリテーション指導士、日本理学療法士協会専門理学療法士（神経、内部障害）
理学療法士	亀崎ひろみ 2022年6月30日まで	呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修終了
理学療法士	岩中 勇磨	がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	奥脇 基	がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	北村 拓也	がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	川瀬 咲	がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	高田 芽依	がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	山上 晴暉	がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	羽田真之介	がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	吉野つくし	がんのリハビリテーション研修修了
理学療法士	桑野 祐衣	
理学療法士	西澤 奎太	
主任作業療法士	富士野芳美	がんのリハビリテーション研修修了

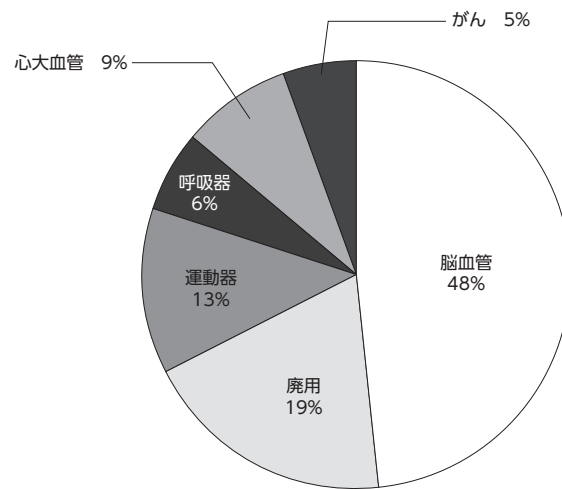
	氏名	専門医資格等
主任作業療法士	西田 亮平	
作業療法士	森岡 良太	
作業療法士	本田 大貴	がんのリハビリテーション研修修了
作業療法士 (育児休業)	高橋 倫香 2022年10月19日から	がんのリハビリテーション研修修了
作業療法士	廣尾 千晴	がんのリハビリテーション研修修了
作業療法士	豊田 桃佳	
作業療法士	鬼束 奈菜	
作業療法士	佐藤 龍人	
主任言語聴覚士	柳田 直紀	日本言語聴覚士協会認定言語聴覚士 (摂食嚥下障害領域) がんのリハビリテーション研修修了
言語聴覚士	小林 理絵	がんのリハビリテーション研修修了
言語聴覚士	坂本 弥生	
言語聴覚士	野田 響子	がんのリハビリテーション研修修了
言語聴覚士	加藤 利和	
言語聴覚士	西沢 拓也	
理学療法士 (育児短時間)	廣野さつき	がんのリハビリテーション研修修了
非常勤 理学療法士	池上健太郎	がんのリハビリテーション研修修了
言語聴覚士 (育児休業)	蓬臺 綾江	
非常勤事務助手	横田 美樹	

令和4年度の主な取組

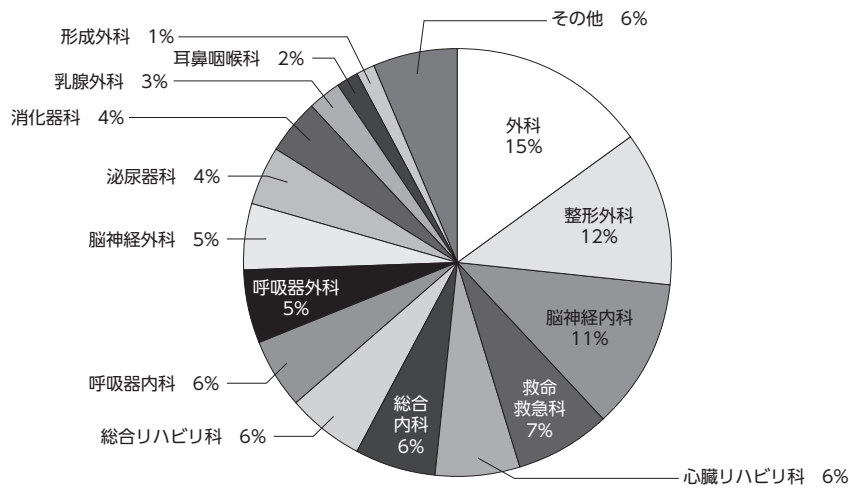
- ・入院時からの早期リハビリ介入を実践し、処方数の増加を目指す。また、急性期脳梗塞患者に対する早期リハビリテーション開始率の改善も継続
- ・クリニカルパスへの積極的な参加により、早期離床や早期退院への寄与
- ・休日リハビリ体制の充実を図り、可及的速やかな早期離床の実践
- ・脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、廃用症候群、がん等あらゆる疾患を治療対象として、質の高い理学療法、作業療法、言語聴覚療法の提供を目指す
- ・NST、RST、排尿ケアチーム、褥瘡対策チーム、転倒転落予防チーム等のチーム医療の参加や、各科・病棟カンファレンスを通じて医師や多職種との連携・情報共有
- ・救命救急、集中治療室とのカンファレンスによって、早期離床リハビリテーション加算への関与と、早期リハビリテーション開始率の向上
- ・COVID-19患者に対する介入の拡大
- ・新人教育マニュアルに則った職員教育をはじめ、各種研修会、勉強会を通じた人材育成

| 診療実績 |

2022年度 算定項目別割合 (実施単位数)



2022年度 診療科別割合 (処方数)



| 学術活動報告 (学会・研究発表など) |

発表年月日	発表学会
2022.06.17	第22回日本抗加齢医学会総会
「人間ドック男性受診者を対象とした肥満指標と骨密度の関連」 山本 結子、後藤 元輝、池上健太郎、森 隆彰、花野 宏美、大石 寛、山陰 一、浅原 哲子、 榎田 出、石井好二郎	

発表年月日 演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.06.17	第22回日本抗加齢医学会総会
[人間ドック女性受診者を対象とした肥満指数と骨密度の関連：閉経前期と後による分析] 花野 宏美、後藤 元輝、 <u>池上健太郎</u> 、森 隆彰、山本 結子、大石 寛、 <u>山陰 一</u> 、 <u>浅原 哲子</u> 、 <u>榎田 出</u> 、石井好二郎	
2022.09.01	The 27th Annual Congress of the European College of Sports Science
[Association of school neighborhood-built environment with school-aged children's physical activity : A large-scale cross-sectional study of fifth- to twelfth-grade children in Japan] Oishi K, Aoki T, PhD, Mori T, <u>Ikeue K</u> , Yamaguchi H, Hanano H, Yamamoto Y, Ito Y, Ishii K, PhD	
2022.09.21	第73回日本体力医学会大会
[思春期小児の高強度、中高強度身体活動と学校近隣の建造環境との関連] 大石 寛、青木 拓巳、森 隆彰、伊藤 祐希、 <u>池上健太郎</u> 、山口 寛基、花野 宏美、山本 結子、石井好二郎	
2022.09.21	第73回日本体力医学会大会
[人間ドック受診者の各年代における糖尿病発症リスクに影響を及ぼす生活習慣] 山本 結子、大石 寛、 <u>池上健太郎</u> 、山口 寛基、花野 宏美、森 隆彰、 <u>山陰 一</u> 、 <u>浅原 哲子</u> 、 <u>榎田 出</u> 、石井好二郎	
2022.10.08	第76回国立病院総合医学会
[右胸腔により人工呼吸器管理となった症例のADL自立まで] 羽田真之介、今中 辰茂、増田 圭亮、奥脇 基	
2022.10.08	第76回国立病院総合医学会
[非痙攣性てんかん重積状態 (NCSE) により多様な障害が現れた症例] 加藤 利和、柳田 直紀、小林 理絵	
2022.10.27	The 8th ASIAN CONFERENCE for FRAILITY AND SARCOPENIA
[Association between obesity index and bone density in men as assessed using the comprehensive health checkup system (Ningen Dock)] Yamamoto Y, Goto G, <u>Ikeue K</u> , Mori T, Hanano H, Oishi K, <u>Yamakage H</u> , <u>Asahara N, MD, PhD</u> , <u>Masuda I, MD, PhD</u> , <u>Ishii K, PhD</u>	
2022.10.28	The 8th ASIAN CONFERENCE for FRAILITY AND SARCOPENIA
[Phase angle is associated with the progression of locomotive syndrome in community-dwelling older adults] Oishi K, Ito Y, Aoki T, PhD, <u>Ikeue K</u> , Yamaguchi H, Hanano H, Mori T, Yamamoto Y, Ishii K, PhD	
2022.10.28	The 8th ASIAN CONFERENCE for FRAILITY AND SARCOPENIA
[Association between body mass index and bone mineral density in female comprehensive health checkup system examinees : an analysis by premenopausal and postmenopausal age] Hanano H, Goto G, <u>Ikeue K</u> , Mori T, Yamamoto Y, Oishi K, <u>Yamakage H</u> , <u>Asahara N, MD, PhD</u> , <u>Masuda I, MD, PhD</u> , <u>Ishii K, PhD</u>	
2022.10.29	第9回日本サルコペニア・フレイル学会大会
[新たな肥満評価指標 ABSI は脳心血管病リスクの高い肥満症患者の特定に有用である] <u>池上健太郎</u> 、日下部 徹、村中 和哉、 <u>山陰 一</u> 、石井好二郎、 <u>浅原 哲子</u>	
2022.12.02	第43回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会学術集会
[四肢骨格筋量を維持した肥満減量治療は LDL-C の低下に寄与する] <u>池上健太郎</u> 、 <u>山陰 一</u> 、村中 和哉、日下部 徹、石井好二郎、 <u>浅原 哲子</u>	
2022.12.02	第43回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会学術集会
[年齢区分別による健診受診者における代謝性疾患のリスクを反映する肥満指標の検討] 山本 結子、大石 寛、森 隆彰、 <u>池上健太郎</u> 、山口 寛基、花野 宏美、 <u>山陰 一</u> 、 <u>浅原 哲子</u> 、 <u>榎田 出</u> 、石井好二郎	
2022.12.03	第43回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会学術集会
[都市・地方における思春期小児の肥満傾向と地域の運動環境・食環境との関連] 森 隆彰、大石 寛、青木 拓巳、伊藤 祐希、 <u>池上健太郎</u> 、山口 寛基、花野 宏美、山本 結子、石井好二郎	

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.12.03	第43回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会学術集会
「日本人思春期小児の肥満傾向に関連する学校近隣の物的環境」 大石 寛、青木 拓巳、森 隆彰、伊藤 祐希、 <u>池上健太郎</u> 、山口 寛基、花野 宏美、山本 結子、石井好二郎	
2023.03.05	第24回日本健康支援学会年次学術集会
「人間ドックを受診した肥満者における主観的な歩行速度と代謝性疾患との関連」 山本 結子、大石 寛、森 隆彰、 <u>池上健太郎</u> 、山口 寛基、花野 宏美、 <u>山陰 一</u> 、浅原 哲子、 <u>榎田 出</u> 、石井好二郎	

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者 (下線は当院所属)
(原著論文) A combined index of waist circumference and muscle quality is associated with cardiovascular disease risk factor accumulation in Japanese obese patients : a cross-sectional study Endocrine, 77, 1, 30-40, 2022.06 <u>Ikeue K</u> , Kusakabe T, Muranaka K, Yamakage H, Inoue T, Ishii K, Satoh-Asahara N.

看護部



専門医資格等
認定看護管理者

部長
福井 久美子
(2023年3月31日まで)



専門医資格等
認定看護管理者
認定医療対話推進者

部長
高田 幸千子
(2023年4月1日から)

令和4年度

| 看護部の理念 |

私たちは、常に患者さんと共に歩み、安心して納得のいく医療を受けていただくために、わかりやすく丁寧な看護を提供いたします。

| 看護部の目標 |

スローガン

「基本の基」 看護の責任

目標

- 1 安全でやさしく丁寧な看護を提供する
 - 1) 倫理的感性を高め、患者に安心感を与える看護実践
 - 2) 原理原則を理解し、患者の安全を守る看護実践
- 2 業務改善を推し進め、経営に参画する
 - 1) 職場環境の活性化を図る
 - 2) 診療報酬に伴う経営意識の向上と実践
 - 3) 積極的な病床管理
- 3 自ら考え、学び、行動できる看護師の育成
 - 1) 看護実践を等してともに学び合える風土の醸成
 - 2) 専門性を高め、看護の質向上に寄与する

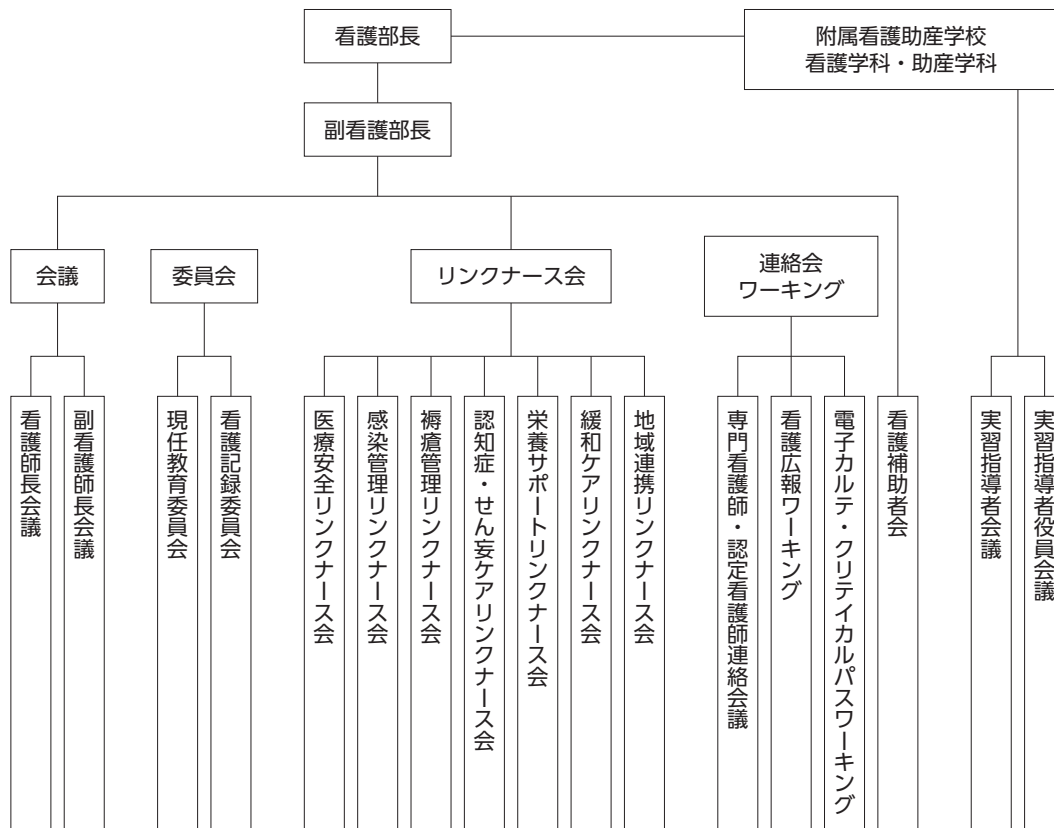
| 目指す看護 |

「患者が安心して医療を受けられるために、安全で優しく丁寧な看護に努め、責任をもって継続した看護を実践します。」

看護部組織図



看護部会議・委員会組織図（機能図）



看護部が関わる主な病院諸会議

- 管理診療会議
- 経営企画・業績評価委員会
- コロナ本部会議
- サービス向上委員会
- 薬事委員会・医療材料委員会
- 診療報酬管理委員会
- 病床管理委員会・小委員会
- 外来管理委員会
- 手術室運営委員会
- 集中治療室運営委員会
- 救命救急委員会
- 緩和ケア運営委員会
- 地域医療連携委員会
- 褥瘡対策委員会
- 栄養管理委員会・NST委員会
- 倫理委員会
- 透析委員会
- 臨床検査委員会
- 広報委員会
- 輸血療法委員会
- 化学療法委員会
- 医療安全管理委員会
- 医療事故対策委員会
- リスクマネージャー会
- 院内感染対策委員会
- 災害対策委員会
- 医療機器安全管理委員会
- 医療情報委員会・小委員会
- クリティカルパス委員会
- 安全衛生委員会
- 動物実験委員会

看護部委員会活動状況（令和4年度）

会議・委員会

	活動目標	活動内容
	管理的観点を踏まえた看護研究に取り組む	<p>研究課題：中堅看護師のキャリア発達において看護管理者を選択することに影響を及ぼす要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書の作成 ・倫理審査申請書の作成 倫理審査委員会に提出 <p>10月～研究開始 質的研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月～1月 データ収集期間 13名の中堅看護師へ半構造化面接 ・1月～データ分析 ・2月～まとめ ・3月11日 看護研究発表会で発表
看護師長会	<p>看護師長の倫理的感性を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討を通して、倫理的な問題が生じていることに気づく力を養う ・事例討議の学びを、日頃の看護管理に生かすことが出来る 	<p>4月 倫理的感性を高める方法を検討する</p> <p>5月 事例検討（グループメンバーが抱えているジレンマ、もやもやに気づいて立ち止まり考える）</p> <p>6～7月 事例検討（倫理グループで）気づく力を養うことを中心に話し合う</p> <p>9月～12月臨床で倫理的問題に気がついた際はディスカッション</p> <p>【話し合った事例】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①転倒した患者を再度転倒させないために上肢抑制を行った事例 ②緊急入院の際に男女混合部屋で入院させてしまった事例 ③管理夜勤中、看護師長が転倒の報告を受けてスタッフとのやりとりの中で感じたこと ④重症貧血患者の輸血管理について ⑤緊急入院時にエアマット準備のために1時間待たせることについて ⑥転倒し骨折で緊急入院になった患者に褥瘡を見つけた時にどう考えるか ⑦患者が亡くなられた際に遠方の家族がくるまで病室で待つことについて ⑧症状緩和が必要な患者が空床状況のタイミングで入院できなかった ⑨治療経過が思わしくない患者へのCV挿入のICについて ⑩入院患者を入院当日に怒らせてしまった事例について <p>キャリアや年代の違う看護師長が話し合うことで倫理について様々な意見交換ができた。気がつかなかった視点に気づかされた。</p> <p>日々看護師長として勤務する中で倫理的に問題となるようなことは多く存在する。それを如何に気づき、何が問題と感じるかを声に出す（言語化することが重要である。）</p>
	積極的な病床管理 看護師長1人1人が退院を意識した調整ができる	<p>【DPC2期内の退院促進のための活動】</p> <p>5月 各部署より4月の退院から現状の分析と課題について聞き取りの実施</p> <p>6月 入退院管理シートの作成</p> <p>7月 WGメンバーで入退院シートの活用と評価</p> <p>8月 6月分のDPCデータの結果から 共通の課題について検討</p> <p>9月 7月以降のデータの分析と課題の対策についての検討</p> <p>10月～11月 各月のDPCデータをもとに1～3日退院を超過している患者の原因を分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病床管理のための入退院管理シートを作成したが、各部署の特徴により入退院が多く使用が困難な部署もあり、内容については見直しとなった。 ・中間評価で各診療科の特徴があるが、入院日数がDPCⅡ期の日数を超過している患者の中で1～3日退院が超過している患者が全体の約半数であることが分かった。 ・また、それ以上超過している患者についても、転院と比較し自宅退院の患者が多く、早期退院支援に看護師長の介入が必要であることがわかった。 ・各月の医事科からのDPCデータを各部署の師長に送付し医師とのカンファレンスや現状分析に活用できるようにした。 <p>【年末年始の病棟集約についての検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月～2月年末年始の病棟集約について安全に集約を行うための本年度病床統括の実施内容について実施内容を次年度に活用できるようにまとめを行った。
副看護師長会	【新人教育】 病棟全体で新人看護師を育てる環境を整える	<ol style="list-style-type: none"> 1) 5月の会議で新人看護師の毎月の教育目標設定における考え方の統一を意見交換を通して実施 2) 各病棟の実地指導者への支援状況の把握、課題の抽出 →新人看護師・実地指導者を支援していくうえで以下のことを意識して実施するように依頼し、依頼後に再度支援状況について意見聴取 ・実地指導者への指導は特別に時間を確保するのではなく、日々の看護実践の中で承認等タイムリーに実施する ・実地指導者も支援・教育対象であるということを認識 ・毎月の新人看護師の目標設定や新人・実地指導者の支援方法を検討する際は、必ずActyの冊子、各病棟で作成したOJT計画書、新人看護職員研修プログラム（厚生労働省）に立ち返る 3) 10月の会議にて新人看護師が安心して看護ができる場を整えるために、副看護師長として何が出来るのか具体的な方法について話し合いを実施 4) 自部署の新人教育における課題、問題点から自部署の教育スタイルを検討し、目指すべき先輩像を明確にし、意図的に取り組んでいく事項を各病棟で検討・実施 5) 新人看護師を対象に心理的安全性を図るアンケート調査を実施

	活動目標	活動内容
副看護師長会	<p>【OJT】</p> <p>①副看護師長が支援し、レベル別担当者が年間教育計画を用いて教育対象者を支援する</p> <p>②レベル別担当者が、研修前からの動機付けから研修後のフォローの支援が実施できる</p> <p>③レベル別担当者と共同し、OJTを行う中で課題を見出し計画を修正することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の副看護師長会で「レベルⅡ研修に向けて副看護師長として、年間教育計画を活用した支援について検討し、今後の効果的なOJTについて」全体討議を実施した。 ・教育計画を誰もが見やすく活用するようにA3からA4用紙へ変更しファイリングすること、レベル別担当者と年間教育計画を定期的に見直し、変更時は書き込み追加修正することを提案した。 ・年間教育計画の活用に向けて、研修生とレベル別担当者に年間教育計画を配布するように依頼し、研修生とレベル別担当者が毎月年間教育計画を用いて面談を行い、OJTの部分に結果を書き込むように依頼した。 ・11月の副看護師長会で「レベルⅢ研修のリーダーシップ研修のOJTに対して、副看護師長として意図的にどのように介入しているのか」について全体討議を実施した。 ・OJT支援ができてきているのか、副看護師長・レベル別担当者に「OJT支援アンケート」を実施した。
	<p>【業務改善】</p> <p>看護師の業務負担が軽減でき、看護に真摯に向き合えることができ、看護の楽しさややりがいを感じることができる職場づくりができる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 6月に当院看護職員のやりがいの明確化のためにアンケート調査を実施 2) 当院看護職員は、看護を実践し、患者や家族から正のフィードバックを得ることにやりがいを感じていることが明確となった。 3) アンケート結果を、副看護師長会にて共有。副師長から各病棟のスタッフ全員に結果の説明を行った。 4) 10-11月、アンケート結果を踏まえ、今後のやりがいを感じられるための具体的な取り組みにつなげるため、具体的に何に取り組んでいきたいのかを話し合って意見を集めた。 5) 11月に各病棟で出た話し合いの意見と、その分析を病棟師長・副師長で行い、各病棟での取り組み案を検討。 6) 12月に看護職員からの意見をより深く分析する中で見えた課題について、副看護師長会にて話し合いを行い、思考の整理を行った。 7) 2月に副看護師長の介入後の変化を評価するための再アンケート調査を実施した。やりがいを感じる内容は環境要因より看護に関する項目が増えており、若いスタッフを中心にケアやカンファレンスが充実してきたとの回答が得られた。 8) 3月に再アンケート結果のまとめを副看護師長会で発表
	<p>【固定チームナーシング】</p> <p>固定チームナーシングの看護体制を維持し、質の高い看護実践を行える環境を整える</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 各病棟で定期的なカンファレンス開催に向けた取り組みの呼びかけを実施 2) カンファレンスの実施状況、カンファレンスを行うために各病棟で感じている課題と解決に向けた取り組みについてアンケートを実施 3) カンファレンスの定期的な開催を行うためには業務調整が必要であることが明らかになったため、固定チームナーシングを機能させるためのツールとしてタイムテーブル表の使用を呼びかけた 4) 実際に固定チームナーシングが機能し、タイムテーブル表が活用できているかをスタッフから意見聴取 5) 固定チームナーシンググループの副看護師長が固定チームナーシングについて再学習 6) 固定チームナーシングの定義・理念・目的を文章で提示 7) 固定チームナーシングの看護体制で業務調整を行っていた看護師長・副看護師長からタイムテーブル表を活用しやすい方法を聴取し、タイムテーブルを改訂 8) 使用例を提示しタイムテーブル表を活用を呼びかけ 9) タイムテーブル表の使用状況とカンファレンスの実施状況の確認のために病棟ラウンドを実施
現任教育	<p>研修生が集合教育で学んだ知識・技術を現場で活かすことができる。</p> <p>1) 集合教育の目的を理解し企画・運営できる</p> <p>2) 学んだことを意図的に現場に活かすことができる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 現任教育委員会構成員の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・現任教育委員会構成員に現任教育委員会の役割の位置づけや集合教育とOJTの関係など現任教育を行っていくうえで必要な知識を習得するために学習会を行った。 ・効果的な研修企画・運営について学習会を行った。 ・ACTyレベルⅠ～Ⅳの企画グループを作り、1年間の研修企画運営を行った。 ・研修を企画運営するにあたり、特に難しいと感じているファシリテーターについて、役割の理解、ファシリテーターの方法について講義とロールプレイングを用い技術を身につけた。 2) 学んだことを意図的に現場に活かす <ul style="list-style-type: none"> ・各病棟で集合研修を機会教育として意図的に教育できる体制を作った。 ・研修生をスタッフ全員で意図的に支援できるように、研修報告の場を作ったり、紙面上でやり取りをした。 ・現任教育委員会メンバーが自ら関りをもち機会教育を行った。

	活動目標	活動内容
看護記録	1. 看護計画の抽出の根拠を記録に残すことができる。 2. カンファレンス記録室、IC記録を残すことができる。	<p>【看護記録の質的監査の実施と質的監査の方法の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各月に看護記録の量的監査と質的監査を実施していたが、本年度は7月より看護記録の質的監査を中心に実施した。 看護記録の質的監査を5名から2名に変更し、看護記録委員が中心となり2名でペアで看護記録の質的監査を一緒に実施し、その場で個々にフィードバックを行う方法に変更した。 毎月の監査結果はグラフ化して提示し、病棟全体に結果をフィードバックするように統一した。 9月より看護の質的監査の評価の視点を文章化し、質的監査項目の評価の視点が統一して行えるように看護記録委員会で質評価の項目の見直しと評価の視点シートを作成した。 <p>【看護計画に関連する記録の記載の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～9月は看護計画立案時のSOAP記録の記載が徹底できるように取り組んだ。各部署で3日間の調査や入院時の看護計画立案時の記録を記載するように徹底した。 「4. 看護計画を立案した経緯の分かるSOAPの記録がある」の質的監査の項目は6月63%→2月97%と記載が改善した。 「10. 患者の状態変化や定期評価時に看護計画が変更されている」の項目は6月から2月まで70%台で経過しており、患者の状態に合わせた看護計画の修正が今後の課題となった。 <p>【カンファレンス記録の充実とIC記録の記載について】</p> <ul style="list-style-type: none"> カンファレンス記録の記載とIC同席時の患者・家族の反応に関する記載が少ないため、病棟で5月に7日間の調査を実施し、記録委員が記載漏れの確認と周知徹底を実施した。 毎月の監査結果を各部署でフィードバックし改善に取り組んだ結果、毎月のIC記録やカンファレンス記録の質的監査結果は概ね80%以上を達成できるようになった。 カンファレンス記録の内容を看護計画の内容の見直しや修正につなげることが今後の課題である。
広報	1. 人材確保対策	<ul style="list-style-type: none"> 病院見学会 パンフレットを用いた病院、看護部の概要説明、院内見学参加人数；21名 パンフレットのリニューアル 病棟、専門・認定看護師の写真差し替え 看護体験 京都府ナースセンター主催 ふれあい看護体験 8月3日開催 高校生8名参加 生き方探求チャレンジ実施 10月18日、10月31日、11月2日 看護職員募集活動 同志社女子大学 実習施設との交流会 (Web) 9月16日 京都看護大学 合同就職ガイダンス (Web) 9月26日 ホームページ；各部署の写真差し替え

連絡会

	活動目標	活動内容
専門看護師・認定看護師連絡会	組織横断的な活動を行い、実践や集合教育を通して当院の看護の質の向上ができる	<p>【第2回「うずらのカップ」開催にむけた取り組み】 11月19日開催</p> <p>開催にむけ前回の半年後アンケート調査実施し、QC活動へ報告、全スタッフを対象にアンケート調査を実施し、前年度の評価、今年度開催にむけた課題を抽出し今年度の取り組みに活用した</p> <p>参加人数48名（前年度42名）ファシリテーター27名</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修アンケート結果（倫理的行動事故評価尺度一部引用）知識技術の学び：3.9～4.4/5 難易度：3.4～4.4/5→日本CNS学会へ実践報告演題登録 アンケート結果より、短時間であったが十分学ぶことができている。難易度の平均は、差があり、研修生のレディネスに応じた内容の検討が必要。チームメンバー間の協力について「大変できた」が、73.3%で、部署を越えた繋がりをもち職場環境活性化の一助となった。 <p>倫理的行動については、「プライバシーの保護」「援助の必要性方法を説明し同意を得る」が低得点であった。経験年数の浅い看護師が多いため、質の高い倫理的行動を図れるよう支援が必要。</p>

	活動目標	活動内容
専門看護師・認定看護師連絡会	組織横断的な活動を行い、実践や集合教育を通して当院の看護の質の向上ができる	<p>【テーマ別研修開催にむけた取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度のテーマ別研修では「研修生が日々の看護実践に根拠と自信を持ち、楽しく看護実践できる」、「研修生が自己研鑽の重要性に気づき、看護専門職としての自覚と責任を持つことができる」を2つのねらいとして取り組んだ。 ・研修受講申し込み方法として、1年を通した研修計画を立案し、全研修同時募集とした ・8テーマ：6分野（10/24～2/17）研修を開催した ・研修後アンケート結果 100%の参加者が研修は「大変有意義だった・有意義だった」と回答 100%の参加者が「今後に役立つ」と回答 100%の参加者が「希望に添う内容であった」と回答 「臨床に活かせるか」、「今後も参加したいか」が他項目と比較し、やや低めの回答が多かった。 <p>【専門看護師・認知看護師へのコンサルテーションのテンプレート作成の取り組み】</p> <p>各分野テンプレート内容の決定（摂食嚥下障害、救急・クリティカルケア、がん分野） 依頼・記録テンプレートのイメージの確認（富士通と調整） 電子カルテ運用方法のマニュアル作成、12/20運用開始する。</p> <p>【専門看護師・認定看護師間の情報共有】</p> <p>活動促進にむけた意見交換（10月連絡会）意見交換後のそれぞれの活動についての聞き取りを行った。専門・認定看護師間の連携を深め、直接的な患者ケアの実践、看護スタッフの教育を行うことが、看護スタッフの知識、技術が磨かれ、看護実践能力の向上に繋がることが理解出来た。情報共有としては、テンプレートの作成を通して、各分野の活動内容の理解が深まり、協働することができた。</p>
	院内に向けた広報活動ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・「専門看護師・認定看護師の紹介」ポスターの各分野のコメント、写真更新を行い、各部署に掲示を行う。 ・テーマ別研修参加者募集案内をCoMedixを用いて行い、各研修の具体的な内容がわかりやすく、興味をもって参加してもらえるよう、各テーマ別ごとにポスターを担当者が作成し掲示する。 ・病院HP「専門看護師・認定看護師」紹介ページの写真更新と紹介文の更新。テーマ別研修の開催後には研修風景の写真を載せて開催概要を紹介した。

リンクナース会

	活動目標	活動内容
NSTリンクナース会	1、栄養評価を適切に行うことができ、多職種と連携できる	<p>栄養状態が悪化している患者に看護師がNST介入できるように取り組んだ。NSTに関する知識の向上に向けて以下の講義等を行った。</p> <p>①NSTラウンドの参加②「栄養管理」[NST介入まで]</p> <p>必要な患者にNST新規介入につながるように、多職種との連携を強化するために討議を通してNST介入の目安や栄養管理計画書の活用し、リンクナースとして関わった。NST新規依頼件数（317件）は昨年度と比べても同等であり、増加には至っていない。</p> <p><次年度の課題></p> <p>看護師が入院時にNSTの必要性を判断し、介入に必要な情報を収集してから、医師にNST介入の許可を得てNST依頼につなげていく</p>
	2、摂食機能療法の適切な実施および看護実践ができる	<p>当病院の各病棟には平均3名程度の食事介助が必要な患者が入院しており、誤嚥のリスクが高い。看護師は安全に食事援助ができ、栄養状態の改善つなげる必要があり、以下の講義や演習を行い、病棟スタッフへの伝達と看護実践につなげた。</p> <p>①講義：食事開始までの手順、摂食機能療法の算定要件 ②演習：反復嚥下テスト、改訂水飲みテスト、誤嚥予防を考えた食事介助時のポジショニング</p> <p>昨年度3月に導入したリハメイトの使用手順、摂食機能療法算定要件をスタッフが理解することで対象患者に適切に摂食機能療法を算定することができるように取り組んだ。</p> <p>①講義とグループワーク：摂食機能療法算定要件、リハメイト使用手順</p> <p><次年度の課題></p> <p>摂食機能療法の算定要件を全スタッフが理解し、リハメイトを使用する。また、誤嚥予防のための正しい食事介助等の看護実践の向上を目指す</p>

	活動目標	活動内容
医療安全リンクナース会	1. 確認行動の習慣化を図り、患者誤認のインシデントが50件以下となる	<p>確認行動・転倒転落のグループに分かれて活動。</p> <p>【内服インシデント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内服インシデントの事例検討、6Rについての事実確認をどのように行うか共通理解を図った。 ・薬剤インシデント発生時の事実確認の実践と振り返り、自部署と他部署のラウンドと振り返り ・薬剤インシデントのうち、「カルテを見ていない」「残数で発見」は4月～12月平均55%（R3年度82%）で昨年度より減少した。 ・内服実施直前の指差呼称の実施：7月82%→11月90%で増加した。 ・内服インシデント発生率4月～12月0.19%（R3年度0.39%）で昨年度より減少した。 <p>【患者誤認への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自部署のラウンド（配膳、移送：検査、手術、透析時の迎え）と振り返り ・配膳の看護手順の改訂と周知 ・上記実施後に、検体、手術・検査、食事、カルテ、書類、療養上の世話の全ての場面での自部署のラウンドと振り返り、各場面における確認内容の明確化 ・患者誤認のインシデント4月～2月45件（R3年度62件）：薬剤6件、検体4件、手術・検査・処置13件、食事5件、カルテ5件、書類7件、療養上の世話5件
	2. 転倒転落リスクのアセスメント力を高め、環境の不十分による看護師要因の転倒転落が8件/月以下となる。	<p>【転落転落発生時の事実確認と記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転倒転落事例の事実確認（患者が何をしようとしていたのか、行動のきっかけ）をリンクナースがスタッフに確認できるよう共通理解を図った。転倒時の行動のきっかけの記録は増加し、90%記載できるようになった。 ・転倒時のカンファレンス記録の記載や看護計画の反映ができていないか、カルテで確認して振り返り、テンプレートの活用などを全部署で共有した。 <p>【転倒転落予防の視点の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「転倒転落予防の視点」について全部署で使用し、定着化を図った。 ・ベッドサイドでの環境調整の実施について、自部署のラウンドを行い振り返るようにした。 ・転倒のきっかけは「排泄」が一番多く、排泄パターンの把握と事前介入について検討した。 ・転倒発生率4月～2月0.310%（R3年度0.381）は、昨年度より減少した。 ・看護師要因「環境の不十分」による転倒転落は、4月～2月87件、月平均7.91件（R3年度平均14件/月）で目標到達した。
感染管理リンクナース会	標準予防策・感染経路別予防策が各部署で実践できる	<p>【手指衛生のタイミングを理解し、適切に実施することで、ゴージョーの使用量が目標値に達する】</p> <p>各部署が患者の属性や処置・ケアの特性から必要な手指衛生の回数を見直し、5つのタイミングについての知識を習得して目標値を再設定し、これまでの目標設定に全く根拠がないことの理解と周知を行った。新たな目標値の設定、病棟でのCOVID-19患者のクラスター発生、ゴージョーの使用量確認を1週間ごとにするなど、新たな取り組みや感染の拡大時には使用量は増加したが、目標値の達成には至らなかった。</p> <p>各部署へのラウンドを行い、5つのタイミングの知識の定着や、指導力の向上を図ったが、実際に自部署で指導が実践できているか確認が十分に行えていなかった。</p> <p>手指衛生使用達成率：11%～85%</p> <p>【感染防止の環境整備の質の向上】</p> <p>各スタッフが環境整備を行っているかチェックリストを用いて客観的な評価を行えたが、実際に療養環境が整えられていない場面も見受けられた。また他部署のスタッフが療養環境の状況をラウンドすることで、自部署以外のスタッフの客観的な評価をできていない項目を抽出し、指導に活かすことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ・ノロウイルスの予防のための全スタッフへの周知 <p>【PPEの着脱が全スタッフ適切に行える】</p> <p>全部署、全看護職員が適切にPPEの着脱を行うことができるように指導の計画を立案し実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PPEの着脱技術の確認を年間2回実施

	活動目標	活動内容
緩和ケアリンクナース会	<p>患者が抱える苦痛を全人的（身体的・心理社会的な側面を含む）にとらえることができる</p>	<p>①患者の苦痛スクリーニング「緩和ケアの質評価IPOS」の導入を行った。 6月：導入にむけて「IPOSとは」の紹介と導入方法の説明し看護師長会で承認を得た 7月：各部署リンクナース会から全スタッフに周知開始した。副看護師長会で説明し協力を得る リンクナース会で仮想事例による学習・運用活用方法の共有 8月：全スタッフ周知を確認し、8/1導入開始。活用状況を月集計し現状把握と課題に取り組んだ 2023年1月：IPOS導入後のアンケート実施、IPOS活用の振り返りと今後の課題について検討した。 患者の苦痛を包括的かつ全人的に把握するための「IPOS」導入では、全スタッフに周知でき8月から導入することができた。活用状況としては、新入院患者数の約45%/月の患者に活用できており活用数は増加傾向であることから、スタッフの認知度や活用することへの意識は高まっている。活用の振り返りと課題について話しをもち、IPOSを聴取することや件数を増やすことが目的とならないよう、苦痛を抱える患者の状況に配慮した介入の必要性についても意識化を図った。 ②シミュレーション学習 苦痛の評価ツールを活用しながら、患者の全人的苦痛やQOLの視点からアセスメントを行い患者像をとらえることを目的に開催した。9月からは、シミュレーション学習を通して、患者・家族の苦痛や苦悩をIPOSや疼痛アセスメントシートなどの評価ツールもかつようし、全人的かつ包括的に理解し丁寧にアセスメントした上でケア介入していくことの重要性を学んだ。また、会を重ねること、リンクナースとして自己の学びだけではなく、病棟に還元し看護実践に活かすことや、スタッフ個人や部署の変化にも意識をむけて関わりを深めていけるように取り組んだ。</p>
地域連携リンクナース会	<p>全人的苦痛の緩和に必要な基本的知識・技術・態度を習得し、部署でリーダーシップを発揮することができる</p>	<p>①「自部署の特徴をふまえた緩和ケア」について検討し自部署の活動計画の作成・実施 4月：「緩和ケア」「リンクナースとは」の学習を行った 4月～6月：「自部署の特徴をふまえた緩和ケアとは」について考察し言語化を図り全体共有した 各部署の活動計画書の作成・実施 8月～9月：各部署中間評価 今年度は、「がん看護チーム会」から「緩和ケアリンクナース会」に変更し、これまで参加していなかった部署（分野）を含めた開催となった。そのため、前期は「緩和ケア」についての考え方や、「自部署の特徴をふまえた緩和ケアとは」について丁寧に考察し、リンクナースそれぞれが言語化することができた。 ②「苦痛緩和のための鎮静」看護基準・手順の導入 5月：看護基準・手順の導入にむけた鎮静に関する学習と内容・活用方法の検討 6月：看護基準・手順内容の確定と活用方法の最終確認。看護部承認 7月：全スタッフ周知開始（ナーシングスキル） 全人的苦痛の緩和に必要な知識・技術を習得する取り組みとしては、「苦痛緩和のための鎮静」の看護基準・手順について理解を深め導入することができた。件数は少ないが手順の活用やチーム協働への意識は高まった。 ③リンクナースの緩和ケアに関する学習 ELNEC-Jは8名。PEACE研修会は2名が受講した リンクナースのリーダーシップ行動として、18/20名が「CFの開催：多職種とのデスCF・ケースCF・シミュレーション後の学びをふまえたCF」「リソースへの橋渡し：多職種連携・PCT介入」「緩和ケアの実践：早期からの全人的苦痛の理解・家族アセスメント・スタッフと評価ツールを活用した患者の苦痛の理解」「勉強会の開催：緩和ケアとは・自部署の特徴をふまえたIPOSの活用方法」などが見られリーダーシップ行動は高まった。</p>
	<p>1. 退院支援カンファレンスを充実し、早期の退院支援が実施できる。</p> <p>2. 急性期病院における退院前・後訪問を積極的に実施する</p>	<p>【DPCⅡ期間を確認、情報の把握をした、退院支援カンファレンス実施】 ・5月：入院当日あるいは翌日に退院困難な要因がある患者（パスは除く）を退院支援担当者に連絡、情報共有した。 ・9月：現状について看護師長に聞き取り調査。（回数と方法） ・12月：救ICU/救HCUは、退院支援カンファレンスが毎日実施できていないことがわかり、一般病棟に転棟時カンファレンスの未実施があるため毎日実施に変更した。 ・6月からの一定期間（毎月1日～7日）の入院患者のスクリーニング、退院支援カンファレンス、DPCⅡ期超過件数のモニタリングを実施、退院困難な要因のある患者に対する退院支援カンファレンスの実施率は、8月73%～100%/病棟→12月77%～100%/病棟と経過した。</p> <p>【訪問看護を導入した対象の退院前・後訪問を実施する】 ・6月 退院支援病棟マニュアル退院前・後訪問手順について再確認、新規訪問看護導入事例に積極的実施を行い、実施病棟1-7 2-4の事例の共有した。 ・9月、10月、12月実施の障壁となる理由についてグループワーク、病棟の状況と実施できていない原因についてメリットや工夫点を確認した。 18件新規訪問看護導入の28%の実施（1月末日時点）であった。</p>

	活動目標	活動内容
褥瘡対策リンクナース会	1. 褥瘡予防ケアに関する基本的技術を習得し、寝床環境・ポジショニング要因での褥瘡発生数が減少する	<p>【ポジショニング技術の習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リンクナース会にて、体圧測定器を用いたポジショニング演習を実施した。その後、リンクナースが中心となり各部署で全看護師に技術チェックを実施した。 ・褥瘡発生数の多い病棟は個別指導を行い、褥瘡予防策を検討・評価を実施した。 <p>【防水シートの活用状況調査・定数見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マットのハンモック現象を阻害することから、長期の防水シートの使用をしないよう取り組んだ。防水シートの使用枚数が減少したことから、全部署の定数見直しを実施した。 <p>【ポジショニンググローブの定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポジショニンググローブの設置率を調査し、設置率が低い病棟に指導を行った。 ・ポジショニンググローブ導入前は、ポリエチレン手袋を活用して除圧していた。そのため、ポリエチレン手袋を活用する看護師がおり、不十分な除圧となることで褥瘡発生した事例が散見された。ポリエチレン手袋を廃止し、プラスチック手袋に変更した。
	2. 褥瘡に関するアセスメントを実施し、患者に応じた褥瘡予防ケアの実践ができる	<p>【危険因子の評価、記録漏れを防ぐ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険因子評価表の未作成0件にむけた取り組みを各病棟で行った。各病棟の取り組みの内容は、危険因子評価表の入力の必要性を周知する、未入力結果をスタッフへフィードバックなどであったが減少していない。数病棟が、業務のチェック表に取り入れることで減少した。 <p>【危険因子を踏まえた看護計画の立案と看護計画の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険因子を踏まえた看護計画の立案と看護計画の評価ができるように各病棟で取り組んだ。各病棟の取り組みの内容は、褥瘡カンファレンスの積極的な開催、評価日を設定するなどであった。 ・褥瘡がケア観察できているか、褥瘡ケアマニュアルで定められた内容が、看護記録に記載されているかを形式監査した。対象者は、褥瘡保有患者1名、日常生活自立度B、C各1名 ・危険因子評価表未作成は、前期は平均22.3件であったが、後期18.3件であり4件減少したが0件の月はなかった。
	3. 医療関連機器圧迫創傷についての基本的知識と技術を習得し、医療関連機器圧迫創傷発生件数が減少する	<p>【医療関連機器圧迫創傷の知識習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療関連機器圧迫創傷の事例検討を3回実施した。事例検討を実施した2～3か月は医療関連機器圧迫創傷の発生が減少する傾向にある。 ・医療関連機器圧迫創傷の発生が多い部署は個別指導を行い、発生予防策を検討・評価を実施した。 ・弾性ストッキング（包帯）での発生は、令和3年度12件→令和4年度10件であり、変わらなかった。 ・間欠的空気圧迫装置での発生は、令和3年度11件→令和4年度7件と減少した。 ・経鼻経管チューブでの発生は、令和3年度1件→令和4年度5件と増加した。
電子カルテ／クリニカルパス	【電子カルテ】 次期病院情報システム更新に向けたスケジュールに沿った看護記録に関する問題点が抽出できる	<p>【電子カルテ】</p> <p>現状の電子カルテに関する不具合・要望を抽出し、一般病棟分をまとめた。12月にヒアリング、3月仕様書作成に向けて院内のスケジュールに沿って活動した。</p>
	【クリニカルパス】 DPCⅡ期を意識した診療密度の高いクリニカルパスの見直し	<p>【クリニカルパス】</p> <p>クリニカルパス担当看護師を各看護単位に配置し、各診療科のパス担当医師と協力して、DPCⅡ期越えのパスを中心にパス期間と診療内容の見直しを行った。</p> <p>患者用パスについて、存在しないものや規定に沿っていないパスも多くあったため、見直しを行い外来・入院支援センターとも共有し、Cmedixに保存し電子媒体で管理できるよう整えた。</p> <p>クリニカルパス委員会への参加：年4回（4/21・7/22・10/28・2/24）</p>

	活動目標	活動内容
認知症せん妄ケアリンクナース会	<p>1. 認知症・せん妄・不眠について、および身体拘束解除に向けた知識技術を習得する</p> <p>2. 知識技術をもとに、せん妄アセスメント・せん妄予防対策が実践ができる</p>	<p>【知識技術の習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「せん妄予防、不眠、せん妄ハイリスク患者ケア加算について」視聴：246名、ナーシングスキルアクセス数651件 ・「身体拘束について考える」視聴：ナーシングスキルアクセス数259件 ・せん妄・不眠に関するチャレンジテストの実施 5月、8月、1月 ・近畿グループ認知症ケア研修：受講者2名、講師1名（リンクナースメンバー研修修了者7名） ・せん妄不眠に関するチャレンジテストを3回/年実施。 第1回（4-5月）431名：平均値11.2/15、中央値11/15 第2回（7-8月）270名：平均値11.7/15、中央値12/15 第3回（12-1月）386名：平均値11.85/15、中央値12/15 平均値中央値ともに上昇、昨年と比較しても0.27点上昇し、知識の向上が図れた。 <p>【せん妄予防に関する取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せん妄予防に関する各部署の状況把握と課題分析を3回/年検討を実施。 ・シミュレーション学習2回実施（スピーチロック、フィジカルロックについて） ・事例検討実施4回実施 「高齢者の術後せん妄」「入院中の認知症患者の帰宅願望」「経鼻栄養自己抜去リスクのある患者」「車いす抑制帯を装着した高齢者」 リンクナース会で実施したシミュレーション学習、事例検討を各部署で取り入れ実施した。 ・認知症ケアチーム依頼方法、認知症ケア加算1取得（依頼方法、マニュアル、算定方法）、せん妄予防、せん妄ハイリスク患者ケア加算（算定方法）について説明しリンクナースが部署で活動できるように体制を整えた。 ・ケア加算について定期的に共有した。 せん妄ハイリスク患者ケア加算算定状況：8757件/年（令和3年度）→約9400/年（令和4年度）見込み。 認知症ケア加算1算定状況：6385件/年→5055件/4月～1月、平均505件/月（昨年572件/月） 認知症ケア加算算定漏れ：平均21件/月 せん妄ハイリスク患者ケア加算については、ほぼ算定取得できている。認知症ケア加算の算定漏れについては、リンクナースに意識してもらうこと、認知症ケアチームの専従看護師が漏れの確認、医事科との連携で算定漏れを防ぐ体制を整えた。 ・せん妄予防の効果についての評価指標について、次年度検討する。
看護補助者会	<p>目標 看護師と看護補助者が協同し、安全で質の高い看護を提供する</p>	<p>【研修内容】</p> <p>7月 医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解、医療チーム及び看護チームのとしての看護補助業務の理解</p> <p>10月 日常生活に関わる業務（快適な食事環境を整える良い配膳・下膳）</p> <p>11月 看護補助者業務を遂行するための基礎的な知識・技術（高齢者の特徴と対応）</p> <p>1月 看護補助者業務における医療安全と感染防止について（COVID-19の感染予防について）</p> <p>2月 看護補助者業務における医療安全と感染防止について（安全で確実な患者確認）</p> <p>3月 守秘義務、個人情報の保護（正しい個人情報の取り扱いについて）</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果より概ねどの項目に対しても良く理解できた、まあまあ理解できたことが評価できる。 ・ロールプレイングや体験型の研修を取り入れることで看護補助者の研修に対する理解を促進することができた。 ・看護補助者が研修中にも意見交換しやすい環境を作り、現場での困りごとや質問を受け入れることができた。

看護部教育・研修

1) 看護部教育研修（令和4年度）

ACTyプログラム集合研修

	研修目的	受講者	時間	開催日	主な研修内容
新人看護師研修	<p>【医療安全】 医療安全管理とは、報告システムについて説明し患者取り違いや指差呼称の意味を理解できる</p>	58	1.0時間	4/1	講義

	研修目的	受講者	時 間	開催日	主な研修内容
新人看護師研修	【感染管理】 Covid-19対応状況の把握、職員と患者を守る感染対策、標準予防策を理解し実践できる	58	1.0時間	4 / 1	講義
新人看護師研修	【情報システムと患者情報】 専門職業人として患者情報を安全に取り扱う事の意味、管理について理解できる（電子カルテにおける情報管理）	57	1.0時間	4 / 8	講義
新人看護師研修	【ナーシングスキルの活用】 ナーシングスキルについて理解し日々の看護実践に活用できる	57	2.0時間	4 / 8	講義、演習
新人看護師研修	【患者が安心して療養できるためのコミュニケーションを学ぼう】 患者が安心して医療を受けられるために丁寧な姿勢でコミュニケーションを図ることができる	57	2.0時間	4 / 8	講義
新人看護師研修	【共に助け合い共に看護ができる仲間を作ろう】 新人看護師が安心安全な場でコミュニケーションを図り共に学び歩む仲間を作る	57	2.0時間	4 / 8	グループワーク
新人看護師研修	【ポジショニング・おむつ交換】 褥瘡予防、排泄援助の基礎的な援助技術を基に、対象にあった援助技術の方法を身につける	57	1.5時間 × (2回)	4 / 11	演習
新人看護師研修	【移動・移送】 看護手順に基づいた安全、やさしく丁寧な移動・移送の看護技術を理解し実践できる	57	1.5時間 × (2回)	4 / 11	演習
新人看護師研修	【医療安全：正確に確実な方法を理解し実践しよう】 専門職業人として正確で確実な確認方法を理解し実践できる	57	1.5時間 × (2回)	4 / 20	講義、グループワーク
新人看護師研修	【感染：今日からできる、感染防止】 院内感染防止策について理解し、感染防止のための基本的能力を身につける	57	1.5時間 × (2回)	4 / 20	講義、グループワーク
レベルⅠ研修	【点滴・注射、輸液ポンプ・シリンジポンプ】 適切な医療機器管理および手順・ナーシングスキルに基づいた基本的看護技術を学ぶ	57	1.5時間 × (2回)	4 / 27	講義、演習
レベルⅠ研修	【リフレッシュ・セルフコントロール】 新人看護師同士の交流を深めるとともに、職場のある周辺地域の魅力を発見する	55	1.5時間	6 / 4	院外グループワーク 講義
レベルⅠ研修	【フィジカルアセスメント】 様々な状況に置かれている患者のフィジカルアセスメントが実践できる	55	1.5時間 × (2回)	7 / 4 7 / 6	講義、演習、 グループワーク
レベルⅠ研修	【医療安全】 医療安全管理について学び、誤認と誤薬を予防する行動がとれる	55	1.5時間 × (2回)	9 / 26 10 / 3	講義、グループワーク
レベルⅠ研修	【看護倫理】 看護師の責任を理解し倫理に基づいた行動がとれる	55	1.5時間 × (2回)	11 / 1 11 / 2	講義、グループワーク
レベルⅠ研修	【看護観】 1年間の看護を振り返り、自己の行動・思考を言語化し看護観を深める	54	1.5時間 × (2回)	2 / 20 2 / 27	発表、聴講
レベルⅡ研修	【臨床判断】 看護師として収集するさまざまな情報を統合し、患者状態の気づきをアセスメント、看護介入につなげ、現場で実践できる	67	1.5時間 × (2回)	6 / 13 6 / 15	講義、グループワーク

	研修目的	受講者	時間	開催日	主な研修内容
レベルⅡ研修	【看護実践リフレクション】 日常の看護実践の中で自己の看護実践を根拠に基づいて振り返る能力を養う	67	1.5時間 ×(2回)	9/5 9/7	講義、グループワーク
レベルⅡ研修	【看護倫理ジレンマ】 看護倫理上の問題に気づき、ジレンマを表現できる	67	1.5時間 ×(2回)	11/7 11/14	講義、グループワーク
レベルⅡ研修	【後輩支援】 後輩支援の役割を果たすための支援体制を理解し、後輩支援のための準備ができる	66	1.5時間 ×(2回)	3/1 3/13	講義、グループワーク
レベルⅢ研修	【後輩支援】 後輩支援の役割を果たすための能力を養う	50	1.5時間 ×(2回)	5/23 5/30	講義、グループワーク
レベルⅢ研修	【リーダーシップ】 主体的に看護チームの一員としての役割を遂行できる能力を養う	50	1.5時間 ×(2回)	7/25 7/29	講義、グループワーク
レベルⅢ研修	【意思決定支援】 医療倫理・看護倫理上の問題点に気づき、問題提起できる	50	1.5時間 ×(2回)	10/19 10/24	講義、グループワーク
レベルⅢ研修	【看護実践を文献用いて意味づけ】 自己の看護実践の意味づけができる	50	1.5時間 ×(2回)	12/19 12/20	講義、グループワーク
レベルⅣ研修	【問題解決思考PDCA導入】 自部署の業務改善に経営的視点で取り組み、病棟内の課題を見つけ、リーダーシップを発揮し問題解決できる	11	1.5時間	5/13	講義、グループワーク
レベルⅣ研修	【研究的に問題解決に取り組む】 自部署での業務改善を行うにあたって、文献を使用し問題の分析、解決方法の検討ができる	8	1.5時間	7/1	講義、 小グループワーク
レベルⅣ研修	【業務改善から学ぶリーダーシップ】 看護単位の問題の理解と解決に向け、看護チームのリーダーとして行動することができる	6	1.5時間	9/12	講義、全体討議
レベルⅣ研修	【問題解決への取り組み発表会】 自部署の業務改善を主体的に取り組み、継続して実践できるよう働きかける	6	1.5時間	2/15	発表、全体討議

静脈注射プログラム研修

	研修目的	受講者	時間	開催日	主な研修内容
プログラム1	【手順に基づいた安全な点滴静脈注射】 当院の看護手順に基づいた安全な点滴静脈注射の方法について理解する	103	7.0時間	8/1 8/3 8/5	講義、演習
プログラム2	【安全・安楽な治療目的のための静脈注射】 静脈注射を受ける患者が、その治療目的を達成できるよう安全・安楽な静脈注射を習得する	94	7.0時間	8/29 8/31 9/6	講義、演習
プログラム3	【安全な静脈注射】 当院の静脈注射レベル3を安全に実施するための知識を習得する	54	3.5時間	10/5 10/6	講義
プログラム4	【安全な静脈注射】 当院の静脈注射レベル4を安全に実施するための知識を習得する	29	5.5時間	11/28 11/29	講義、演習

2) 専門・認定看護師連絡会主催研修 (うずらのカップ ナーシングオリエンテーション)

目的	内容	人数	方法
京都医療センターにおける看護の質 (総合的な実践能力) の向上	フィジカルアセスメント 摂食嚥下 IVナース (麻薬) 災害対応 認知症/意思決定支援 糖尿病/在宅	11チーム 44名	チーム対応による6つのテーマに沿ってシミュレーションを行い、その結果を点数化し、知識・技術を競う。

| 看護部研究業績 |

1) 院内研究発表・成果発表 (令和4年度)

口述発表

	テーマ	部署	発表者名
1	ホワイトボードを活用したチーム力向上に向けた取り組み	2-5病棟	當銘 了子
2	当院での腹臥位方法統一化へ向けた取り組み ~専門分野看護師の連携・協同~	救命救急センターICU	久保田大樹
3	緩和ケアと多職種連携 ~それぞれの専門性を活かして~	地域医療連携室	太田 香織

ポスター発表

	テーマ	部署	発表者名
1	日々増大する膀胱皮膚瘻を持つ患者の退院に向けての関わり	1-5病棟	丸山 愛莉 塩見 春佳
2	COVID-19患者の看取りの看護	1-8病棟	小西みゆき
3	夜間看護補助者導入による看護師のタスクシフト	1病棟4階	浅井真由美
4	DPC II を見据えたクリニカルパス見直し作成とその成果	1病棟6階、 消化器内科、 栄養科	山口真理子
5	硬膜外無痛分娩と日本版エジンバラ産後うつ病自己評価表の関連性について	2-3病棟	塩川 紗衣
6	ALS患者の意思決定支援についての振り返り	2-4病棟	倉岡 葉子
7	看護必要度取得に向けての取り組み	2-6病棟	中村 彩乃
8	新型コロナウイルスによる面会制限が及ぼす直接母乳確立への影響 ~当院NICU病棟における実態調査~	NICU	山崎 千晶
9	R 4 特室個室病棟の取り組み	特別室個室 病棟	西詰 孝敏 増田 友香
10	緩和ケア病棟へ入棟希望される患者に対する速やかな受け入れ体制への取り組み (仮)	緩和ケア病棟	井上 晃代
11	術後訪問に対する意識向上に向けた取り組み	手術室	飯田 妙子
12	手術室における災害対策への意識向上にむけて	手術室	出雲 圭祐
13	退院後、継続看護介入が必要な患者に対する外来での取り組み	外来 (診療)	山口 牧子
14	抗がん剤による口腔粘膜炎に対する症状マネジメント (クライオセラピー)	外来化学療法 センター	長瀬加奈子
15	タキサン系薬剤による末梢神経障害 (しびれ) の予防ケアの導入と評価	外来化学療法 センター	田中 雅子
16	IVナース活動報告「外来化学療法センター看護師の役割」	外来化学療法 センター	後藤佐代子
17	教育における副看護師長としての取り組み	救命センター HCU	井上あづさ

	テーマ	部署	発表者名
18	看護師長会倫理ワーキングチームの事例検討について	看護師長会	西詰 孝敏
19	看護師長会ワーキンググループ活動報告 中堅看護師のキャリア発達についての研究	看護師長会	中村 露子
20	看護師長1人1人が退院を意識した調整を行うために ～積極的な病床管理WGの取り組み～	看護師長会	山口理恵子
21	業務整理におけるタイムテーブルの活用に向けての取り組みと効果 ～固定チームナーシングの視点からの業務改善～	副看護師長会	伊藤 明信
22	看護記録の質的監査結果の向上を目指して ～看護記録の充実のために～	看護記録委員会	山口理恵子 塚本 直子
23	病棟指導者から院内教育へのステップ ～自己教育力を育むための取り組み～	現任教育委員会	中村 露子
24	患者誤認防止 —確認行動の習慣化に向けた取り組み—	医療安全リンクナース会 確認行動グループ	柴田 浩司
25	環境不十分による看護師要因の転倒転落を防ぐ	医療安全リンクナース会 転倒転落グループ	佐々木友香
26	退院支援カンファレンスと退院前・後訪問に注目した取り組み	地域連携リンクナース会	小林 美保
27	NSTリンクナース会 年間活動報告	NSTリンクナース会	尾中 昭之
28	手指衛生の正しい5つのタイミングの知識と技術を感染管理リンクナースが修得するための取り組みについて	感染管理リンクナース会	上田 里
29	緩和ケアの質向上にむけた緩和ケアリンクナース会の取り組み —緩和ケアの質評価（IPOS）の導入—	緩和ケアリンクナース会	武田 ヒサ
30	認知症せん妄ケアリンクナース会活動報告	認知症せん妄ケアリンクナース会	落合 恵
31	令和4年度 褥瘡対策リンクナース会活動報告	褥瘡対策リンクナース会	田中 舞衣
32	第2回うずらのカップ開催報告	専門・認定看護師連絡会	落合 恵
33	令和4年度 専門看護師・認定看護師連絡会活動報告	専門看護師・認定看護師連絡会	宇治本 彩
34	R4 看護補助者会の取り組みについて	看護補助者会	西詰 孝敏 久保 里香
35	急性期病院に勤務する看護職員が感じる やりがいに対する実態調査	医療安全管理室	中野 達也
36	がん看護研修の開催報告 ～ハイブリッド形式での開催における成果と課題～	がん領域専門・認定看護師	荒木由香里
37	特定行為研修指定研修機関指定取得からはじめる 看護の専門性とタスク・シフト	看護部	榎本 里香 宮地由紀子 福井久美子
38	患者と看護師の安全、安心のためのタスク・シフト/シェア ～lvナース院内認定制度の再構築によるタスク・シフト～	看護部	中村 露子 吉田 活子 福井久美子
39	患者と看護師の安全、安心のためのタスク・シフト/シェア ～看護補助者へのタスク・シフティング～	看護部	宮地由紀子 福井久美子

2) 院外研究発表 (令和4年度)

発表年月日	発表学会
演題名 等 / 発表者名 (研究代表者)	
2022.08.27	日本医療マネジメント第19回京滋支部学術集会
「タスクシフトをふまえた安全なIVナース認定制度の再構築」 吉田 活子	
2023.09.03	第64回 看護学会
「救命センターでのデスクンファレス導入による悲嘆への影響」 門口亜沙美	
2023.09.03	第64回 看護学会
「認知症・せん妄患者への複合的な非薬物アプローチの有効性～患者の行動変容につながる介入の検討～」 藤原 麻衣	
2023.10.07	第76回 国立病院総合医学会
「術前検査で初めて2型糖尿病を指摘され入院による血糖コントロールが必要となった患者の治療に対する心理」 三田 基世	
2023.10.07	第76回 国立病院総合医学会
「外来におけるがん患者・家族への看護介入～外来診療科看護師とがん領域専門・認定看護師との連携～」 荒木由香里	
2023.12.10	第20回 国立病院看護研究学会
「急性期病院に勤務する看護職員が感じるやりがいに対する実態調査」 中野 達也	
2023.10.21	第26回 日本心不全学会
「慢性心不全患者へのアドバイス・ケア・プランニングに対する循環器病棟看護師の認識」 櫻田 敦子	

3) 著述発表 (雑誌投稿・執筆依頼) (令和4年度)

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社 著者名 (部署)
--

会誌

急性期医療現場の高齢者や認知症患者への看護
ホスピス研究会会誌, 看護部長室
落合 恵

看護部講師派遣

No.	養成所名	領域・科目	任期	講師
1	京都府医師会 看護専門学校	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の 促進治療学（救急療法）	令和4年4月1日～	久保田大樹（救命ICU） 玉木 舞（2-4） 中野 達也（救命HCU）
		治療学（救急医療）	令和4年11月21日	久保田大樹（救命ICU）
			令和4年11月29日	久保田大樹（救命ICU）
			令和4年12月12日	久保田大樹（救命ICU）
2	京都医療センター 附属看護助産学校	助産学科 院内講師一覧	令和4年度	田中有季子（2-3） 中島 佳奈（2-3） 岡庭 暁子（NICU） 八木美由紀 （小田 和代） 石上 朋子
3	京都医療センター 附属看護助産学校	【統合分野】看護の統合と実践Ⅱ	第1・2学期	福井久美子（看護部長） 渡邊裕美子（副看護部長）
		【統合分野】看護の統合と実践Ⅰ	第1学期	吉田 活子（看護部長室） 宮川 英和（看護部長室）
		【専門分野Ⅱ】 成人看護援助技術Ⅳ（緩和ケア・終末期の 看護）	第1学期	坂井みさき（看護部長室） 山口 牧子（外来診） 荒木由香里（外来診） 武田 ヒサ
		【統合分野】看護の統合と実践Ⅲ	第1・2学期	久保田大樹（救命ICU） 佐々木友香（救命HCU）
		【専門基礎分野】病態生理治療論Ⅸ	第2学期	田中 雅子（外来治）
		【専門分野Ⅰ】看護学概論Ⅱ	第1・2学期	田中 雅子（外来治） 川端 朋加（外来治） 村田 佳奈（看護部長室）
		【専門分野】基礎看護技術Ⅴ	第2学期	村田 佳奈（看護部長室）
		【専門分野Ⅱ】老年看護学演習Ⅱ	第2学期	落合 恵（看護部長室）
		【専門分野Ⅱ】成人看護援助技術Ⅲ（周手 術期の看護）	第1学期	中村 露子（看護部長室）
		【専門分野Ⅱ】成人看護援助技術Ⅱ（慢性 期の看護）	第1学期	足達 美希（2-4） 小林 美保（地域連携室）
		【統合分野】在宅看護論演習Ⅱ	第1学期	宮岡まさみ（地域連携室）
		【専門分野Ⅱ】成人看護演習	第1・2学期	山口理恵子（2-4） 宇治本 彩（緩和） 大江 智子（2-4）
【専門分野Ⅱ】母性看護援助技術	第1・2学期	與那覇 由（2-3） 岡庭 暁子（MICU）		

看護部学生実習受入

学校名	学年・人数	期間	実習場所	
京都医療センター 附属京都看護助産学校 看護学科	1年生 85名	令和4年11月1日～11月16日 令和4年1月26日～2月10日	基礎看護学Ⅰ (1-4、1-5、1-6、1-7、2-4、2-5、2-6、2-7)	
	2年生 85名	令和4年6月13日～6月29日	基礎看護学Ⅱ (1-4、1-5、1-6、1-7、2-4、2-5、2-6、2-7)	
		令和4年12月7日～12月22日 令和4年1月6日～1月25日 令和4年2月13日～3月1日	領域別 老年Ⅰ慢性期 (2-4、1-6、1-7) 成人Ⅰ急性期 (1-4、1-5、2-5、2-6、2-7)	
	3年生 82名	令和4年5月9日～5月24日 令和4年5月26日～6月10日 令和4年7月6日～7月26日 令和4年9月26日～10月12日 令和4年10月13日～10月31日	領域別 成人Ⅱ慢性期 (2-4、2-7)	
		令和4年5月9日～5月24日 令和4年5月26日～6月10日 令和4年7月6日～7月26日 令和4年9月5日～9月22日 令和4年9月26日～10月12日	領域別 成人Ⅲ周手術期 (1-4、1-5、2-5、2-6、2-7)	
		令和4年5月9日～5月24日 令和4年5月26日～6月10日 令和4年7月6日～7月26日 令和4年9月5日～9月22日 令和4年9月26日～10月12日 令和4年10月13日～10月31日	領域別 老年Ⅱ終末期 (1-6、1-7)	
		令和4年5月9日～5月24日 令和4年5月26日～6月10日 令和4年7月6日～7月26日 令和4年9月5日～9月22日 令和4年9月26日～10月12日 令和4年10月13日～10月31日 令和4年11月18日～12月6日	領域別 母性看護学 (2-3、NICU)	
		令和4年7月6日～10月31日 (うち16日)	領域別 精神看護学 (放射線療法室、化学療法室、透析室、血管造影室)	
		令和4年10月13日～10月31日 令和4年11月18日～12月6日	総合 (1-4、1-5、1-6、1-7、2-4、2-5、2-6、2-7)	
		京都医療センター 附属京都看護助産学校 助産学科	18名	令和4年7月4日～12月23日
舞鶴医療センター 附属看護学校		38名	令和4年6月13日～6月24日 令和4年7月25日～8月5日 令和4年8月15日～8月26日	母性看護学 (2-3)
京都看護大学 看護学部看護学科	13名	令和4年5月9日～5月13日	課題探求 (急性期・周術期看護論領域) (救命ICU・HCU、集中治療室、1-5、1-4)	
	30名	令和4年8月1日～8月5日	総合 (1-4、1-5、1-6、1-7、2-4、2-5、2-7)	
	23名	令和4年11月7日～11月18日	急性期・周産期 (1-4、1-5、1-7、2-5、2-6、ICU、手術室)	
	62名	令和4年10月3日～ 令和5年1月27日 (11クール)	緩和ケア論 緩和ケア病棟 外来 (治療)：放射線治療室、化学療法室	
同志社女子大学 看護学部	12名	令和4年7月5日～7月22日	看護実践総合 (1-5、2-6、2-7)	

｜新型コロナウイルス感染症 看護師派遣｜

1) 広域派遣

		派遣先	期 間	延べ日数
山火 大樹	看護師	東京病院	12月23日～1月31日	40

2) 京都府入院待機ステーション派遣

期 間	派遣先	延べ人数	延べ日数
2022年8月4日～9月30日	京都東山サナトリウムA棟	30	30 (日勤8回 夜勤10回)
2022年12月6日～2月9日	京都東山サナトリウムA棟	27	27 (日勤7回 夜勤6回)

京都看護助産学校



副学校長
前中 由美
(2023年3月31日まで)



副学校長
上南 雪野
(2023年4月1日から)



看護学科 教育主事
森重 真弓
(2023年3月31日まで)



看護学科 教育主事
岡島 優子



看護学科 教育主事
井下 美恵
(2023年4月1日から)



助産学科 教育主事
佐藤 美春
(2023年3月31日まで)



助産学科 教育主事
伊藤 美栄
(2023年4月1日から)

| 教育理念 |

感じる心、考える力、主体的な行動

人間愛を基盤とし、生命の尊厳と人権の尊重ができる感性豊かな人間性を育てることに主眼をおき、看護専門職として必要な基礎的知識、技術、態度を習得し、保健医療福祉の変化に対応できる人材を育成する。

| 教育目的 |

看護師若しくは助産師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

| 教育目標 |

－看護学科－

1. 生命の尊厳と個々の権利を擁護し、倫理に基づいて行動できる基礎的能力を養う。
2. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された存在（生活者）として幅広く理解できる能力を養う。

3. 看護の対象との人間関係を形成するためのコミュニケーション能力を養う。
4. 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。
5. 健康の保持、増進、疾病の予防および健康の回復に関わる看護やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
6. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割および他職種の役割を理解し、多職種との連携・協働する基礎的能力を養う。
7. 看護専門職としての責務を自覚し、主体的に看護を探求し続ける能力を養う。

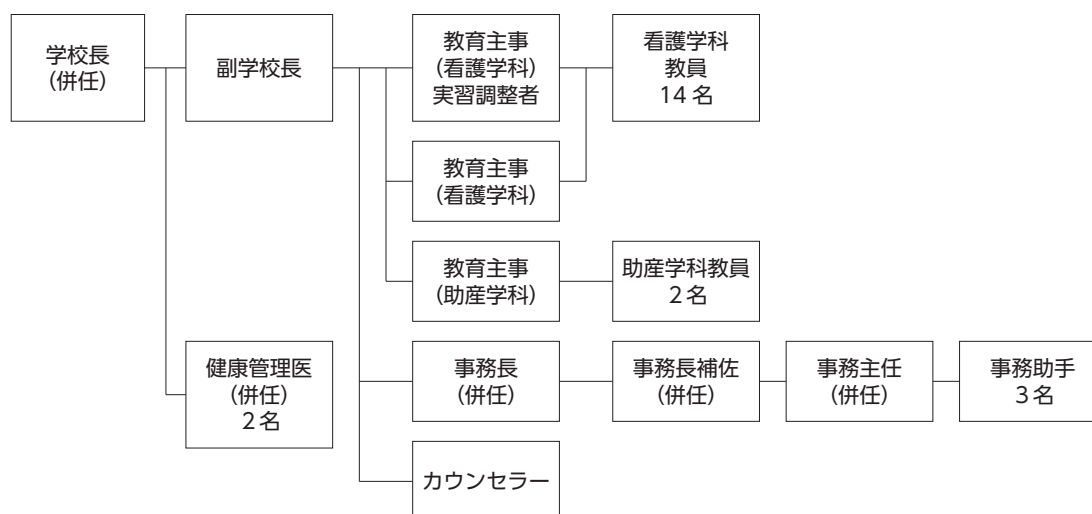
－助産学科－

1. 助産師の役割と責任を自覚し、女性と子ども及び家族の尊厳と権利を尊重する倫理及び専門職業人として自律できる能力を養う。
2. 妊産褥婦と胎児・新生児・乳幼児およびその家族の健康水準を診断し、妊娠・分娩・産褥がより健康・安全に経過し、育児を主体的に行えるよう、根拠に基づき継続的に支援する能力を養う。
3. 性と生殖をめぐる健康に関する課題に焦点をあて、継続的に支援する能力を養う。
4. 安心して子供を産み育てるために、多職種と連携・協働しながら、個人及び社会にとって必要な地域の社会資源の活用や調整を行う能力を養う。
5. 多様化する社会のニーズと、高度化する医療に対応できるよう、常に自己研鑽し続ける姿勢を養う。

| 課程・定員 |

課 程	学 科	入学定員	総 定 員	在籍者数 (令和 5 年 5 月 1 日)			
				1 年 生	2 年 生	3 年 生	合 計
看護専門課程	看護学科 (3年課程)	80人	240人	80人	84人	85人	249人
看護専門課程	助産学科 (1年課程)	18人	18人	18人	—	—	18人
計		98人	258人	98人	84人	85人	267人

| 本校の組織 (令和 5 年度) |



令和4年度 部門目標

部門目標	重点目標	主な取り組み
1 地域社会のニーズ・学生のニーズに応じた質の高い看護教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの周知、教育目標達成に向けて講師・実習施設との調整 ・学生の臨床判断能力・看護実践能力の向上を目指した教育の充実 ・現行カリキュラムと新カリキュラムでの学生の科目到達度の評価 ・教員の教育実践能力の向上 ・実習指導の充実に向けた臨床との連携強化 	<p>【看護学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度改正カリキュラムの承認が得られ周知及び運用開始。講師会議及び看護師長対象学習会開催 ・実習指導者会議を11回/年実施し、効果的な指導方法を検討し指導案の作成 ・実習指導者講習未受講者を対象に7月、9月に実習指導者研修会を対面及びリモートで実施 <p>【助産学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護技術のピアチェックを導入 ・実習指導者会議を5回/年開催し、意見交換や専任実習指導教員との連携を図りが学生の実習指導に反映 ・国立病院機構病院附属の助産学科3校の教材共有等合同教育の充実（研究授業の実施）
2 将来看護師・助産師として国立病院機構及び地域に貢献できる優秀な人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な学生募集活動 ・高い国家試験合格率の維持に向けた学習支援（全国合格率以上） ・国立病院機構および京都府内への就職者の確保（70%以上） ・学校の運営方針について、関係者との情報交換 	<p>【看護学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問74校（前年度68校） ・高校への願書の郵送355校（昨年358校） ・進路説明会参加17回、参加者110名（昨年10回、参加者71名） ・ホームページのリニューアル ・看護学科オープンキャンパス：7回実施（来校型とオンライン型を同時開催）参加者193名（3月13日現在）昨年137名/年間 ・高校教諭対象のオープンキャンパスを再開（参加校11校、参加者13名）平日夜間に追加開催 ・公開講座：テーマ「自然災害への備え～災害時でも健康の維持ができるようにしよう～」2回実施 <p>【助産学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス開催（3回）オンライン型にて開催 ・公開講座の開催（2回） 中高生への性教育「赤ちゃん講座」：18人 対面で実施 出産前教室「ファミリー教室」7人対面で実施
3 学生が主体的に学ぶ教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術練習やグループワーク活動の支援、学生の学習の保障 ・学生生活のサポート体制の充実（学習支援、個別面談、カウンセリング等） ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術習得に向け学習時間と指導教員の確保 ・奨学金による支援：大学等における修学新制度の運用（入学金減免、授業料減免）、各種奨学金による支援（日本学生支援機構、NHO施設、京都府看護師等養成資金） ・物価高に対する経済対策支援事業を活用した資金の交付 ・遠隔授業と対面授業を効果的に活用 ・臨地実習の一部を学内実習へ変更 ・学校における感染予防の周知徹底 ・学校職員や学生にコロナウイルス抗原キットを配布
4 職員が働きやすい職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の業務調整・相互協力による“チーム学校”としての組織の活性化 ・勤務時間管理の徹底と自己管理（セルフマネージメント） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「業務改善チャレンジシート」による事務業務の整理とタスクシフト ・変則勤務の割り当てや業務計画表を用いた調整 ・ICTを活用した速やかな学生への伝達、課題管理により、超過勤務時間数の減少 ・研究日の集中取得

| 応募・入学状況 |

看護学科

年度 (回生)	試 験	応募者数	受験者数	合格者数	補欠 合格者数	合格者 からの 入学者数	補欠者 からの 入学者数	入学者数	退学者数	原級 留置者 (在籍者)	3年以上 在籍した 卒業生数	卒業生数 (3年)
2019年 (第18回生)	推薦(学校)	19	19	19	0	19	0	19				19
	推薦(公募)	17	17	15	0	15	0	15				15
	社会人	18 (2)	18 (2)	12 (1)	0	12 (1)	0	12 (1)	1			11 (1)
	一 般	80 (7)	76 (7)	58 (2)	3 (2)	39 (2)	0	39 (1)	2 (1)			37 (1)
	合 計	134	130	104	3	85	0	85 (2)	3 (1)	0	0	82 (2)
2020年 (第19回生)	推薦(学校)	11	11	11	0	11	0	11		1		
	推薦(公募)	15 (1)	15 (1)	13 (1)	0	13 (1)	0	13 (1)				
	社会人	16 (2)	16 (2)	12 (1)	0	10 (1)	0	10 (1)				
	一 般	66 (3)	61 (3)	53 (2)	0	26 (1)	2 (1)	28 (2)	2			
	一 般 (2回目)	14 (2)	13 (2)	13 (2)	0	13 (2)	0	13 (2)	1			
	合 計	122 (8)	116 (8)	102 (6)	0	73 (5)	2 (1)	75 (6)	3	1	0	
2021年 (第20回生)	推薦(学校)	41 (2)	41 (2)	41 (2)	0	41 (2)	0	41 (2)	1			
	推薦(公募)	27 (3)	27 (3)	21 (1)	0	21 (1)	0	21 (1)				
	社会人	11	10	6	0	6	0	6		1		
	一 般	55 (3)	51 (3)	32 (1)	5	19 (1)	0	19 (1)	1			
	一 般 (追試験)		2	1	0	0	0	0				
	合 計	134 (8)	131 (8)	101 (4)	5	87 (4)	0	87 (4)	2	1	0	
2022年 (第21回生)	推薦(学校)	30 (2)	30 (2)	29 (1)	0	29 (1)	0	29 (1)				
	推薦(公募)	27 (1)	27 (1)	23 (1)	0	23 (1)	0	23 (1)				
	社会人	13 (1)	13 (1)	6 (0)	0	5 (0)	0	5 (0)				
	一 般	45 (5)	41 (5)	39 (3)	0	29 (3)	0	29 (3)				
	合 計	115 (9)	111 (9)	97 (5)	0	86 (5)	0	86 (5)	0	0	0	

年度 (回生)	試 験	応募者数	受験者数	合格者数	補欠 合格者数	合格者 からの 入学者数	補欠者 からの 入学者数	入学者数	退学者数	原級 留置者 (在籍者)	3年以上 在籍した 卒業生数	卒業生数 (3年)
2023年 (第22回生)	推薦(学校)	26 (2)	26 (2)	26 (2)	0	26 (2)	0	26 (2)				
	推薦(公募)	21 (0)	21 (0)	19 (0)	0	19 (0)	0	19 (0)				
	社会人	8 (1)	8 (1)	6 (1)	0	6 (1)	0	6 (1)				
	一 般	47 (1)	43 (1)	41 (1)	0	26 (1)	0 (1)	26 (1)				
	一 般 (第2回)	5 (1)	5 (1)	1 (1)	0	1 (1)	0	1 (1)				
	合 計	107 (5)	103 (5)	93 (5)	0	78 (5)	0 ()	78 (5)	0	0	0	

() 男性再掲

助産学科

年度 (回生)	試 験	応募者数	受験者数	合格者数	補欠 合格者数	合格者 からの 入学者数	補欠者 からの 入学者数	入学者数	退学者数	卒業生数
2019年度 (第51回生)	特別選抜(学校)	14	14	9	0	9	0	9	0	9
	特別選抜(施設)	2	2	1	0	1	0	1	0	1
	一 般	45	35	8	3	8	0	8	0	8
	合 計	61	51	18	3	18	0	18	0	18
2020年 (第52回生)	特別選抜(学校)	16	16	12	0	12		12	0	12
	特別選抜(施設)	0	0	0	0	0		0	0	0
	一 般	40	35	6	2	4	2	6	0	6
	合 計	56	51	18	2	16	2	18	0	18
2021年 (第53回生)	特別選抜(学校)	12	12	10	0	10		10	0	10
	特別選抜(施設)	0	0	0	0	0		0	0	0
	一 般	46	38	8	3	7	1	8	0	8
	合 計	58	50	18	3	17	1	18	0	18
2022年 (第54回生)	特別選抜(学校)	18	18	12	0	12		12		12
	特別選抜(施設)	3	3	1	0	1		1		1
	一 般	37	28	5	3	5	0	5		5
	合 計	58	49	18	3	18	0	18	0	18
2023年度 (第55回生)	特別選抜(学校)	15	15	13	0	13		13		
	特別選抜(施設)	2	2	1	0	1		1		
	一 般	28	24	4	4	1	3	4		
	合 計	45	41	18	4	15	2	18		

| 卒業生の進路 |

看護学科

2023年5月1日現在

年度	回生	卒業生数	就職							進学				未就職
			国立病院機構		NC	官公立	法人	その他	看護職以外	保健師	助産師	養護教諭	大学	
			自施設	他施設										
2018年度	第15回生	73	22	29	7	4	3	0	0	0	4	0	1	3
2019年度	第16回生	88	30	25	3	9	8	0	0	0	8	0	1	4
2020年度	第17回生	74	36	26	2	3	0	0	0	0	4	0	2	1
2021年度	第18回生	83	39	32	1	1	2	0	0	2	5	0	0	1
2022年度	第19回生	71	32	23	1	7	0	0	0	1	5	0	0	2

年度	府内 府外	卒業生数	府内 就職者数	(再掲)		府外 就職者数	進学者	その他
				北部就職者	実習就職者			
2018年度	府内出身者	51	35	1	31	12	3	1
	府外出身者	22	7	0	7	11	2	2
2019年度	府内出身者	53	34	0	32	12	4	3
	府外出身者	35	12	0	12	17	5	1
2020年度	府内出身者	47	35	0	34	10	2	0
	府外出身者	27	15	1	14	7	4	1
2021年度	府内出身者	56	39	0	38	12	5	1
	府外出身者	27	15	0	15	9	2	0
2022年度	府内出身者	46	35	0	34	7	3	1
	府外出身者	25	7	0	16	14	3	1

助産学科

年度	回生	卒業生数	就職							進学	未就職
			国立病院機構		NC	官公立	法人	その他	看護職以外		
			自施設	他施設							
2018年度	第50回生	22	2	7	1	7	5	0	0	0	0
2019年度	第51回生	18	4	5	0	7	2	0	0	0	0
2020年度	第52回生	18	3	11	1	3	0	0	0	0	0
2021年度	第53回生	18	2	9	1	2	3	0	0	0	0
2022年度	第54回生	18	3	10	1	3	1	0	0	0	0

年度	府内 府外	卒業生数	府内 就職者数		(再掲)				府外 就職者数		その他
			助産師	看護師	北部就職者		実習就職者		助産師	看護師	
					助産師	看護師	助産師	看護師			
2018年度	府内出身者	7	6	0	2	0	3	0	1	0	
	府外出身者	15	1	0	0	0	0	0	14	0	
2019年度	府内出身者	6	5	0	1	0	3	0	1	0	
	府外出身者	12	3	0	0	0	2	0	9	0	
2020年度	府内出身者	4	2	1	0	0	2	1	1	0	
	府外出身者	14	2	0	0	0	2	0	11	1	

年 度	府内 府外	卒業生数	府内 就職者数		(再掲)				府外 就職者数		その他
			助産師	看護師	北部就職者		実習就職者		助産師	看護師	
					助産師	看護師	助産師	看護師			
2021年度	府内出身者	2	2	0	0	0	2	0	0	0	
	府外出身者	16	2	0	0	0	1	0	14	0	
2022年度	府内出身者	7	6	0	1	0	4	0	1	0	
	府外出身者	11	0	0	0	0	0	0	11	0	

| 国家試験合格状況 |

看護学科

	全国	(%)	機構附属 (%)		
			全国	近畿	本校
108回 (H31.3)	全体 (新卒)	89.3 (94.7)	97.3 (98.1)	99.0	95.9
109回 (R 2.3)	全体 (新卒)	89.2 (94.7)	97.3 (98.2)	98.5	96.6
110回 (R 3.3)	全体 (新卒)	89.2 (94.7)	90.4 (95.4)	98.3	100
111回 (R 4.3)	全体 (新卒)	91.3 (96.5)	98.7 (98.9)	99.4	100
112回 (R 5.3)	全体 (新卒)	90.8 (95.5)	97.9 (98.1)	98.7	97.2

助産学科

	全国	(%)	機構附属 (%)	
			全国	本校
102回 (H31.3)	全体 (新卒)	99.6 (99.9)	100	100
103回 (R 2.3)	全体 (新卒)	99.4 (99.5)	100	100
104回 (R 3.3)	全体 (新卒)	99.6 (99.7)	100	100
105回 (R 4.3)	全体 (新卒)	99.4 (99.7)	100	100
106回 (R 5.3)	全体 (新卒)	95.6 (95.9)	100	100

| 入学試験実施状況 |

看護学科

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入試	令和5年1月19日 (木)	令和5年1月21日 (土)	令和5年1月26日 (木)
社会人入試	令和4年11月10日 (木)	令和4年11月12日 (土)	令和4年11月17日 (木)
公募推薦入試 推薦入試	令和4年11月10日 (木)		令和4年11月17日 (木)

助産学科

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入試	令和5年1月19日 (木)	令和5年1月21日 (土)	令和5年1月26日 (木)
特別選抜入試	令和4年11月10日 (木)		令和4年11月17日 (木)

| 学生募集活動 |

<ガイダンス>

月	日	曜		内容	場所	実績数	担当者
令和4 4	15	金	①	さんぼう主催 京都府立西乙訓高等学校	Web (ZOOM)	3人	榮
	27	水	②	TAP主催 京都府立北稜高等学校	北稜高等学校	2人	大上
5	6	金	③	TAP主催 京都府立京都八幡高等学校 (北キャンパス)	Web (ZOOM)	3人	森重
	11	水	④	TAP主催 京都文教高等学校	Web (ZOOM)	1人	森重
	11	木	⑤	ケーホウ主催 京都府立亀岡高等学校	Web (ZOOM)	14人	森重
	11	水	⑥	ケーホウ主催 京都府立向陽高等学校	Web (ZOOM)	8人	榮
	24	火	⑦	ケーホウ主催 京都府立東陵高等学校	東陵高等学校	9人	大上
	31	火	⑧	ケーホウ主催 京都府立乙訓高等学校	Web (ZOOM)	4人	森重
6	9	木	⑨	さんぼう主催 平安女学院高等学校	平安女学院高等学校	5人	森重
	17	金	⑩	ケーホウ主催 京都府立京都八幡高等学校 (南キャンパス)	Web (ZOOM)	2人	森重
	21	火	⑪	京都府立西城陽高等学校 出張授業「総合的な探求の時間」	西城陽高校	36人	森重
	23	木	⑫	ケーホウ主催 京都府立北嵯峨高等学校	Web (ZOOM)	5人	寺田美
7	1	金	⑬	京都府看護学校協議会主催 (高校教員対象) 高等学校と看護系教育機関との進路研修会	Web (ZOOM)	多数	前中・森重
10	6	木	⑭	京都精華学園高等学校 学校見学	来校	13人	榮・寺田博
令和5 2	15	水	⑮	TAP主催 私立比叡山高等学校	比叡山高等学校	4人	森重
	17	金	⑯	ジー・パートナーズ主催 京都府立東宇治高等学校	東宇治高等学校	4人	太田
	17	金	⑰	ケーホウ主催 京都府立東陵高等学校	東陵高等学校	8人	岡島
3	5	日	⑱	看護職就職・進学合同フェア2023	京都市産業会館 みやこめッセ	14人	岡島・榮
合計						135人	

<高校訪問>

	都道府県別訪問校 (新規再掲)	訪問校数 (指定校再掲)	内容
6月	京都府 23校 (0校) 大阪府 3校 (0校) 滋賀県 0校 (0校) 福井県 0校 (0校)	26校 (19校)	学校説明会 入学試験の説明 看護系進学予定者・主な進路の確認 情報交換
7月	京都府 21校 (0校) 奈良県 1校 (0校) 兵庫県 2校 (0校) 大阪府 2校 (0校) 滋賀県 15校 (0校) 福井県 1校 (0校)	42校 (22校)	学校説明会 入学試験の説明 看護系進学予定者・主な進路の確認 情報交換
延べ訪問高校数 68校 (新規0校)			

<オープンキャンパス>

(1) 高校教員対象

日程	参加人数	内、Web参加数	内容
令和4年5月26日	11名	2名	看護学科 高校教員対象

(2) 応募者対象

学 科	日 程	参加者数	WEB参加者数 (再掲)	内 容
看護学科	令和4年6月11日	28名	1名	入学試験の説明 模擬授業体験 沐浴、採血 看護学生との交流 ※サテライト開催 (18:30~19:30)
	令和4年7月16日	47名	47名	
	令和4年8月21日	49名	49名	
	令和4年9月11日	25名	25名	
	令和4年10月1日	31名	4名	
	令和4年12月15日*	7名 (付添4名)	0名	
	令和5年3月25日	35名 (付添21名)	0名	
計	222名	126名		
助産学科	令和4年7月16日	59名	59名	学校説明 学校生活の紹介 入学試験の説明 助産学生による分娩介助 シミュレーション 助産学生との交流
	令和4年8月21日	66名	66名	
	令和4年9月11日	30名	30名	
	計	155名	155名	

| 研究活動 |

1) 研究活動

<学会発表>

発表年月日	発表学会
2022.09.03	近畿地区国立病院第64回看護学会
	「基礎看護技術教育における看護学生のピア評価の実態」 ベストポスター賞 大上 寿子、榮 圭子、晝間 梓、花村 一葉
2022.09.03	近畿地区国立病院第64回看護学会
	「コロナ禍における助産学生の入学時の看護基礎技術到達状況と支援」 並崎 直美、柚木 麻央
2022.09.03	近畿地区国立病院第64回看護学会
	「地域・病院・学校のつながりを目指した新たな取り組み～コロナ禍でも守りたい、人と人のつながり～」 柚木 麻央、恵美 徹生、岡島 優子
2022.10.07	第76回国立病院総合医学会
	「シミュレーターを用いた実習前研修における学生の観察力・アセスメント力向上に向けた取り組み」 医療の広場投稿 太田 恵子、山本 緑、花村 一葉、大上 寿子
2022.10.07	第76回国立病院総合医学会
	「ループリックを用いた分娩介助技術評価表の活用と課題」 柚木 麻央、並崎 直美
2022.10.07	第76回国立病院総合医学会
	「臨床判断能力を高めるためのシミュレーション演習による学びの実態」 中村なぎさ、太田 恵子、恵美 徹生

<京都医療センター成果発表会>

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2023.01.27	ポスター発表
「基礎看護学実習Ⅰにおける学生の実態」 中村なぎさ、寺田 博子、晝間 梓、上田 彩子、岡島 優子、前中 由美	
2023.02.04	口述発表
「助産学生が企画する健康教育講座への看護学生の参画による相互学習の効果」 柚木 麻央、榮 圭子、寺田 美鳥、並崎 直美、佐藤 美春、前中 由美	

<副学校長・教育主事協議会 グループ活動>

グループ	メンバー	活動テーマ	活動成果
1グループ	佐藤 美春 岡島 優子 前中 由美 他	1・2年目看護教員研修	第1回研修：令和4年7月26日、 第2回12月6日授業研究の実施
2グループ	森重 真弓 他	中堅看護教員研修	

<教員研修会 研究グループ活動>

グループ	メンバー	活動テーマ	活動成果
1グループ	中村なぎさ 寺田 博子 晝間 梓 上田 彩子	基礎看護学実習Ⅰにおける学生の学びの実態	京都医療センター成果発表会にて発表
2グループ	太田 恵子 山本 緑 花村 一葉 大上 寿子	基礎看護学実習前研修における学生の観察力・ アセスメント力向上に向けた取り組み	第76回国立病院総合医学会にて発表
3グループ	寺田 美鳥 榮 圭子 遠藤 真理 恵美 徹生	臨床に即した卒業前研修案の作成および実施(案)	
4グループ	柚木 麻央 榮 圭子 寺田 美鳥 並崎 直美	看護学生の助産学科健康教育実習への参画による 学びと相互効果について	京都医療センター成果発表会にて口述 発表予定(2/4)

<研究授業>

月 日	授業者氏名	授業名	内 容	参加教員等
令和4年5月25日	太田 恵子	特別教育活動 (看護技術) 基礎看護学実習Ⅱ 実習前研修	腰椎圧迫骨折患者の排泄の援助	榮、遠藤、寺田美、 恵美、大上、花村、 山本、中村、寺田博、 晝間、上田
令和4年7月21日	遠藤 真理	小児看護援助技術	検査介助演習 (骨髄穿刺・腰椎穿刺・採血・採尿)	山本、花村、恵美、 上田
令和4年9月1日	榮 圭子	看護学概論Ⅱ	意識障害のある患者の看護	恵美、山本、寺田博
令和4年9月1日	寺田 美鳥	成人看護援助技術Ⅲ	術後のアセスメント	恵美、寺田博
令和4年9月14日	寺田 博子	基礎看護技術Ⅲ	洗髪	恵美、大上、上田
令和4年10月19日	山本 緑	老年看護学演習Ⅱ	日常生活動作能力の再獲得、 残存機能を引き出す看護	中村、遠藤
令和4年10月20日	恵美 徹生	成人看護学演習	術後の精神状態のアセスメント	寺田美、太田、山本、 花村、上田、岩本(南 京都病院副看護師長)

月 日	授業者氏名	授業名	内 容	参加教員等
令和4年10月24日	中村なぎさ	基礎看護学実習Ⅰ 実習前研修	多職種の役割について	榮、寺田美、太田、 寺田博、晝間、辻本 (大阪)、松本(姫路)
令和4年11月28日	花村 一葉	領域別実習前研修	事例患者に適した日常生活の援助	榮、太田
令和5年1月12日	上田 彩子	老年看護援助論Ⅰ	おむつ交換、グリセリン浣腸の実際	遠藤、晝間
令和5年1月12日	大上 寿子	基礎看護技術Ⅶ	採血の一連	寺田美、晝間
令和5年1月12日	晝間 梓	情報科学理論	電子カルテの取り扱いについて	中村、遠藤
令和5年1月12日	柚木 麻央	臨床看護推論	妊婦健康診査シミュレーション	佐藤、並崎、違輪
令和5年1月12日	柚木 麻央	臨床看護推論	妊婦健診OSCE	佐藤、並崎、違輪
令和5年1月12日	並崎 直美	臨床看護推論	分娩期臨床推論ロールプレイ	佐藤、違輪

2) 研修

<近畿グループ主催 研修>

月 日	研修名	場 所	参加者
令和4年12月19日	中堅看護教員研修	オンライン	榮、中村、太田、晝間
令和4年12月27日	初期看護教員研修	オンライン	上田、恵美、花村
令和4年7月13日	新任中間監督者研修	オンライン	上田
令和4年11月15日	新任中間監督者研修	オンライン	上田

<副学校長・教育主事協議会>

(1) 中堅看護教員研修

月 日	研修名	場 所	参加者
令和4年9月6日	令和4年度 副学校長・教育主事協議会 中堅看護教員研修	オンライン	寺田博・大上
令和4年10月31日	令和5年度 副学校長・教育主事協議会 中堅看護教員研修	オンライン	寺田博・大上
令和5年2月20日	令和5年度 副学校長・教育主事協議会 中堅看護教員研修	オンライン	寺田博・大上

(2) 1・2年目教員研修

月 日	研修名	場 所	参加者
令和4年7月26日	令和4年度 副学校長・教育主事協議会 1・2年目教員研修	京都医療センター附属 京都看護助産学校	上田、恵美、花村
令和4年12月6日	令和4年度 副学校長・教育主事協議会 1・2年目教員研修	大阪医療センター附属 看護学校	上田、恵美、花村

<学校>

(1) 実務研修

	氏 名	ねらい	場 所	月 日	日数
1	寺田 博子	訪問看護ステーションにおける看護師長の役割を理解し、管理者としての能力を高める	宇多野病院 訪問看護ステーション	12月23日	1
2	山本 緑	訪問看護ステーションにおける看護師長の役割を理解し、管理者としての能力を高める	宇多野病院 訪問看護ステーション	12月27日	1
3	大上 寿子	訪問看護ステーションにおける看護師長の役割を理解し、管理者としての能力を高める	宇多野病院 訪問看護ステーション	12月28日	1

(2) 研修会・学会参加

会期	学会名	場所	参加者
令和4年9月3日	第64回近畿看護学会	大阪	教員全員
令和4年10月7日 8日	第76回国立病院総合医学会	熊本	中村、太田 書間、 並崎

3) 社会への貢献

<公開講座>

	日程	内容	Web参加数
1	令和4年7月16日	自然災害への備え～災害時でも健康維持ができるように備えよう～	6名
2	令和4年8月21日	自然災害への備え～災害時でも健康維持ができるように備えよう～	14名
2	令和4年10月1日	動画視聴 自然災害への備え～災害時でも健康維持ができるように備えよう～	5名 (会場)

<外部講師>

氏名	研修会等主催者	研修会名称	講義等テーマ	日数/時間	備考 (オンライン等)
前中 由美	独立行政法人 国立病院機構 近畿グループ	令和4年度 保健師助産師看護師 実習指導者講習会	実習指導方法論、実習指 導の方法と実習指導者の 役割	1日/3時間	オンライン
森重 真弓	独立行政法人 国立病院機構 近畿グループ	令和4年度 保健師助産師看護師 実習指導者講習会	統合科目、精神看護学	1日/3時間	オンライン
岡島 優子	独立行政法人 国立病院機構 近畿グループ	令和4年度 保健師助産師看護師 実習指導者講習会	成人・老年看護学	1日/3時間	オンライン
太田 恵子	国立病院機構 南京都病院	レベルⅣコース 「キャリアアンカー」研修	それぞれの道のりとやり がい	90分	対面
中村なぎさ	独立行政法人 国立病院機構 近畿グループ	令和4年度 保健師助産師看護師 実習指導者講習会	実習指導方法演習	5日 (10時間)	オンライン
寺田 美鳥	独立行政法人 国立病院機構 近畿グループ	令和4年度 保健師助産師看護師 実習指導者講習会	実習指導方法演習	5日 (10時間)	オンライン
寺田 博子	公益社団法人 京都府看護協会	令和4年度 実習指導者講習会	実習指導方法演習 【演習Ⅱ(成人看護学)】	5日間	対面

<実習指導者研修>

学校主催 実習指導者研修会

日程	研修内容	担当	参加者
令和4年7月29日 13:30~16:30	<集合及びWEB研修> 1. 看護基礎教育の教育課程 2. 学生理解 3. 実習指導者の役割 4. 実習指導案の意義と指導計画	副学校長・教育主事・教員	近畿グループ病院の 次期実習指導者 64名
令和4年9月29日 13:30~16:30	<集合及びWEB研修> 1. 実習指導方法の実際 2. 評価の基礎知識 3. 実習指導者に求められる資質	副学校長・教育主事・教員	近畿グループ病院の 次期実習指導者 62名

<外部委員>

氏名	委員会/委員名	団体名
佐藤 美春	理事会/理事	京都母性衛生学会
並崎 直美	理事会/会計副委員長	京都母性衛生学会
柚木 麻央	理事会/会計委員	京都母性衛生学会
並崎 直美	選挙管理委員	京都府助産師会

<インターンシップ>

	日程/日数	研修内容	所 属
1	10月17日～10月30日/4日間	講義・演習・実習指導見学、行事（戴帽式）	南京都病院
2	10月24日～10月27日/4日間	講義・演習・実習指導見学	東近江総合医療センター
3	11月14日～11月15日/2日間	講義・演習・実習指導見学	宇多野病院

| 令和4年度 学校評価 結果 (看護学科) |

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施している。評価表は平成27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂した。

国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による学校相互評価を実施し、更なる教育の充実を目指している。

学校自己評価 (看護学科) 総評結果

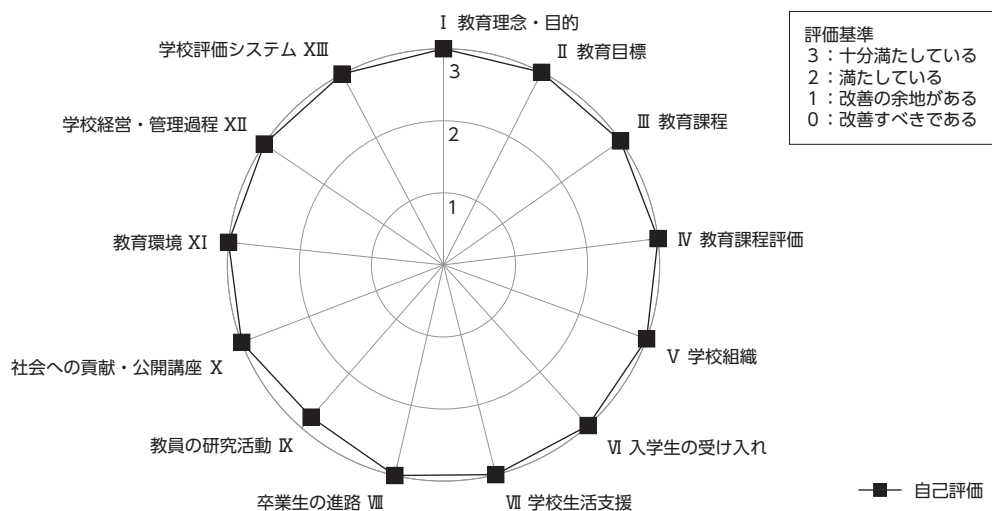
前年度の評価をもとに改善に取り組み、令和4年度の自己点検・自己評価を行った。今年度特に取り組んだ内容は次の3点である。

1. 改正カリキュラムの運用を1学年の学生から開始し、「地域・在宅看護論」及び基礎看護学実習では、地域や多職種との連携について1年次から学修できるようにした。更に今年度は感染予防対策を継続し、対面授業（講義・演習）の時間数を増やした。臨地実習も可能な限り実施できるよう協力を得て、貴重な経験をすることができている。
2. 今年度は指定校推薦の募集枠を増やし、応募者の確保に取り組んでいる。オープンキャンパスは感染拡大状況をみながら来校型とWebで実施した。更に高等学校教諭へのオープンキャンパスも実施し、学生確保対策に取り組んでいる。今年度、夜間のオープンキャンパスを実施し、受験に繋がった。そして入学試験では一般入試の2回目の実施を行い、入学生確保につなげた。
3. 今年度は学会での研究発表を3題実施し、研究活動にも積極的に取り組んでいる。研究日を計画的に確保できるよう調整をしていく。この評価結果を活かし、更に教育が充実できるよう取り組んでいく。

評価項目	評価の視点	項目	R4年度
			自己評価
I 教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	6項目	3.0
II 教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	6項目	3.0
III 教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し計画的に進められているかについて評価します。	26項目	3.0

評価項目	評価の視点	項目	R4年度
			自己評価
IV 教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	6項目	3.0
V 学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	9項目	3.0
VI 入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	5項目	3.0
VII 学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	15項目	3.0
VIII 卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	7項目	3.0
IX 教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	4項目	2.8
X 社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	7項目	3.0
XI 教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	7項目	3.0
XII 学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	7項目	3.0
XIII 学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	5項目	3.0
全体平均			3.0

令和4年度 看護師養成所自己点検・自己評価結果（看護学科）



| 令和4年度 学校評価 結果（助産学科） |

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施しています。評価表は平成27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂しました。

令和4年度は国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による学校相互評価を実施し、更なる教育の充実を目指しています。

学校評価（助産学科）総評結果

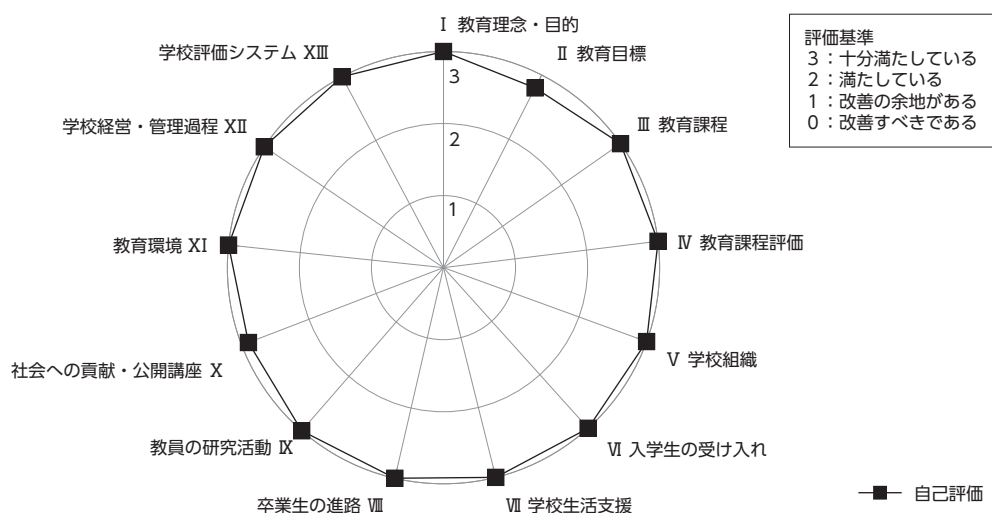
前年度の評価をもとに改善に取り組み、令和4年度の自己点検・自己評価を行った。学校相互評価結果は評価項目について「3. 十分満たしている」と「2. 満たしている」の評価であった。今年度の取り組みは次の4点である。

1. 教育課程：今年度から改正カリキュラムの運用を開始した。強化して取り組んでいる学校独自の臨床推論プログラム、シミュレーション教育、OSCE等を継続的に進めている。またCOVID-19の影響を最小限にし、可能な限り対面授業を実施して教育の質を確保した。実習指導者と連携をとり、前年度から活用している分娩介助のルーブリック評価表を活用して、学生の到達度をパフォーマンスにより客観的、段階的に評価できるようにしている。ピアチェックによる看護技術の自主的な練習への支援を行ったことで、技術力の向上に繋がった。
2. ICTを活用して国立病院機構3校の合同教育システムを構築して活用している。ICTを活用して3校での教材共有や国家試験対策などを行った。今年度は研究授業を実施し、教員相互の学びを得ることができたと同時に国立病院機構所属の助産学科の質の向上につながっている。
3. 対面授業の増加によるデータ保存業務の減少、業務改善チャレンジシートを用いた教務助手や事務助手へタスクシフトにより、超過勤務が減少している。
4. 教員の研究活動：継続的に研究に取り組み、教員は研究発表を行うなどの成果を挙げた。
この評価結果を活かし、さらなる教育の質の確保と教育環境の充実が図れるよう取り組んでいく。

評価項目	評価の視点	項目	R4年度
			自己評価
I 教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	6項目	3.0
II 教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	6項目	2.8
III 教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し計画的に進められているかについて評価します。	26項目	3.0
IV 教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	6項目	3.0
V 学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	9項目	3.0
VI 入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	5項目	3.0
VII 学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	15項目	3.0
VIII 卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	7項目	3.0
IX 教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	4項目	3.0
X 社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	7項目	2.9
XI 教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	7項目	3.0
XII 学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	7項目	3.0

評価項目	評価の視点	項目	R4年度
			自己評価
XIII 学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	5項目	3.0
全体平均			3.0

令和4年度 助産師養成所自己点検・自己評価結果（助産学科）



令和4年度 学校関係者評価報告書

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

- 1) 教育に関する知見を有する者、臨地実習施設の関係者、看護管理者経験者、卒業生などの学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。
- 2) 学校関係者との連携協力により、特色のある学校づくりを推進する。

2. 学校関係者評価委員名簿

規程	所属 氏名
教育に関する知見を有する者	京都教育大学 教育学科 教授 相澤 伸幸
臨地実習施設の関係者	京都医療センター 看護部長 福井久美子
看護管理者経験者	洛和会TQM支援センター 部長 伊藤 文代
卒業生（卒後一定のキャリアを持った者）	舞鶴医療センター 副看護部長 橋本 恵

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：令和5年3月13日（月） 15：00～16：30

実施場所：京都医療センター附属京都看護助産学校 会議室

4. 学校関係者評価委員会の議題

- 学校関係者評価の概要について
- 令和4年度 重点目標の取り組み報告（看護学科・助産学科）
- 令和4年度 自己点検・自己評価結果
- 意見交換

5. 総評

1. 患者の権利擁護の学生指導について（看護学科）
 - ・学校間相互評価の中で、患者の権利擁護についての指導が、学年別の実習指導や指導内容が一元化されるとより学生指導に役立つとある。一元化すると京都医療センター附属看護助産学校でPRすべき特徴的な教育内容や教育方法が見えにくくなってしまうことが懸念されるので、学校独自の特徴を可視化していくとよい
2. 近隣関連施設との情報交換について（助産学科）
 - ・近隣地域の連携の中で他校との繋がりも検討されるとよい
3. 学生の確保について
 - ・大学も学生数は減っており、受験者は10～20%減少している。少子化であるためそれらを考えて対処していく必要がある。また、令和5年度の新入生は高校入学時からコロナ禍で、無理をしないように指導を受けた世代である。どこまで指導するのがよいのか考えていく必要がある。
 - ・学生は大学志向であり、実習施設の確保が困難な中、附属の病院を持たない大学で受験倍率が増えている状況がある。要因を捉えて対応するのが望まれる。
 - ・コロナ感染症が落ち着けば積極的に病院や地域との連携を図ることにより、学校の特徴をアピールすることができる。
 - ・京都医療センター附属京都看護助産学校でどのような学生を求めるのか、卒業後にどのような看護師になってほしいのか、明確にするとよい。
4. 学校評価について
 - ・学校間相互評価は、評価者が同じ機構内であり、評価の視点が似通ってしまう。新たな視点から評価を受けることができるように機構外の評価を受けるように検討してはどうか。
5. 働き方改革について
 - ・働き方改革としてタスクシフトに取り組んでいるところはよいと思う。業務中の無駄をなくすことでスリム化ができる。今後は時間管理に着目し教員業務の改善を行っていくことを検討していくのはどうか。チャレンジシートだけでは考えが固まってしまうため、教員の生の声から改善していくとよい。

独立行政法人国立病院機構 京都医療センター

2022年度 アニュアルレポート 年報

発行：独立行政法人国立病院機構 京都医療センター
〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町 1-1
TEL 075-641-9161 / FAX 075-643-4325
<https://kyoto.hosp.go.jp/>

